

授業科目名 <英訳>	人間科学入門 Introduction to Human Sciences		担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 水野 尚之	配当学年	1,2回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	火1	授業形態	講義	
	人間・環境学研究科 准教授 大倉 得史	人間・環境学研究科 教授 高橋 由典		こころの未来研究センター 教授 カール・ベッカー											人間・環境学研究科 教授 杉方 俊夫 (Toshio Sugimura)
【授業の概要・目的】				本講義では、人間科学系を構成する6関係分野から、教員を選出し、それぞれの専門を踏まえながら論議していく。											
【授業計画と内容】				総合人間学部人間科学入門は、ヨーロッパでいわれている「人間科学」の学問的入門ではなく、総合人間学部の「人間科学系」のある分野の学問紹介・人物紹介と考えた方が分かりやすい。分野から選出された10名の教員が、それぞれの専門領域について講じる。詳細については、第一回の授業で説明する。											
【履修要件】				特になし											
【成績評価の方法・基準】				受講者の出席と複数のレポートにより、単位認定を行う。											
【教科書】				授業中に指示する											
【参考書等】				(参考書) 授業中に紹介する											
【その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)】				オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。											

授業科目名 <英訳>	人間形成論演習 A Seminar A on Theories of Education		担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 岡田 敬司											
	配当学年	3,4回生		単位数	2	開講期	前期	曜時間	木3	授業形態	演習				
【授業の概要・目的】				人間形成、教育に関するテーマを持ち寄り、順次発表、論評しあう。重複履修可。											
【授業計画と内容】				参加者の関心、テーマによる。卒論指導を兼ねる。											
【履修要件】				3 - 4 回生											
【成績評価の方法・基準】				出席と発表による。											
【教科書】				使用しない											
【参考書等】				(参考書) 授業中に紹介する											
【その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)】				(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) 木、金の昼休み。電話で予約すればそれ以外でも可。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。											

授業科目名 <英訳>	人間形成論 Theory of Education		担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 岡田 敬司											
	配当学年	2-4回生		単位数	2	開講期	前期	曜時間	木2	授業形態	講義				
【授業の概要・目的】				自律的学習者の形成、その前提条件としての「世界の立ち上がり」を論じる。											
【授業計画と内容】				さまざまな世界の立ち上がり(7回) 私的自律と集団的自律の弁証法(4回) 世界の立ち上がりの蹉跎(3回)											
【履修要件】				2 - 4回生											
【成績評価の方法・基準】				出席とレポートによる。											
【教科書】				使用しない 講義概要を毎回配る。											
【参考書等】				(参考書) 授業中に紹介する											
【その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)】				(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) 木、金の昼休み。電話で予約すればそれ以外でも可。077-529-2911。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。											

授業科目名 <英訳>	人間形成論演習 B Seminar B on Theories of Education		担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 岡田 敬司											
	配当学年	3,4回生		単位数	2	開講期	後期	曜時間	木3	授業形態	演習				
【授業の概要・目的】				教育と人間形成に係るテーマを持ち寄り、各人の関心に従って発表し、論評しあう。重複履修可。											
【授業計画と内容】				参加者のテーマによる。卒論の準備演習を兼ねる。											
【履修要件】				教育と人間形成に関心を持っていること。											
【成績評価の方法・基準】				出席と発表による。											
【教科書】				使用しない											
【参考書等】				(参考書) 授業中に紹介する											
【その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)】				(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) 木、金の昼休みが原則。予約すればそれ以外でも可。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。											

授業科目名 <英語>	人間形成史論 History of Education	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 小山 静子						
配当学年	3,4年生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	水4	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
近代日本における子ども観や人間形成のあり方を、家庭や学校での教育のあり方に焦点をあてながら、社会的な観点から考察する。特に、近代的な学校教育の成立に関連づけて、「授かりもの」から「作るもの」「育てるもの」への子ども観の変化や、「家」の教育から家庭の教育への変化を取り上げる。									
【授業計画と内容】									
以下の通りを予定している。 1. 前近代の子ども観 (1) 墮胎・間引き・捨て子 (2) 「家」の子ども 2. 「作るもの」としての子ども (1) 産児制限の登場 (2) 家族計画の時代 3. 「育てるもの」としての子ども (1) 「家」と家庭 (2) 教育する家族									
【履修要件】									
歴史に対する興味や関心をもっていることが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
学期末におけるレポート									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワーは、木曜日3時間目であるが、あらかじめアポをとっておくこと。アポの取り方については、授業中に指示する。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	人間形成史論演習 B Seminar on History of Education B	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 小山 静子						
配当学年	3,4年生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	火5	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
人間形成史に関する考察を深める。3回生は卒業論文作成の最初のステップとなり、4回生では卒業論文作成のための演習となる。									
【授業計画と内容】									
前半では、人間形成史に関する論文をいくつか精読する。後半では、各自の研究テーマに関して報告し、討論する。									
【履修要件】									
人間形成史論演習 A との連続履修を推奨する。3・4回生での重複履修可。									
【成績評価の方法・基準】									
演習での報告・発言、レポートにより総合的に行う。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワーは、木曜日3時間目であるが、あらかじめアポをとっておくこと。アポの取り方については、授業中に指示する。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	人間形成史論演習 A Seminar on History of Education A	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 小山 静子						
配当学年	3,4年生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	火5	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
人間形成史に関する考察を深める。3回生は卒業論文作成の最初のステップとなり、4回生では卒業論文作成のための演習となる。									
【授業計画と内容】									
前半では、人間形成史に関する論文をいくつか精読する。後半では、各自の研究テーマに関して報告し、討論する。									
【履修要件】									
人間形成史論演習 B との連続履修を推奨する。3・4回生での重複履修可。									
【成績評価の方法・基準】									
演習での報告・発言、レポートにより総合的に行う。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワーは、木曜日3時間目であるが、あらかじめアポをとっておくこと。アポの取り方については、授業中に指示する。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	関係発達論 Relational Development	担当者氏名	人間・環境学研究所 准教授 大倉 得史						
配当学年	2-4年生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	金2	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
関係発達論とは、生来の身体的資質、周囲の対人関係、社会・文化的環境の三者の絡み合いのもとで人間の自己性がいかに形作られていくかを究明する理論である。本講義では特に、周囲の「他」との関係性が「自」へと沈殿していくという関係発達論を支える根本的メカニズムがいかなるものなのかという問題、および人々の体験を記述にもたらし、そこから理論を形成していくという研究の営みがいかなるものなのかという問題を解明することを目指す。より具体的には、身体論、言語論、他者論、自我論を行き来しながら、これらの問題に関わる担当教員の最新の研究成果を紹介していく予定である。受講生にとっては、これらの問題に対する見識を深めること、および研究という営みにつきものの試行錯誤がいかなるものなのかを肌で感じ取ることが目標となる。									
【授業計画と内容】									
議論の流れに応じてその都度必要な探究を行い、最新の研究成果を示していくことが本講義の醍醐味であるので、授業計画は示しにくいですが、参考までにある年度の講義概要を示す。おおむねここに示した概要と類似した内容を取り扱っていくことになると思われる。									
<ol style="list-style-type: none"> <li>人間存在にとっての言語</li> <li>共感覚者の世界</li> <li>言語相対論は是か非か</li> <li>感覚世界と言語世界の関係を問う</li> <li>ウェルナー理論と言語発生</li> <li>概念認識と身体</li> <li>模倣と言語発生</li> <li>模倣と他者理解</li> <li>鏡像認識と「私」の発生</li> <li>エピソード記述のもたらす理解とは何か</li> <li>エピソード記述の4原則</li> <li>客観主義的研究とエピソード記述法</li> <li>観察の理論的負荷性</li> <li>体験の了解はいかにして可能になるか</li> </ol>									
【履修要件】									
やや高度な内容になるので関係発達論の基本的な考え方を身につけておく必要がある。全学共通科目の「関係発達論の構築」「関係発達論の展開」のいずれかを履修済または履修中であることが要件となる。さらに、「心理学実験1」「心理学実験2」などを履修しているとなお望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
出席、授業中にときどき出す課題、レポート。									
----- 関係発達論(2)へ続く -----									

関係発達論(2)	
[教科書] 使用しない	
[参考書等] (参考書) 大倉得史『(仮)育てる者への発達心理学』(ナカニシヤ出版) 大倉得史『語り合う質的心理学』(ナカニシヤ出版) その他ウェルナー、メルロ=ポンティ、鯨岡峻、浜田寿美男らの諸著作。	
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) 上記の参考書(人物)のうち少なくとも一冊は読んでおくこと。オフィスアワーは火曜4限。ちなみに担当教官が受け持っている発達心理学関連科目の概要、難易度は次のとおりなので、履修の際の目安にしてほしい(リレー講義の場合は担当回の概要と難易度)。 <初級>心理学基礎論(大倉担当)・・・青年期(講義) 発達心理学基礎ゼミナールA・B・・・青年期(グループワーク) <中級>関係発達論の構築・・・重要な先行研究の理論的検討(講義) 関係発達論の展開・・・主として乳幼児期の養育論(講義) 心理学実験1・2(大倉担当)・・・観察等の方法論(実習) <上級>関係発達論・・・身体論・言語論・自我論・方法論等(講義) 関係発達論演習A・B・・・卒業研究に向けた指導(演習)	
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。	

授業科目名	関係発達論演習B	担当者氏名	人間・環境学研究科 准教授 大倉 得史
<英訳>	Seminar on Relational Development B		
配当学年	3,4回生	単位数	2
開講期	後期	曜時間	金4
授業形態	演習		
[授業の概要・目的] 発達心理学に関するテーマでの「研究能力」(自ら問題を発見し、適切な方法論により、新しい知見を創出する能力)を身につけることを目指す。4回生は卒業論文作成のためのテーマ設定、先行研究レビュー、方法の選定、調査の実施等を、「各自で」行っていく。3回生は研究の進め方の概略を学んだ上で、興味のあるテーマについて「各自で」研究を進めていく。			
[授業計画と内容] 各自が自分なりの興味・関心にしたがって研究を進め、担当回に発表していくという演習形式。発表について全員で議論を行い、それを踏まえて発表者には今後の研究の方向性(案)を、それ以外の者には研究を進める際に必要となる考え方を提示していく。なお、関係発達論演習を初めて履修する3回生は、いきなり「自分なりのテーマで研究を進めよ」と言われても戸惑いが大きいと思われるので、こちらからいくつかの課題を与える中でテーマを発見できるようにするなど、ある程度配慮する。			
[履修要件] 発達心理学に関連するテーマで自分なりの研究を行おうとする者(卒論指導者は別の先生であっても良いが、「発達心理学の演習」としての当演習での研究もきちんと行える者)。全学共通科目「関係発達論の構築」「関係発達論の展開」「発達心理学基礎ゼミナールA(またはB)」のうち2科目以上を履修中ないしは履修済であることが望ましい。			
[成績評価の方法・基準] 出席、発表、議論への参加、学期末の研究報告書の提出。			
[教科書] 使用しない			
[参考書等] (参考書) 大倉得史『語り合う質的心理学』(ナカニシヤ出版) 鯨岡峻『エピソード記述入門』(東京大学出版会)			
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) 3・4回生での重複履修可。4限の授業だが延長する可能性がある。オフィスアワーは火曜4限。ちなみに担当教官が受け持っている発達心理学関連科目の概要、難易度は次のとおりなので、履修の際の目安にしてほしい(リレー講義の場合は担当回の概要と難易度)。 <初級>心理学基礎論(大倉担当)・・・青年期(講義) 発達心理学基礎ゼミナールA・B・・・青年期(グループワーク) <中級>関係発達論の構築・・・重要な先行研究の理論的検討(講義) 関係発達論の展開・・・主として乳幼児期の養育論(講義) 心理学実験1・2(大倉担当)・・・観察等の方法論(実習) <上級>関係発達論・・・身体論・言語論・自我論・方法論等(講義) 関係発達論演習A・B・・・卒業研究に向けた指導(演習)			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名	関係発達論演習A	担当者氏名	人間・環境学研究科 准教授 大倉 得史
<英訳>	Seminar on Relational Development A		
配当学年	3,4回生	単位数	2
開講期	前期	曜時間	金4
授業形態	演習		
[授業の概要・目的] 発達心理学に関するテーマでの「研究能力」(自ら問題を発見し、適切な方法論により、新しい知見を創出する能力)を身につけることを目指す。4回生は卒業論文作成のためのテーマ設定、先行研究レビュー、方法の選定、調査の実施等を、「各自で」行っていく。3回生は研究の進め方の概略を学んだ上で、興味のあるテーマについて「各自で」研究を進めていく。			
[授業計画と内容] 各自が自分なりの興味・関心にしたがって研究を進め、担当回に発表していくという演習形式。発表について全員で議論を行い、それを踏まえて発表者には今後の研究の方向性(案)を、それ以外の者には研究を進める際に必要となる考え方を提示していく。なお、関係発達論演習を初めて履修する3回生は、いきなり「自分なりのテーマで研究を進めよ」と言われても戸惑いが大きいと思われるので、こちらからいくつかの課題を与える中でテーマを発見できるようにするなど、ある程度配慮する。			
[履修要件] 発達心理学に関連するテーマで自分なりの研究を行おうとする者(卒論指導者は別の先生であっても良いが、「発達心理学の演習」としての当演習での研究もきちんと行える者)。全学共通科目「関係発達論の構築」「関係発達論の展開」「発達心理学基礎ゼミナールA(またはB)」のうち2科目以上を履修中ないしは履修済であることが望ましい。			
[成績評価の方法・基準] 出席、発表、議論への参加、学期末の研究報告書の提出。			
[教科書] 使用しない			
[参考書等] (参考書) 大倉得史『語り合う質的心理学』(ナカニシヤ出版) 鯨岡峻『エピソード記述入門』(東京大学出版会)			
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) 3・4回生での重複履修可。4限の授業だが延長する可能性がある。オフィスアワーは火曜4限。ちなみに担当教官が受け持っている発達心理学関連科目の概要、難易度は次のとおりなので、履修の際の目安にしてほしい(リレー講義の場合は担当回の概要と難易度)。 <初級>心理学基礎論(大倉担当)・・・青年期(講義) 発達心理学基礎ゼミナールA・B・・・青年期(グループワーク) <中級>関係発達論の構築・・・重要な先行研究の理論的検討(講義) 関係発達論の展開・・・主として乳幼児期の養育論(講義) 心理学実験1・2(大倉担当)・・・観察等の方法論(実習) <上級>関係発達論・・・身体論・言語論・自我論・方法論等(講義) 関係発達論演習A・B・・・卒業研究に向けた指導(演習)			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名	精神病理学・精神分析学	担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 新宮 一成
<英訳>	Psychopathology, Psychoanalysis		
配当学年	3,4回生	単位数	2
開講期	前期	曜時間	木2
授業形態	講義		
[授業の概要・目的] 精神分析による精神疾患の理論と治療論について学ぶ。			
[授業計画と内容] フロイトとラカンが、精神病や神経症をどのように捉えたか、とくに臨床的治療活動のなかでその問題をどのように人間の問題として理解して行ったかを考察してゆく。なお、臨床的精神活動の具体化としての心理テストなど、可能であれば実習の要素も取り込む予定である。			
[履修要件] 精神病理学・精神分析学関連の科目を1つ以上履修しているか、並行して受講中であること。			
[成績評価の方法・基準] 平常点で行う。			
[教科書] 授業中に指示する			
[参考書等] (参考書) 授業中に紹介する			
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英訳>	精神分析学I Elements of Psychoanalysis I	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 新宮 一成						
配当学年	1-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	金3	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
夢という体験をつぶさに研究して、無意識の働きを識る。									
【授業計画と内容】									
1. なぜ夢をみるのか： 夢と精神病。夢の精神保健機能。人生は夢か？									
2. 空飛ぶ夢と言語の万能。									
3. 夢と無意識： 夢を分析することは無意識への王道。夢は「自分を読む」他者のテキスト。									
4. 夢の累層構造： 夢の反復。									
5. 累層構造と神話形成： 夢が神話を作る。									
6. 夢と喪の過程。									
7. 神経症の精神療法について： 転移という現象や無意識の起源についての精神分析の理論を、精神療法の実際例から検証する。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
期末試験による。									
【教科書】									
新宮一成 『夢と構造』（弘文堂）									
【参考書等】									
（参考書） 新宮一成 『夢分析』（岩波新書）									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
後期の「精神分析学」においては、無意識が夢のみならず精神病の症状形成にどのように関わっているかを学ぶ。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	精神病理学・精神分析学演習 A Seminar in Psychopathology and Psychoanalysis A	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 新宮 一成						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	木3	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
精神病理学・精神分析学の分野で卒業論文を作成するための演習である。									
【授業計画と内容】									
担当教員との相談により自ら研究テーマを決めて発表と討論を行う。大学院との共同演習になるので、この分野の研究内容を知ることにより自らのテーマへの考察を深めてほしい。									
【履修要件】									
この分野で卒業論文を目指す3・4回生のみを対象とする。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点による。									
【教科書】									
未定									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	精神分析学II Elements of Psychoanalysis II	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 新宮 一成						
配当学年	1-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	金3	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
精神分析の見地から、無意識の構造を通して、精神の各種の病を考察する。									
【授業計画と内容】									
1. フロイトの夢理論について： 夢と神経症の間を繋ぐもの。									
2. 文字の夢と、精神分析的固着理論									
3. パラノイアという病理現象について： 妄想という現象と人間の営みとの間の深い関係について。									
4. 病跡学について： 芸術作品を作ることと、症状を生み出すことの間にある類同性について。									
5. 夢と死： 主に統合失調症の病理に見られる死のテーマについて。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
期末試験による。									
【教科書】									
新宮一成 『夢と構造』（弘文堂）									
【参考書等】									
（参考書） 新宮一成 『無意識の組曲』（岩波新書） 新宮一成 『夢分析』（岩波新書）									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
「精神分析学」からの継続受講が奨められる。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	精神病理学・精神分析学演習 B Seminar in Psychopathology and Psychoanalysis B	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 新宮 一成						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	木3	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
精神病理学・精神分析学の分野で卒業論文を作成するための演習である。									
【授業計画と内容】									
担当教員との相談により自ら研究テーマを決めて発表と討論を行う。大学院との共同演習になるので、この分野の研究内容を知ることにより自らのテーマへの考察を深めてほしい。									
【履修要件】									
この分野で卒業論文を目指す3・4回生のみを対象とする。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点による。									
【教科書】									
未定									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	グループ・ダイナミクス演習 A Advanced Seminar on Group Dynamics A	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 杉 俊夫 (Toshio Sugiman)
配当学年	3,4回生	単位数	2
開講期	前期	曜時限	金2
授業形態	演習		
【授業の概要・目的】			
<p>グループ・ダイナミクスの分野で卒業研究を行う学生のために、社会学の理論的文献の輪読          数理モデルによるシミュレーション          フィールドワークの実習          の3つを行う。社会学や数学の予備知識を前提とすることなく、初歩的なレベルから懇切丁寧に指導する。</p>			
【授業計画と内容】			
<p>社会学の理論的文献の輪読          「あなたへの社会構成主義」(K. ガーゲン)を輪読する。社会構成主義(構築主義)とは、従来の「心を内蔵した肉体」という人間像や、「外界と内界」二項図式を前提にしない新しいメタ理論(研究哲学)である。社会構成主義は、現場の当事者と研究者の協同的实践を旨とするグループ・ダイナミクスのメタ理論でもある。授業では、同書を輪読しながら、社会構成主義の基礎的な概念・理論、社会構成主義に基づく具体的な研究例について、わかりやすく解説する。</p> <p>数理モデルによるシミュレーション          まず、MATLAB(マトラブ)というプログラミング言語を学習する(プログラミングの経験や予備知識は一切必要ない)。それに続いて、セルオートマトンを使ったシミュレーションを実習する。セルオートマトンについて簡単に説明しておこう。碁盤を想像してほしい。碁盤の目には、白石か黒石のいずれかが置かれているとしよう。白石は、ある意見に賛成の人、黒石は反対の人を表すとする。どの人も、自分の周りの8人だけを見て、自分の意見を変更するとしよう(例えば、自分と違う意見の人が5人以上であれば意見を変更、4人以下であれば現在の意見を維持する、というように)。では、碁盤上のすべての人が、そのような同じ局所的ルールにしたがって動くとき、盤面全体の白黒の配置は、どのように変化していくだろうか。</p> <p>フィールドワークの実習          研究室で進行中のフィールドワークについて紹介する。可能であれば、夏期休暇などを利用して、2泊3日程度のフィールド見学も行いたい(実施可能性、日程等については受講生と相談する)。</p>			
【履修要件】			
講義「グループ・ダイナミクス」、「グループ・ダイナミクス基礎ゼミナール」を履修済み、あるいは、本授業と併行して履修していること。			
【成績評価の方法・基準】			
平常点(出席とレポート)			
グループ・ダイナミクス演習A(2)へ続く			

授業科目名 <英訳>	グループ・ダイナミクス演習 B Advanced Seminar on Group Dynamics B	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 杉 俊夫 (Toshio Sugiman)
配当学年	3,4回生	単位数	2
開講期	後期	曜時限	金2
授業形態	演習		
【授業の概要・目的】			
<p>前期に引き続いて、グループ・ダイナミクスの分野で卒業研究を行う学生のために、社会学の理論的文献の輪読          数理モデルによるシミュレーション          フィールドワークの実習          の3つを行う。社会学や数学の予備知識を前提とすることなく、初歩的なレベルから懇切丁寧に指導する。ただし、前期に指導した内容は理解していることを前提にする。</p>			
【授業計画と内容】			
<p>社会学の理論的文献の輪読          大澤真幸「行為の代数学」を輪読する。スペンサー・ブラウンの風変わりな論理学(アブリオリな存在をまったく前提にせず、「区別しかない」という前提だけからスタートしたら、どんな論理展開になるのか、を論じた論理学)をベースに、規範、意味、時間、法などの成立を考察した本。前期で学んだ社会構成主義に立脚した理論の典型例である。</p> <p>数理モデルによるシミュレーション          前期に学んだMATLABを使って、今度は、微分方程式(の数値解法)に挑戦する。高校までに習った方程式では未知数を含む式が与えられ、未知数を求めた。それに対し、微分方程式では、未知関数やその導関数を含む式が与えられ、未知関数を求める。微分とは、いわば瞬間変化率だ。ある社会現象がどの先どう変化していくか... 現在の状態は調べればわかる(初期値はわかる)、瞬間変化の規則性を微分によって定式化する。そうすれば、現在からちょっとだけ先のことは、初期値に適用すれば求められる。さらに、その結果に適用すれば、そのまたちょっと先のことがわかる。こうして、瞬間変化の仮説をいろいろ立てて、将来をシミュレーションする。</p> <p>フィールドワークの実習          前期に続いて、研究室で進行中のフィールドワークについて紹介する。夏期休暇を利用してのフィールド見学が実施できなかった場合には、可能であれば、冬季・春期休暇などを利用して、2泊3日程度のフィールド見学を行いたい(実施可能性、日程等については受講生と相談する)。</p>			
【履修要件】			
講義「グループ・ダイナミクス」、「グループ・ダイナミクス基礎ゼミナール」を履修済み、あるいは、本授業と併行して履修していること。前期に「グループ・ダイナミクスA」の単位を取得していること。			
【成績評価の方法・基準】			
平常点(出席とレポート)			
グループ・ダイナミクス演習B(2)へ続く			

グループ・ダイナミクス演習A(2)	
【教科書】	
K. ガーゲン(東村(訳))『あなたへの社会構成主義』(ナカニシヤ出版)	
【参考書等】	
(参考書) 授業中に紹介する	
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))	
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。	

グループ・ダイナミクス演習B(2)	
【教科書】	
大澤真幸『行為の代数学』(勁草書房)	
【参考書等】	
(参考書) 授業中に紹介する	
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))	
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。	

授業科目名 <英語>	人間行動論 Human Behavior	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 高橋 由典						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	金4	授業形態	講義
【授業の概要・目的】 体験選択概念を社会分析のツールとして精練する可能性を探る。今年度は動機としての体験選択について考えてみたい。									
【授業計画と内容】 最初に体験選択概念の意味を確定したのち、この概念を用いた現実分析の可能性を探る。体験選択は人間の経験の動性に注目した概念だが、この動性への着目は、遊びや芸術、宗教といった現象の分析に大きな寄与をなす。本講義では動機カテゴリーとしての体験選択について考察を進めることを通して、この議論が、遊びについての社会学的研究や宗教社会学に対してどのような貢献を果たしうるかを考えてみたい。									
【履修要件】 特になし									
【成績評価の方法・基準】 学期中のレポートおよび期末のレポートによる。									
【教科書】 使用しない									
【参考書等】 (参考書) 高橋由典 『行為論的思考 - 体験選択と社会学』(ミネルヴァ書房)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) 文学部、文学研究科、人間・環境学研究所と共通 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	人間行動論演習 A Seminar on Human Behavior A	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 高橋 由典						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	金3	授業形態	演習
【授業の概要・目的】 人間行動論で学んだ内容をふまえ、人間行動と社会の関係、あるいは人間行動の諸問題をめぐる内外の最新の関連文献の中から特に重要と考えられるものをいくつか選んで講読する。毎回、受講者の分担報告に基づいて討論を行い、各自の関心領域への理解を深めるとともに問題意識の明確化をはかることによって、卒業論文作成に向けての準備を行う。									
【授業計画と内容】 初回の授業時に、受講者の希望も聞きながら、報告予定を決める。									
【履修要件】 後期の「人間行動論演習 B」との連続した履修を強く推奨する。なお、本演習で卒業論文作成指導を受けることを希望する学生は、3回生時に「社会情報論演習A,B」(吉田純教授)を履修し、4回生時に本演習を履修することが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】 平常点および学期末レポートによる。									
【教科書】 使用しない									
【参考書等】 (参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	社会情報論 Socio-Information Studies	担当者氏名	情報科学センター 教授 吉田 純						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	火3	授業形態	講義
【授業の概要・目的】 ハーバース、ギデンズ、ベックらの社会理論を基本的な枠組として、インターネット空間を中心とした情報ネットワーク社会の諸問題について考察する。									
【授業計画と内容】 以下の順序で、各項目について1-3回の講義をおこなう。 1 情報ネットワーク社会への視点 2 日本社会 / アメリカ社会における 情報化 3 CMC空間の展開 4 生活世界のリアリティの再編成 5 再帰的近代化としての 情報化 6 監視社会論 7 リスク社会論 8 社会空間の再編成 9 親密圏・公共圏の再編成									
【履修要件】 特になし									
【成績評価の方法・基準】 中間・期末の2回のレポートによる(配点は中間30点・期末70点とする)									
【教科書】 吉田 純 『インターネット空間の社会学』(世界思想社)									
【参考書等】 (参考書) 授業中に紹介する									
(関連URL) <a href="https://socio.kyoto-u.ac.jp/sis">https://socio.kyoto-u.ac.jp/sis</a> (授業専用サイトで、資料配付、レポート提出、質問受付、その他の各種連絡をおこなう(ログインパスワードは初回の授業で通知する))									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	人間行動論演習 B Seminar on Human Behavior B	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 高橋 由典						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	金3	授業形態	演習
【授業の概要・目的】 人間行動論で学んだ内容をふまえ、人間行動と社会の関係、あるいは人間行動の諸問題をめぐる内外の最新の関連文献の中から特に重要と考えられるものをいくつか選んで講読する。毎回、受講者の分担報告に基づいて討論を行い、各自の関心領域への理解を深めるとともに問題意識の明確化をはかることによって、卒業論文作成に向けての準備を行う。									
【授業計画と内容】 初回の授業時に、受講者の希望も聞きながら、報告予定を決める。									
【履修要件】 前期の「人間行動論演習 A」との連続した履修を強く推奨する。なお、本演習で卒業論文作成指導を受けることを希望する学生は、3回生時に「社会情報論演習A,B」(吉田純教授)を履修し、4回生時に本演習を履修することが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】 平常点および学期末レポートによる。									
【教科書】 使用しない									
【参考書等】 (参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	社会情報論演習 A Seminar on Socio-Information Studies A	担当者氏名	情報科学研究センター 教授 吉田 純						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	金3	授業形態	演習
【授業の概要・目的】 社会情報論の領域における卒業論文作成のための演習をおこなう									
【授業計画と内容】 受講者各自の問題関心に基づき、情報と社会との関係、あるいは現代の情報ネットワーク社会の諸問題をめぐる内外の最新の関連文献の中からとくに重要と考えられるものを選んで講読する。毎回、受講者の分担報告に基づいて討論をおこない、各自の関心領域への理解を深めるとともに問題意識の明確化をはかることによって、卒業論文作成に向けての準備をおこなう。 スケジュールは、第1回目の授業で受講者の希望に基づき調整する。									
【履修要件】 後期の「社会情報論演習 B」への連続した履修を強く推奨する。なお、本演習で卒業論文作成指導を受けることを希望する学生は、3回生時に「人間行動論演習 A,B」(高橋由典教授)を履修し、4回生時に本演習を履修することが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】 平常点による									
【教科書】 使用しない									
【参考書等】 (参考書) 授業中に紹介する									
(関連URL) <a href="https://socio.k.kyoto-u.ac.jp/hsa">https://socio.k.kyoto-u.ac.jp/hsa</a> (授業専用サイトで、スケジュール確認、質問受付、その他の各種連絡をおこなう(ログインパスワードは初回の授業で通知する))									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	生命倫理学 Bioethics	担当者氏名	情報科学研究センター 教授 カール・ベッカー						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	水2	授業形態	講義
【授業の概要・目的】 高齢少子化社会の倫理道徳的行動基盤、生と死に関する究極的な価値基準、生き方と死に方の理想像、そして自然界・宇宙の中の人間の理想像や位置付けを考える。特に、医療から発生する様々な倫理的困難を事例検討の対象とする。例えば、インフォームド・コンセント(治療選択・自己決定権)、Truth-Telling(告知)、医療情報の公開・透明性・所有権、を出発点として、公共資源分配と医療保険制度の問題点を提起し、また医療倫理学の思考法の問題点も検討する。									
【授業計画と内容】 授業は次の様な問題を取り上げる。 社会の倫理・道徳とは 高齢少子化社会 自己決定？ 病名・余命告知 情報開示 優先順位の根拠 予防医学の観点 不治と末期 死の看取り 医療従事者の健康 など									
【履修要件】 特になし									
【成績評価の方法・基準】 毎回の出席と宿題提出、勉強した上の積極的な参加や発言で評価するので真摯な学生を期待する。									
【教科書】 未定									
【参考書等】 (参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	社会情報論演習 B Seminar on Socio-Information Studies B	担当者氏名	情報科学研究センター 教授 吉田 純						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	金3	授業形態	演習
【授業の概要・目的】 社会情報論の領域における卒業論文作成のための演習をおこなう									
【授業計画と内容】 社会情報論および社会情報論演習 A で学んだ内容を踏まえ、情報と社会との関係、あるいは現代の情報ネットワーク社会の諸問題にとくに関心をもつ学生を対象として、卒業論文作成のための演習をおこなう。受講者各自の論文作成計画の報告に対して、指導・助言および出席者全員での討論をおこなう。 スケジュールについては、原則として第1回目の授業で、受講者の希望に基づき調整する。									
【履修要件】 前期の「社会情報論演習 A」からの連続した履修を強く推奨する。なお、本演習で卒業論文作成指導を受けることを希望する学生は、3回生時に「人間行動論演習 A,B」(高橋由典教授)を履修し、4回生時に本演習を履修することが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】 平常点および学期末レポートによる									
【教科書】 使用しない									
【参考書等】 (参考書) 授業中に紹介する									
(関連URL) <a href="https://socio.k.kyoto-u.ac.jp/hsb">https://socio.k.kyoto-u.ac.jp/hsb</a> (授業専用サイトで、スケジュール確認、質問受付、その他の各種連絡をおこなう(ログインパスワードは初回の授業で通知する))									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	宗教学研究法論演習 A Seminar in Research Methods for the Study of Religion	担当者氏名	情報科学研究センター 教授 カール・ベッカー						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	水2	授業形態	演習
【授業の概要・目的】 宗教を研究する為には、倫理学、人類学、社会学、心理学、哲学、文学批評、化学史、政治等の学問体系を股からざるを得ない。本演習 2 では、夫々の学問領域の成立と方法論を参考に、情報の検索・収集・分析から、論理構造や目次作りまで、学生の発表を含め、高度な論文の書き方を目指して指導する。									
【授業計画と内容】 下記のような内容を毎週紹介し、それぞれに関する宿題を一緒に添削・訂正する  研究の基本的姿勢と目標  テーマの選び方・絞り方  ノートやメモの取り方  情報収集の仕方  論理構造の形成  優れた研究の事例検討  図表やポスター、スライドの作り方  論文調の表現や注意点									
【履修要件】 論文作成は、数冊の本を読めば出来る研究ではなく、広範囲な文献収集を要するので、明確な研究仮説及び計画的な時間配分を心がけられる学生を期待する。									
【成績評価の方法・基準】 毎回の出席と宿題提出、勉強した上の積極的な参加や発言で評価するので真摯な学生を期待する。									
【教科書】 未定									
【参考書等】 (参考書) 授業中に紹介する 高橋昭男著、『仕事文の書き方』岩波新書；小笠原誠、『読み書きの技法』筑摩書房									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	社会心理学演習 A Seminar on Social Psychology A	担当者氏名	人間・環境学研究所 准教授 細 藤(Motoko Nagata)						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	火2	授業形態	演習
【授業の概要・目的】 社会心理学の分野で卒業研究を行うために必要な理論と方法を学ぶ									
【授業計画と内容】 『社会構成主義の理論と実践』（K. J. ガーゲン著）の輪読を通して、社会構成主義のメタ理論、理論、方法論を詳しく学ぶ。項目は次の通り。 1. 「頭の中の知識」という概念の行き詰まり 2. 社会構成主義の出現 「現実を描写すること」をめぐる 3. 社会構成主義 批判に込める 4. 社会構成主義と道徳的秩序 5. 社会心理学 認知革命の過ち 6. 精神疾患の言説が社会にもたらす影響 7. レトリックの産物としての客観性 8. 社会生活における「自己についての語り」 9. 関係性としての感情 10. セラビーと語り 11. 意味の共同的起源 12. 虚偽 言語的コミュニティの問題として									
【履修要件】 全学共通科目「社会心理学」「社会心理学基礎ゼミナール」を履修していることが望ましい									
【成績評価の方法・基準】 出席とレポート提出									
【教科書】 K. J. ガーゲン、永田素彦・深尾誠（訳）『社会構成主義の理論と実践』（ナカニシヤ出版）									
【参考書等】 （参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） 本授業の履修は、社会心理学の分野で卒業研究を行うための必須条件である。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	ヒストリー・オブ・アイディアズA History of Ideas A	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 多賀 茂						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	火2	授業形態	講義
【授業の概要・目的】 なぜ「哲学史」ではなく「ヒストリー・オブ・アイディアズ」なのか、今年度は私が担当する「ヒストリー・オブ・アイディアズ」講義の初年度として、まずこの問いに取り組みことから始めたい。哲学の営みを哲学史そのものと同一視するハイデガーの立場を究極の位置に置きながら、まず西欧哲学の概観において歴史、さらには哲学の歴史がどう現れてきたかを考察する。そのうち、そうした考察の結果明らかになるものと、ヒストリー・オブ・アイディアズという観点がいかなる相違点を持つかを検討する。ヒストリー・オブ・アイディアズとは「哲学以外の領域における哲学的なもの」と仮に定義しつつ、上記のような考察を展開しながら、その現代的意味を問い直す。									
【授業計画と内容】 第1週 哲学史とヒストリー・オブ・アイディアズ 第2週 ハイデガーと哲学史 第3週 古代ギリシアからルネサンスまで 第4週 近代哲学における哲学史 第5週 哲学と歴史 第6週 ヒストリー・オブ・アイディアズという考え方 第7週 ミシェル・フーコー 第8週 ジャック・デリダ 第9週 ジョルジオ・アガンベン 第10週 精神分析・無意識・欲望 第11週 社会学・権力・生 第12週 歴史学・神話・制度 第13週 現代社会とヒストリー・オブ・アイディアズ 第14週 まとめ									
【履修要件】 特になし									
【成績評価の方法・基準】 レポートによる									
【教科書】 授業中に指示する 必要なプリントを随時コピーして渡します									
【参考書等】 （参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	社会心理学演習 B Seminar on Social Psychology B	担当者氏名	人間・環境学研究所 准教授 細 藤(Motoko Nagata)						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	火2	授業形態	演習
【授業の概要・目的】 社会心理学の分野で卒業研究を行うために必要な理論と方法を学ぶ									
【授業計画と内容】 前半（7回程度）は、『科学が作られているとき』を輪読し、アクターネットワーク理論を学ぶ。後半（7回程度）は、『ラディカル質の心理学』を輪読し、社会心理学における質的研究の方法論について理解を深める。									
【履修要件】 前期の「社会心理学演習 A」からの連続した履修を強く推薦する。 全学共通科目「社会心理学」「社会心理学基礎ゼミナール」を履修していることが望ましい									
【成績評価の方法・基準】 出席とレポート提出									
【教科書】 B. ラトゥール、川崎勝・高田紀代志（訳）『科学が作られているとき』（産業図書） I. バーカー、ハッ塚一郎訳『ラディカル質の心理学』（ナカニシヤ出版）									
【参考書等】 （参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） 本授業の履修は、社会心理学の分野で卒業研究を行うための必須条件である。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	ヒストリー・オブ・アイディアズ演習 B Seminar on History of Ideas B	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 多賀 茂						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	火2	授業形態	演習
【授業の概要・目的】 「哲学言語としてのフランス語」 今年度は、実際のテキストを日本語に訳す作業を通じて、フランス語がいかに哲学言語として機能してきたかを歴史的に振り返る。文体・用語法等の特徴に注目しながら、思想家の文章を講読することによって、将来の研究のための十分な基礎となるレベルまでフランス語の読解能力を高めることをめざす。									
【授業計画と内容】 第1週 導入：思想と文体、フランス語とフランス思想の歴史 第2週 モンテーニュ 第3週 デカルト 第4週 バスカル 第5週 リベルタン達 第6週 モンテスキュー 第7週 ルソー 第8週 デイドロ 第9週 ヴォルテール 第10週 イデオログ達 第11週 コント 第12週 ヘルグソン 第13週 実存主義者達 第14週 ポスト・モダンの思想家									
【履修要件】 最低限フランス語初級文法を終えていること									
【成績評価の方法・基準】 平常点と最終日に行う小テストの成績とを合わせて評価する									
【教科書】 授業中に指示する 必要なテキストは随時コピーして配布します									
【参考書等】 （参考書）									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	動態映画文化論IA Cinema Studies IA	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 加藤 幹郎						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	水3	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
現代芸術と現代文化と現代イデオロギーに関わる映画学について、その多様な関係性から映画的文脈を仔細に検討すると同時に、芸術作品としての映画作品の分析方法を広い視野から、なおかつ多角的な視点から考察します。									
【授業計画と内容】									
下記の問題機制について、1 問題機制あたり、1～3週の前講義をする予定です。1 映画美術と映画空間構成との関係 2 映画演出と俳優の演技との関係 3 映画的文脈分析と諸映画理論との関係 4 映画作家主義と映画産業との関係 5 映画美学と映像文化との関係 6 映像と音響の関係 7 映画とイデオロギーとの関係 8 世界映画史と日本映画史との関係 9 初期映画と古典的映画との関係									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
学期末レポートと講義中のディスカッションへの参加の度合いに応じて評価します									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
(参考書) ルイス・ジアネットィ 『映画技法のリテラシー』(フィルムアート社) 加藤幹郎 『映画館と観客の文化史』(中公新書)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワーは水曜日午後4時20分から5時20分まで。できるだけあらかじめアポイントメントをとっておいてください。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	動態映画文化論演習IB Seminar on Cinema Studies IB	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 加藤 幹郎						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	水4	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
現代イデオロギーと現代芸術と現代文化に関わる映画学について、多様な視点から芸術作品としての映画作品の分析方法を習得できるように、映画学の多様な問題機制を広い文脈から検討します。									
【授業計画と内容】									
参加学生の興味のある映画学の諸相について、各学生の口頭発表を順次おこないながら、参加者のあいだで綿密なディスカッションをおこないます。またそれに合わせて、必要な研究文献の講読もおこないます。映画学の問題機制は広汎ですが、下記に数例、列挙しますから参考にしてください。1 世界映画史と日本映画史との関連、2 映画美術と映画空間構成との関係 3 映画作家主義と映画産業との関連 4 映画美学と映像文化との関連 5 映像と音響の関連 6 映画的文脈分析の手法と書映論との関連。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
口頭発表とディスカッションへの参加の度合いに応じて評価します。									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワーは水曜日午後4時20分から5時20分までです。できるだけあらかじめアポイントメントをとっておいてください。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	動態映画文化論II B Cinema Studies IIB	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 松田 英男						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	火2	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
ジャンル映画についての具体的考察、映画史的展望									
【授業計画と内容】									
アメリカおよびイギリス映画について、それぞれ代表的なジャンルを選び、具体的作品に即して考察します。本年度は、戦争映画と女性映画、またミュージカル映画を予定しています。映画を具体的な相貌のもとにとらえるためには、映画テクニカルを丹念に観ることはもちろん、批評および映画史の理解が必要です。講義とはいえ、基礎訓練を含んだものと考えています。									
【履修要件】									
英語圏の映画に興味があり、自分で作品を相当数観る時間と意欲があること。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点、小テスト、レポートで総合的に評価します。常時出席が前提。初回に欠席の場合は、登録しても評価の対象にはなりません。教科書必須。									
【教科書】									
Thomas Schatz 『Hollywood Genres: Formulas, Filmmaking, and The Studio System』(McGraw-Hill) 前後期共通。必須。Amazon等で古本でも購入可能。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	動態映画文化論演習II A Seminar Cinema Studies IIA	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 松田 英男						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	火2	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
ジャンル映画についての具体的考察、批評文脈の読解									
【授業計画と内容】									
アメリカおよびイギリス映画について、それぞれ代表的なジャンルを選び、具体的作品に即して考察します。本年度は、戦争映画と女性映画、またミュージカル映画を予定しています。「演習」ですから、映画テクニカルを丹念に観ることはもちろん、批評テクニカルをきちんと読むことが必要です。									
【履修要件】									
英語圏の映画に興味があり、自分で作品を相当数観る時間と意欲があること。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点、小テスト、レポートで総合的に評価します。常時出席が前提。初回に欠席の場合は、登録しても評価の対象にはなりません。教科書必須。									
【教科書】									
Thomas Schatz 『Hollywood Genres: Formulas, Filmmaking, and The Studio System』(McGraw-Hill) 前後期共通。必須。Amazon等で古本でも購入可能。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	制度・生活文化史 A Cultural History of Social Institutions and Life A	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 田邊 玲子						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	火5	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
人間の条件？ 18世紀ドイツの啓蒙思想の振幅									
「人間」とは何か。それは一見自明なものであるように思われる。けれどもほんとうにそうなのだろうか。それを、18世紀ドイツの広義での文学作品を扱いながら考える。									
【授業計画と内容】									
18世紀初頭以降のドイツでは、いったい人間とはいかなる存在か、人間はどうあるべきか、という議論が盛んに戦わされていた。その議論の場となったのが、「文学」であり、そもそも小説などの現在でいう「文学」が生まれたのも、この時期である。 本講義では、当時のドイツにおけるさまざまな議論をとりあげながら、「人間」観がどのように整備されていったのかを跡づける。取り上げるテーマは、たとえば以下のようなものである。									
人と獣 理性と非理性 美德と悪徳 美と醜 男と女・新たなジェンダー編成 友情と恋愛 異性愛と結婚 「人間」への教育の場としての 「文学」の社会的機能									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
扱うテキストについては、プリントを配布する。参加者の各自が実際に読み、自ら検討してゆくことが重要である。そのため、単なる講義ではなく、参加者との議論も大切にしたい。成績評価はしたがって、授業への参加度と、期末のレポートによって行う。									
【教科書】									
プリント配布									
【参考書等】									
(参考書)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	制度・生活文化史演習 A Seminar on Cultural History of Social Institutions and Life A	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 田邊 玲子						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	水5	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
文化社会論、制度・生活文化史に関する考察を深める。この分野で卒論を計画している人には、論文作成指導の演習ともなる。									
参加者の関心および卒論のテーマにしたがって、文献発表および論文の中間発表などを行う。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
演習における発表、議論、レポートなどで、総合的に判断する。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	制度・生活文化史 B Cultural History of Social Institutions and Life B	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 田邊 玲子						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	火5	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
社会改革の力としての恋愛 近代日本における恋愛観									
「恋愛」とは、個人の問題だろうか？ そして結婚との関係は？ また、「個人」と「社会」とはいかなる関係にあるのか？ 明治以降の日本では、西洋の影響下、恋愛の社会的意味について、さまざまな議論がなされ、新しい恋愛観が提示され、実際に生きられた。 本講義では、明治以降の日本において、「恋愛」に対していかなる思いが寄せられ、社会改革の可能性が仮託されたのかを、おもに文学作品を扱いながらたどってゆく。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
扱うテキストについては、プリントを配布する。参加者の各自が実際に読み、自ら検討してゆくことが重要である。そのため、単なる講義ではなく、参加者との議論も大切にしたい。成績評価はしたがって、授業への参加度と、期末のレポートによって行う。									
【教科書】									
プリント配布									
【参考書等】									
(参考書)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	制度・生活文化史演習 B Seminar on Cultural History of Social Institutions and Life B	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 田邊 玲子						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	水5	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
文化社会論、制度・生活文化史に関する考察を深める。この分野で卒論を計画している人には、論文作成指導の演習ともなる。									
参加者の関心および卒論のテーマにしたがって、文献発表および論文の中間発表などを行う。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
演習における発表、議論、レポートなどで、総合的に判断する。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	メディア・スタディーズIIA Media Studies IIA	担当者氏名	筑波大学 准教授 廣瀬 浩司
配当学年	3,4回生	単位数	2
開講期	前期集中	曜時限	集中講義
[授業の概要・目的]			
<p>テーマ：制度と現実の閃光          私たちはさまざまな制度に取り囲まれている。あるものは私たちにアイデンティティや資格を与え、あるものは無意識の習慣や慣習として沈黙し、あるものは私たちの自由な活動を保証してくれている。この制度において、私たちにとって本当にリアルなものは何なのか、どのような創発の可能性があるのか、二〇世紀のフランス思想を手がかりに考え、現代の制度と現実についての理解を深めることを目的とする。取り扱う思想家は、メルロー＝ポンティ、フーコー、デリダ、ドゥルーズなどである。彼らの思想の概説というよりは、直接に彼らの文章を味読することで議論を深めていくことを目指したい。</p>			
[授業計画と内容]			
<p>詳細は開講時に説明するが、以下に主な項目を記しておく。</p> <p>1) メルロー＝ポンティ現象学と「制度化」の思想          フランスの現象学者メルロー＝ポンティは一九五〇年代にぞめいた「制度化」という概念を提唱している。この概念について説明することで、まずは講義全体の意図を明らかにしたい。そのうえでメルロー＝ポンティの習慣や言語制度についての思索の意義を考えなおしてみる。また「自然」や「生命」といった現代的な主題が、制度の問題とどうかかわるかについても考えてみたい。</p> <p>2) フーコー権力論と主体論          ・まずは「パノプティコン」（一望監視装置）に象徴されるフーコー権力論の意義を徹底的に考え直すことから始め、そこにおいて「制度」と「現実の閃光」への問いが重要であることを明らかにする。制度によって私たちの行為が「可視的」にされるということはどのような意味を持つのか。その際メルロー＝ポンティの芸術論との関係などについても考えてみたい。          ・そのうえでフーコーの権力論についての考え方を、いくつかのテキストを検討することで考えなおしてみる。          ・以上を踏まえ、晩年の「主体化」の問題について再検討する。晩年の主体の問題系は、権力に抵抗しようとする主体化の模索であると考えられることがあるが、この講義では晩年のカント論などの再検討を通して、このような考えを批判し、フーコー権力論の意義を考えなおしてみる。</p> <p>3) その他          そのほか現在の予定では、          ・デリダによる法の脱構築          ・ドゥルーズ／ガタリの「機械」の概念          ・精神医学における制度学派の意義          を通して、制度におけるリアリティの経験に迫ってみたい。</p>			
[履修要件]			
特になし			
[成績評価の方法・基準]			
出席人数によるが、テーマごとに討論と小レポートの時間を取り、出席状況を勘案して総合的に判定する。			
メディア・スタディーズIIA(2)へ続く			

授業科目名 <英語>	メディア・スタディーズII B Media Studies IIB	担当者氏名	京都造形芸術大学 専任講師 河田 学 神戸大学 准教授 前川 修 立命館大学 准教授 吉田 寛 京都精華大学 准教授 安田 昌弘 二松学舎大学 専任講師 松本 健太郎
配当学年	3,4回生	単位数	2
開講期	後期集中	曜時限	集中講義
[授業の概要・目的]			
<p>私たち人間はつねに外界と接触しながら日々生きている。こういった世界との「コンタクト」は直接的なものであることもあれば、何かによって媒介されたものであることもある。このように世界と人間、あるいは人間と人間の間に存在する媒介＝メディアの重要性は20世紀以降広く認識され、そしてそれはデジタル・メディアの登場によってよりセンセーショナルに論じられるようになった。          本講義では言語、写真、ビデオゲーム、音響メディア、デジタル・メディアという五つのカテゴリを軸に、各メディアの特質を概観し、メディアというもののそれ自体への理解を深める。</p>			
[授業計画と内容]			
<p>五日間にわたる本集中講義では、各日一人の担当者がそれぞれのテーマについて講義を行う。以下、講義でとりあげる五つのテーマについて、簡単にその内容を記述しておく。（ただし、講義の順序については、今後変更の可能性がある）</p> <p>1) 言語（河田）          コミュニケーションの媒介となるものをすべてメディアと呼ぶならば、言語はもっとも古いメディアである。言語自体もひとつのメディアだが、言語はさらに文字・書籍・デジタル・メディアなどの副次的なメディアによって媒介されている。講義では、言語がその長い歴史のなかで見せてきたメディアとしての様々な特異性を、おもに、1) 音声言語から文字言語へ、2) 印刷技術の発達、3) デジタル・メディアと言語、の三点から考える。</p> <p>2) 写真（前川）          写真は19世紀前半に発明された。それ以後、写真のリアルさは、それまで人間の知覚と現実の忠実な複製とみなされていた絵画のそれを凌駕したと言われる。しかし同時に、写真というメディアは、表象と現実の関係をそれまでとは異なるかたちに組織しなおしたのであり、その過程のなかで、写真は、たんに客観的、中立的な現実の写しには収まらない多様性を帯びることもあった。写真メディアのこのような多様性を、ヴァンキュラー写真、芸術写真、ステレオ写真、心霊写真などを例にして話してみたい。</p> <p>3) ビデオゲーム（吉田）          ビデオゲーム（テレビゲームも含む）は、今日われわれに最も身近なインタラクティブなメディア文化である。アニメや映画など違い、ビデオゲームの世界の中でわれわれは主体的に遊ぶ（プレイする）ことを要求される。しかもその「世界」のルールやシステムは、既知の現実世界と近かったり、また逆にそこからかけ離れていたりと、ゲームごとに多様である。そして一つのゲームの出来不出来や面白さを決定するのは、その「世界」が持つリアリティや説得力（首尾一貫性や恒常性）であって、それは基本的にはグラフィックスの良し悪しや情報量の多寡とは無関係である。本講義はそうした認識に基づき、ビデオゲームが限られた手段でいかに一つの「世界」を作り上げてきた（いる）のかを、視点・運動・空間・時間・記号・錯覚といった観点から、具体的分析を通じて考察する。</p>			
メディア・スタディーズIIB(2)へ続く			

メディア・スタディーズIIA(2)
断する予定。
[教科書]
講義に使用するテキストはプリントで配布する。
[参考書等]
（参考書） 廣瀬浩司 『後期フーコー 権力から主体へ』（青土社） 廣瀬浩司 『デリダーキきたるべき痕跡の記憶』（白水社）ISBN:4-560-02453-7 長滝祥司（編）『現象学と二一世紀の知』（ナカニシヤ出版）ISBN:4-88848-899-1 小泉義之他編 『ドゥルーズ／ガタリの現在』ISBN:4582702732
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

メディア・スタディーズIIB(2)
4) 音響メディア（安田） 音楽とは、本来質量を持たない、空気の振動である。楽譜や録音物（レコード）というモノになることで、初めて音楽は商品として流通する。一方、音楽は、産業による大量流通が主流になった現在でも、社会とつねに寄り添った行為である。少なくとも個人的なレベルであれば、デジタル技術のずつと前から、人は自分の身体一つで音楽し、音楽を共有してきた。こうした即時性や親身体性とも関係するが、音楽はその生成過程に偶発性が入り込みやすい。特にポピュラー音楽においては、楽器（=機材）が偶発的に出した音が、楽音として認められ、規範とされ楽器の形や聴き手の感性を変革しうる。本講では、音楽のこうした特性を、作り手（ミュージシャン）と聴き手（リスナー）のコミュニケーションを可能ならしめる技術的・社会的ネットワークに注目して考察する。そこでは様々な音響メディアが、単なるモノとしてではなく、ヒトの感性に影響を及ぼす行為体（アクタント）として立ち現れるはずだ。
5) デジタル・メディア（松本） デジタル・メディアの発達、人間と表象との関係をどのように変容させたのか。私が担当する授業では、映画やビデオゲームなどを題材として取りあげながら、現代的なメディア環境における身体の位置に着眼し、映像表象への没入体験を誘発すると同時に人間の認識・思考・行為などを制約しもする（ビデオゲームのコントローラ、あるいはアーケード・ゲームの筐体などの）インターフェイスや（3Dなどの）デジタルテクノロジーの役割について考察する。
[履修要件]
特になし
[成績評価の方法・基準]
レポートにより行う。詳細は初回授業時に指示する。
[教科書]
使用しない
[参考書等]
（参考書） ウォルター・J・オング 『声の文化と文字の文化』（藤原書店）ISBN:978-4938661366 マーシャル・マクルーハン 『グーテンベルクの銀河系 活字人間の形成』（みすず書房）ISBN:978-4622018964 ジョージ・P・ランドウ 『ハイパーテキスト 活字とコンピュータが出会うとき』（ジャストシステム）ISBN:978-4883094288（以上3点、「言語」関連） ジル・モラ 『写真のキーワード 技術・表現・歴史』（昭和堂）ISBN:978-4812201053 ジェフリー・パッチェン 『写真のアルケオロジー』（青弓社）ISBN:978-4787272928 ジェフリー・パッチェン 『時の宙づり 生・写真・死』（NOHARA）ISBN:978-4904257081 一柳広孝（編）『心霊写真は語る』（青弓社）ISBN:978-4787271877 前川修 『痕跡の光学』（晃洋書房）ISBN:978-4771015296（以上5点、「写真」関連） Wolf, Mark J. P. (ed.) 『The Medium of the Video Game』（University of Texas Press）ISBN:978-0292791503 Wolf, Mark J. P. and Bernard Perron (eds.) 『The Video Game Theory Reader』（Routledge）ISBN:978-0415965798
メディア・スタディーズIIB(3)へ続く

メディア・スタディーズⅡB (3)									
-----									
Newman, James 『Videogames』 (Routledge) ISBN:978-0415281928 Perron, Bernard and Mark J. P. Wolf (eds.) 『The Video Game Theory Reader 2』 (Routledge) ISBN:978-0415962834 サイトウ・アキヒロ, 小野 憲史 『ニンテンドーDSが売れる理由 ゲームニクスでインターフェースが変わる』 (秀和システム) ISBN:978-4798016849 (以上5点、「ビデオゲーム」関連) J・アタリ 『ノイズ-音楽/貨幣/雑音』 (みすず書房) ISBN:978-4622072775 Johnson, J. 『Mixing Humans and Nonhumans Together: The Sociology of a Door-Closer』 (Social Problems, Vol. 335, No. 3, (1998)) Latour, B. and A. Yaneva 『Give me a Gun and I will Mak all Buildings Move: An ANT's view of Architecture』 (Geiser, Reto (ed.), Explorations in Architecture: Teaching, Design, Research, Basel: Birkhauser [a]cトシマ) 所収) ISBN:978-3764389215 ( http://www.bruno-latour.fr/poparticles/poparticle/P-138-BUILDING-VENICE.pdf で閲覧可) Prior, N. 『The Rise of the New Amateurs: Popular Music, Digital Technology and the Fate of Cultural Production』 (John R. Hall, Laura Grindstaff and Ming-cheng Lo (eds), Handbook of Cultural Sociology, London: Routledge 所収) ISBN:978-0415474450 Prior, N. 『Putting a Glitch in the Field: Bourdieu, Actor Network Theory and Contemporary Music』 (Cultural Sociology, 2:3 (2008)) Sterne, J. 『The Audible Past: Cultural Origins of Sound Reproduction』 (Duke University Press) ISBN:978-0822330134 (以上6点、「音響メディア」関連) ケヴィン・ロビンズ 『サイバー・メディア・スタディーズ 映像社会の"事件"を読む』 (フィルムアート社) ISBN:978-4845903450 (以上1点、「デジタル・メディア」関連、その他の参考文献に関しては、講義中に紹介する)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名	認識人間学 B				担当者氏名	非常勤講師 松枝 啓至			
<英訳>	Epistemological Human Studies B								
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	火2	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
哲学における重大な問題の一つである「懐疑論」をテーマにして、われわれは何をどのような仕方方で正しく認識できるのか・知ることができるのかについて検討する。									
【授業計画と内容】									
「哲学」のもととの意味合いは「知を愛すること」である。人間にとっての「知識」や「知恵」がどのようなものであるのか、あるいはどのような仕方方でそれらをわれわれは手に入れることができるのか。これは哲学における大きな問題の一つである。どのような分野であれ、何らかの学問をやっていく上でこの問題は避けて通れないものである。このような問題系は一般には認識論・知識論と呼ばれている。 この授業ではこの認識論・知識論という問題系について、「懐疑論」というものを手かりに考察を深めてゆきたい。物事を正しく捉えようとするときに、様々な側面からその対象を疑うという作業は必須のものである。哲学における「懐疑論」はその「疑う」という作業を徹底的に行って見たらどうなるか、が中心テーマとなる。 講義では具体的にはまず懐疑論・懐疑主義の歴史を紹介する。つまり古代ギリシャのピュロン主義から始めて、近代のモンテーニュの懐疑主義やデカルトの方法的懐疑を概観する。その上で現代の認識論・知識論における懐疑論・懐疑主義についての諸議論を考察する。内在主義や外在主義、基礎付け主義や整合説について検討し、M.ウィリアムズの文脈主義についても論じる。									
【履修要件】									
哲学基礎論、科学論・科学史基礎論などを履修していることが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
授業中に不定期に行う計3回の小テスト(1回につき10点)を30点、学期末に提出してもらうレポートを70点とし、合わせて100点満点として評価する。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
授業で扱う様々なテーマを一緒に考えていきましょう。  オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名	認識人間学 A				担当者氏名	非常勤講師 松枝 啓至			
<英訳>	Epistemological Human Studies A								
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	火2	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
西洋近代哲学において大きな功績を残したデカルトの思想について考察する。とりわけ彼の形而上学と自然科学との関係がどのようなものであるのかを批判的に検討する。									
【授業計画と内容】									
ルネ・デカルト(1596-1650年)は、様々な意味合いにおいて近代から現代にかけての哲学・思想の方向を決定付けた人物である。また、近代科学の形成にあたっても多大な影響を与えた。したがって現代の様々な哲学的・思想的問題を考察する上でも、彼の思想を一度入念に検討することは必須の作業であろう。 この授業では、多岐にわたるデカルトの思想の内、彼が学問を構築していく際の「方法」に注目する。彼の「方法」は「観念理論」と「分析理論」から成り立っている。一方の「観念理論」とは、デカルトの認識論上の重要な用語である「観念」を中心に含む認識理論である。そしてもう一方の「分析理論」とは、「私はある、私は存在する」という第一の真理を発見するためのいわゆる方法的懐疑をその典型とする、真理発見のための理論である。 このような彼の「方法」が、学問全体をいわゆる「哲学の樹(形而上から自然科学へ)」のように構築するにあたってはたして有効であったのかどうかを、デカルトのテキストを丹念に参照しながら、この授業では検討していきたい。その際には現代哲学での様々な議論(セラズやワイトゲンシュタイン)も援用しつつ論じる。  前半では平成22年度後期に行った講義の内容を復習する。つまりデカルトの「方法」の二本柱である「観念理論」と「分析理論」の内容をデカルトのテキストに従いつつ確認する。 後半ではこれら二つの理論について批判的に検討を加える。									
【履修要件】									
哲学基礎論、科学論科学史基礎論などを履修していることが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
授業中に不定期に行う計3回の小テスト(1回につき10点)を30点、学期末に提出してもらうレポートを70点とし、合わせて100点満点として評価する。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
授業で扱う様々なテーマを一緒に考えていきましょう。  オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名	哲学・文化史 A				担当者氏名	人間・環境学研究 准教授 戸田 剛文			
<英訳>	History of Philosophy and Culture A								
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	月2	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
20世紀の認識論と17、18世紀の認識論を比較し、どのような対応がそこにあるのかを考える。歴史と現代を比較することによって、通時的にある現象を調べる態度を身につける。									
【授業計画と内容】									
17世紀、18世紀の認識論の展開を考えるところから始める。個々の哲学者の認識論を概観しつつ、それがどのような影響関係を持っており、また変化を生み出すのがどのようなものであったのかということを考える。その後、20世紀の感覚と件論をとりあげ、それがどのように変化していくのを見る。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
出席50%レポート50%									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
授業中に何人かに哲学の専門論文を読んでその内容を紹介してもらいます。それなりに難しいのがんばってください。  オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	哲学・文化史 B History of Philosophy and Culture B	担当者氏名	人間・環境学研究科 准教授 戸田 剛文						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	月2	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
自由意志をめぐる問題について、これまでどのような議論がなされていたのかを概観し、現代社会においても重要な問題である自由と責任についての多面的な考えを身につける。 また自由と責任の問題だけでなく、思想史に関する知識を身につけることも、重要なテーマとされている。									
【授業計画と内容】									
前半では、21年度、22年度に行われた講義の内容を復習する。 具体的には、中世における神学と自由意志をめぐる問題、近代のホッブズを源流とするような両立可能主義(compatibilism)にどのようなものがあるのかを、確認する。後半では、両立可能主義の続きにはじまり、両立不可能主義についての議論を考える。さらに、現代の科学が、自由と責任の問題について、どのような影響を及ぼしてきたかについて紹介する。学生にも数人（これまでは、4人）に、この問題に関する論文を読んで、その内容を解説してもらう。その場合、発表者以外にも、その論文を読んでくれることを要求する。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
出席50%とレポート50%									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	認識人間学演習 B Seminar on Epistemological Human Studies B	担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 富田 恭彦						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	月2	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
George Berkeley 著 A Treatise Concerning the Principles of Human Knowledge を原典で読み、その immaterialism がどのような仕方でも John Locke の materialism の論理を基盤としていたかを明らかにします。(「認識人間学演習A」の続きです。)									
【授業計画と内容】									
George Berkeley の母校であるダブリンのトリニティ・コレッジでは、Locke と親交のあった William Molyneux のすすめにより、Locke の Essay を研究することが奨励されていました。Berkeley は、そうした状況下でトリニティ・コレッジで教育を受けた若者の一人であり、Locke 研究者としての面を、彼はしっかりともっていました。本演習では、Berkeley の Principles を原典で読み、彼が Locke の materialism の論理をどのように利用して自らの immaterialism を構築したかを考察しようとするものです。Principles の最初の部分でどのようにして Berkeley が一挙に自らの immaterialism を展開したか。読み解くために必要な Locke に関する情報を順次確認しながら、その論理の基本を確認します。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポート提出を条件とした上で、平常点(出席と和訳担当)を基本とします。									
【教科書】									
テキストは初回に配布します。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
できれば、Locke の An Essay Concerning Human Understanding を各自読まれることをお奨めします。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	認識人間学演習 A Seminar on Epistemological Human Studies A	担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 富田 恭彦						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	月2	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
George Berkeley 著 A Treatise Concerning the Principles of Human Knowledge を原典で読み、その immaterialism がどのような仕方でも John Locke の materialism の論理を基盤としていたかを明らかにします。									
【授業計画と内容】									
George Berkeley の母校であるダブリンのトリニティ・コレッジでは、Locke と親交のあった William Molyneux のすすめにより、Locke の Essay を研究することが奨励されていました。Berkeley は、そうした状況下でトリニティ・コレッジで教育を受けた若者の一人であり、Locke 研究者としての面を、彼はしっかりともっていました。本演習では、Berkeley の Principles を原典で読み、彼が Locke の materialism の論理をどのように利用して自らの immaterialism を構築したかを考察しようとするものです。Principles の最初の部分でどのようにして Berkeley が一挙に自らの immaterialism を展開したか。読み解くために必要な Locke に関する情報を順次確認しながら、その論理の基本を確認します。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポート提出を条件とした上で、平常点(出席と和訳担当)を基本とします。									
【教科書】									
テキストは初回に配布します。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
できれば、Locke の An Essay Concerning Human Understanding を各自読まれることをお奨めします。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	哲学・文化史演習 A Seminar in History of Philosophy and Culture A	担当者氏名	人間・環境学研究科 准教授 戸田 剛文						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	月3	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
トマス・リードの名著『人間の知的能力試論』を英語で読む。これによって、リードの認識論、および彼が論敵としている近代の哲学者の思想についての理解を深める。									
【授業計画と内容】									
リードの『人間の知的能力試論』を英語で読む。担当者を特に決めるのではなく、少しずつ全員が訳していく。そのため、毎回、あらかじめ読んでおくことが必要となる。また、テキストに出てきた哲学者などについて、調べ、報告する課題を出すことがある。テキストは、最初の講義に配布する。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
出席と授業態度									
【教科書】									
授業中に配布									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	哲学・文化史演習 B Seminar in History of Philosophy and Culture B	担当者氏名	人間・環境学研究所 准教授 戸田 剛文						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	月3	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
Phillip Kitcherの“The Naturalism Return”を読む。この論文を通じて、20世紀において、どのようにして認識論において自然主義的立場が広まっていったのかについての知見を深める。									
【授業計画と内容】									
Phillip Kitcherの“The Naturalism Return”を読む。担当者を特に決めるのではなく、少しずつ全員が訳していく。そのため、毎回、あらかじめ読んでおくことが必要となる。いろいろな哲学者が論文中で言及されているので、それらについても調べてくること課題として与える。テキストは、大学図書館のオンラインデータベースから入手できるので、各自入手しておくこと。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
出席と授業中の態度で判定。									
【教科書】									
Kitcher, Phillip 『The Naturalism Return, The Philosophical Review 101, pp. 53-114』(大学の図書館のオンラインデータベースから入手できるので、各自入手しておくこと。)									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	人間実践論 B Philosophical Theory of Human Acts B	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 佐藤 義之						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	火4	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
本年度の講義では、レヴィナスについて考えてみたい。レヴィナスは、倫理について極限的な思考を展開するとともに、そこから哲学の根本的変革を企てた思想家である。 「人間実践論A」の授業をふまえ、後期(「人間実践論B」)では、レヴィナスの第二の主著『存在するとは別の仕方で...』を検討し、レヴィナスの思想の可能性と限界を明らかにしたい。(「人間実践論A」(前期)と内容上一連の講義)。									
【授業計画と内容】									
総題:レヴィナスの思想 (後期)『存在の彼方へ』 1. 前期復習:「顔」 2. 語ることで語られたこと 言語と倫理 3. 顔と正義 自他非対称の倫理から自他対称の倫理へ 4. 批判的考察 他人とは絶対の他か									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポート提出									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
内容上連続しているため、前半(前期「人間実践論A」)との連続した履修を推奨する。  オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	人間実践論 A Philosophical Theory of Human Acts A	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 佐藤 義之						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	火4	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
本年度の講義ではレヴィナスについて考えてみたい。レヴィナスは、倫理について極限的な思考を展開するとともに、そこから哲学の根本的変革を企てた思想家である。 前期(「人間実践論A」)はレヴィナスの最初的主著『全体性と無限』を中心に、彼の倫理思想の紹介とその検討を行う。(「人間実践論B」(後期)と内容上一連の講義)。									
【授業計画と内容】									
総題:レヴィナスの思想 (前期)『全体性と無限』 1. 顔と倫理 倫理の根源的事象から 2. 所有と顔 自己とは何か。そして他人とは何か 3. 知と教え 「倫理学は学全体の基盤である」という主張をめぐって 4. 前期まとめ 他者を哲学することの矛盾?									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポート提出									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
内容上連続しているため、後半(後期「人間実践論B」)との連続した履修を推奨する。  オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	人間実践論演習 A Seminar on Philosophical Theory of Human Acts A	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 佐藤 義之						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	金3	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
レヴィナスは倫理の問題を手がかりに、旧来の哲学の根本的革新を企て、思想界に大きな影響を残した。 授業では彼の第二の主著とされる1974年のAutrement qu' être ou au-delà de essence。(『存在するとは別の仕方、あるいは存在することの彼方へ』)の仏語原文をテキストとして、彼の思想を理解する。									
【授業計画と内容】									
上記の著作はレヴィナスの思想のひとつの到達点である。授業はこの著作の中から「強迫」「痕跡」等々、第一の主著とされる『全体性と無限』の倫理観を先鋭化したとも言える主要概念を選び、その検討を行なう。そのためにあふさわしい箇所を抜粋、熟読することで、彼の特異な倫理思想の大枠の理解を試みたい。									
【履修要件】									
仏語原文で読むので、最低限の仏語読解力は必要である。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点									
【教科書】									
上記著作の一部をプリントで配布する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	人間実践論演習 B Seminar on Philosophical Theory of Human Acts B	担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 佐藤 義之						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	金3	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
レヴィナスは倫理の問題を手がかりに、旧来の哲学の根本的革新を企て、思想界に大きな影響を残した。 授業では彼の第二の主著とされる1974年のAutrement qu' être ou au-delà de essence. (『存在するとは別の仕方、あるいは存在することの彼方へ』)の仏語原文をテキストとして、彼の思想を理解する。									
【授業計画と内容】									
前期「人間実践論演習 A」に引き続き、上記著作をテキストとして扱う。後期においては前期の基本的倫理思想の理解をふまえて、彼のこの時期の新展開と言える、「正義」「語る」と語らること」などの諸概念に関連する箇所を抜粋し熟読する。									
【履修要件】									
仏語原文で読むので、最低限の仏語読解力が必要である。 なお、前期より引き続き同一テキストを扱うが、後期から受講を始めた者にも理解できるように授業を進める。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点									
【教科書】									
上記著作の一部をプリントで配布する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	創造行為論演習 A Seminar on the Theory of Creative Arts A	担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 篠原 資明						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	月5	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
主に、芸術の哲学的研究や現代芸術もしくは現代思想の研究で、卒業論文を計画している学生の指導をめざす。									
【授業計画と内容】									
主に、芸術の哲学的研究や現代芸術もしくは現代思想の研究で、卒業論文を計画している学生に、発表と議論に参加してもらう。開講初日に、発表の順番を決め、進めていく。									
【履修要件】									
創造行為論演習 Bを受講するのが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
発表と議論の内容による。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワーは毎週金曜日 15:30~16:30 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	人間存在論特別演習 Special Seminar on Human Ontology	担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 佐藤 義之 人間・環境学研究科 教授 富田 恭彦 人間・環境学研究科 准教授 戸田 剛文						
配当学年	4回生	単位数	4	開講期	後期	曜時間	金5	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
人間存在論の諸問題に関する研究報告とその批判的検討									
【授業計画と内容】									
この演習は卒業論文指導の重要な一環であり、人間存在論専攻生が各自の研究成果を口頭で報告し、その報告内容を人間存在論担当の全教員および専攻生が批判的に検討・討議することによって、研究のより一層の深化を図ろうとするものである。初日に発表順等の打ち合わせを行う。									
【履修要件】									
人間存在論を専攻する卒業予定者であること。									
【成績評価の方法・基準】									
出席点と発表内容の評価との総合評価									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
この演習は必修科目ではないが、人間存在論専攻の卒業予定者は、単位の要不要に関わりなく受講されたい。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	創造行為論演習 B Seminar on the Theory of Creative Arts B	担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 篠原 資明						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	月5	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
主に、芸術の哲学的研究や現代芸術もしくは現代思想の研究で、卒業論文を計画している学生の指導をめざす。									
【授業計画と内容】									
主に、芸術の哲学的研究や現代芸術もしくは現代思想の研究で、卒業論文を計画している学生に、発表と議論に参加してもらう。開講初日に、発表の順番を決め、進めていく。									
【履修要件】									
創造行為論演習 Aを受講するのが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
発表と議論の内容による。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワーは毎週金曜日 15:30~16:30 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	創造行為論講読演習 A Readings in the Theory of Creative Arts A	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 篠原 資明						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	金3	授業形態	演習
【授業の概要・目的】 美学および芸術哲学に関する基本文献の知識と読解力を身につけるよう目指す。									
【授業計画と内容】 美学および芸術哲学に関する基本文献を提示し、その中から各自選んだ文献について報告し議論する。 受講生の要望があれば、場合によっては文献を加えることもある。 文献については、欧文、和文を問わない。 ただし、欧文については英・仏・伊・西・独に限る。 邦訳も使用可である。									
【履修要件】 後期（創造行為論講読演習 B）の連続した履修を推奨する。									
【成績評価の方法・基準】 講読演習への参加を重視する。試験は行わない。									
【教科書】 授業中に指示する									
【参考書等】 （参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） オフィスアワーは毎週金曜日 15:30~16:30 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	近代芸術論 A Theory of Modern Arts A	担当者氏名	京都工芸繊維大学 工学部 教授 並木 誠士						
配当学年	1-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	月1	授業形態	講義
【授業の概要・目的】 近代日本の芸術 近代に成立した美術・芸術に関するさまざまな制度や新しい美術の動向を概観してゆく。 とくに社会背景と芸術概念のかかわりに注目して、社会における芸術の位相についての理解が深まるように講義を進める。									
【授業計画と内容】 01 ガイダンス - 時代の概観 02 - 04 「美術」の成立と日本美術史の成立 05 - 06 博物館・博覧会・美術展覧会 06 - 09 美術学校・美術団体と美術ジャーナリズム 10 - 13 洋画と日本画、歴史画の成立 14 写真と絵画 15 総括									
【履修要件】 後期の「近代芸術論 B」も受講することが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】 学期末の試験とする。									
【教科書】 使用しない									
【参考書等】 （参考書） 『美術でたどる日本の歴史』（ナツメ社）									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） 講義はスライド等を用いるので、手元ライトを持参すること。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	創造行為論講読演習 B Readings in the Theory of Creative Arts B	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 篠原 資明						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	金3	授業形態	演習
【授業の概要・目的】 美学および芸術哲学に関する基本文献の知識と読解力を身につけるよう目指す。									
【授業計画と内容】 美学および芸術哲学に関する基本文献を提示し、その中から各自選んだ文献について報告し議論する。 受講生の要望があれば、場合によっては文献を加えることもある。 文献については、欧文、和文を問わない。 ただし、欧文については英・仏・伊・西・独に限る。 邦訳も使用可である。									
【履修要件】 前期（創造行為論講読演習 A）との連続した履修を推奨する。									
【成績評価の方法・基準】 講読演習への参加を重視する。試験は行わない。									
【教科書】 授業中に指示する									
【参考書等】 （参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） オフィスアワーは毎週金曜日 15:30~16:30 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	近代芸術論 B Theory of Modern Arts B	担当者氏名	京都工芸繊維大学 工学部 教授 並木 誠士						
配当学年	1-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	月1	授業形態	講義
【授業の概要・目的】 近代京都の芸術 明治以降の芸術に関して、前期では、おもに京都の状況を講義する。おもなテーマは、博覧会と博物館・美術館、展覧会、美術学校、日本画の展開、新しい図案、工芸の近代などである。 京都の伝統文化が新しい時代にどのように対応したか、その結果はどうであったか、などの視点が獲得できるように講義を進める。									
【授業計画と内容】 01 ガイダンス - 時代の概観 02 - 04 博覧会と美術館・博物館 05 - 06 美術学校 06 - 09 日本画の展開 10 - 13 新しい図案 14 工芸の近代 陶芸・染織 15 総括									
【履修要件】 前期の「近代芸術論 A」を受講していることが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】 学期末の試験とする。									
【教科書】 使用しない									
【参考書等】 （参考書） 『美術でたどる日本の歴史』（ナツメ社）									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） 講義はスライド等を用いるので、手元ライトを持参すること。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	近代芸術論演習 A Seminar on Theory of Modern Arts A	担当者氏名	京都造形芸術大学 教授 上村 博						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	金2	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
今日自明のものとして受け入れられているさまざまな芸術制度は、「芸術」そのものの概念の考察をはじめ、芸術を巡る理論的反省の歴史ときわめて強くむすびついています。本科目では近代の芸術論の成立に至るまでの諸理論を、日本語テキストに基づきながら辿り、今日の芸術制作や受容を規制する枠組みがどのように形成されたのかを考察します。授業では受講者ごとに数回の分担課題の口頭発表が求められます。									
【授業計画と内容】									
1 「芸術」という領域 2-3 「模倣」の諸理論 4 科学としての芸術 5-6 「創造」概念の出自 7 美と感性をめぐる諸理論 8-9 進歩と「芸術史」の思想 10 文化遺産という問題 11-12 純粹視覚性の理論									
【履修要件】									
概説書等で西洋美術史や哲学史の流れを把握しておくことが望ましいが、必須ではありません。									
【成績評価の方法・基準】									
授業時の発表により評価し、その内容と授業への参加度によります。									
【教科書】									
資料を授業時に配付。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	舞台芸術論演習 A Seminar on Performing Arts A	担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 依田 義丸						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	火2	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
シェイクスピアの『ハムレット』を読む。各場面を例にして、演劇の構成要素や、特性について教える。									
【授業計画と内容】									
毎時間、一場面を読む。予め読んで、クラスへ出席すること。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
出席と試験によって成績の評価を行う。授業への日常的な参加姿勢も評価する。									
【教科書】									
テキストについては、プリントで配布する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	近代芸術論演習 B Seminar on Theory of Modern Arts B	担当者氏名	神戸大学 准教授 前川 修						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	金3	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
写真論といえば、つねにベンヤミン、バルト、ソナタグという写真論御三家が参照されてきた。しかしそれ以後に発表された、バーギン、セクーラ、タグらのポストモダンの写真論(ポルトン『意味の抗争』)、あるいはオクトーバー派の写真論(クラウス、ブクロー)、その後のパッチェンの写真論、あるいは90年代以降のデジタル写真言説などは、依然として包括的に議論されてはいない。この授業では、こうした写真論の系譜を紹介するとともに、さらに写真の圏域を広げ、視覚文化のなかでの写真の位置や問題を具体的に考えてみたい。									
【授業計画と内容】									
1 イントロダクション 2 テキストとコンテクスト 3 モダニズムとポストモダニズム 4 写真の展示 5 写真と記号論 6 写真とアーカイブ 7 写真と監視 8 写真と心霊主義 9 写真と映画 10 アマチュア写真論									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
授業中に指示した文献を各自読んでおくこと。  オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	舞台芸術論演習 B Seminar on Performing Arts B	担当者氏名	人間・環境学研究科 准教授 桑山 智成						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	火2	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
セリフを実際に読むワークショップ形式を通して、シェイクスピア作品が演劇としてどのように優れているか、劇作の技巧について立体的に考える。さらにシェイクスピアの詩劇において、音やリズムが内容と密接に関係していることについても理解を深める。(セリフだけでなく、英語発音の指導も簡単に行うので、受講前に発音に自信がある必要はない。)									
【授業計画と内容】									
1 . イントロダクション 2 . シェイクスピア英語(文法、韻文の読み方) 3 . シェイクスピア時代の劇場形態 4 . A Midsummer Night's Dream 「夏の夜の夢」 5 . Romeo and Juliet 「ロミオとジュリエット」 6 . Julius Caesar 「ジュリアス・シーザー」 7 . Twelfth Night 「12夜」 8 . Hamlet 「ハムレット」 9 . 期末発表 4 ~ 8 の作品は重要な場面をプリントで配布し、それぞれ2週ずつ扱う。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点 30% 中間発表 30% 期末発表 40%									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	創造ルネッサンス論A Art History A	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 岡田 温司
配当学年	2-4回生	単位数	2
開講期	前期	曜時間	月5
授業形態	講義		
【授業の概要・目的】			
主に西洋の芸術、芸術思想、現代思想について理解を深め、感性を磨くことを目的とする。			
【授業計画と内容】			
以下の分野の中から各自がいずれかを選択し、さらに個別のテーマを設定して、それについて、文献や資料の収集と解説をおこない、さらに成果についてプレゼンテーションする。			
<ol style="list-style-type: none"> <li>ルネサンスの芸術と思想</li> <li>バロックの芸術と思想</li> <li>建築の歴史と思想</li> <li>デザインの歴史と思想</li> <li>近代の芸術と思想</li> <li>コンテンポラリーアートをめぐる批評や思想</li> <li>芸術・美学思想</li> </ol>			
【履修要件】			
通年で履修			
【成績評価の方法・基準】			
出席、発表			
【教科書】			
使用しない			
【参考書等】			
(参考書) 授業中に紹介する			
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))			
オフィスアワー 月 12:00~13:00 木 9:00~10:30			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英訳>	創造ルネッサンス演習A Seminar on Art History A	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 岡田 温司
配当学年	3,4回生	単位数	2
開講期	前期	曜時間	月4
授業形態	演習		
【授業の概要・目的】			
4年生は卒業論文の完成、3年生は卒業論文へ向けてテーマの設定、資料収集の方法や解説などについて指導をおこなう。			
【授業計画と内容】			
<ul style="list-style-type: none"> <li>1~3週 テーマの設定と資料収集 研究テーマは、芸術全般、美学、芸術思想、現代思想、視覚文化などの分野から受講生の関心や興味に合わせて、相談の上で決定する。</li> <li>4~15週 毎週1名ないし2名、各自の研究テーマにそって、経過報告ないし発表をおこなう。資料紹介。</li> </ul>			
【履修要件】			
通年で履修			
【成績評価の方法・基準】			
出席、発表			
【教科書】			
使用しない			
【参考書等】			
(参考書) 授業中に紹介する			
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))			
オフィスアワー 月 12:00~13:00 木 9:00~10:30			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英訳>	創造ルネッサンス論B Art History B	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 岡田 温司
配当学年	2-4回生	単位数	2
開講期	後期	曜時間	月5
授業形態	講義		
【授業の概要・目的】			
主に西洋の芸術、芸術思想、現代思想について理解を深め、感性を磨くことを目的とする。			
【授業計画と内容】			
以下の分野の中から各自がいずれかを選択し、さらに個別のテーマを設定して、それについて、文献や資料の収集と解説をおこない、さらに成果についてプレゼンテーションする。			
<ol style="list-style-type: none"> <li>ルネサンスの芸術と思想</li> <li>バロックの芸術と思想</li> <li>建築の歴史と思想</li> <li>デザインの歴史と思想</li> <li>近代の芸術と思想</li> <li>コンテンポラリーアートをめぐる批評や思想</li> <li>芸術・美学思想</li> </ol>			
【履修要件】			
通年で履修			
【成績評価の方法・基準】			
出席、発表			
【教科書】			
使用しない			
【参考書等】			
(参考書) 授業中に紹介する			
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))			
オフィスアワー 月 12:00~13:00 木 9:00~10:30			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英訳>	創造ルネッサンス演習B Seminar on Art History B	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 岡田 温司
配当学年	3,4回生	単位数	2
開講期	後期	曜時間	月4
授業形態	演習		
【授業の概要・目的】			
4年生は卒業論文の完成、3年生は卒業論文へ向けてテーマの設定、資料収集の方法や解説などについて指導をおこなう。			
【授業計画と内容】			
<p>前期に引きつづいて、毎週1名ないし2名、各自の研究テーマにそって、経過報告ないし発表をおこなう。</p> <p>4年生は卒業論文の完成へ向けて、その構成と内容について具体的な指導をおこなう。3年生は、次年度へのステップとして小論文を仕上げるべく指導をおこなう。</p>			
【履修要件】			
通年で履修			
【成績評価の方法・基準】			
出席、発表			
【教科書】			
使用しない			
【参考書等】			
(参考書) 授業中に紹介する			
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))			
オフィスアワー 月 12:00~13:00 木 9:00~10:30			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英訳>	英米文芸表象論講義A Lecture on Literary Representation in English A	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 水野 尚之						
配当学年	1-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	木3	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
英米の文学界で活躍した作家Henry Jamesが、伝統的な「超自然」小説の模倣からはじめて、次第に独自の作品を生み出していく過程を考察する。従来比較的読まれなかった作品の読解を通して、新たな解釈の可能性を探る。									
【授業計画と内容】									
Henry Jamesは、作家としての生涯を通して「超自然」小説を書き続けている。この授業では、中期の作品から最晩年の作品までを、できるだけ網羅的に読む。さらに、新資料、従来等閑視されてきた作品をも読解の対象とする。扱う作品は、“Owen Wingrave,” “The Friends of the Friends,” “The Turn of the Screw,” “The Real Right Thing,” “The Great Good Place,” “Maud-Evelyn”など。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点50%、学期末の筆記試験の成績50%。									
【教科書】									
授業中に指示する 授業時に毎回使用分の資料を配布する。									
【参考書等】									
(参考書)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワーは、火曜10:30~12:00など研究室在室時。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	英米文芸表象論演習IA Seminar on Literary Representation in English IA	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 水野 尚之						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	金4	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
19世紀末から20世紀初頭に活躍したアメリカ人作家Edith Whartonの中編小説“Summer”を扱う。作品を精読することはもちろんだが、この小説について書かれた様々な批評を読むことにより、文学研究の方法に接する。									
【授業計画と内容】									
“Summer”は、New Englandを舞台にEdith Whartonが“Ethan Frome”に続いて書いた中編小説である。主人公Charity Royallの生き方についてや、小説の技法についてなど、この小説はさまざまに論じられてきている。18章から成るこの小説を半期で読み終わるペースで授業を進める。毎回の訳読とともに、学期末のレポート提出のために、受講生それぞれが自分なりの作品解釈を行なうことが求められる。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
授業中の訳読、学期末に行なわれる筆記試験、学期末に提出するレポートの三つを総合して評価する。									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワーは火曜日10:30~12:00ほか、研究室在室時。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	英米文芸表象論講義B Lecture on Literary Representation in English B	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 水野 尚之						
配当学年	1-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	金4	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
アメリカ文学とロマンスの系譜									
イギリス小説が伝統的に“Novel”を主流として発展してきたのに対して、アメリカ小説は“Romance”を特徴とする独特の発展を遂げてきた。本講義では、様々な作品の読解を通して、アメリカ文学に見られるRomance性を考察する。									
【授業計画と内容】									
Charles Brockden Brown, Washington Irving, Nathaniel Hawthorne, Edgar Allan Poe, Herman Melville, Frank Norris, Henry Jamesなど、アメリカ文学を代表する作家たちの小説を抜粋して読む。扱う作品のhandoutをあらかじめ配布しておくので、受講者は十分な予習をした上で授業に臨むこと。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
出席、授業中の発表態度、学期末の筆記試験の成績、の三者を総合して評価する。									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワーは火曜2時限、もしくは研究室在室時。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	英米文芸表象論演習IB Seminar on Literary Representation in English IB	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 水野 尚之						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	木3	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
英米の文学界で活躍した作家Henry Jamesが、伝統的な「超自然」小説の模倣からはじめて、次第に独自の作品を生み出していく過程を考察する。従来比較的読まれなかった作品の読解を通して、新たな解釈の可能性を探る。									
【授業計画と内容】									
Henry Jamesは、作家としての生涯を通して「超自然」小説を書き続けている。この授業では、中期の作品から最晩年の作品までを、できるだけ網羅的に読む。さらに、新資料、従来等閑視されてきた作品をも読解の対象とする。扱う作品は、“The Third Person,” “The Beast in the Jungle,” “The Jolly Corner,” “The Sacred Fount, The Sense of the Past”など。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
定期試験(筆記)、レポート、平常点、を総合的に評価する。									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワーは、火曜10:30~12:00など研究室在室時。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	英米文芸表象論演習II A Seminar on Literary Representation in English IIA	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 水野 尚之						
配当学年	4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	金5	授業形態	演習
【授業の概要・目的】 卒論指導									
【授業計画と内容】 受講生自身の研究報告、発表を中心にして、卒論指導を行う。									
【履修要件】 特になし									
【成績評価の方法・基準】 報告・発表・作成論文内容などにより、総合的に評価する。									
【教科書】 授業中に指示する									
【参考書等】 (参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) オフィスアワーは火曜10:30~12:00ほか、研究室在室時。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	英米文芸表象論演習II B Seminar on Literary Representation in English IIB	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 水野 尚之						
配当学年	4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	金5	授業形態	演習
【授業の概要・目的】 卒論指導									
【授業計画と内容】 受講生自身の研究報告、発表を中心にして、卒論指導を行う。									
【履修要件】 特になし									
【成績評価の方法・基準】 報告・発表・作成論文内容などにより、総合的に評価する。									
【教科書】 授業中に指示する									
【参考書等】 (参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) オフィスアワーは火曜10:30~12:00ほか、研究室在室時。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	英米文芸表象論演習II A Seminar on Literary Representation in English IIA	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 廣野 由美子						
配当学年	4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	金5	授業形態	演習
【授業の概要・目的】 卒論指導									
【授業計画と内容】 受講生自身の研究報告、発表を中心にして、卒論指導を行う。									
【履修要件】 授業担当者が指導教員であること。									
【成績評価の方法・基準】 報告・発表・作成論文内容などにより、総合的に評価する。									
【教科書】 授業中に指示する									
【参考書等】 (参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	英米文芸表象論演習II B Seminar on Literary Representation in English IIB	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 廣野 由美子						
配当学年	4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	金5	授業形態	演習
【授業の概要・目的】 卒論指導									
【授業計画と内容】 受講生自身の研究報告、発表を中心にして、卒論指導を行う。									
【履修要件】 授業担当者が指導教員であること。									
【成績評価の方法・基準】 報告・発表・作成論文内容などにより、総合的に評価する。									
【教科書】 授業中に指示する									
【参考書等】 (参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	英米文芸表象論講読IA Reading of Literary Works IA	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 廣野 由美子						
配当学年	1-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	火3	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
19世紀イギリスの作家エミリー・ブロンテの小説『嵐が丘』を原文で精読し、作品解釈を試みる。									
【授業計画と内容】									
エミリー・ブロンテの小説『嵐が丘』は、数多くの謎を含んだ物語で、さまざまな解釈が可能である。テキストを精密に読みながら、作品解釈を深め、併せて文学研究の基礎的な方法を学ぶ。授業では、和訳と解釈を中心とした演習形態をベースに、一部講義を加え、毎回原則として1章ずつ進める予定である。この作品は、二部構成よりなり、本授業では第1部(Vol.1, Ch.1-14)を扱う。 なお、本科目は半期授業ではあるが、通年かけて継続的に同作品を読む予定なので、後期も引き続き「同科目B」を受講することが望ましい。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常の授業への取り組みと試験等により、総合的に評価する。									
【教科書】									
Emily Bronte 『Wuthering Heights (Penguin Classics版)』(Penguin Books) ISBN:978-0-14-143955-6									
【参考書等】									
(参考書) 廣野由美子 『『嵐が丘』の謎を解く(OD版)』(創元社)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	英米文芸表象論講読IIA Reading of Literary Works IIA	担当者氏名	京都光華女子大学 教授 和栗 了						
配当学年	1-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	月3	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
アメリカ合衆国を代表する作家 Mark Twain の後期の代表作 A Connecticut Yankee in King Arthur's Court を読み進めます。筆者はアメリカ文明を肯定するのか、ヨーロッパ文明を肯定するのか、絶対者とは何か、近代文明とは何か、人類の進化あるいは文明の進化とは何か、など、さまざまな問題を受講生の皆さんと議論できれば幸いです。そのためには、言葉に細かく注意しながら、同時に巨視的な視点も持ちながら、作品を読む技術を練磨したいと考えています。									
【授業計画と内容】									
長い作品ですが、前期では22章まで読み進めます。 第1回 イントロダクション(授業の進め方等と"A Word of Explanation") 第2回～第13回 1回の授業でテキストの一章分を読み進めます。 第14回 前期のまとめとディスカッション									
毎回授業の最初に前回の授業の復習小テストを15分行なうので、受験すること。 毎回授業の最後に約25分間で授業のまとめレポートを作成すること。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
毎回の授業復習小テスト(50%) + 毎回の小レポート(20%) + 学期末のレポート(30%) 学期末のレポートの課題は受講生と相談のうえ決定します。									
【教科書】									
Mark Twain 『A Connecticut Yankee in King Arthur's Court』(University of California Press) ISBN:978-0-520-23576-2									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
しっかりと予習してきてください。  オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	英米文芸表象論講読I B Reading of Literary Works IB	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 廣野 由美子						
配当学年	1-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	火3	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
19世紀イギリスの作家エミリー・ブロンテの小説『嵐が丘』を原文で精読し、作品解釈を試みる。									
【授業計画と内容】									
エミリー・ブロンテの小説『嵐が丘』は、数多くの謎を含んだ物語で、さまざまな解釈が可能である。テキストを精密に読みながら、作品解釈を深め、併せて文学研究の基礎的な方法を学ぶ。授業では、和訳と解釈を中心とした演習形態をベースに、一部講義を加え、毎回原則として1章ずつ進める予定である。この作品は、二部構成よりなり、本授業では第2部(p.157のVol.2, Ch.1より)を扱う。 なお、本科目は半期授業ではあるが、前期の「英米文芸表象論講読IA」と継続的な内容なので、前期で扱うテキストの第1部は、受講者がすでに読んでいることを前提として進める。									
【履修要件】									
『英米文芸表象論講読IA』を受講していない場合は、テキストの第1部(Vol.1, Ch.1-14)を読んでおくことが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
平常の授業への取り組みと試験等により、総合的に評価する。									
【教科書】									
Emily Bronte 『Wuthering Heights (Penguin Classics)』(Penguin Books) ISBN:978-0-14-143955-6									
【参考書等】									
(参考書) 廣野由美子 『『嵐が丘』の謎を解く(OD版)』(創元社)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	英米文芸表象論講読II B Reading of Literary Works IIB	担当者氏名	京都光華女子大学 教授 和栗 了						
配当学年	1-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	月3	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
アメリカ合衆国を代表する作家 Mark Twain の後期の代表作 A Connecticut Yankee in King Arthur's Court を読み進めます。筆者はアメリカ文明を肯定するのか、ヨーロッパ文明を肯定するのか、絶対者とは何か、近代文明とは何か、人類の進化あるいは文明の進化とは何か、など、さまざまな問題を受講生の皆さんと議論できれば幸いです。そのためには、言葉に細かく注意しながら、同時に巨視的な視点も持ちながら、作品を読む技術を練磨したいと考えています。									
【授業計画と内容】									
長い作品ですが、後期には23章から最後まで読み進めます。 第1回 イントロダクション(授業の進め方等と23章) 第2回～第13回 1回の授業でテキストの一章分を読み進めます。 第14回 前期のまとめとディスカッション									
毎回授業の最初に前回の授業の復習小テストを15分行なうので、受験すること。 毎回授業の最後に約25分間で授業のまとめレポートを作成すること。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
毎回の授業復習小テスト(50%) + 毎回の小レポート(20%) + 学期末のレポート(30%) 学期末のレポートの課題は受講生と相談のうえ決定します。									
【教科書】									
Mark Twain 『A Connecticut Yankee in King Arthur's Court』(California University Press) ISBN:978-0-520-23576-2									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
しっかりと予習してきてください。  オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	ドイツ文芸表象論講義 B Lecture on German Literary Arts and Representation B	担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 奥田 敏広						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	金4	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
<p>近世初頭のドイツで成立したファウスト伝説は、「悪魔との契約」という中心テーマのもとに「教訓」や「戒め」を語る伝説であるが、さまざまな娯楽的要素も含み、また人形劇などの形で上演されつつ、民衆の間で長く大きな人気を博してきたものであり、多くの異本や脚色版を産み出してきた。</p> <p>そこではまた、「世界の奥の奥を極めつくす」という近代的知的探究が、占星術や錬金術という「魔術的」学問と結びついた形で登場し、その後のゲーテの『ファウスト』やトーマス・マンの『ファウストゥス博士』といった近代文学を代表する作品に受け継がれていくことになる。</p> <p>そのような中世から近代にかけての代表的ドイツ人（ヨーロッパ人）というべきファウストをめぐる多様な伝説を取り上げ、その変遷の考察、およびファウストの人間や「悪魔との契約」をテーマとする近代文学作品との比較を通して、モティーフ史研究の一端を紹介する。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>ゲーテの『ファウスト』やトーマス・マンの『ファウストゥス博士』を、適宜抜粋して日本語の翻訳や原文のドイツ語で読み、近代文学におけるファウストのテーマの展開について、具体的に知ってもらおう。</p> <p>その後、ファウスト伝説や上記の近代文学作品に関する（日本語、ドイツ語、英語などの）文献を読んだり、紹介したりしながら、ファウスト伝説の近代文学における展開についてさらに考察する。</p>									
【履修要件】									
ドイツ語の初級知識と能力があること。									
【成績評価の方法・基準】									
出席などによる平常点とレポートで評価する									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	ドイツ文芸表象論演習 B Seminar on German Literary Arts and Representation B	担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 石田 明文						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	月3	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
<p>ドイツ近現代のテキストを精読することによって、近現代の思想や文学について、たんに抽象的な知識ではなく、具体的なテキストにもとづいた理解ないしは不理解を各自が自分自身の仕方で行うことを目標とする。不理解ということも、それが具体的なものであるかぎり、大きな成果である。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>テキストにかんして各自が自分自身のアプローチの仕方を見いだすにはこれ以外の仕方でもテキストにアプローチすることはできない、「計画」はあまり役に立たない。自分自身の研究と思考、さらには他の参加者との対話を通して、各自がそれを見いだすばかりではない。計画的に得ることのできるような「正しい答え」を求めても得るところは多くはないであろう。「正しい答え」が存在しない—これは近現代の思想や文学の根幹に触れるパラドクスである。テキストという迷路のなかに、これまで自分が気づかなかった出口や入口を発見するという経験を重ねることができれば、授業の目的を達したことになるであろう。</p>									
【履修要件】									
ドイツ語の十分な語学力									
【成績評価の方法・基準】									
授業への参加の仕方を重要な評価基準とするが、状況に応じてレポートなどを課する。									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	ドイツ文芸表象論演習 A Seminar on German Literary Arts and Representation A	担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 奥田 敏広						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	金4	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
<p>近世初頭のドイツで成立したファウスト伝説は、「悪魔との契約」という中心テーマのもとに「教訓」や「戒め」を語る伝説であるが、さまざまな娯楽的要素も含み、また人形劇などの形で上演されつつ、民衆の間で長く大きな人気を博してきたものであり、多くの異本や脚色版を産み出してきた。</p> <p>そこではまた、「世界の奥の奥を極めつくす」という近代的知的探究が、占星術や錬金術という「魔術的」学問と結びついた形で登場し、その後のゲーテの『ファウスト』やトーマス・マンの『ファウストゥス博士』といった近代文学を代表する作品に受け継がれていくことになる。</p> <p>そのような中世から近代にかけての代表的ドイツ人（ヨーロッパ人）というべきファウストをめぐる多様な伝説の一端に触れ、ドイツ語の文章の読解の訓練をする。さらに、伝説の変遷やさまざまな版の比較による研究の初歩を実践し体験してもらおう。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>最初の10回程度は、1587年に出版された『ファウスト物語』やドイツ各地に散在するファウスト伝説の中から15のエピソードを選び出し、やさしい現代ドイツ語に書き直したテキストを読んでいく。また適宜、参考となるファウスト伝説に関する文献を紹介する。</p> <p>その後の授業では、上記テキストの内容を踏まえながら、そしてファウスト伝説に関する（日本語、ドイツ語、英語などの）文献を読み、参照しながら、ファウスト伝説の欧米精神史上における意味やその後の文学に対する影響などについて、授業参加者に発表してもらい、それをもとに議論する。</p>									
【履修要件】									
ドイツ語初級文法の修得。ドイツ文学に関する知識は必ずしも必要ではない。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点とレポート									
【教科書】									
R. Schinzinger 『Die Sage von Doktor Faust』（東洋出版）（このテキストは履修者に無償で配布する予定です）									
【参考書等】									
（参考書） ヨーハン・シュビース（松浦純訳）『ファウスト博士』（国書刊行会）（『ドイツ民衆本の世界』全6巻の第三巻）									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	ドイツ文芸表象論講義 A Reading German Literary Arts and Representation A	担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 石田 明文						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	月3	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
<p>ドイツ近現代のテキストを精読することによって、近現代の思想や文学について、たんに抽象的な知識ではなく、具体的なテキストにもとづいた理解ないしは不理解を各自が自分自身の仕方で行うことを目標とする。不理解ということも、それが具体的なものであるかぎり、大きな成果である。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>テキストにかんして各自が自分自身のアプローチの仕方を見いだすにはこれ以外の仕方でもテキストにアプローチすることはできない、「計画」はあまり役に立たない。自分自身の研究と思考、さらには他の参加者との対話を通して、各自がそれを見いだすばかりではない。計画的に得ることのできるような「正しい答え」を求めても得るところは多くはないであろう。「正しい答え」が存在しない—これは近現代の思想や文学の根幹に触れるパラドクスである。テキストという迷路のなかに、これまで自分が気づかなかった出口や入口を発見するという経験を重ねることができれば、授業の目的を達したことになるであろう。</p>									
【履修要件】									
ドイツ語の十分な語学力									
【成績評価の方法・基準】									
授業への参加の仕方を重要な評価基準とするが、状況に応じてレポートなどを課する。									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	認知・行動科学入門 Introduction to cognitive & behavioral science		担当者氏名	こころの未来研究センター 教授 船橋 新太郎					
				人間・環境学研究所 教授 石原 昭彦					
				人間・環境学研究所 准教授 林 達也					
				人間・環境学研究所 教授 松村 道一					
				人間・環境学研究所 教授 津田 謹輔					
				人間・環境学研究所 教授 森谷 敏夫					
				情報学研究所 教授 小林 茂夫					
				人間・環境学研究所 教授 齋木 潤					
				情報学研究所 講師 細川 浩					
				人間・環境学研究所 准教授 神崎 素樹					
				人間・環境学研究所 准教授 月浦 崇					
配当学年	1,2回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	火1	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
我々は、様々な環境に適応して行動をしている。すなわち、さまざまな刺激を認知し、それに応じて行動する。そうすると、環境がまたかわるから認知し直し、そしてまた行動する。このように認知と行動は我々の生活に常にリンクしている。この認知と行動についてさまざまな視点から理解することを目的とする。									
【授業計画と内容】									
本講義はリレー形式である。船橋教員、石原教員、林教員、松村教員、小田教員、津田教員、森谷教員、小林教員、齋木教員、細川教員、神崎教員（順不同）が講義を行う。日程については、ガイダンスで指示する。認知に関しては、船橋教員・齋木教員、行動に関しては、松村教員・小田教員・石原教員・神崎教員、代謝に関しては、津田教員・森谷教員・林教員、生体センサーに関しては、小林教員・細川教員が講義を行う。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
出欠を重視する。レポートを考慮に入れる場合もある。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

言語・数理情報科学入門(2)									
-----									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	言語・数理情報科学入門 Introduction to Linguistic and Mathematical Information Science		担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 藤田 耕司					
				人間・環境学研究所 教授 山梨 正明					
				人間・環境学研究所 教授 東郷 雄二					
				人間・環境学研究所 教授 齋藤 治之					
				人間・環境学研究所 教授 服部 文昭					
				学術情報メディアセンター 教授 壇辻 正剛					
				人間・環境学研究所 教授 河崎 靖					
				人間・環境学研究所 准教授 上木 直昌					
				人間・環境学研究所 准教授 木坂 正史					
				人間・環境学研究所 准教授 立木 秀樹					
				人間・環境学研究所 准教授 日置 尋久					
				人間・環境学研究所 准教授 櫻川 貴司					
				人間・環境学研究所 教授 高崎 金久					
				人間・環境学研究所 教授 森本 芳則					
				人間・環境学研究所 教授 宇敷 重廣					
配当学年	1,2回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	金1	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
認知情報学系の学系入門科目である。言語活動を貫く知のメカニズムの解明、および、数学と情報における基本的な考え方の習得を目標に解説する。									
【授業計画と内容】									
言語科学講座および数理科学講座所属の教員全員によるリレー講義である。									
毎回、各教員が自らの専門領域を中心に、言語・数理情報科学関係の初歩的な講義を行う。言語科学の観点からは、音韻・形態、シンタクスに反映される形式と意味の体系からなる記号系と、言葉の伝達のメカニズムの諸相を対象とした講義を行う。数学と情報科学の観点からは、数学的対象・構造の記述形式、情報の数理的側面、画像処理・ネットワークなどの情報技術について概説する。									
今年度は、日程の前半を数理情報科学関係の教員が、後半部分を言語科学関係の教員が、それぞれ担当する。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
言語科学、数理科学それぞれを50点満点で採点し、その合算により成績を出す。									
どちらも、原則として、毎回の出席を必要条件として、両関係の各一人ずつの教員宛にレポートを提出する。詳細は授業中に指示する。									
-----									
言語・数理情報科学入門(2)へ続く									

授業科目名 <英訳>	行動神経機能論 Behavioral Neurophysiology		担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 松村 道一					
配当学年	1-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	火5	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
人を含めた高等動物は、多彩かつ複雑な環境の中で、最も適した行動を選択し適応する能力を身に付けている。このような適応行動に関して役割を果たしている脳の領域を大まかに紹介する。最も単純な運動から高次な行動に至る神経機構を解説する。これらの領域の役割を知ることで、我々の行動をいっそう豊かにすることが可能である。神経科学や心理学を学ぼうとする学生だけではなく、運動科学に興味のある学生にとっても有益といえる。									
【授業計画と内容】									
以下のテーマをもとにして授業を進める予定である。ただし付記した番号は、あくまでも各週ごとの目安である。									
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 末梢神経系</li> <li>2. 脳幹の運動制御</li> <li>3. 大脳皮質運動野</li> <li>4. 運動野と階層的制御機構</li> <li>5. 運動前野（手がかり運動のメカニズム）</li> <li>6. 補足運動野（自発運動のメカニズム）</li> <li>7. 体性感覚野と運動の統合</li> <li>8. 頭頂連合野（視覚情報から運動へ）</li> <li>9. 前頭連合野（行動の実行機能）</li> <li>10. 情動連合野（情動から運動の発現）</li> <li>11. 小脳（認知行動学習と制御計算）</li> <li>12. 大脳基底核（姿勢制御と随意運動）</li> </ol>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
定期試験									
【教科書】									
毎回の授業でプリントを配布する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワーは月曜日18時～19時(於:研究室)									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	行動神経機能論演習 Practice in Behavioral Neurophysiology	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 松村 道一
配当学年	1-4回生	単位数	2
開講期	後期	曜時間	火5
授業形態	演習		
【授業の概要・目的】			
最新の認知心理学や神経科学の研究に必須となった、非侵襲性脳機能測定法について、その原理と応用法を解説し、これらの画像データの解釈に欠かせない統計検定の手法を学ぶ。行動神経機能論の知識を生かすためには、この講義で触れる方法論が必要となる。神経科学や心理学を学ぶだけでなく、運動科学に興味のある学生にとっても有益といえる。			
【授業計画と内容】			
以下のテーマをもとにして授業を進める予定である。ただし付記した番号は、あくまでも各週ごとの目安である。			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 侵襲性脳機能測定技術 生理学的手法</li> <li>2. 侵襲性脳機能測定技術 解剖学的手法</li> <li>3. 筋電図記録とその解析</li> <li>4. 脳波の記録とその解析</li> <li>5. 磁気刺激法と脳磁場測定装置 (MEG)</li> <li>6. 光学画像法と近赤外線スペクトル解析 (NIRS)</li> <li>7. ポジトロン・エミッション・トモグラフィ (PET)</li> <li>8. 核磁気共鳴イメージング(MRI)の原理</li> <li>9. 機能的核磁気共鳴イメージング (f-MRI)</li> <li>10. 機能的核磁気共鳴イメージング (私の研究室で行われた実験の紹介)</li> </ol> 非侵襲性画像処理は運動科学の研究にも大変有益である。			
【履修要件】			
特になし			
【成績評価の方法・基準】			
定期試験と随時行う小テストの合計点で成績評価を行う。			
【教科書】			
毎回授業でプリントを配布する。			
【参考書等】			
(参考書) 授業中に紹介する			
(その他 (授業外学習の指示・オフィスアワー等))			
オフィスアワーは月曜日18時~19時 (於: 研究室)			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英訳>	行動神経機能論ゼミ 1 Seminar in Behavioral Neurophysiology1	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 松村 道一
配当学年	1-4回生	単位数	2
開講期	前期	曜時間	水5
授業形態	ゼミナール		
【授業の概要・目的】			
認知心理学や神経科学を理解するためには、人間の脳の基本構造に習熟する必要がある。本ゼミでは、最新の原著テキストを輪読し、運動制御の機能を学んでいく。心理学や神経科学を勉強したい人にはぜひとも動機たいゼミである。			
【授業計画と内容】			
本年度使用テキスト ESSENTIALS OF NEURAL SCIENCE AND BEHAVIOR, By Eric R. Kandel, James H. Schwartz, Thomas M. Jessell 神経科学の大家が書いたこのテキストは、多くのアメリカの大学で使用されている。そのような原著テキストを講読することは、今後の学習において大変有益である。 前期は18章~29章を講読する。 18章~19章 Cognitive Neural Science 20章~29章 Perception 視覚・聴覚や、運動関連領域などを中心としたテーマでゼミを行う。			
【履修要件】			
特になし			
【成績評価の方法・基準】			
ゼミ中の貢献度による。			
【教科書】			
毎回授業でプリントを配布する。			
【参考書等】			
(参考書) 授業中に紹介する			
(その他 (授業外学習の指示・オフィスアワー等))			
前期・後期とも、単独で履修可能である。 オフィスアワーは月曜日18時~19時 (於: 研究室)			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英訳>	行動神経機能論実験 Experiments in Behavioral Neurophysiology	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 松村 道一
配当学年	3,4回生	単位数	2
開講期	前期	曜時間	火3,4
授業形態	実験		
【授業の概要・目的】			
行動神経科学を勉強したい人は、まず人間の行動の基本になる反復動作の概要を理解することが必要になる。この実験では、人間の行動の基本となる「反応時間課題」を何種類か触れることで、その概略を知ることが可能になる。			
【授業計画と内容】			
行動の基本を知るためには、実際の神経系の実験をしなくても、行動学の研究によってある程度は知ることができる。本実験では、f-MRIのような大がかりな装置を用いることなく、行動の基本を学習していく。 実験に参加してくれた人全員の単純反応時間を測定し、GO/NOGO課題の反応時間や、その他いくつかの課題の反応時間と比較する。そのためには統計処理のやり方も、この実験中にマスターしてもらおう。最後にレポートの書き方を学習することで、卒業研究を書くときの心構えを習得することができるようになる。			
【履修要件】			
神経科学の基本的な講義や演習を履修していることが望ましい。			
【成績評価の方法・基準】			
実験の後にレポートを提出してもらおう。			
【教科書】			
実験に必要な資料は、授業中に配布する。			
【参考書等】			
(参考書) 実際の統計処理に際しては、統計学の本を持っていくことが望ましい。			
(その他 (授業外学習の指示・オフィスアワー等))			
オフィスアワーは月曜日18時~19時 (於: 研究室)			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英訳>	行動神経機能論ゼミ 2 Seminar in Behavioral Neurophysiology2	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 松村 道一
配当学年	1-4回生	単位数	2
開講期	後期	曜時間	水5
授業形態	ゼミナール		
【授業の概要・目的】			
認知心理学や神経科学を理解するためには、人間の脳の基本構造に習熟する必要がある。本ゼミでは、最新の原著テキストを輪読し、運動制御の機能を学んでいく。心理学や神経科学を勉強したい人にはぜひとも動機たいゼミである。			
【授業計画と内容】			
本年度使用テキスト ESSENTIALS OF NEURAL SCIENCE AND BEHAVIOR, By Eric R. Kandel, James H. Schwartz, Thomas M. Jessell 神経科学の大家が書いたこのテキストは、多くのアメリカの大学で使用されている。そのような原著テキストを講読することは、今後の学習において大変有益である。 前期と同じテキストで、後期は30章~36章を講読する。 30章~33章 Genes, Emotions and Instincts 34章~36章 Language, Learning and Memory 連合野・学習・記憶などを中心としたテーマでゼミを行う。			
【履修要件】			
特になし			
【成績評価の方法・基準】			
ゼミ中の貢献度による。			
【教科書】			
毎回授業でプリントを配布する。			
【参考書等】			
(参考書) 授業中に紹介する			
(その他 (授業外学習の指示・オフィスアワー等))			
前期・後期とも、単独で履修可能である。 オフィスアワーは月曜日18時~19時 (於: 研究室)			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英訳>	行動制御学演習 1 Practice in Behavioral Control	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 松村 道一
配当学年	4回生	単位数	2
開講期	前期	曜時間	月5
授業形態	演習		
【授業の概要・目的】			
Kandelら編集 Principles of Neural Science 第4版 の講義を行う。この本は神経科学の教科書として、世界中で最も広く使われています。			
【授業計画と内容】			
1 8～2 0章 ニューロンから大脳連合野までの認知と運動機能の概略			
2 1～2 2章 感覚情報処理のメカニズム			
2 3～2 4章 体性感覚の情報処理のメカニズム			
2 5～2 9章 視覚情報処理の神経機構			
3 0～3 1章 聴覚の神経機構			
3 3～4 3章 運動と行動の神経機構			
【履修要件】			
特になし			
【成績評価の方法・基準】			
ゼミ中の貢献度によって評価する。			
【教科書】			
Eric R. Kandel, James H. Schwartz, Thomas M. Jessell 『PRINCIPLES OF NEURAL SCIENCE, Fourth Edition』 (McGraw Hill) ISBN:0-8385-7701-6 (コピーを配布する。)			
【参考書等】			
(参考書)			
Michael S. Gazzaniga, Richard B. Ivry, George R. Mangun 『Cognitive Neuroscience, The Biology of the Mind, Third Edition』 (W. W. Norton & Company) ISBN:978-0-393-92795-5			
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))			
オフィスアワーは月曜日18時～19時(於:研究室)			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英訳>	生体情報論演習 Practice of Biological Information	担当者氏名	情報学研究所 教授 小林 茂夫
配当学年	1-4回生	単位数	2
開講期	前期	曜時間	金5
授業形態	演習		
【授業の概要・目的】			
動物のからだは多数の細胞から構成されている。それらの細胞間の相互作用、細胞内の分子機構が生化学、生理学的な手法で解析されている。この演習では、生体のしくみを調べるためのさまざまな測定方法を学生みずからがしらべて報告する。なぜこのような方法がとられているのか、もっと効率的な方法はないかなどについても考察する。測定によって得られたデータは測定値の羅列であり、そのままでは充分な説得力を持たない。データには、ばらつきがつきものなので、データを統計的な方法で処理しなくてはならない。また、実験データを図表にし、パワーポイントで発表する必要がある。これらの作業を実習で学ぶことで、生命科学の実験方法、解析手法を身につける。			
【授業計画と内容】			
初めに、この実習の概要を話す。 次に、パワーポイントの使い方を習得する。 学生ごとに当番を決め、生命科学の実験方法についてパワーポイントを使って発表する。 その後、エクセルを使った統計的な解析方法を習得する。 必要事項は講義形式で解説しつつ、具体的な例を用いてエクセル上で統計処理を実習する。			
【履修要件】			
メディアセンター講義室のパソコンを使って実習します。パソコンの初心者にあわせてわかりやすい授業をおこないます。			
【成績評価の方法・基準】			
レポートと出席による。 講義の日ごとに、当日に学習した課題のレポートを提出する。 出席点とレポートをあわせて採点する			
【教科書】			
使用しない 使用しません			
【参考書等】			
(参考書)			
小林 茂夫、杉山 鷹人 『生命科学研究に成功するための統計法ノート』(講談社) 理解しやすい本です。			
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))			
理系・文系を問いません。 講義時間の最初に先週のレポートについて講評します。			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英訳>	生体情報論 The Basis of Neural System	担当者氏名	情報学研究所 教授 小林 茂夫
配当学年	1-4回生	単位数	2
開講期	前期	曜時間	月3
授業形態	講義		
【授業の概要・目的】			
体の外には、色、音、暑さ・寒さなどがあると私たちは思う。だが、物理学が説くように、体の外にあるのは、電磁波や空気波、化学物質、温度やものだ。「物理学の世界では、色とか、あたたかさとか、冷たさとか、音とか、そういうものはなんにもない」と朝永振一郎は述べる(岩波新書)。では、色や音、暑さ・寒さはどこにあるのだろうか。電磁波が目が届くと色が見える。空気波が耳に届くと音が聞こえる。だから、色や音、暑さ・寒さは、私たちの脳の中にあると考えられる。脳は仮想現実を生んでいるといえる。物理世界と仮想現実を関係づけるしくみを、生物学、情報学の観点から説明する。			
【授業計画と内容】			
この講義では、生物学、情報学、哲学などの感覚の説明を振り返り、生体が用いる情報、その形式を考察する。感覚の受容器は、物理量を符号(活動電位の発火頻度)に変換する検出器といわれてきた。この説明では、温度の符号が体の中に入り、脳で符号解読がおこなわれて温度に戻ることになる。だが、脳の中に温度表示はないし、それを見て温度を測る人もいない。もちろん、暑さ・寒さの感覚は説明できない。これに対し、受容器は、その活動域にはいる物理量が増えたときに駆動信号を出すスイッチだとの方に見方を変えた。その駆動信号が脳に届くと暑さ・寒さが生まれるので、駆動信号が活動を引き起こす標的細胞には、暑さや寒さを生む「情報」が備わるに違いない。私たちの感覚系は、外の物理量が鍵盤を弾いて脳のペルを鳴らす楽器のようなものであり、そうして生まれた景色や音を私たちは見聞きするといえる。この仮想現実の上に、人の記憶やことばが成り立っている。感覚、記憶、ことばを生むしくみを新たな観点で考察する。			
【履修要件】			
生物学の予備知識を前提としないで授業をおこなう。感覚、記憶、ことばは、生物学だけではとらえられない広がりを持つ。理系だけでなく、文系の学生の履修を歓迎する。			
【成績評価の方法・基準】			
期末試験			
【教科書】			
小林茂夫『脳が作る感覚世界』(コロナ社)			
【参考書等】			
(参考書)			
特になし			
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))			
専門用語をできるだけ使わず、基本的な点を述べるようにする。 しかし、新しいテーマゆえ、下にあげた教科書を読むと理解しやすい。 授業では、パワーポイントを使って解説する。 その資料をホームページにのせ、予習・復習の便宜をはかる。 質問などがあれば、skoba@i.kyouto-u.ac.jpにメールを下さい。 感覚や記憶、ことばに興味のある人はどうぞ。			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英訳>	神経機能論実験 A Experiment of Neurobiology A	担当者氏名	情報学研究所 教授 小林 茂夫
配当学年	3,4回生	単位数	2
開講期	前期	曜時間	水3,4
授業形態	実験		
【授業の概要・目的】			
神経機能を分子レベルで明らかにするための基礎的な実験手法を学ぶ。神経機構を分子レベルで理解するための解析方法の学習を行う。			
【授業計画と内容】			
イオンチャネルは、温度、接触、浸透圧、フェロモン、味などさまざまな刺激の受容に関わる。イオンチャネルあるいはそれを修飾する遺伝子の機能解析を行う。この実習を通して、遺伝子組み換え、細胞培養、遺伝子導入、たんぱく質発現、電気生理学的解析、形態学的解析などの手法を必要に応じて修得する。			
【履修要件】			
特になし			
【成績評価の方法・基準】			
出席とレポート			
【教科書】			
使用しない 特に使用しません			
【参考書等】			
(参考書)			
特に使用しません			
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))			
生物を勉強していない人も対象です。			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英語>	生体情報論基礎ゼミ Seminar: Logic of morphogenesis in living organism		担当者氏名	情報学研究所 教授 小林 茂夫 情報学研究所 助教 前川 真吾					
配当学年	1-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	月5	授業形態	ゼミナール
【授業の概要・目的】 受精から始まる発生過程を通して、個々の生きものは生物種に固有の形になる。いかにしてその形が生まれるのだろうか？1個の受精卵は、細胞分裂で2個の細胞になる。このような細胞分裂が40回繰り返されると、2の40乗個つまり1兆個の細胞が生まれる勘定になる。これらは、同じ遺伝情報をもつクローン細胞だが、器官ごとに異なる機能と形を持った細胞となる。それらの集合体が個体である。最近、皮膚の細胞から、心臓や筋肉などどんな細胞にもなれる全能性細胞が作成された。このしくみを考えるうえでも発生の理解は重要である。このゼミでは、生きものの「形づくり」の論理を受講者全員で考察する。									
【授業計画と内容】 最初の2-3回の時間を使い、このゼミのテーマと目的を話す。また、DNA、RNA、タンパク質の生まれるしくみ、細胞分裂、発生など生物学の基礎を話し、形作りの論理のおおよそを説明する。その後受講する学生が、生物の「形づくり」を中心に興味深いトピックを選び、背景もふくめてその内容を発表する。たとえば、再生医学で使われる全能性細胞とはどのようなもので、その意義はいかなるものかを話す。また、がん細胞とはどのような性質を持つ細胞だろうか。その際、形作りの論理に焦点をしばり、発表内容を受講者全員で議論・考察する。									
【履修要件】 特になし									
【成績評価の方法・基準】 このゼミの中で、学生は一度の発表を行う。出席回数、発表内容、討論の内容で成績を評価する。									
【教科書】 使用しない 使用しません									
【参考書等】 (参考書) 使用しません									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) 生き物の形作りは不思議な現象です。自分で設計するとしたなら、どんな形にしましょうか。どこをどう変えれば形が変わるかなど、問題意識をもって取り組んでください。ここで扱うテーマは生物学的な知見にとどまりません。医療、経済、法律、哲学など人間社会全体にかかわります。理系だけでなく文系の学生の積極的な参加を歓迎します。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	神経生理学基礎演習 Practice of Basic Neurophysiology		担当者氏名	情報学研究所 講師 細川 浩					
配当学年	1-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	金5	授業形態	演習
【授業の概要・目的】 脳・神経系を理解する上で、コンピュータによる学術情報の収集、データ収集、データ解析は不可欠である。この演習ではコンピュータを用いた神経生理学の解析手法を学ぶ									
【授業計画と内容】 以下の項目について、解説、演習を行いレポートを作成する。 分子生物学的手法 インターネットを用いた学術情報の収集 インターネットを用いたDNA、タンパク質データベースからの情報収集 コンピュータを用いたデータの解析 データを提示するための報告書作製技術									
【履修要件】 特になし									
【成績評価の方法・基準】 出席とレポートによる									
【教科書】 使用しない									
【参考書等】 (参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) 文系の人や、いままで神経系を学んでこなかった人も対象にしています。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	神経生理学の基礎 Basic Neurophysiology		担当者氏名	情報学研究所 講師 細川 浩					
配当学年	1-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	月3	授業形態	講義
【授業の概要・目的】 脳は、神経細胞により高度に組織化された器官である。脳は、外部・内部環境の変動を感覚器などを用いてとらえ、それを適切に処理することができる。この際、脳はどのようにして外界の状況を把握し、どのように処理していくのかを学ぶ。鍵となる概念を学び、さらにその最先端を概観する。									
【授業計画と内容】 下記の外部環境因子の変動に対する生体のホメオスタシス維持反応について講義を行う。環境の変化を読み取る仕組みと、その環境変化に対して起こる生体応答に関して、生理学、分子生物学の立場から解説する。特に外部温度変化に対して神経系がどのように応答するのかを解説する。 1、 温度 2、 水分 3、 栄養 4、 酸素 5、 光 6、 病原菌 7、 化学物質									
【履修要件】 特になし									
【成績評価の方法・基準】 期末試験									
【教科書】 使用しない									
【参考書等】 (参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) 生物を学んでこなかった人や、文系の人も対象にしています。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	神経機能論実験B Experimental Practice in Neurobiology B		担当者氏名	情報学研究所 講師 細川 浩					
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	水3,4	授業形態	実験
【授業の概要・目的】 神経機能を分子レベルで明らかにするための基礎的な実験手法を学ぶ。神経機構を分子レベルで理解するための解析方法の学習を行う。									
【授業計画と内容】 イオンチャネルは、温度、接触、浸透圧、フェロモン、味などさまざまな刺激の受容に関わる。イオンチャネルあるいはそれを修飾する遺伝子の機能解析を行う。この実習を通して、遺伝子組み換え、細胞培養、遺伝子導入、たんぱく質発現、電気生理学的解析、形態学的解析などの手法を必要に応じて修得する。									
【履修要件】 特になし									
【成績評価の方法・基準】 出席とレポートによる。									
【教科書】 使用しない									
【参考書等】 (参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) 文系の人や、いままで神経系を学んでこなかった人も対象にしています。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	生命科学基礎ゼミ Seminar on Life Science	担当者氏名	情報学研究科 講師 細川 浩 情報学研究科 助教 前川 真吾						
配当学年	1-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	月5	授業形態	ゼミナール
【授業の概要・目的】									
生命科学は、医学や生物学をはじめ生物をとりまくさまざまな学問分野の基礎となりうる。生物は細胞から構成されており、細胞内のDNAやタンパク質といった小分子が協動的に機能することで、様々な機能を発揮している。細胞の構成要素、遺伝の基礎原理、発生過程を講義・考察することにより、現在の生物学を俯瞰する。さらに受講者が討論することで理解を深めることを目的とする。									
【授業計画と内容】									
最初の2-3回の時間を使い、このゼミのテーマと目的を話す。また、以下の生命科学の基礎についてのトピックを解説を行いながら議論する。									
細胞の基本機能 遺伝メカニズムの基礎 細胞内小分子の構造と機能 生物が形作られていく仕組み									
その後、受講する学生が、興味深いトピックを選び、背景もふくめてその内容を発表する。その際、発表内容を受講者全員で議論・考察する。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
出席と発表による。 出席50%、発表50%です。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
生物を勉強したことのない人も対象にしています。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	認知機能論演習 Proseminar on Cognitive function	担当者氏名	こころの脳研究センター 教授 船橋 新太郎						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	金2	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
L.R. Squire and E.R. Kandel "Memory: From Mind to Molecules" (2008) を読み進めることにより、記憶に関する基本的な事項、そのシステム・レベル、細胞レベル、分子レベルのメカニズムを理解する。									
【授業計画と内容】									
L.R. Squire and E.R. Kandel 著 "Memory: From Mind to Molecules" (2008) の各章を、受講者で分担して1、2回で読み進める。章構成は下記のとおり。									
1. From Mind to Molecules 2. Modifiable synapses for nondeclarative memory 3. Molecules for short-term memory 4. Declarative memory 5. Brain systems for declarative memory 6. A synaptic storage mechanism for declarative memory 7. From short-term memory to long-term memory 8. Priming, Perceptual learning, and emotional learning 9. Memory for skills, habits, and conditioning 10. Memory and the biological basis of individuality									
【履修要件】									
「認知機能論」講義を受講するのが好ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
出席状況、発表の担当回数、授業内での発言、ならびに、試験期間中に実施する筆記試験をもとに評価する。									
【教科書】									
L.R. Squire and E.R. Kandel 『Memory: from mind and to molecules』(W.H. Freeman and Company) ISBN:0-7167-6037-1									
【参考書等】									
(参考書) B.J. Baars and N.M. Gage 『Cognition, Brain, and Consciousness: Introduction to cognitive neuroscience』(Academic Press) ISBN:978-0-12-375070-9									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	認知機能論 Cognitive function	担当者氏名	こころの脳研究センター 教授 船橋 新太郎						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	月2	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
B.J. Baars & N.M.Gage "Cognition, Brain, and Consciousness: Introduction to Cognitive Neuroscience" (2010) を読み進めながら、脳の働きを理解するための方法や、それによって明らかになった様々な脳の働きを理解する。									
【授業計画と内容】									
B.J. Baars & N.M.Gage "Cognition, Brain, and Consciousness: Introduction to Cognitive Neuroscience" (2010) を教科書に、下記の順に読み進める。									
第1週 脳研究の歴史 第2週 こころのはたらき 第3週 ニューロン 第4週 脳研究の方法 第5週 脳の基本構造 第6週 視覚 第7週 聴覚 第8週 意識と注意 第9週 学習と記憶 第10週 思考と問題解決 第11週 言語 第12週 遂行機能 第13週 感情 第14週 社会脳 第15週 総合討論									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
数回実施する小レポート課題の内容と試験期間中に実施する試験の成績をもとに評価する。レポート課題全体の成績を50点満点、試験期間中に実施する試験の成績を50点満点とし、その合計点を成績評価とする。									
【教科書】									
B.J. Baars and N.M. Gage 『Cognition, Brain, and Consciousness: Introduction to Cognitive Neuroscience』(Academic Press) ISBN:978-0-12-375070-9									
【参考書等】									
(参考書)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	認知機能論ゼミA Seminar for Cognitive function A	担当者氏名	こころの脳研究センター 教授 船橋 新太郎						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	月5	授業形態	ゼミナール
【授業の概要・目的】									
前頭連合野の働きを中心に、それを構成する神経細胞の機能的特徴、神経回路網の構成やその特徴、大脳皮質の他の部位や皮質下の構造との間の解剖学的・機能的関係、損傷や破壊による認知機能上および行動上に見られる変化、そして、動物を用いた神経生理学的な知見などに関する知見を、最新の論文を紹介・解説することにより獲得することを目的とする。									
【授業計画と内容】									
大学院生による、研究目的に関連した研究論文の紹介・解説を中心に実施する。自己の研究目的に関連する研究の方法、知見を理解すると同時に、自己の実験・研究を含めて、批判的な見方を養い、自己の研究を改善できる能力を養う。 参加者には、毎回事前に演習で紹介する論文・総説をメールで連絡する。									
第1回：オリエンテーションおよび論文紹介のローテーションの決定 第2回以降：第1回で決定した論文紹介のローテーションに従って、論文・総説などの内容紹介とそれに関する討論を行う。適宜、大学院生の実施している研究の進捗状況の紹介とそれに関する討論を行う。また、学会発表前には、発表練習と発表内容に関する討論を随時挿入していく。									
【履修要件】									
「脳科学入門」および「認知機能論」を受講しているのが好ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
出席状況、関連論文の紹介回数、演習での討論の状況などをもとに評価する。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) Joaquin M. Fuster 『The Prefrontal Cortex』(Academic Press) 船橋新太郎 『前頭葉の謎を解く』(京都大学学術出版会) M.S. Gazzaniga, R.B. Ivry, & G.R. Mangun (eds.) 『Cognitive Neuroscience』(W.W. Norton & Co)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
担当教員が主催する研究会、講演会、セミナーなどに積極的に参加すること。 オフィスアワーは月曜日の正午から午後2時(於：吉田南総合館南棟113室)									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	認知機能論ゼミB Seminar for Cognitive function B	担当者氏名	こころの科学研究センター 教授 船橋 新太郎						
配当学年	3,4年生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	月5	授業形態	ゼミナール
【授業の概要・目的】 前頭連合野の働きを中心に、それを構成する神経細胞の機能的特徴、神経回路網の構成やその特徴、大脳皮質の他の部位や皮質下の構造との間の解剖学的・機能的関係、損傷や破壊による認知機能上および行動上に見られる変化、そして、動物を用いた神経生理学的な知見などに関する知見を、最新の論文を紹介・解説することにより獲得することを目的とする。									
【授業計画と内容】 大学院生による、研究目的に関連した研究論文の紹介・解説を中心に実施する。自己の研究目的に関連する研究の方法、知見を理解すると同時に、自己の実験・研究を含めて、批判的な見方を養い、自己の研究を改善できる能力を養う。 参加者には、毎回事前に演習で紹介する論文・総説をメールで連絡する。 第1回：オリエンテーションおよび論文紹介のローテーションの決定 第2回以降：第1回で決定した論文紹介のローテーションに従って、論文・総説などの内容紹介とそれに関する討論を行う。適宜、大学院生の実施している研究の進捗状況の紹介とそれに関する討論を行う。また、学会発表前には、発表練習と発表内容に関する討論を随時挿入していく。									
【履修要件】 「脳科学入門」および「認知機能論」を受講しているのが好ましい。									
【成績評価の方法・基準】 出席状況、関連論文の紹介回数、演習での討論の状況などをもとに評価する。									
【教科書】 使用しない									
【参考書等】 (参考書) Joaquin M. Fuster 『The Prefrontal Cortex』(Academic Press) 船橋新太郎 『前頭葉の謎を解く』(京都大学学術出版会) M.S. Gazzaniga, R.B. Ivry, & G.R. Mangun (eds.) 『Cognitive Neuroscience』(W.W. Norton & Co.)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) 担当教員が主催する研究会、講演会、セミナーなどに積極的に参加すること。 オフィスアワーは月曜日の正午から午後2時(於:吉田南総合館南棟113室) オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	視覚認識論ゼミB Seminar on Visual Cognition B	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 齋木 潤						
配当学年	3,4年生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	水3	授業形態	ゼミナール
【授業の概要・目的】 視覚による認識の過程の科学的な研究に必要な研究テーマの設定、実験のデザイン、データの分析、結果の解釈などの過程を、分野の最先端の研究を進めている大学院生やポスドクの研究に関するディスカッションに参加することにより学ぶことを目指す。 現在進行中の研究の進捗報告とそれに関するディスカッションを通して、講義では得られない、実際に研究を行う上で必須となるスキルに対する理解を深め、自身の研究の高度化を図ることが期待できる。									
【授業計画と内容】 原則として、大学院生、卒論生、ポスドクの研究進捗報告とそれに関するディスカッションを行い、討論に参加するとともに、少なくとも1回自身の研究あるいは、興味のある論文などについての発表を行う。 第1回：授業についてのオリエンテーション、参加者の確認と、発表スケジュールの調整。 第2回以降：スケジュールに従って学生の研究発表と討論。									
【履修要件】 視覚認識論を履修していることが望ましい。(必須ではない)									
【成績評価の方法・基準】 出席状況、ゼミでの討論への参加状況、発表状況をもとに評価する。									
【教科書】 使用しない									
【参考書等】 (参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) 第1回の授業時に発表のスケジュールを決めるので必ず出席すること。何らかの事情で出席できない場合は事前に連絡すること。事前連絡なく第1回の授業に出席しない場合は履修を認めない。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	視覚認識論ゼミA Seminar on Visual Cognition A	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 齋木 潤						
配当学年	3,4年生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	水3	授業形態	ゼミナール
【授業の概要・目的】 視覚による認識の過程の科学的な研究に必要な研究テーマの設定、実験のデザイン、データの分析、結果の解釈などの過程を、分野の最先端の研究を進めている大学院生やポスドクの研究に関するディスカッションに参加することにより学ぶことを目指す。 現在進行中の研究の進捗報告とそれに関するディスカッションを通して、講義では得られない、実際に研究を行う上で必須となるスキルに対する理解を深め、自身の研究の高度化を図ることが期待できる。									
【授業計画と内容】 原則として、大学院生、卒論生、ポスドクの研究進捗報告とそれに関するディスカッションを行い、討論に参加するとともに、少なくとも1回自身の研究あるいは、興味のある論文などについての発表を行う。 第1回：授業についてのオリエンテーション、参加者の確認と、発表スケジュールの調整。 第2回以降：スケジュールに従って学生の研究発表と討論。									
【履修要件】 視覚認識論を履修していることが望ましい。(必須ではない)									
【成績評価の方法・基準】 出席状況、ゼミでの討論への参加状況、発表状況をもとに評価する。									
【教科書】 使用しない									
【参考書等】 (参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) 第1回の授業時に発表のスケジュールを決めるので必ず出席すること。何らかの事情で出席できない場合は事前に連絡すること。事前連絡なく第1回の授業に出席しない場合は履修を認めない。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	視覚科学実験A Vision Science Laboratory A	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 齋木 潤 人間・環境学研究所 助教 山本 洋紀						
配当学年	3,4年生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	水4,5	授業形態	実験
【授業の概要・目的】 視覚科学研究に必須となる行動実験の基本的な手法を学ぶことを目的とする。視覚刺激を作成し、モニタに正しく提示するために必要な手続きを実習を通して学ぶとともに、実験の実施に必要な条件設定、呈示のランダム化、刺激のカウンタバランスなどの基本的な手法の解説と実習を行う。また、これらの作業に必須となるプログラミング言語の初歩を学び、簡単な行動実験を一人で作成できるようにすることを旨とする。									
【授業計画と内容】 授業の前半では、視覚刺激の作成とモニタの較正の手法、後半では、実験のデザイン、カウンタバランス、データの取得などの手法を実習する。 第1回：オリエンテーション。授業の概要の説明(齋木・山本) 第2回：実習の準備。プログラミング言語MATLABの概説(山本) 第3-6回：視覚刺激作成、モニタ較正実習(山本) 第7-10回：実験デザイン、プログラム制御実習(齋木) 第11-14回：簡単な行動実験プログラム作成、データ収集・分析(齋木・山本)									
【履修要件】 特になし									
【成績評価の方法・基準】 出席、及び実習での平常点									
【教科書】 使用しない									
【参考書等】 (参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) 実習科目であるため、受講希望者が多い場合は、視覚科学研究室への配属を希望する学生を優先する。授業実施時間以外での実習が相当程度必要となる。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	視覚科学実験 B Vision Science Laboratory B	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 齋木 潤 人間・環境学研究所 助教 山本 洋紀						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	水4,5	授業形態	実験
【授業の概要・目的】									
視覚科学研究に必須となる行動実験のより発展的な手法を学ぶことを目的とする。視覚科学実験Aで学んだ基本的な実験手法をさらに発展させることにより、卒業研究に必要なレベルの研究手法を獲得することを旨とする。また、視覚科学実験Aでは扱っていなかったデータ解析の基本的な手法についても実習を行う。卒業論文作成に必要な研究のスキルを獲得することが期待される。									
【授業計画と内容】									
授業の序盤では、データ解析手法の基礎を実習し、中盤から後半では、学んだ手法を利用して参加者各自の興味に応じた行動実験をデザインし、実施する。第6回以降は、全体での実習ではなく個別の実験プロジェクトとなる。第14回に研究成果発表の実習を行う。									
第1回：オリエンテーション。授業の概要の説明（齋木・山本） 第2 - 5回：データ解析手法の基礎（齋木） 第6 - 10回：実験計画、デザイン、刺激、プログラム作成（齋木・山本） 第11 - 13回：データ収集、データ解析（齋木・山本） 第14回：研究成果発表会（齋木・山本）									
【履修要件】									
視覚科学実験Aを履修していること。									
【成績評価の方法・基準】									
出席と平常点									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
視覚科学実験Aを履修していない場合は、既修者に相当する実験手法やプログラミングスキルがあると判断できる場合に限り履修を認める。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	記憶神経科学ゼミ B Seminar of Neuroscience on Human Memory B	担当者氏名	人間・環境学研究所 准教授 月浦 崇						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	月5	授業形態	ゼミナール
【授業の概要・目的】									
ヒト記憶に重要な脳領域である側頭葉内側面（海馬・海馬傍回）の働きを中心に、ヒト記憶やその周辺の心理過程（情動や社会的認知、加齢など）に関連する最新の脳機能イメージング（fMRI等）研究や脳損傷患者を対象とした神経心理学的研究を紹介・解説することによって、ヒト記憶を担う脳メカニズムを理解することをめざす。									
【授業計画と内容】									
受講生による研究目的に関連した研究論文の紹介・解説を中心に実施する。研究方法やその結果を単純に理解するだけでなく、自分の研究と照らし合わせて論文のストーリーに対して批判的な見方をできるような力を養う。 参加者には、毎回事前に演習で紹介する論文・総説をメールで連絡する。									
第1回：オリエンテーションおよび論文紹介ローテーションの決定									
第2回以降 第1回で決定したローテーションにしたがって、論文・総説の内容紹介とそれに関する討論を行う。また、学会発表前などには発表練習と発表内容に関する討論を随時挿入していく。									
【履修要件】									
「認知神経心理学」を受講していることが望ましいが、必須ではない。									
【成績評価の方法・基準】									
出席状況、発表の内容、ディスカッションへの参加状況によって評価する。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	記憶神経科学ゼミ A Seminar of Neuroscience on Human Memory A	担当者氏名	人間・環境学研究所 准教授 月浦 崇						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	月5	授業形態	ゼミナール
【授業の概要・目的】									
ヒト記憶に重要な脳領域である側頭葉内側面（海馬・海馬傍回）の働きを中心に、ヒト記憶やその周辺の心理過程（情動や社会的認知、加齢など）に関連する最新の脳機能イメージング（fMRI等）研究や脳損傷患者を対象とした神経心理学的研究を紹介・解説することによって、ヒト記憶を担う脳メカニズムを理解することをめざす。									
【授業計画と内容】									
受講生による研究目的に関連した研究論文の紹介・解説を中心に実施する。研究方法やその結果を単純に理解するだけでなく、自分の研究と照らし合わせて論文のストーリーに対して批判的な見方をできるような力を養う。 参加者には、毎回事前に演習で紹介する論文・総説をメールで連絡する。									
第1回：オリエンテーションおよび論文紹介ローテーションの決定									
第2回以降 第1回で決定したローテーションにしたがって、論文・総説の内容紹介とそれに関する討論を行う。また、学会発表前などには発表練習と発表内容に関する討論を随時挿入していく。									
【履修要件】									
「認知神経心理学」を受講していることが望ましいが、必須ではない。									
【成績評価の方法・基準】									
出席状況、発表の内容、ディスカッションへの参加状況によって評価する。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	細胞生理学 Cell Physiology	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 石原 昭彦						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	火2	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
細胞の基本的な構造と働きを理解する。細胞がどのように情報を受取り、どのように伝達するのかを理解する。神経細胞と筋細胞を代表的、機能的な特性が異なるユニットに分離して、それぞれのユニットの特徴を解説する。									
【授業計画と内容】									
1 課題あたり1～2週の授業を行う予定である。 1. 静止電位と活動電位 2. 細胞体とシナプス 3. 神経線維のサイズと伝導速度 4. 神経・筋単位の構造と機能 5. 神経・筋単位と発育・発達 6. 神経・筋単位と老化 7. 神経・筋単位の可塑性 8. まとめ									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
出席点、レポートなどにより総合的に判断する。									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
質問などは授業中に受け付ける。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	細胞生理学実験 Experiment for Cell Physiology	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 石原 昭彦
配当学年	3,4回生	単位数	2
開講期	前期	曜時限	火3,4
授業形態	実験		
【授業の概要・目的】			
細胞の適応能力についての生理学的な実験をヒト及び実験動物を用いて行う。環境の変化に伴う筋細胞と神経細胞の適応に焦点を絞って実験を行う。			
【授業計画と内容】			
実験動物を用いて神経、筋、骨、内臓などの各組織の摘出、凍結、薄切、染色を行う。その後、組織標本の観察を行う。 ヒトを用いて生体の適応能力(可塑性)に関係した実験を行う。環境の変化によって代謝および機能的な特性がどのように変化するかを検討する。血中の酸素飽和度、酸化ストレス度、抗酸化力、血圧、心拍数、呼吸数、皮膚温、血流量などの変化についても検討する。 研究室で作成した実験マニュアルを配布して、それに従って実験を進める。1課題あたり2～3週の実験を行う予定である。 1. 実験動物の解剖・組織摘出・凍結保存 2. 組織標本の作製・観察 3. 酸素飽和度測定等の理解と実習 4. 血流量測定等の理解と実習 5. 酸化ストレス度と抗酸化ストレス度の理解と実習			
【履修要件】			
特になし			
【成績評価の方法・基準】			
出席率、レポート、テストによって総合的に判断する。			
【教科書】			
授業中に指示する			
【参考書等】			
(参考書) 授業中に紹介する			
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))			
授業に関する質問等は、第1週目の授業時に受ける。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英語>	細胞生理学ゼミB Seminar B for Cell Physiology	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 石原 昭彦
配当学年	1-4回生	単位数	2
開講期	後期	曜時限	月1
授業形態	ゼミナール		
【授業の概要・目的】			
生体の構成要素である細胞の構造と機能に関する英文論文を講読する。特に神経・筋系を構成する細胞の可塑性についての研究成果を学習する。			
【授業計画と内容】			
教科書として、Feasibility in Skeletal Muscle Fibers and Their Spinal Motoneurons. Approach for Enzyme Histochemical and Immunohistochemical Research (Ishihara A. ed.), Kyoto University Academic Press, pp.1-93, 1998を使用する。英文論文を講読することにより細胞の可塑性について学習する。海外における細胞生理学のトピックスも紹介する。 1課題あたり2～3週の実験を行う予定である。 1. 神経・筋の構造と機能 2. 神経・筋と低圧・高圧環境 3. 神経・筋と微小重力・加重環境 4. 神経・筋と活動量の増減 5. 神経・筋と各種の疾病			
【履修要件】			
特になし			
【成績評価の方法・基準】			
出席率、レポート、テストによって総合的に判断する。			
【教科書】			
授業中に指示する			
【参考書等】			
(参考書) 授業中に紹介する			
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))			
授業に関する質問等は、第1週目の授業時に受ける。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英語>	細胞生理学ゼミA Seminar A for Cell Physiology	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 石原 昭彦
配当学年	1-4回生	単位数	2
開講期	前期	曜時限	月1
授業形態	ゼミナール		
【授業の概要・目的】			
生体の構成要素である細胞の構造と機能に関する英文論文を講読する。特に神経・筋系を構成する細胞の解剖と機能、システムについての研究成果を学習する。			
【授業計画と内容】			
教科書として、Plasticity in Neuromuscular System. A Textbook of Development, Aging, and Adaptation of Motor Unit (Ishihara A. ed.), Kyoto University Academic Press, pp.1-142, 1997を使用する。英文論文を講読することにより細胞の生理学的な特性を学習する。海外における細胞生理学のトピックスも紹介する。 1課題あたり2～3週の実験を行う予定である。 1. 神経・筋の発育・発達 2. 神経・筋の老化 3. 神経・筋と活動量の増減 4. 神経・筋と環境の変化 5. 神経・筋と低重量・微小重力			
【履修要件】			
特になし			
【成績評価の方法・基準】			
出席率、レポート、テストによって総合的に判断する。			
【教科書】			
授業中に指示する			
【参考書等】			
(参考書) 授業中に紹介する			
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))			
授業に関する質問等は、第1週目の授業時に受ける。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英語>	運動医学 Exercise and Medical Science	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 森谷 敏夫
配当学年	1-4回生	単位数	2
開講期	前期	曜時限	月3
授業形態	講義		
【授業の概要・目的】			
生活習慣病(がん、心臓病、糖尿病、高血圧、脳卒中など)に対する習慣的な運動の予防医学的役割を学び、実験を通じて自分の生理学的機能を把握して、最適な運動処方方を自ら構築する			
【授業計画と内容】			
1課題あたり1～2週の実験を講義と実習を絡めながら進める。 1)ガイダンス、 2)運動不足と生活習慣病 3)パフォーマンスの生理学 4)基礎運動生理学概論 5)肥満の生理学 6)老化 の生理学 7)運動処方概論			
【履修要件】			
実験実習項目: 体脂肪、体重、安静時血圧、及び心電図の連続測定(心臓自律神経活動動態の定量化)、最大酸素摂取量の測定			
【履修要件】			
「健康科学」を履修しておくことが望ましい			
【成績評価の方法・基準】			
出席点 40% 期末レポート 60%			
【教科書】			
適宜、資料を配布する。			
運動医学(2)へ続く			

運動医科学(2)
<b>[参考書等]</b> (参考書) 授業中に紹介する
(関連URL) <a href="http://morichan.jinkan.kyoto-u.ac.jp/">http://morichan.jinkan.kyoto-u.ac.jp/</a>
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) オフィスアワーは特に定めませんが、講義時間外に直接話をしたい学生は森谷(moritani.toshio.6e@kyoto-u.ac.jp)まで希望日時を第3希望までと、学生番号、氏名を明記してメールすること。  オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

運動医科学(2)
<b>[参考書等]</b> (参考書) 授業中に紹介する
(関連URL) <a href="http://morichan.jinkan.kyoto-u.ac.jp/">http://morichan.jinkan.kyoto-u.ac.jp/</a>
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) オフィスアワーは特に定めませんが、講義時間外に直接話をしたい学生は森谷(moritani.toshio.6e@kyoto-u.ac.jp)まで希望日時を第3希望までと、学生番号、氏名を明記してメールすること。  オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	運動医科学 Exercise and Medical Science	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 森谷 敏夫						
配当学年	1-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	月3	授業形態	講義
<b>[授業の概要・目的]</b> 生活習慣病(がん、心臓病、糖尿病、高血圧、脳卒中など)に対する習慣的な運動の予防医学的役割を学び、実験を通じて自分の生理学的機能を把握して、最適な運動処方方を自ら構築する									
<b>[授業計画と内容]</b> 1 課題あたり1~2週の授業を講義と実習を絡めて行う  1)ガイダンス、 2)運動不足と生活習慣病 3)パフォーマンスの生理学 4)基礎運動生理学概論 5)肥満の生理学 6)老化 の生理学 7)運動処方概論  実験実習項目: 体脂肪、体重、安静時血圧、及び心電図の連続測定(心臓自律神経活動動態の定量化)、最大酸素摂取量の測定									
<b>[履修要件]</b> 「健康科学」を履修しておくことが望ましい									
<b>[成績評価の方法・基準]</b> 出席点 40% 期末レポート 60%									
<b>[教科書]</b> 適宜、資料を配布する。									
----- 運動医科学(2)へ続く									

授業科目名 <英訳>	運動医科学実験 Experiment for Exercise and Medical Science	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 森谷 敏夫						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	火3,4	授業形態	実験
<b>[授業の概要・目的]</b> 運動医科学分野の研究手法や実験手技を学習する									
<b>[授業計画と内容]</b> 1 課題あたり1~2週の授業を講義と実習を絡めて行う  1)脈波測定(動脈硬化の評価法) 2)臨床心電図 3)心筋脱分極・再分極時間測定 4)心拍変動パワースペクトル解析(心臓自律神経活動動態の定量化) 5)最大酸素摂取量、無酸素性作業閾値(AT)の測定 6)筋音図解析 7)近赤外分光法による筋酸素動態の測定 8)床反力解析法 9)脳波周波数スペクトル解析									
<b>[履修要件]</b> 神経・機能論ゼミ及び呼吸循環機能論ゼミを履修しておくことが望ましい									
<b>[成績評価の方法・基準]</b> 出席点 50% 期末レポート 50%									
<b>[教科書]</b> 適宜、資料を配布する。									
<b>[参考書等]</b> (参考書) 授業中に紹介する									
(関連URL) <a href="http://morichan.jinkan.kyoto-u.ac.jp/">http://morichan.jinkan.kyoto-u.ac.jp/</a>									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) オフィスアワーは特に定めませんが、講義時間外に直接話をしたい学生は森谷(moritani.toshio.6e@kyoto-u.ac.jp)まで希望日時を第3希望までと、学生番号、氏名を明記してメールすること。  オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	呼吸循環機能論ゼミ Seminar on Cardio-respirator Function	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 森谷 敏夫						
配当学年	1-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	月5	授業形態	ゼミナール
【授業の概要・目的】									
呼吸循環機能に関する生体信号のコンピューター解析法を習得して、基礎知識を学ぶ。ヒトの生命維持に必要な心臓・循環機能を教養レベルで学ぶ。									
【授業計画と内容】									
1 課題あたり1～2週の授業を講義と実習を絡めて行う									
1) ガイダンス 2) 基礎呼吸循環概論 3) 動脈硬化講義 4) ドップラー血流動動指数測定 5) 脈波測定 6) 臨床心電図 7) 心筋脱分極・再分極時間測定 8) 心拍変動パワースペクトル解析(心臓自律神経活動動態の定量化) 9) 心筋酸素需要供給動態解析 10) 論文輪読									
【履修要件】									
「健康科学」を履修し、基礎的な呼吸・循環システムの知識を要する。									
【成績評価の方法・基準】									
出席点 40% 担当論文の発表および期末レポート 60%									
【教科書】									
適宜、資料を配布する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(関連URL)									
<a href="http://morichan.jinkan.kyoto-u.ac.jp/">http://morichan.jinkan.kyoto-u.ac.jp/</a> (輪読する論文はPDF形式でURLから入手できる)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワーは特に定めませんが、講義時間外に直接話したい学生は森谷(moritani.toshio.6e@kyoto-u.ac.jp)まで希望日時を第3希望までと、学生番号、氏名を明記してメールすること。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	代謝機能論演習 Proseminar on metabolism and Nutrition	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 津田 謹輔						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	金2	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
ヒトは、食べ、代謝を行い生きている。栄養・代謝学は大切な学問である。生体の代謝調節機構とその破綻である糖尿病などの疾患をとおして生きる意味を考える。									
【授業計画と内容】									
1 序論 2 栄養学の基本～三大栄養素 3 栄養学の基本～微量栄養素、食物繊維 4 栄養素の消化吸収 5 栄養素の代謝 6 代謝調節の中心：インスリン 7 メタボリックシンドローム 8 糖尿病・肥満 9 腹八分目の科学 10 長寿と栄養									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
授業中の討論やレポートにより評価する									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	神経・筋機能論ゼミ Seminar on Neuro-muscular Function	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 森谷 敏夫						
配当学年	1-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	月5	授業形態	ゼミナール
【授業の概要・目的】									
ヒトの神経・筋機能に関する生体信号のコンピューター解析法を習得し生理学的基礎知識を学ぶ。ヒトの行動に不可欠な神経・筋機能を教養レベルで理解する。									
【授業計画と内容】									
1 課題あたり1～2週の授業を講義と実習を絡めて行う									
1) ガイダンス 2) 基礎筋生理学 3) 筋電図スペクトル解析(筋疲労の定量化) 4) クリテリカル・パワー及び筋電図作業閾値(EMG <sub>it</sub> ) 5) 誘発筋電図(H-反射) 6) 筋電図解析 7) 近赤外分光法による筋酸素動態の把握 8) 床反力解析法 9) 論文輪読									
【履修要件】									
「健康科学」を履修し、基礎的な神経・筋システムの知識を要する。									
【成績評価の方法・基準】									
出席点 40% 担当論文の発表および学期末レポート 60%									
【教科書】									
適宜、資料を配布する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(関連URL)									
<a href="http://morichan.jinkan.kyoto-u.ac.jp/">http://morichan.jinkan.kyoto-u.ac.jp/</a> (輪読する論文はPDF形式でURLから入手できる)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワーは特に定めませんが、講義時間外に直接話したい学生は森谷(moritani.toshio.6e@kyoto-u.ac.jp)まで希望日時を第3希望までと、学生番号、氏名を明記してメールすること。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	代謝機能論実験 Experiment for Metabolism and Nutrition	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 津田 謹輔						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	火3,4	授業形態	実験
【授業の概要・目的】									
卒業研究に向けて、実験について考え方や基礎技術を学ぶ									
【授業計画と内容】									
受講生の関心と、研究室で実行可能な実験について議論し個々の学生についてテーマを設定する。									
【履修要件】									
テーマについては個々に相談する。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点で評価する。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	代謝機能論ゼミA Seminar for Mteabolism and Nutrition A	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 津田 謹輔						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	月5	授業形態	ゼミナール
【授業の概要・目的】									
糖尿病、肥満など代謝・栄養学についての教科書や論文を読み、知識をまとめるとともに、研究に対する考え方を深める。									
【授業計画と内容】									
研究室の大学院生と合同で行う。論文を入手する方法から始まり、重要な論文を読む訓練をする。また大学院生の実験データについての議論に加わり、実験のおもしろさや難しさを知る。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
ゼミでの討論に参加したり、発表したりする平常点で評価する。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	生活習慣と生体機能障害 Lifestyle and Human Body Dysfunction	担当者氏名	人間・環境学研究所 准教授 林 達也						
配当学年	1-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	水1	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
全学共通科目の「健康科学」を、最新の知見の紹介や文献の抄読を織り交ぜ、医学的考察やディスカッションを加えながらより深く学習することを目的とする。									
【授業計画と内容】									
糖尿病、高脂血症、肥満症、骨粗鬆症など、日常のライフスタイルがその発病や進行に大きく影響する「生活習慣病」に関して、なぜ生活習慣がこれらの疾患の誘引となるのか、どのような病態を示すのか、どのように予防対策をたてるべきか、罹患した場合はどのように治療を行うのかなどについての理解を深める。									
講義トピックス(予定)									
わかっていても熱中症になる理由 体重測定記録を利用した減量法(計るだけダイエット) 健康づくりのための運動指針 エクササイズガイド2006 沖縄県の平均寿命の変化(沖縄クライシス) メタボリックシンドロームと動脈硬化症の危険因子 健康食ガイドライン Food Pyramid 健康増進機器としての自転車 筋力トレーニングの健康科学的的重要性 日本の若年女性の「痩せすぎ」傾向とその弊害 食事制限の寿命延長効果 喫煙による健康障害と禁煙補助薬 Actual Causes of Death(実質的な死因とは何か) 椅子に座ったまま行う「チェアエクササイズ」 健康づくりに適した走り方(スロージョギング) ロコモティブシンドロームと骨・関節・筋肉の重要性 など。									
【履修要件】									
生活習慣病の予防や治療に興味のある学生であること									
【成績評価の方法・基準】									
出席点(30%)とレポート(70%)の総合判定									
【教科書】									
授業中に資料を配付									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に資料を配付									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
「健康科学」を履修していなくても理解できるように配慮しています  オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	代謝機能論ゼミB Seminar for Mteabolism and Nutrition B	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 津田 謹輔						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	月5	授業形態	ゼミナール
【授業の概要・目的】									
糖尿病、肥満など代謝・栄養学についての教科書や論文を読み、知識をまとめるとともに、研究に対する考え方を深める。									
【授業計画と内容】									
研究室の大学院生と合同で行う。論文を入手する方法から始まり、重要な論文を読む訓練をする。また大学院生の実験データについての議論に加わり、実験のおもしろさや難しさを知る。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
ゼミでの討論に参加したり、発表したりする平常点で評価する。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	生活習慣と生体機能障害 Lifestyle and Human Body Dysfunction	担当者氏名	人間・環境学研究所 准教授 林 達也						
配当学年	1-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	水1	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
全学共通科目の「健康科学」を、最新の知見の紹介や文献の抄読を織り交ぜ、医学的考察やディスカッションを加えながらより深く学習することを目的とする。									
【授業計画と内容】									
糖尿病、高脂血症、肥満症、骨粗鬆症など、日常のライフスタイルがその発病や進行に大きく影響する「生活習慣病」に関して、なぜ生活習慣がこれらの疾患の誘引となるのか、どのような病態を示すのか、どのように予防対策をたてるべきか、罹患した場合はどのように治療を行うのかなどについての理解を深める。									
講義トピックス(予定)									
わかっていても熱中症になる理由 体重測定記録を利用した減量法(計るだけダイエット) 健康づくりのための運動指針 エクササイズガイド2006 沖縄県の平均寿命の変化(沖縄クライシス) メタボリックシンドロームと動脈硬化症の危険因子 健康食ガイドライン Food Pyramid 健康増進機器としての自転車 筋力トレーニングの健康科学的的重要性 日本の若年女性の「痩せすぎ」傾向とその弊害 食事制限の寿命延長効果 喫煙による健康障害と禁煙補助薬 Actual Causes of Death(実質的な死因とは何か) 椅子に座ったまま行う「チェアエクササイズ」 健康づくりに適した走り方(スロージョギング) ロコモティブシンドロームと骨・関節・筋肉の重要性 など。									
【履修要件】									
生活習慣病の予防や治療に興味のある学生であること									
【成績評価の方法・基準】									
出席点(30%)とレポート(70%)の総合判定									
【教科書】									
授業中に資料を配付									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に資料を配付									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
「健康科学」を履修していなくても理解できるように配慮しています  オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	運動療法実験 Experiment on Preventive Exercise Medicine	担当者氏名	人間・環境学研究所 准教授 林 達也
配当学年	3,4回生	単位数	2
開講期	前期集中	曜時限	集中講義
授業形態	実験		
【授業の概要・目的】 有患者や一般住民を対象とした運動療法の現場を実地学習し、その健康医学的意義を理解する。			
【授業計画と内容】 病院や保健所、高齢者施設などで行われている運動療法プログラムについて、現場を訪れて実際に体験する。また、インピーダンス体組成計や自動血圧計など、健康科学関連器機の測定原理について実習する。  平成22年度実習実績：京都大学医学部附属病院循環器内科心臓リハビリテーション・東山武田病院運動療法（運動負荷試験、心臓リハビリテーション、生活習慣指導）・京都大学医学部附属病院内分泌・代謝内科「生活習慣病改善のための運動療法教室」・八幡市ボール・エクササイズ教室（健康増進を目的としたバランスボール教室）・特別講義「体組成計・身体活動量計の測定原理と器機の実際」			
【履修要件】 生活習慣病の運動療法を体験することに興味のある学生であること			
【成績評価の方法・基準】 実習現場でのディスカッション内容から評価する			
【教科書】 授業中に資料を配付			
【参考書等】 （参考書） 授業中に資料を配付			
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） 注意！シラバス作成の時点では平成22年度の実習スケジュールが確定していません。履修届けを出すにあたって、実習の開催曜日や時限を知りたい場合は、メール等にて担当教員（林）に直接問い合わせてください。  オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

応用運動医学ゼミ(2)
【成績評価の方法・基準】 出席点（30%）とレポート（70%）の総合判定
【教科書】 授業中に資料を配付
【参考書等】 （参考書） 授業中に資料を配付
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） この授業を履修した後に「運動療法実験」を履修すると、実習先での運動指導の意図や意義がよく理解できます  オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英語>	応用運動医学ゼミ Seminar on Applied Exercise Medicine	担当者氏名	人間・環境学研究所 准教授 林 達也
配当学年	1-4回生	単位数	2
開講期	後期	曜時限	水2
授業形態	ゼミナール		
【授業の概要・目的】 中高齢者を対象とした生活習慣病の予防・改善のための運動処方や運動指導が実際にどのように行われるかについて、運動による健康障害発生の可能性を学習しながら理解を深める。			
【授業計画と内容】 健康増進のための運動種目は、大きく分類して「有酸素運動（持久運動）」「筋力トレーニング（レジスタンス・トレーニング）」「柔軟運動（ストレッチング）」「転倒予防トレーニング（バランス、敏捷性、固有知覚トレーニング）」に分けられる。これらの運動がどのように使い分けられるのか、どのような点に留意が必要か、どのような効果が期待できるのかなどについて、運動生理学・運動生化学の基礎的知見を学習しながら概説する。また過度な運動、不適切な運動によって生じる健康障害についても焦点をあてる。具体的には、以下のような事態がなぜ生じたか、どうすれば防げるかについての理解を深める。  三重県伊勢市で「7人のメタボ待 内臓脂肪を斬（き）る！」と題して市幹部らが減量に挑戦する企画に市長とともに参加していた同市健康福祉部の男性課長（47）が、運動中に倒れ死亡していたことが17日分かった。伊勢署などによると、課長は休暇中の14日午前9時10分ごろ、Tシャツと短パン姿で自宅近くの路上に倒れているのを通行人に見えられたが、既に死亡していた。死因は虚血性心不全で、ジョギングがウォーキング中だったとみられる。この企画は生活習慣病予防をPRするため市長が発案。メタボリック症候群の疑いのある幹部7人が、保健師から食生活や運動のアドバイスを受け、減量に挑んでいた。課長は腹囲が100センチあり、「10センチ減」を目標としていたが、保健師に急激な減量をいざめられていたという。(2007/08/17 Sankei Web)  講義トピックス ・中高齢者・有患者が運動することの功と罪  ・メタボリック ・運動時の心臓突然死とそのメカニズム ・きつい運動の弊害 ・運動前のメディカルチェック 適切な運動処方と運動中の注意点 ・夏期の運動と熱中症、突然死を防ぐAED（自動体外式除細動器）、マラソン大会の医療体制 など			
【履修要件】 運動やスポーツの医学面からみた功罪について興味のある学生であること			

応用運動医学ゼミ(2)へ続く

授業科目名 <英語>	分子運動医学ゼミ Seminar on Molecular Exercise Medicine	担当者氏名	人間・環境学研究所 准教授 林 達也
配当学年	1-4回生	単位数	2
開講期	前期	曜時限	水2
授業形態	ゼミナール		
【授業の概要・目的】 日常の習慣的運動がもたらす健康増進効果がどのようなメカニズムに由来しているのか、最近の内外の研究結果の紹介を含めて分子医学的観点から概説する。			
【授業計画と内容】 生活習慣病、特に世界的に患者数が急増している2型糖尿病に焦点をあて、運動はどのような機序でこれらの病態を予防・改善するのか、効果的に予防・改善する運動の方法とはどのようなものか、食品や薬剤によって運動の効果が影響を受けるのかなどのトピックスを、生体を構成するミクロ（分子）の視点から学習する。  講義トピックス 糖尿病ではなぜ血糖値が高くなるのか  1型糖尿病と2 型糖尿病  運動はなぜ血糖値を下げるのか（運動とインスリンとの違い）  運動による骨格筋代謝の変化：糖輸送担体GLUT4とその トランスロケーション 運動時に活性化されるシグナル伝達分子AMPキナーゼ インスリン抵抗性が運動によって改善するメカニズム 運動の急性効果（1回の運動の効果）と慢性効果（積み重ね効果）  運動類似の作用を誘導する機能性植物 骨格筋電気刺激による代謝活性化 など			
【履修要件】 運動の代謝活性化の「分子機構」に興味のある学生であること			
【成績評価の方法・基準】 出席点（30%）とレポート（70%）の総合判定			
【教科書】 授業中に資料を配付			
【参考書等】 （参考書） 授業中に資料を配付			
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） 初学レベルから説明しているため、とくに生化学や分子生物学の予備知識は必要ありません。興味のある学生には林研究室で行っている運動生化学関連の実験を公開しています。  オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英訳>	運動制御ゼミA motor control A	担当者氏名	人間・環境学研究所 准教授 神崎 素樹
配当学年	3,4回生	単位数	2
開講期	前期	曜時限	月2
授業形態	ゼミナール		
【授業の概要・目的】			
運動制御、運動生理学、神経生理学に関する論文を抄読し、実験の目的の立て方、適切な実験方法、結果の書き方、考察の仕方を学ぶ。			
【授業計画と内容】			
比較的読みやすいレビューをパラグラフ毎に訳し、科学論文独特の用語について慣れる。学生の興味ある研究にちかい論文を抄読する。それに対して、議論する。			
【履修要件】			
神崎研究室で卒論の実験研究をするもの。			
【成績評価の方法・基準】			
日常点で評価する。			
【教科書】			
使用しない			
【参考書等】			
(参考書) 授業中に紹介する			
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英訳>	運動の生理学 Physiology of Behavior	担当者氏名	人間・環境学研究所 准教授 神崎 素樹
配当学年	1-4回生	単位数	2
開講期	前期	曜時限	火1
授業形態	講義		
【授業の概要・目的】			
本講義では、身体の生理学的基盤としての運動についてホメオスタシスの観点から学習する。我々の運動(あるいは動作)は莫大な骨格の回転運動の組み合わせである。我々の運動(あるいは動作)は冗長で複雑であり、これを理解するためには運動制御とそれに関連する生理学的メカニズムを理解する必要がある。本講義の目的は、我々の運動(あるいは動作)がどのような制御則に基づいているのか?それではどのような生理学的機構なのか?そしてその複雑な制御則がどのような意味があるのか?について学習する			
【授業計画と内容】			
(授業計画と内容)			
(1)筋収縮:ミクロな視点から筋がどのようにして収縮-弛緩しているか、そのためにはどのような制御機構が働いているか、について学習する。また、マクロな視点から骨格筋の動きについて学習する。			
(2)反射調節:筋の固有反射入力、錐体路および錐体外路よりの運動指令が運動ニューロンの興奮性を変化させることにより調節される。ここでは、筋の固有反射入力による筋活動のフィードバック制御について学習する。			
(3)神経・筋の情報伝達:骨格筋を支配する運動神経細胞は、体内のさまざまな部位からの入力情報をもとにその出力を決定する。ここでは、これらの入力がどのように変換され出力に反映されるか、複数の入力もどのように総合され、その情報がどのように筋活動に結びつくかについて学習する。			
(4)自律神経系の働き:身体運動中に心拍数を測定してみると、運動強度にほぼ比例して心拍数は上昇する。運動時に限らず、このようなストレス時にみられる呼吸循環系のダイナミックな反応は自律神経を介してもたらされる。心拍数の一拍毎の変動から自律神経活動に関する情報が得られる。ここでは、心拍数の変動から自律神経系の働きについて学習する。			
(5)身体運動の効率 我々の日常生活における動作は、非常に効率の良い運動である。これは、腱組織における弾性エネルギーの再利用が直接関連する。また、カンガルーを見ても分かるように、爆発的なパワーを長時間発揮するためにもこれが関与する。ここでは、さまざまな身体活動中の筋腱複合体の動態から腱組織の役割について学習する。関節には複数の筋がまたがってこれらの筋が協力して関節運動を生む。これらの筋を協働筋と呼ぶが、ここでは協働筋の役割について学習する。			
(6)立位と歩行 我々は何気なく立ち、歩く。しかし、この立位と歩行動作という一見単純な動作でさえその制御は極めて複雑である。ここでは立位と歩行の制御則について学習する。			
(7)運動の変動 (1)~(6)までの生理学的応答出力は変動する。たとえば、安静にしている時心臓の拍動は変動するし、静止立位時においても身体はグラグラと揺れる。これまではこれら変動は意味のない雑音として無視されてきた。しかし、この変動が時間的に意味のある変数であることが解ってきた。ここでは、この変動の生理学的意味について学習する。			
----- 運動の生理学(2)へ続く			

授業科目名 <英訳>	運動制御ゼミB motor control B	担当者氏名	人間・環境学研究所 准教授 神崎 素樹
配当学年	3,4回生	単位数	2
開講期	後期	曜時限	水2
授業形態	ゼミナール		
【授業の概要・目的】			
運動制御、運動生理学、神経生理学に関する論文を抄読し、実験の目的の立て方、適切な実験方法、結果の書き方、考察の仕方を学ぶ。			
【授業計画と内容】			
比較的読みやすいレビューをパラグラフ毎に訳し、科学論文独特の用語について慣れる。学生の興味ある研究にちかい論文を抄読する。それに対して、議論する。			
【履修要件】			
神崎研究室で卒論の実験研究をするもの。			
【成績評価の方法・基準】			
日常点で評価する。			
【教科書】			
使用しない			
【参考書等】			
(参考書) 授業中に紹介する			
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

運動の生理学(2)			
-----			
(8)乳幼児の運動 我々が何気なく行っている歩行を例えると、この動作の獲得には、生まれてから約1年が必要である。乳幼児の動作獲得過程を理解することで、我々の運動制御に関する理解が深まる。ここでは、乳幼児の反射と随意運動、とくに原始歩行について理解し、運動の獲得について学習する。			
【履修要件】			
特になし			
【成績評価の方法・基準】			
出席とテスト(最終週に実施する)により評価する。			
【教科書】			
使用しない			
【参考書等】			
(参考書)			
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英語>	運動の生理学 Physiology of Behavior	担当者氏名	人間・環境学研究所 准教授 神崎 素樹
配当学年	1-4回生	単位数	2
開講期	後期	曜時間	火1
授業形態	講義		
【授業の概要・目的】			
本講義では、身体の生理学的基盤としての運動についてホメオスタシスの観点から学習する。我々の運動（あるいは動作）は莫大な骨格の回転運動の組み合わせである。我々の運動（あるいは動作）は冗長で複雑であり、これを理解するためには運動制御とそれに関連する生理学のメカニズムを理解する必要がある。本講義の目的は、我々の運動（あるいは動作）がどのような制御則に基づいているのか？それはどのような生理学的機序なのか？そしてその複雑な制御則がどのような意味があるのか？について学習する			
【授業計画と内容】			
（１）筋収縮：ミクロな視点から筋がどのようにして収縮 - 弛緩しているか、そのためにはどのような制御機構が働いているか、について学習する。また、マクロな視点から骨格筋の働きについて学習する。			
（２）反射調節：筋の固有反射入力、錐体路および錐体外路よりの運動指令が運動ニューロンの興奮性を変化させることにより調節される。ここでは、筋の固有反射入力による筋活動のフィードバック制御について学習する。			
（３）神経・筋の情報伝達：骨格筋を支配する運動神経細胞は、体内のさまざまな部位からの入力情報をもとにその出力を決定する。ここでは、これらの入力がどのように変換され出力に反映されるか、複数の入力がかどのように総合され、その情報がどのように筋活動に結びつくかについて学習する。			
（４）自律神経系の働き：身体運動中に心拍数を測定してみると、運動強度にほぼ比例して心拍数は上昇する。運動時に限らず、このようなストレス時にみられる呼吸循環系のダイナミックな反応は自律神経を介してもたらされる。心拍数の一拍毎の変動から自律神経活動に関する情報が得られる。ここでは、心拍数の変動から自律神経系の働きについて学習する。			
（５）身体運動の効率 我々の日常生活における動作は、非常に効率の良い運動である。これは、腱組織における弾性エネルギーの再利用が直接関連する。また、カンガルーを見ても分かるように、爆発的なパワーを長時間発揮するためにもこれが関与する。ここでは、さまざまな身体活動中の筋腱複合体の動態から腱組織の役割について学習する。関節には複数の筋がまたがってこれらの筋が協力して関節運動を生む。これらの筋を協働筋と呼ぶが、ここでは協働筋の役割について学習する。			
（６）立位と歩行 我々は何気なく立ち、歩く。しかし、この立位と歩行動作という一見単純な動作でさえその制御は極めて複雑である。ここでは立位と歩行の制御則について学習する。			
（７）運動の変動 （１）～（６）までの生理学的応答出力は変動する。たとえば、安静にしているも心臓の拍動は変動するし、静止立位時においても身体はグラグラと揺れる。これまではこれら変動は意味のない雑音として無視されてきた。しかし、この変動が時間的に意味のある変数であることが解ってきた。ここでは、この変動の生理学的意味について学習する。			
----- 運動の生理学(2)へ続く			

運動の生理学(2)			
-----			
（８）乳幼児の運動 我々が何気なく行っている歩行を例えと、この動作の獲得には、生まれてから約1年が必要である。乳幼児の動作獲得過程を理解することで、我々の運動制御に関する理解が深まる。ここでは、乳幼児の反射と随意運動、とくに原始歩行について理解し、運動の獲得について学習する			
【履修要件】 特になし			
【成績評価の方法・基準】 出席とテスト（最終週に実施する）により評価する。			
【教科書】 使用しない			
【参考書等】 （参考書）			
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英語>	数理現象論A Applied Analysis A	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 森本 芳則
配当学年	2-4回生	単位数	2
開講期	前期	曜時間	月2
授業形態	講義		
【授業の概要・目的】			
自然現象を記述する偏微分方程式の数学的な取り扱いについて学ぶ。偏微分方程式の解の存在と一意性、弱解、解の平滑効果、解の安定性などの概念を偏微分方程式の具体例に用いて解説する。講義の後半では気体運動論の基礎方程式であるボルツマン方程式に対する最近の結果について紹介する。			
【授業計画と内容】			
1. 解を持たない方程式 2. フーリエ解析 3. 熱方程式 4. 波動方程式 5. ソボレフ空間 6. 超局所解析理論 7. ボルツマン方程式 8. ボビーレフ公式 9. 衝突項の評価 10. 解の一意性と平滑効果、以上のテーマについて、1課題あたり1-2週の授業を行う。			
【履修要件】			
微分積分学A・B、線形代数学A・Bを履修済であること。			
【成績評価の方法・基準】			
レポート、課題演習により評価する。			
【教科書】			
授業中に指示する 内容は高度であるが、必要な基礎知識は大学理系1回生終了程度で良い。			
【参考書等】			
（参考書） 授業中に紹介する			
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英語>	数理現象論B Applied Analysis B	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 高崎 金久
配当学年	2-4回生	単位数	2
開講期	後期	曜時間	火5
授業形態	講義		
【授業の概要・目的】			
漸近解析の入門的な内容を解説する。漸近解析は数列や関数の漸近的振る舞いを扱う分野であり、典型的な問題はラプラス積分などの積分表示をもつ関数や微分方程式の解に対して漸近展開を求めることである。階乗の漸近的表示を与えるスターリングの公式も同様の方法で導出される。この講義では漸近解析の基本的概念やさまざまな手法（ラプラスの方法、ポレル総和法など）を紹介し、ストークス現象など漸近解析特有の問題を理解するとともに、物理現象の数理モデルなどへの応用をめざす。			
【授業計画と内容】			
以下のような項目について、各項目あたり1～2週の講義を行う予定である。 1. 漸近展開の概念 2. 漸近展開としてのテイラー級数 3. ラプラスの方法 4. スターリングの公式 5. 誤差関数の漸近展開 6. スティルチェス積分の漸近展開 7. ストークス現象 8. ポレル総和法 9. ワトソン-ネヴァンリンナ-ソーカルの定理 10. 最速降下法 11. エアリー関数の漸近展開			
【履修要件】			
正則関数、コーシーの積分定理、留数計算など複素関数論の基礎知識は不可欠である。微分方程式についても基礎知識を有していることが望ましい。			
【成績評価の方法・基準】			
出席点、レポート、小テストなどにより総合的に判断する。			
【教科書】			
使用しない			
【参考書等】			
（参考書） 授業中に紹介する			
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） オフィスアワーは特に設けない。授業時間外で面会したい受講者は takasaki@math.h.kyoto-u.ac.jp まで希望時間などを知らせてください。  オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英訳>	数理学ゼミナール Seminar in Mathematics and Informatics	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 高崎 金久						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	火5	授業形態	ゼミナール
[授業の概要・目的]									
<p>数学から情報学に至る数理学の様々な分野から適当な題材を選び、輪講（ゼミナー）形式で学ぶ。テキスト、専門書を自学、自習する能力が身につくことを目的としている。したがって、読解力、思考力をはくむことに重点をおくので、履修により知識量を増やすことは2次の目的である。</p>									
[授業計画と内容]									
<p>受講者の中から毎回2名程度の発表者を決めて、セミナー形式で1名あたり1時間程度の発表を行う。受講者全員に課題を提示して演習を行うこともある。</p> <p>発表者は割り当てられた題材について事前にテキスト・資料を読み、内容を理解した上で整理しておく。セミナーでは担当教員や他の受講者から随時質問などが寄せられるので、発表者はそれに適切に答えられるように、発表内容について十分な準備をしておかなければならない。また、発表時には、予定している発表内容について最初に全体の流れを示し、そのあとで各論に入るなど、発表を体系的で理解しやすいものにするように工夫しなければならない。</p> <p>当然、通常の講義や演習と違って、受講者自身が予習や発表を通じて題材に積極的に取り組むことが要求される。</p> <p>題材の選択に当たっては担当教員がいくつかの選択肢を示し、受講者の希望を最大限に尊重した上で調整を行う。基本的に1年次に学んだ微積分学、線形代数学、情報科学などの知識のみを前提とするため、内容的にはあまり高度な題材は扱わない。</p>									
[履修要件]									
<p>題材やテキスト等を決めるため、第1回から必ず出席すること。</p>									
[成績評価の方法・基準]									
<p>出席状況およびセミナーでの発表能力に基づくが、演習課題への積極的な姿勢も考慮する。</p>									
[教科書]									
<p>授業中に指示する</p>									
[参考書等]									
<p>(参考書) 授業中に紹介する</p>									
<p>(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))</p> <p>オフィスアワーは特に定めがないが、講義時間外に直接話したい学生は takasaki@math.h.kyoto-u.ac.jp まで希望日時を連絡すること。</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	実解析 A Real Analysis A	担当者氏名	人間・環境学研究所 准教授 上木 直昌						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	火3	授業形態	講義
[授業の概要・目的]									
<p>測度論によって一般の集合上で積分論を構築し、和、積分の計算などを統一的に行う。また Lebesgue 積分論を構築し極限操作を簡明にする。</p>									
[授業計画と内容]									
<p>I. 測度空間の構成 (可算加法族、可測集合、Hopf の拡張定理)  II. 可測関数と積分の定義 (Riemann 積分と Lebesgue 積分の関係)  III. 収束定理 (単調収束定理、Fatou の補題、Lebesgue の収束定理)  IV. 直積測度 (Fubini の定理)  V. <math>L^p</math> 空間 (完備性、Hölder の不等式、Minkowski の不等式)  VI. Radon-Nikodym の定理 (符号付き測度、Hahn 分解、Lebesgue 分解、Stieltjes 測度、有界変動関数)</p>									
[履修要件]									
<p>「数学基礎AB」、「微積分学AB」、「線形代数学AB」などで扱う微積分学、線形代数学の知識を仮定する。</p>									
[成績評価の方法・基準]									
<p>出席率と試験による</p>									
[教科書]									
<p>使用しない</p>									
[参考書等]									
<p>(参考書) 伊藤清三『ルベーグ積分入門』(裳華房) ISBN:978-4785313043</p>									
<p>(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))</p> <p>微分方程式論、確率論及びその関連分野を扱う際に必須の理論を扱う。「集合と位相」、「確率論基礎」、「数理現象論AB」、「実解析B」も履修することを推奨する。</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	数理学特論III Topics in Mathematical Science III	担当者氏名	未定						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期集中	曜時間	集中講義	授業形態	講義
[授業の概要・目的]									
<p>追って掲示する。</p>									
[授業計画と内容]									
<p>追って掲示する。</p>									
[履修要件]									
<p>追って掲示する。</p>									
[成績評価の方法・基準]									
<p>追って掲示する。</p>									
[教科書]									
<p>追って掲示する。</p>									
[参考書等]									
<p>(参考書) 追って掲示する。</p>									
<p>(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	実解析 B Real Analysis B	担当者氏名	人間・環境学研究所 准教授 上木 直昌						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	火3	授業形態	講義
[授業の概要・目的]									
<p>実対称行列を無限次元空間で一般化したものに自己共役作用素がある。この授業では実解析Aで扱った理論を応用して実対称行列の対角化を自己共役作用素に拡張し、その量子力学への応用を述べる。これは作用素論、スペクトル理論の基本的題材である。</p>									
[授業計画と内容]									
<p>I. Feynman 経路積分量子化 (Schrödinger 方程式、停留位相原理、準古典極限)  II. 自己共役作用素 (対称作用素、自己共役拡大、摂動論)  III. 作用素半群 (ユニタリ作用素、Cayley 変換)  IV. スペクトル分解 (作用素値測度)  V. Feynman-Kac の公式 (Brown 運動の構成、Trotter 積公式、熱方程式)  VI. スペクトルの分類 (連続スペクトルと点スペクトル、非束縛状態と束縛状態)</p>									
[履修要件]									
<p>「数学基礎AB」、「微積分学AB」、「線形代数学AB」などで扱う微積分学、線形代数学の知識と「実解析A」で扱う測度論の知識を仮定する。</p>									
[成績評価の方法・基準]									
<p>出席率と試験による</p>									
[教科書]									
<p>使用しない</p>									
[参考書等]									
<p>(参考書) B.Simon『Functional integration and quantum physics』(Academic Press) ISBN:978-0126442502</p>									
<p>(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))</p> <p>作用素は解析学を始めとして数理物理学、確率論など様々な分野で扱われる。この授業ではその基本的扱い方を述べる。「集合と位相」、「確率論基礎」、「数理現象論AB」、「関数論」も履修することを推奨する。</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英語>	計算機科学の基礎 B Foundation of Computer Science B	担当者氏名	人間・環境学研究所 准教授 櫻川 貴司						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	金2	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
-<2年に1回の開講-> 計算モデルなどの計算機科学の理論的な基礎について学ぶ。									
【授業計画と内容】									
計算モデルの基礎理論について講義を行う予定である。以下のような課題について、1課題あたり1～2週 of 授業を行う。									
1. 抽象的書き換え系 2. 合流性、CR性等の性質 3. 項とユニフィケーション 4. 項書き換え系 5. 項書き換え系の具体例 6. KBアルゴリズム 7. 停止性 8. 他の計算モデル 9. まとめ									
【履修要件】									
情報数学基礎論A,Bなどの情報数学の基礎科目、情報学概論などの計算機関係の基礎科目と情報学概論演習、などの演習科目を履修済みか、同時に履修していることが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
1回～3回のレポートによる。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(関連URL)									
<a href="http://www.stdio.h.kyoto-u.ac.jp/~sakura/ks-csio/">http://www.stdio.h.kyoto-u.ac.jp/~sakura/ks-csio/</a>									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	情報処理の方法と演習 B Exercises in Information Processing B	担当者氏名	人間・環境学研究所 准教授 櫻川 貴司						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	金1	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
-<2年に一回の開講-> 計算機及びネットワークのハードウェア構成と基本ソフトウェアの運用方法を実際に運用を行うことにより学ぶ。また、計算機の理論的演習も必要に応じて行う。									
【授業計画と内容】									
計算機のハードウェアとソフトウェアの成り立ちを、実際に計算機を分解組み立てし、ネットワークを構成して接続し、基本ソフトウェアをインストールして運用することによって学ぶ。具体的には以下の項目に付いて理解する。									
1. コンピュータのハードウェアのあらまし 2. 作業の方法と安全のための注意 3. 分解・組み立ての実際 4. OSのインストールとネットワークの設定 5. サーバソフトウェアの種類と例 6. サーバソフトウェアのインストールと設定・運用の基本 7. セキュリティの保持									
【履修要件】									
情報学概論ABなどの計算機関係の基礎科目を履修していることが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
計算機の運用方法についての実技と発表による。また、レポートの成績を加味する場合がある。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(関連URL)									
<a href="http://www.stdio.h.kyoto-u.ac.jp/~sakura/houhoutu-enshuu/">http://www.stdio.h.kyoto-u.ac.jp/~sakura/houhoutu-enshuu/</a>									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	計算と位相 Topology and Computation	担当者氏名	人間・環境学研究所 准教授 立木 秀樹						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	木2	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
数学の基礎である、位相の概念について学ぶ。 計算の概念は、位相と深い関係がある。そのつながりについても学ぶ。									
【授業計画と内容】									
位相は、点の集まりの上に与えられる「近さ」の概念である。位相によって、空間のつながり方が決まり、つながり方によって物のおおまかな形が定まる。このつながり方を保つというのが連続の概念であり。このように、位相的な考え方は、数学のほとんどすべての分野で使われている。位相は数学全般を支える基礎の一つであり、大学での数学の勉強を始めるのに避けては通れない。									
また、計算の概念は、位相と密接に関係している。位相の言葉を用いることにより計算や情報の概念は明確になるし、また、実数などの位相空間上で極限としての計算を考えることが可能になる。また逆に、計算とのつながり方を通して見ることで、位相に関する理解も深まるであろう。									
この講義では、位相の初歩、および、それに関係した計算の概念について説明する。教科書は、数学を目標さない人にも分かりやすいように、位相の初歩について丁寧に書かれた入門書である。講義を聞いて分かりにくいところがあっても、教科書を読み返せば理解できるであろう。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポートか試験を課す。出席を評価することもある。									
【教科書】									
大田春外『はじめよう位相空間』(日本評論社) ISBN:4-535-78277-6									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	数理科学論講究 Reserch in Mathematical Science	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 宇敷 重廣						
配当学年	4回生	単位数	8	開講期	通年集中	曜時限	集中講義	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
数理情報論関係の卒業研究を行うために必要な知識・技法を講読や演習によって学ぶ。									
【授業計画と内容】									
履修学生と相談の上決定する。参考までに各指導教員の専門分野を示しておく： 宇敷・・・複素力学系，実力学系 森本・・・偏微分方程式論 高崎・・・代数解析，数理物理 上木・・・確率解析 木坂・・・力学系理論(特に複素力学系) 櫻川・・・計算機科学 立木・・・実数などの連続性と計算，計算可能性解析学，プログラミング言語の理論，Java 言語 日置・・・情報科学									
【履修要件】									
数理情報論関係の卒業研究の基礎となるべき科目を十分な数だけ履修している必要がある。その上で担当教員と面談し、教員が履修可能と判断すれば履修が認められる。卒業研究を伴わない履修は受け付けられない。									
【成績評価の方法・基準】									
出席状況および、講読内容の理解と発展の到達度などによる。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	数理学論講究 Reserch in Mathematical Science	担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 森本 芳則						
配当学年	4回生	単位数	8	開講期	通年集中	曜時限	集中講義	授業形態	演習
【授業の概要・目的】 数理情報論関係の卒業研究を行うために必要な知識・技法を講読や演習によって学ぶ。									
【授業計画と内容】 履修学生と相談の上決定する。参考までに各指導教員の専門分野を示しておく：  宇敷・・・複素力学系，実力学系 森本・・・偏微分方程式論 高崎・・・代数解析，数理物理 上木・・・確率解析 木坂・・・力学系理論（特に複素力学系） 櫻川・・・計算機科学 立木・・・実数などの連続性と計算，計算可能性解析学，プログラミング言語の理論，Java 言語 日置・・・情報科学									
【履修要件】 数理情報論関係の卒業研究の基礎となるべき科目を十分な数だけ履修している必要がある。その上で担当教員と面接し，教員が履修可能と判断すれば履修が認められる。卒業研究を伴わない履修は受け付けられない。									
【成績評価の方法・基準】 出席状況および，講読内容の理解と発展の到達度などによる。									
【教科書】 使用しない									
【参考書等】 （参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	数理学論講究 Reserch in Mathematical Science	担当者氏名	人間・環境学研究科 准教授 上木 直昌						
配当学年	4回生	単位数	8	開講期	通年集中	曜時限	集中講義	授業形態	演習
【授業の概要・目的】 数理情報論関係の卒業研究を行うために必要な知識・技法を講読や演習によって学ぶ。									
【授業計画と内容】 履修学生と相談の上決定する。参考までに各指導教員の専門分野を示しておく：  宇敷・・・複素力学系，実力学系 森本・・・偏微分方程式論 高崎・・・代数解析，数理物理 上木・・・確率解析 木坂・・・力学系理論（特に複素力学系） 櫻川・・・計算機科学 立木・・・実数などの連続性と計算，計算可能性解析学，プログラミング言語の理論，Java 言語 日置・・・情報科学									
【履修要件】 数理情報論関係の卒業研究の基礎となるべき科目を十分な数だけ履修している必要がある。その上で担当教員と面接し，教員が履修可能と判断すれば履修が認められる。卒業研究を伴わない履修は受け付けられない。									
【成績評価の方法・基準】 出席状況および，講読内容の理解と発展の到達度などによる。									
【教科書】 使用しない									
【参考書等】 （参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	数理学論講究 Reserch in Mathematical Science	担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 高崎 金久						
配当学年	4回生	単位数	8	開講期	通年集中	曜時限	集中講義	授業形態	演習
【授業の概要・目的】 数理情報論関係の卒業研究を行うために必要な知識・技法を講読や演習によって学ぶ。									
【授業計画と内容】 履修学生と相談の上決定する。参考までに各指導教員の専門分野を示しておく：  宇敷・・・複素力学系，実力学系 森本・・・偏微分方程式論 高崎・・・代数解析，数理物理 上木・・・確率解析 木坂・・・力学系理論（特に複素力学系） 櫻川・・・計算機科学 立木・・・実数などの連続性と計算，計算可能性解析学，プログラミング言語の理論，Java 言語 日置・・・情報科学									
【履修要件】 数理情報論関係の卒業研究の基礎となるべき科目を十分な数だけ履修している必要がある。その上で担当教員と面接し，教員が履修可能と判断すれば履修が認められる。卒業研究を伴わない履修は受け付けられない。									
【成績評価の方法・基準】 出席状況および，講読内容の理解と発展の到達度などによる。									
【教科書】 使用しない									
【参考書等】 （参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	数理学論講究 Reserch in Mathematical Science	担当者氏名	人間・環境学研究科 准教授 木坂 正史						
配当学年	4回生	単位数	8	開講期	通年集中	曜時限	集中講義	授業形態	演習
【授業の概要・目的】 数理情報論関係の卒業研究を行うために必要な知識・技法を講読や演習によって学ぶ。									
【授業計画と内容】 履修学生と相談の上決定する。参考までに各指導教員の専門分野を示しておく：  宇敷・・・複素力学系，実力学系 森本・・・偏微分方程式論 高崎・・・代数解析，数理物理 上木・・・確率解析 木坂・・・力学系理論（特に複素力学系） 櫻川・・・計算機科学 立木・・・実数などの連続性と計算，計算可能性解析学，プログラミング言語の理論，Java 言語 日置・・・情報科学									
【履修要件】 数理情報論関係の卒業研究の基礎となるべき科目を十分な数だけ履修している必要がある。その上で担当教員と面接し，教員が履修可能と判断すれば履修が認められる。卒業研究を伴わない履修は受け付けられない。									
【成績評価の方法・基準】 出席状況および，講読内容の理解と発展の到達度などによる。									
【教科書】 使用しない									
【参考書等】 （参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	数理学論講究 Reserch in Mathematical Science	担当者氏名	人間・環境学研究科 准教授 櫻川 貴司						
配当学年	4回生	単位数	8	開講期	通年集中	曜時限	集中講義	授業形態	演習
【授業の概要・目的】 数理情報論関係の卒業研究を行うために必要な知識・技法を講読や演習によって学ぶ。									
【授業計画と内容】 履修学生と相談の上決定する。参考までに各指導教員の専門分野を示しておく：  宇敷・・・複素力学系，実力学系 森本・・・偏微分方程式論 高崎・・・代数解析，数理物理 上木・・・確率解析 木坂・・・力学系理論（特に複素力学系） 櫻川・・・計算機科学 立木・・・実数などの連続性と計算，計算可能性解析学，プログラミング言語の理論，Java 言語 日置・・・情報科学									
【履修要件】 数理情報論関係の卒業研究の基礎となるべき科目を十分な数だけ履修している必要がある。その上で担当教員と面接し，教員が履修可能と判断すれば履修が認められる。卒業研究を伴わない履修は受け付けられない。									
【成績評価の方法・基準】 出席状況および，講読内容の理解と発展の到達度などによる。									
【教科書】 使用しない									
【参考書等】 （参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） オフィスアワー実施の有無は，KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	数理学論講究 Reserch in Mathematical Science	担当者氏名	人間・環境学研究科 准教授 日置 尋久						
配当学年	4回生	単位数	8	開講期	通年集中	曜時限	集中講義	授業形態	演習
【授業の概要・目的】 数理情報論関係の卒業研究を行うために必要な知識・技法を講読や演習によって学ぶ。									
【授業計画と内容】 履修学生と相談の上決定する。参考までに各指導教員の専門分野を示しておく：  宇敷・・・複素力学系，実力学系 森本・・・偏微分方程式論 高崎・・・代数解析，数理物理 上木・・・確率解析 木坂・・・力学系理論（特に複素力学系） 櫻川・・・計算機科学 立木・・・実数などの連続性と計算，計算可能性解析学，プログラミング言語の理論，Java 言語 日置・・・情報科学									
【履修要件】 数理情報論関係の卒業研究の基礎となるべき科目を十分な数だけ履修している必要がある。その上で担当教員と面接し，教員が履修可能と判断すれば履修が認められる。卒業研究を伴わない履修は受け付けられない。									
【成績評価の方法・基準】 出席状況および，講読内容の理解と発展の到達度などによる。									
【教科書】 使用しない									
【参考書等】 （参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） オフィスアワー実施の有無は，KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	数理学論講究 Reserch in Mathematical Science	担当者氏名	人間・環境学研究科 准教授 立木 秀樹						
配当学年	4回生	単位数	8	開講期	通年集中	曜時限	集中講義	授業形態	演習
【授業の概要・目的】 数理情報論関係の卒業研究を行うために必要な知識・技法を講読や演習によって学ぶ。									
【授業計画と内容】 履修学生と相談の上決定する。参考までに各指導教員の専門分野を示しておく：  宇敷・・・複素力学系，実力学系 森本・・・偏微分方程式論 高崎・・・代数解析，数理物理 上木・・・確率解析 木坂・・・力学系理論（特に複素力学系） 櫻川・・・計算機科学 立木・・・実数などの連続性と計算，計算可能性解析学，プログラミング言語の理論，Java 言語 日置・・・情報科学									
【履修要件】 数理情報論関係の卒業研究の基礎となるべき科目を十分な数だけ履修している必要がある。その上で担当教員と面接し，教員が履修可能と判断すれば履修が認められる。卒業研究を伴わない履修は受け付けられない。									
【成績評価の方法・基準】 出席状況および，講読内容の理解と発展の到達度などによる。									
【教科書】 使用しない									
【参考書等】 （参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） オフィスアワー実施の有無は，KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	情報科学のためのプログラミングI Programming for Information Sciences I	担当者氏名	人間・環境学研究科 准教授 櫻川 貴司						
配当学年	1-4回生	単位数	4	開講期	前期	曜時限	水4,5	授業形態	演習
【授業の概要・目的】 プログラミング言語LISPによって記号処理の基礎的な演習を行う。LISPは、関数のプログラミングが可能で、人工知能などの研究にも使われている言語である。再帰的データ構造とその探索、オブジェクト指向についても具体例によって理解する。また、希望する学生は、演習の題材として記号論理を用いてさまざまな記号処理を行い、記号論理の復習とそこの具体的な処理方法を学べる。									
【授業計画と内容】 以下のような課題について、1課題あたり1~2週の授業をする予定である。 0. オリエンテーション 1. 式の評価 2. 変数、関数、関数定義と再呼び出し 3. S式の正確な定義、二分木とリスト、再帰的データ構造 4. 記号論理の簡単な説明 5. リストによるデータの表現 6. リスト処理、数式と論理式の処理 7. オブジェクト指向 8. 木の探索とMin-Max法 コースの最初にUNIX(Linux)の使用方法、メールの送受信、WWWブラウザの使用方法を学び、受講の準備を行う。LISPには多数の方言が存在するが、本演習では、仕様がすっきりとまとまっているSchemeを使用する。									
【履修要件】 メディアセンターのIDを取得し、ログインできること。受講者は計算機の基本的な使い方やリテラシーを身につけていることが望ましい。記号論理学についての演習を主に行うことを希望する履修者は、「数理論理学A」などを同時期までに履修することを勧める。									
【成績評価の方法・基準】 毎回のレポートによって評価する。出席率も加味する場合がある。									
【教科書】 使用しない									
【参考書等】 （参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） オフィスアワー実施の有無は，KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	情報科学のためのプログラミングII Programming for Information Sciences II	担当者氏名	龍谷大学 准教授 新井 潤						
配当学年	1-4回生	単位数	4	開講期	後期	曜時間	金1,2	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
Prologを使用して計算機による記号処理の基礎を学ぶ。Prologは論理に基づくプログラミング言語で、3段階法をそのまま実行したり、日本語や英語などに近い表現を行うことができる。計算機内部の知識があまりない場合にも理解することができる言語である。また、Prologによりデータベースとその処理プログラムを実現することもできる。									
【授業計画と内容】									
以下のようなトピックについてそれぞれ1～2週の授業を行う予定である。									
1. 基本要素1: 変数と述語 2. データベース = 成り立つこと(解)の集まり 3. 解がどうか調べる質問 4. 解であるための条件のANDとORによる組合せ 5. 別解を求める動作 6. 条件の否定 7. 基本要素2: 項とデータのパターン 8. 2つのデータのパターンを合わせる 9. 自分自身を使った定義 10. リスト処理 11. 一階述語論理と自動証明のアルゴリズム									
コースの最初にメールの送受信、WWWブラウザの使用法を復習する。また、UNIX(Linux)の使用法を学び、受講の準備を行う。									
【履修要件】									
京都大学の教育用計算機システムの利用IDがあり、利用のマナーを遵守できること									
【成績評価の方法・基準】									
毎回のレポートの達成度によって評価する。出席率も加味する場合がある。基礎的な課題について7割程度の達成度であれば単位を取得することが可能である。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
初回にできるかぎり出席すること。 関連する授業: 数理論理学A,B、情報科学のためのプログラミングI									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	言語構造論演習 A Seminar on Language and its Structure A	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 藤田 耕司						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	金4	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
理論言語学、特に生成文法・生物言語学の立場から、人間言語の諸特性、とりわけ統語演算システムとその意味解釈・音声解釈とのインターフェイスの問題を巡る最近の研究動向を理解する。									
【授業計画と内容】									
英語で書かれた比較的平易な研究書または研究論文を選び、輪読する。あらかじめ分担を決めるので、各受講者は割り当てられた箇所について下調べをした上で授業中に報告すること。取りあげるマテリアルはその都度、受講者と相談の上で決める。偏りのないよう、形態論・統語論・意味論の中核領域に限らず、心理言語学、言語獲得、言語疾患、脳神経科学、遺伝学、進化言語学、人間以外の動物との比較認知行動学なども含め、できるだけ広範囲な領域から適切なものをピックアップする。									
【履修要件】									
「言語構造論A」またはKUINEP英語講義「生物言語学」を履修済みであるか、言語科学に関する基礎的な知識をすでに持っていることが極力望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
上記分担作業の他、出席状況や授業中の議論への参加度・貢献度に基づいて評価する。									
【教科書】									
マテリアルは添付ファイルで配付するので各自でプリントアウトすること。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	言語構造論 B Language and its Structure B	担当者氏名	言語学センター 教授 壇辻 正剛						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	金4	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
言語には時間の経過と共に変化する側面と、ある共有する時間軸上で様々な諸相を見せる側面とがある。前者を対象とした言語の研究は通時言語学と呼ばれ、後者を対象とした研究は共時言語学と呼ばれることもある。言語構造論Bでは、通時言語学や共時言語学の諸分野の中から幾つかの側面に焦点を当てて考察を試みることと目的とする。言語と文化や社会との関わりについて理解を深めることも目的とする。									
【授業計画と内容】									
言語構造論Bでは、通時言語学や共時言語学の諸分野の中から幾つかの側面に焦点を当てて考察を試みる。その際、映像や音声データなどを利用しながら、言語と文化や社会との関わりについて理解を深めることも目的とする。言語や文化に関するデータを扱う場合、マルチメディアデータやコンピュータを利用する場合も多いのでCALL教室を利用して授業を進める。 具体的には以下のトピックに関連した話題を1～数回にわたって取り上げて授業を行う。									
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 言語学の基礎</li> <li>・ 通時言語学</li> <li>・ 共時言語学</li> <li>・ 言語学の諸分野</li> <li>・ 言語普遍性と言語依存性</li> <li>・ 変化する言語の側面</li> <li>・ 言語の構造と体系</li> <li>・ 言語と文化、言語と社会</li> <li>・ 言語構造論の展開と応用</li> </ul>									
【履修要件】									
CALL教室を利用するので教育用システムのアカウントが必要である。 本科目は総合人間学部の学部科目であるが、共通教育にも提供している科目である。									
【成績評価の方法・基準】									
ミニレポートや小テスト、出席状況、授業態度などの平常点を考慮する。									
【教科書】									
授業中に指示する 授業中に指示する 必要に応じてハンドアウトを配付することがある。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
CALL教室を利用するので教育用システムのアカウントが必要である。 (隔年開講・22年度不開講) オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	言語機能論 B Language and its Functions B	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 大木 充						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	火2	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
この授業では、フランス語の「文法」の授業で規則として学んだ言語事象がなぜあるのかを考える。フランス語を正確に理解したり、書いたりするために役立つ授業なので、フランス語の力をつけたい人にも受講してもらいたい。									
【授業計画と内容】									
機能文法入門 第1-2回:機能文法の基本概念について 第3-4回:人称代名詞はなぜ前に出るのか? 第5-7回:なぜ受動態を使う必要があるのか? 第8-10回:なぜ主語を倒置する必要があるのか? 第11-12回:非人称構文はどんな動きをしているのか? 第13-14回:遊離(転位)構文はなぜ会話でよく用いられるのか? 第15回:フランス語のイントネーションはなぜ英語のイントネーションと違っているのか?									
【履修要件】									
フランス語が辞書を使って読めること。									
【成績評価の方法・基準】									
学期末のレポートの提出以外に、授業でとりあげるテーマに関連しているフランス語の文を提出し、授業中に解説をしてもらう。後者も評価に加える。									
【教科書】									
プリント配布									
【参考書等】									
(参考書) 大橋保夫 他 『フランス語とはどういう言語か』(駿河台出版社) 福地肇 『談話の構造』(大修館書店)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	言語機能論演習 A Seminar : Language and its Functions A	担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 東郷 雄二
配当学年	2-4回生	単位数	2
開講期	後期	曜時間	金3
授業形態	演習		
【授業の概要・目的】			
主に英語のさまざまな構文とその意味機能を、統語論・意味論・談話語用論の観点から考察し、理論言語学の考え方や問題の立て方、論証の仕方などを学ぶことによって、言語の構造と機能に関する理解を深める。			
【授業計画と内容】			
主として英語を研究対象の言語として、次にあげる構文を順次考察し、それぞれの構文が提起する問題点を概観する。この過程を通じて、それぞれの構文に深く関係する言語学の用語・概念の理解を深める。 [1] 存在文(there構文) : There came in an old man. [2] コピュラ文(A is B) : The bank robber is John Smith. [3] 名詞句からの外置構文 : A man appeared from India. [4] 日本語の被害受身文 : 僕は妻に泣かれて困った。 [5] 中間構文 : This shirt washes easily. [6] 分裂文 : It is John who broke the window. [7] 左方転位と話題化構文 : My father, I'm proud of him. [8] 代名詞と再帰代名詞 : John hid the book behind [him/himself].			
【履修要件】			
特になし			
【成績評価の方法・基準】			
学期末に授業内容に関係するテーマについてレポートを書いてもらい、それによって評価する。			
【教科書】			
教室でプリントを配布する。			
【参考書等】			
(参考書) 授業中に紹介する			
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))			
言語学を一度も勉強したことがない人でも理解できるように講義を進めるので、特に予備知識がなくても受講できます。コトバの仕組みと働きは、「人間とは何か」を理解する上で重要な手がかりを提供してくれます。			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英訳>	言語認知論演習 A Seminar on Cognition and Language A	担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 山梨 正明
配当学年	2-4回生	単位数	2
開講期	後期	曜時間	金4
授業形態	演習		
【授業の概要・目的】			
認知科学の観点からみた言語と人間の知のメカニズムの考察			
【授業計画と内容】			
人間の知のメカニズムの解明を試みる認知科学の観点(特に、認知科学の重要な研究分野の一つである認知言語学の観点)から、日常言語の概念体系、自然論理と推論、イメージ形成、スキミング、カテゴリー化、意味変化、等のメカニズムを考察していく。毎週テーマを決め、言語と知のメカニズムの問題を学生の発表形式で行っていく。			
【履修要件】			
言語学の情報科学の関連分野の基礎科目を履修しておくことが望ましい。			
【成績評価の方法・基準】			
レポート試験と出席率による。レポートは最後のクラスにて提出。レポートのテーマ、等は講義中に指示。			
【教科書】			
使用しない			
【参考書等】			
(参考書) 山梨正明 『ことばの認知空間』(開拓社) 山梨正明 『認知言語学原理』(くろしお出版) 山梨正明 『比喩と理解』(東京大学出版会) 山梨正明 『発話行為』(大修館書店)			
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))			
学期中の毎週木曜日(3限)に総人棟1107: オフィスアワー			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英訳>	言語認知論 Cognition and Language	担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 山梨 正明
配当学年	2-4回生	単位数	2
開講期	前期	曜時間	火4
授業形態	講義		
【授業の概要・目的】			
言語と認知のメカニズムの解明			
【授業計画と内容】			
人間の知のメカニズムの解明を試みる認知科学の観点(特に、認知科学の重要な研究分野の一つである認知言語学の観点)から、日常言語の概念体系、自然論理と推論、イメージ形成、スキミング、カテゴリー化、意味変化、等のメカニズムを考察していく。以下のような課題について、1課題あたり1~3週の授業を行う。 言語学の基本的な考え方と分析の方法 認知科学からみた言語研究と関連領域の外観 認知言語学の基本的な枠組と研究の方法 一般的認知能力からみた言語能力の分析 認知能力からみた言語現象の諸相の具体的分析			
【履修要件】			
言語学の情報科学の関連分野の基礎科目を履修しておくことが望ましい。			
【成績評価の方法・基準】			
レポート試験と出席率による。レポートは最後のクラスにて提出。レポートのテーマ、等は講義中に指示。			
【教科書】			
山梨正明 『ことばの認知空間』(開拓社)			
【参考書等】			
(参考書) 山梨正明 『認知言語学原理』(くろしお出版。) 山梨正明 『比喩と理解』(東京大学出版会)			
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))			
山梨正明 『認知構文論--文法のゲシュタルト性』(大修館書店 学期中の毎週木曜日(3限)に総人棟1107: オフィスアワー			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英訳>	言語比較論 A Comparative Language Studies A	担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 齋藤 治之
配当学年	2-4回生	単位数	2
開講期	前期	曜時間	金2
授業形態	講義		
【授業の概要・目的】			
比較言語学の方法の習得を目指し、同時に言語変化の法則性とそのメカニズムを追及する。さらに言語一般に関する知識を深める。 今年度は特に言語における文法カテゴリー(時制とアスペクト)を扱うことにより、各言語の時制とアスペクトの表現方法の多様性に着目し、さらにそこからこれらの文法カテゴリーの普遍的な意味について考察を加える。			
【授業計画と内容】			
下記の教科書に基づき講義形式で授業を進める。言語の動詞に関する文法カテゴリー(時制およびアスペクト)の領域を対象に、世界の諸言語における時制とアスペクトの普遍的な意味を探索する。  第1回から第7回は下記の教科書に基づいて時制に関する講義を行う。 第8回から第14回は下記の教科書に基づいてアスペクトに関する講義を行う。			
【履修要件】			
特になし			
【成績評価の方法・基準】			
レポートおよび出席回数を併せて評価する。			
【教科書】			
Bernard Comrie 『Tense』(Cambridge University Press) ISBN:0521-236525 Bernard Comrie 『Aspect』(Cambridge University Press) ISBN:0521-211093 特になし。			
【参考書等】			
(参考書) 特になし。			
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英訳>	言語比較論演習 A Seminar on Comparative Language Studies A	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 河崎 靖						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	金4	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
印欧語の世界を視野に取めながらゲルマン語の中でも特にドイツ語を中心に史的言語学の諸分野（音・文法・意味・語彙等）における言語現象の分析を行う。比較法・内的再建法といった比較言語学的な手法を用い、言語変化のメカニズムや言語体系の普遍性・法則性を通時的・共時的に解明する。									
【授業計画と内容】									
主にヨーロッパの古典語から現代諸言語に至る学識を習得しつつ、言語の比較・対照というアプローチを通じて人間言語の同質性と異質性の体系を明らかにすることを旨とする。言語の理論的考究による種々の成果を踏まえ、言語学的方法論上の問題についても論究し言語の本質に迫ることが目標である。併せて、言語類型論の立場から、ことばの諸相（言語体系の法則性・言語変化のメカニズム）を考究することによって、多様性の背後に見え隠れする言語の普遍的特質を追求する。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点を重視する。積極的な授業参加を期待する。									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	言語科学ゼミナールIIA Seminar in Linguistics IIA	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 東郷 雄二						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	金3	授業形態	ゼミナール
【授業の概要・目的】									
英語と日本語で書かれた言語学の論文を講読することにより、コトバを学問する際の問題の立て方、分析の方法、理論化の仕方などを学ぶとともに、言語学の基本的概念に親しむことを目的とする。									
【授業計画と内容】									
以下にあげる言語学の論文を輪読する。担当を決めて論文の内容について学生諸君に発表してもらう。 [1] 影山太郎編『動詞の意味と構文』研究社出版、第2章「移動と経路の表現」pp.40～68。 [2] 高見健一『機能的構文論による日英語比較』くろしお出版、第4章「英語の後置文 文体的倒置」pp.187～216。 [3] Ward, G. & B.Birner "Definiteness and the English existential", Language 71-4, pp.722～744, 1995。 [4] 西村義樹編『認知言語学Ⅰ：事象構造』東京大学出版会、本多啓「英語中間構文とその周辺」pp.11～36。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
少なくとも一度発表してもらい評価とする。									
【教科書】									
プリントを配布する。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	言語科学ゼミナールIB Seminar in Linguistics IB	担当者氏名	言語学センター 教授 壇辻 正剛						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	金5	授業形態	ゼミナール
【授業の概要・目的】									
言語科学ゼミナールIBは、少人数のゼミ形式で言語の持つ諸特性に関して考察を試みることを目的として授業を展開する。言語には時間の経過と共に変化する側面と、ある共有する時間軸上で様々な諸相を見せる側面とがある。世界にはさまざまな言語が存在し、日本語や英語を常識とする観点からは不思議な現象に見える特性も多々存在する。言語科学ゼミナールIBでは、幾つかの言語の持つそれらの側面に焦点を当てて考察を試みると共に言語と文化や社会との関わりについて理解を深めることも目的とする。									
【授業計画と内容】									
言語科学ゼミナールIBは、少人数のゼミ形式で通時言語学や共時言語学の諸分野の中から幾つかの側面に焦点を当てて考察を試みる。その際、映像や音声データなどを利用してしながら、言語と文化や社会との関わりについて理解を深める場合もある。言語や文化に関するデータを扱う場合、マルチメディアデータやコンピュータを利用する場合もある。CALL教室を利用して授業を進める。具体的には以下のトピックに関連した話題を1～数回にわたって取り上げて授業を行う。									
<ul style="list-style-type: none"> <li>・言語科学の基礎</li> <li>・言語科学と言語学</li> <li>・言語科学の諸分野</li> <li>・言語普遍性と言語依存性</li> <li>・変化する言語の側面</li> <li>・言語科学と社会</li> <li>・言語科学と文化</li> <li>・言語科学と言語教育</li> <li>・言語科学の応用と展開</li> </ul>									
【履修要件】									
CALL教室を利用するので教育用システムのアカウントが必要である。									
【成績評価の方法・基準】									
ミニレポートや小テスト、出席状況、授業態度などの平常点を考慮する。									
【教科書】									
授業中に指示する 授業中に指示する 必要に応じてハンドアウトを配付することがある。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） CALL教室を利用するので教育用システムのアカウントが必要である。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください  オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	言語科学ゼミナール A Seminar in Linguistics IIIA	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 河崎 靖						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	金4	授業形態	ゼミナール
【授業の概要・目的】									
言語学の諸分野（音論・形態論・統語論・意味論などの領域）を対象に、言語体系の普遍的な法則性を探るべく考究を進める。世界の諸言語を視野に収めながら、ことばの普遍性・体系性を明らかにすることを目標とする。ことばの諸相を考究することによって、多様性の背後に見え隠れする言語の普遍的特質を追求する。言語体系の法則性・言語変化のメカニズムを探り、そのあり方を解明することを通して、言語の本質に迫る。言語の理論的アプローチによる種々の成果を踏まえ、言語学的方法論上の問題についても考察する。									
【授業計画と内容】									
ドイツ語を中心にゲルマン語学の概論（音論・形態論・統語論・意味論など）を行う。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点を重視する。積極的な授業参加を期待する。									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	言語科学ゼミナール A Seminar in Linguistics IVA	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 服部 文昭						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	水3	授業形態	ゼミナール
【授業の概要・目的】									
ロシア語学の諸問題。 現代ロシア語の構造を研究する上での基本的な諸問題につき、理解を深めてゆく。									
【授業計画と内容】									
いくつかの論文を輪読する形式で進める。									
・動詞のアスペクト ・名詞・形容詞の格 ・コピュラを含む構文									
といったテーマを中心に、一つのテーマにつき、4回程度の授業で取り組む予定である。									
授業への積極的な参加と丹念な予習が求められる。									
【履修要件】									
ロシア語を4単位以上、履修済みのこと。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点とレポートや試験の総合評価を原則とする。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	英語教育方法論 Methodology in English Education	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 田地野 彰						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	木2	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
言語と教育との有機的関連性を視野に入れながら、言語と教育にかかわる諸課題を、理論と実践の両面から探求する。 主として、言語教育理論、教育環境論、教育方法論、学習者論、履修課程設計論、教材開発論、評価論について総合的観点から考察する。具体的には、カリキュラム開発、教授法、学習方略、動機づけ、語彙教育、教育文法等に関する諸課題について考究する。									
【授業計画と内容】									
以下のような課題について、1課題あたり1~2週の授業をする予定である。									
1. 英語カリキュラム開発論 2. 英語教育方法論 3. 英語教育論(高等教育) 4. 英語教育論(中等教育) 5. 英語教育論(初等教育) 6. 英語教育論(社会言語学の観点から) 7. 英語教育論(言語習得論の観点から) 8. 英語教材開発論 9. 英語教育評価論 10. 英語教育学習者論									
なお、受講者には、少なくとも一つの課題について関連研究の成果をまとめて報告することが期待されている。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点と学期末レポートにより総合的に評価する。なお、平常点には、出席点、授業内での発言、発表などが含まれる。									
【教科書】									
使用しない 毎回、指定された学術雑誌・専門誌の掲載論文を教材として使用する予定。									
【参考書等】									
(参考書) Yoshida, T., Imai, H., Nakata, Y., Tajino, A., Takeuchi, O. & Tamai, K. 『Researching Language Teaching and Learning: An Integration of Practice and Theory』 (Peter Lang) ISBN:978-3-03911-534-1 (授業では学術誌ELT Journalから関連論文を参照する。)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
毎週2本程度の指定論文を読んでくること。 オフィスアワーは、水曜日 12:10-12:50。(事前にメールにて連絡のこと。)									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	英語学習指導論 Theories of English Language Learning and Teaching	担当者氏名	人間・環境学研究所 准教授 中森 誉之						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期集中	曜時間	集中講義	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
英語を学習していく際に学習者が直面する諸課題を多面的に考察した上で、効果的かつ効率的な指導について検討する。基礎から発展まで、幅広い視座と深い見識を身につけることを目的とする。この授業では、現在までの自らの英語学習経験を振り返りながら、言語技能(文法・語彙・聴解・発話・読解・作文)の学習と指導について体系的に考究する。来年度は、英語の言語知識(音声・文字とつづり・語彙・構造・運用)の学習と指導について理論的に考察する。									
【授業計画と内容】									
1. 英語の理解と表出過程: 外国語処理能力育成に向けて 2. 技能間の関係性, 技能指導の順序性 3. 聴解(Listening)の学習と指導 4. 発話(Speaking)の学習と指導 5. 読解(Reading)の学習と指導 6. 作文(Writing)の学習と指導 7. 統合技能の育成に向けた指導, 語彙の位置付け 8. 統合技能の育成に向けた指導, 文法の位置付け * 内容に応じて複数回の授業時間を当てる。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
授業中に実施する数回の論述試験の成績を合計し、100点満点換算し、本学の評価基準で判定する。評価は、知識の定着度と論証能力(独創性・説得性・論理性・明解性)に基づく。									
【教科書】									
開講日に販売する。2200円。前もって読みたい方は研究室まで。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
大学院入学試験の日程により、8月上旬または9月下旬に開講します。詳細は掲示にご注意ください。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	英語コミュニケーション論 Introduction to CALL	担当者氏名	人間・環境学研究所 准教授 M. ビーターソン						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	水5	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
This course is designed to provide an introduction to key concepts and research in the field of computer assisted language learning (CALL).									
【授業計画と内容】									
The lectures in this course will focus on providing an overview of the technological, theoretical and pedagogical issues raised by the application of computer technology in language education. In this context, areas such as pedagogy, technology and second language acquisition theory will also be investigated with the aim of providing students with a thorough understanding of the impact of computer technologies on second language learning and teaching. Moreover, on completion of this course students will be able to effectively apply new knowledge regarding CALL in their teaching. Areas covered in the lectures will include software evaluation, CALL authoring, courseware management, data driven learning and computer mediated communication (CMC).									
【履修要件】									
Undergraduate students									
【成績評価の方法・基準】									
This course has two main requirements, regular attendance and submission of a paper (due by the end of the semester) focusing on an aspect of CALL. Examples of suitable topics include:  evaluation of a CALL software package critical review of a CALL web site critical review of a CALL article or book creation of and rationale for a CALL task									
Assessment will be based on the above factors.									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) Chapelle, C 『English language learning and technology』 (John Benjamins) Levy, M. 『Computer assisted language learning: Concept and conceptualization』 (Oxford University Press)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
Townsend, P. & Vallance, M. (2004). Using IT in the language classroom: A guide for teachers and students in Asia. Longman: London.									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	言語教育政策論演習 Seminar on Language policy	担当者氏名	人間・環境学研究所 准教授 西山 教行
配当学年	2-4回生	単位数	2
開講期	前期	曜時限	水4
授業形態	演習		
<b>【授業の概要・目的】</b>			
<p>この授業では19世紀末に活躍したフランス人著作家Leopold de Saussure(1866-1925)のフランス植民地主義に関する著作Psychologie de la colonisation française dans ses rapports avec les sociétés indigènes(1899)を取り上げ、フランス植民地主義における言語問題を考察する。</p> <p>Leopold de Saussureは近代言語学の祖Ferdinand de Saussure(1857-1913)の弟であり、中国学者にして、海軍士官である。植民地主義に関しては、本書一冊を残したのみであるが、19世紀末から20世紀にかけて、フランス植民地主義が同化主義から協働主義へと転換を遂げる上での重要なイデオログの役割を果たした。本書は植民地同化主義の限界を明確に指摘し、フランス同化主義の源泉を大革命にあると看破するなど、その思想的意義は大きい。また植民地会議にも論客としてたびたび招聘され、なかでも1900年に開催された植民地社会学国際会議での発言は植民地同化主義に決定的であり、それ以降、協働主義という緩やかな同化主義が植民地経営の基調となってゆく。</p> <p>Leopold de Saussureの活躍した時代から100年以上経ち、いま改めてその著作を読み直すと、「人種主義者」の相貌の元に、異民族に言語を教えることは何を意味するのか、という根源的問題が立ち現れる。</p>			
<b>【授業計画と内容】</b>			
<p>本書は以下の15章から構成されている。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 原住民の制度</li> <li>2) 精神性の遺伝</li> <li>3) ドグマの起源からの変化</li> <li>4) 同化というドグマ</li> <li>5) 同化の効果</li> <li>6) 教育による同化</li> <li>7) 制度による同化</li> <li>8) 言語による同化</li> <li>9) クレオール地域での同化</li> <li>10) 同化という措置の不可逆性</li> <li>11) 1889年の植民地会議と同化論</li> <li>12) 個別的な同化の問題</li> <li>13) ローマ治世下のガリア</li> <li>14) 日本の場合</li> <li>15) まとめ</li> </ol> <p>授業では、受講者に訳文を提出してもらい、それを元に討論を進める。</p>			
<b>【履修要件】</b>			
フランス語中級までを履修していることが望ましい。			
-----			
言語教育政策論演習(2)へ続く			

言語教育政策論演習(2)
<b>【成績評価の方法・基準】</b>
出席、レポートによる総合評価を行う。
<b>【教科書】</b>
プリントを配布する。
<b>【参考書等】</b>
(参考書) 授業中に紹介する
<b>【その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)】</b>
サイト <a href="http://www.momiji.h.kyoto-u.ac.jp/~nishiyama/">http://www.momiji.h.kyoto-u.ac.jp/~nishiyama/</a>  オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英語>	国際文明学入門A Introduction to International Civilizations A		担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 前川 玲子						
				人間・環境学研究所 教授 西村 稔						
担当学年		1,2回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	水1	授業形態	講義
【授業の概要・目的】										
7名のリレー講義のかたちで、「国際文明学」に関する入門を行う。テーマは、思想、文学、経済、法学、社会学等、多岐にわたっている。										
【授業計画と内容】										
第一回目のガイダンス授業で、授業の順番、および、各講師が具体的にどのような授業を行うかを簡単に説明するので、必ず出席されたい。順番は決まっていなくても、今期の授業は、西村、江田、佐伯、中西、ハヤシ、前川が担当する予定である。										
【履修要件】										
特になし										
【成績評価の方法・基準】										
レポート提出 課題や提出期限については、授業開始後に指示する。										
【教科書】										
使用しない										
【参考書等】										
(参考書) 授業中に紹介する										
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))										
学修相談にはいつでも応じる。										
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。										

授業科目名 <英語>	文明構造論 A Structure of Civilizations IA		担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 江田 憲治						
担当学年		2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	木3	授業形態	講義
【授業の概要・目的】										
「東アジア」とは何であるのか、「東アジア世界」は近世から近代への移行の過程にあって、どのような変貌をとげたのか。こうした問題意識は、現代東アジア諸国家(日本・中国・韓国および北朝鮮)それぞれのナショナリズムに直面するわれわれへの、射程距離を有する問いかけであるはずである。本講義では、「東アジア世界」の文明構造と、近世・近代における東アジア三カ国(中国・日本・朝鮮)の関係性を理解し、今日的視座から考えるための素材を提供するめざす。										
【授業計画と内容】										
ガイダンス 近世東アジア世界の構造 「世界帝国」と朝貢体制 近世東アジア世界の構造 日本・朝鮮の「交隣」関係(1) 近世東アジア世界の構造 日本・朝鮮の「交隣」関係(2) 近世から近代への移行 中国の場合(1) 近世から近代への移行 中国の場合(2) 近世から近代への移行 日本の場合(1) 近世から近代への移行 日本の場合(2) 近世から近代への移行 朝鮮の場合(1) 近世から近代への移行 朝鮮の場合(2) 近代東アジア世界の変動 日清戦争(1) 近代東アジア世界の変動 日清戦争(2) 近代東アジア世界の変動 韓国併合										
【履修要件】										
特になし										
【成績評価の方法・基準】										
レポート										
【教科書】										
授業中に指示する										
【参考書等】										
(参考書)										
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))										
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。										

授業科目名 <英語>	国際文明学入門B Introduction to International Civilizations B		担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 川島 昭夫						
				人間・環境学研究所 教授 須田 千里						
担当学年		1,2回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	水1	授業形態	講義
【授業の概要・目的】										
本講義は歴史文化社会論講座の3人の教員によるリレー講義である。国際文明学というテーマの下に、それぞれの教員が自らの専門領域の中からこのテーマにそった題目を選んで講義する。										
【授業計画と内容】										
須田千里 明治の文学に見られる 語り の諸相について、「一人称小説」(語り手が「私」などと名乗って物語る形式の小説)である泉鏡花「化鳥」や、対照的に登場人物の内面を語らない樋口一葉「わかれ道」などを取り上げつつ、入門的な講義を行う。										
桂山康司 'culture' という語がラテン語から英語に移入され、その後「文化」という重要な語義を醸成させることになる起源を辿ると、その移入が行われた直接的契機であるルネサンスという時代の持つ特質が、語の発展と密接な繋がりを持つことに気づく。「実践的生'vita activa」(すなわち政治)か「観想的生'vita contemplativa」(すなわち哲学)かという人間像における対立の図式を念頭に、「culture」という語の語義における発展の背景を検討することを通じて、イギリス初期近代における人間像に迫りたい。										
川島昭夫 人間の社会や生活が、植物資源に負うところは大きい。化学的な合成物質が出現する以前には、食料や衣料品、各種の用材のみならず、薬品、燃料など植物の用途は、今日以上に極めて広がった。近代における世界の一体化を促進したのは、この植物資源を確保しようとする地域間・国家間の抗争や協力の結果であったとさえいえる。この授業では、18-19世紀のイギリスに植民地植物園の設置にみられる植物資源政策の特質について考える。										
【履修要件】										
特になし										
【成績評価の方法・基準】										
3人の担当者がそれぞれ試験あるいはレポートを課す。3人の合議により成績を判定する。詳細については授業中に指示する。										
【教科書】										
授業中に指示する										
【参考書等】										
(参考書) 授業中に紹介する										
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))										
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。										

授業科目名 <英語>	文明構造論 B Structure of Civilizations IB		担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 江田 憲治						
担当学年		2-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	木3	授業形態	講義
【授業の概要・目的】										
「東アジア」の文明構造にとって、西洋文明はどのような存在であったのか。アヘン戦争に始まる西洋文明との接触の結果、東アジア諸国が、これを「受容」する立場にあったことはいうまでもないが、それも全般的なものでなかったことは、今日の中国を見ても明らかである。では、この「受容」にわれわれは改めて何を学ぶのか。こうした問いから出発して、東アジア諸国とりわけ中国で受容された西洋文明を、民主主義と社会主義を中心に考え、あわせて現代中国を理解するための基礎的知識の獲得を目指す。										
【授業計画と内容】										
ガイダンス 東アジア世界の西洋文明受容 日本と中国の比較(1) 東アジア世界の西洋文明受容 日本と中国の比較(2) 中国における民主主義の受容 変法運動と辛亥革命(1) 中国における民主主義の受容 変法運動と辛亥革命(2) 中国における民主主義の変貌 三民主義と中国国民党(1) 中国における民主主義の変貌 三民主義と中国国民党(2) 中国における社会主義の受容 国家社会主義・無政府主義・マルクス主義(1) 中国における社会主義の受容 国家社会主義・無政府主義・マルクス主義(2) 中国における社会主義の変貌 中国共産党と毛沢東思想(1) 中国における社会主義の変貌 中国共産党と毛沢東思想(2) 今日の中国の社会主義(1) 今日の中国の社会主義(2) 今日の中国の民主主義										
【履修要件】										
特になし										
【成績評価の方法・基準】										
レポート										
【教科書】										
授業中に指示する										
【参考書等】										
(参考書) 授業中に紹介する										
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))										
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。										

授業科目名 <英訳>	文明構造論 A Structure of Civilizations IVA	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 大川 勇
配当学年	2-4回生	単位数	2
開講期	前期	曜時間	木2
授業形態	講義		
【授業の概要・目的】			
カール・シュミットの『政治的ロマン主義』を読みながら、ドイツ保守革命について考える。保守革命については、それをナチズムの露払いとする見方と、ナチズムとは相容れない精神革命とする見方とが併存している。のちに「ナチスの桂冠法学者」となったシュミットに即して、この問題を検証したい。			
【授業計画と内容】			
カール・シュミットの『政治的ロマン主義』（1919）を輪読する。毎回、担当者はレジメを作成して発表し、その発表をもとに全員で議論する。			
【履修要件】			
特になし			
【成績評価の方法・基準】			
発表とレポートによる。			
【教科書】			
カール・シュミット『政治的ロマン主義』（未来社）（みすず書房からも翻訳が出ているが、橋川文三訳の未来社版を使用する。） 生協等で各自用意のこと。			
【参考書等】			
（参考書） 小野清美『保守革命とナチズム』（名古屋大学出版会） 佐野誠『近代啓蒙批判とナチズムの病理 カール・シュミットにおける法・国家・ユダヤ人』（創文社）			
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英訳>	文明構造論演習II A Seminar IIA on Struture of Civilizations	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 江田 憲治 非常勤講師 大野 直樹 非常勤講師 熊谷 哲哉 同志社大学 特別研究員 藤本 龍児
配当学年	3,4回生	単位数	2
開講期	前期	曜時間	木4
授業形態	演習		
【授業の概要・目的】			
現代文明の中でも欧米文明を対象に、三つのテーマからリレー形式での演習を行う。テーマは以下の通りである。 現代文明の特徴を、そのモデルとなったアメリカを通して考える（藤本） アメリカ外交を、インテリジェンスの役割に着目して考える（大野） ドイツ近現代の短編小説を手がかりに「不思議な話」から文明を読む（熊谷）			
【授業計画と内容】			
初回の授業で全体のガイダンスを行い、以下の三つのテーマにつき（各4～5週）のゼミ形式の授業とする。 （藤本） 最初にアンケートを行い、教材（藤本龍児『アメリカの公共宗教：多元社会における精神性』）の中から受講生の興味のあるテーマを選択し、受講生には、各回ごとに、配布するコピーを読んで出席することを求め、それに基づいて議論をする。 （大野） 各回ごとに、あらかじめ配布する英語論文を1本取り上げる。報告担当を決め、報告者には、論文の内容をレジメにまとめ、コメントを付すことを求める。その報告を基に議論をする。 （熊谷） 近現代ドイツ（1800年～1900年頃）に書かれた幻想的な文学作品（トーマス・マン、リルケ、カフカなど）や芸文批評（フロイト、ベンヤミンなど）のコピーを配布し、各回ごとに、担当を決めて報告を求め、それにもとづいた議論を行う。			
【履修要件】			
特になし			
【成績評価の方法・基準】			
出席状況と、報告担当およびレポート			
【教科書】			
授業中に指示する			
【参考書等】			
（参考書）			
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英訳>	文明構造論 B Structure of Civilizations IVB	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 大川 勇
配当学年	2-4回生	単位数	2
開講期	後期	曜時間	木2
授業形態	講義		
【授業の概要・目的】			
クリスティアン・グラーフ・フォン・クロコウの『決断』を読みながら、ドイツ保守革命について考えを深める。ムーゼルの「可能性感覚」に接近するクロコウの論考は、保守革命と文学的思考の接点を示唆して興味深い。一文だけ引用しておこう。「人間は（その脱中心性のゆえに）単に生きているのではなく、在りうべき「生きるに値する」生を思い描くことを糧としてのみ実存しうる。」			
【授業計画と内容】			
クリスティアン・グラーフ・フォン・クロコウの『決断 ユンガー、シュミット、ハイデガー』を輪読する。毎回、担当者はレジメを作成して発表し、その発表をもとに全員で議論する。			
【履修要件】			
前期の文明構造論IVAを受講していることが望ましいが、ユンガー、シュミット、ハイデガーの作品を何かひとつでも読んでいれば、後期からの参加も可とする。			
【成績評価の方法・基準】			
発表とレポートによる。			
【教科書】			
クリスティアン・グラーフ・フォン・クロコウ『決断 ユンガー、シュミット、ハイデガー』（柏書房） 生協等で各自用意のこと。			
【参考書等】			
（参考書） 大川 勇『可能性感覚 中欧におけるもうひとつの精神史』（松籟社）			
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英訳>	文明構造論演習II B Seminar IIB on Struture of Civilizations	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 江田 憲治 大学図書館 助教 福家 崇洋 京都府立大学文学部 共同研究員 恒木 健太郎 非常勤講師 関根 真保
配当学年	3,4回生	単位数	2
開講期	後期	曜時間	木4
授業形態	演習		
【授業の概要・目的】			
現代文明の中でも、日本のナショナリズムや近代主義について、三つの時代とテーマに焦点をあて、リレー形式での演習を行う。テーマは以下の通りである。  戦前日本の西欧近代主義の成果をナショナリズムを通して考える（福家） 戦時日本の「五族協和」「八紘一宇」と他民族への政策について考える（関根） 戦後日本の「戦後啓蒙」の思想にみられる近代主義について考える（恒木）			
【授業計画と内容】			
初回の授業で全体のガイダンスを行い、以下の三つの著作をもとに、ゼミ形式の授業とする（各4～5週）。 テキストは、 橋川文三の『昭和ナショナリズムの諸相』 宮沢正典『増補 ユダヤ人論考』 中野敏男『大塚久雄と丸山眞男』 を予定している（初回以下の授業でコピーを配布する）。あらかじめ報告担当を決め、各回の授業では、担当がレジメでテキストの内容を要約し、疑問点や自身の論点につき、コメントを行うものとする。			
【履修要件】			
特になし			
【成績評価の方法・基準】			
出席状況と、報告担当およびレポート			
【教科書】			
授業中に指示する			
【参考書等】			
（参考書）			
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英訳>	文明構造論演習III A Seminar IIIA on Struture of Civilizations	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 道旗 泰三						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	月4	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
ドイツの思想家、文学者W・ベンヤミンの好エッセイ「物語作者」をドイツ語原典で味わいながら、「経験の衰滅」という観点から西洋近代のありようを批判的に検討する。									
【授業計画と内容】									
全19章のうち前半の10章程度を、毎回1章ほど読み進め、そのつど内容について議論を交わす。文学、芸術、歴史などの幅広い面での知識が必要なので、適宜そうした読書の案内も行う。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
出席を重視し、そのなかでの発表、議論、応答などを成績の判定基準とするが、場合によっては、こちらから授業内容にかかわるテーマを与え、レポートを課すこともある。									
【教科書】									
テキストはこちらでプリントを準備する。									
【参考書等】									
(参考書) ベンヤミン 『ベンヤミン・コレクション2』(ちくま学芸文庫)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	現代社会論 A Theory on Contemporary Societies IA	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 佐伯 啓思						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	水4	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
この講義では、「戦後日本」をいくつかの論点に即して考えてみたい。また、この講義で取り上げた論点についてこれに引き続き水5の演習で議論する予定。従って、できれば2コマ連続して出席してもらいたい。									
【授業計画と内容】									
「戦後日本」を次の諸点に即し、論じたい。 1. 「憲法」の問題 2. 安全保障と日米関係 3. 「戦争責任」と戦後の「ねじれ」 4. 成長の時代から脱成長の時代へ 5. 「日本の精神」のゆくえ 6. ニヒリズム化する現代日本									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
授業中に指示する。									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	文明構造論演習III B Seminar IIIB on Structure of Civilizations	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 道旗 泰三						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	月4	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
ドイツの思想家、文学者W・ベンヤミンの好エッセイ「物語作者」をドイツ語原典で味わいながら、「経験の衰滅」という観点から西洋近代のありようを批判的に検討する。									
【授業計画と内容】									
全19章のうち後半の10章程度を、毎回1章ほど読み進め、そのつど内容について議論を交わす。文学、芸術、歴史などの幅広い面での知識が必要なので、適宜そうした読書の案内も行う									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
出席を重視し、授業中の発表、議論、応答などを成績の判定基準とするが、場合によっては、こちらから授業内容にかかわるテーマを与え、レポートを課すこともある。									
【教科書】									
テキストはこちらでプリントを準備する。									
【参考書等】									
(参考書) ベンヤミン 『ベンヤミン・コレクション2』(ちくま学芸文庫)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	現代社会論 A Theory on Contemporary Societies IIA	担当者氏名	京都精華大学 専任講師 佐藤 一進						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	火1	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
冷戦構造の消滅によって「歴史の終わり」や「大きな物語の失墜」が説かれた現代世界は、9・11テロ以降、「テロとの戦い」に始まり金融資本主義の興亡やグローバル化の進展、それに反応して生じたナショナリズムの高揚など、重要な諸問題を抱えている。にもかかわらず、過去から現在を通して未来に至る明確な見通しとしての世界観は確立されないうまま、今日、世界の混迷の様相はいつそう深まっている。本講義では、現代を読み解くために必須となる文献をふまえた上で、この時代の本質を思想的に捉え、政治、経済、社会、文化にまつわる諸問題を総合的に展望しうる視座の獲得を目指す。									
【授業計画と内容】									
本講義では、以下のようなトピック一つにつき、1～2週での授業を行なう予定である。 1. 「歴史の終わり」と「文明の衝突」 9・11テロ以前と以後 2. A・コジェーブとG・W・F・ヘーゲルの歴史哲学 3. L・シュトラウスと「近代性の三つの波」 4. ネオコンとリベラル・デモクラシーの理念 5. グローバリゼーションとナショナリズム 6. 金融資本主義と<帝国> 7. ポスト産業社会とシミュレーション 「アウラ」なき現代美術 8. 政治哲学の復権 自由、正義、共同体									
【履修要件】									
予備知識は問わないが、社会科学に関する哲学的な関心を持つ人の履修が望ましい。現代社会論Bと併せての履修が望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
学期末の最終講義で論述試験を行なう。									
【教科書】									
使用しない 下記以外の参考書については講義中に紹介する。									
【参考書等】									
(参考書) 佐伯啓思・柴山桂太編 『現代社会論のキーワード』(ナカニシヤ出版) ISBN:4779503604 (現代社会論の主要なトピックをほぼ網羅した入門書。より広く認識を深められる。)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	現代社会論 B Theory on Contemporary Societies IIB	担当者氏名	京都精華大学 専任講師 佐藤 一進
配当学年	2-4回生	単位数	2
開講期	後期	曜時間	火1
授業形態	講義		
【授業の概要・目的】			
個人の自由が最も重要な理念とされ、情報通信技術の飛躍的進展によって瞬時の広範囲なコミュニケーションが可能となった現代において、国家と社会は、また人と人との関係はどのような変容を蒙っているのか。歴史や伝統は今日の国家と社会においてどのような意味を持ちうるのか。言い換えれば、現代に生きるわれわれはどのような「時間」の中に生きており、どのような「時間」を生きていくことが可能なのか。本講義では、このような「時間」の問題を、近代国家と市民社会、市場経済が生成し発展した西欧近代思想史の流れにおける主題として考察しつつ、いまなお現代社会の根本にある政治哲学的な課題として把握することを目指す。			
【授業計画と内容】			
本講義では、以下のようなトピック一つにつき、1～2週での授業を行なう予定である。			
1. 現代において「保守的であること」 M・オークショットの問題点			
2. ニヒリズムとしての現代社会 L・シュトラウスの疑念			
3. 共和主義と時間の政治学 H・アレントとJ・G・A・ボーコック			
4. 不滅の共和国 J・ハリントンの「古代の政治学」			
5. 主権国家の論理 T・ホブズの「近代の政治学」			
6. 市民社会と市場経済 18世紀イギリス政治経済学の思想的意義			
7. 保守主義の成立 E・パークの実践と思想			
8. 現代社会における「時間」と「政治」 ニヒリズムとの対峙			
【履修要件】			
予備知識は問わないが、社会科学に関する哲学的な関心を持つ人の履修が望ましい。現代社会論Aと併せての履修が望ましい。			
【成績評価の方法・基準】			
学期末の最終講義で論述試験を行なう。			
【教科書】			
使用しない			
【参考書等】			
(参考書) 授業中に紹介する			
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英語>	現代社会論演習 B Seminar on Theory on Contemporary Societies IIB	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 佐伯 啓思
配当学年	3,4回生	単位数	2
開講期	後期	曜時間	水5
授業形態	演習		
【授業の概要・目的】			
この講義の全体的なテーマは「ニヒリズムとしての現代社会」および「日本の価値(精神)をめぐって」というもので、これらの論点について学生諸君に報告してもらおう。また、卒論の予備報告も行ってもらう。			
【授業計画と内容】			
同上。			
【履修要件】			
特になし			
【成績評価の方法・基準】			
授業中に指示する			
【教科書】			
授業中に指示する			
【参考書等】			
(参考書) 授業中に紹介する			
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英語>	現代社会論演習 A Seminar on Theory on Contemporary Societies IIA	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 佐伯 啓思
配当学年	3,4回生	単位数	2
開講期	前期	曜時間	水5
授業形態	演習		
【授業の概要・目的】			
この講義は水4の「現代社会論」講義を受けて、その中で提示された論点について議論し、思考を深めたい。従って、水4の講義に出席してもらいたい。			
【授業計画と内容】			
「現代社会論 I A」を参照。			
【履修要件】			
特になし			
【成績評価の方法・基準】			
授業中に指示する。			
【教科書】			
授業中に指示する			
【参考書等】			
(参考書) 授業中に紹介する			
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英語>	多文化社会論II A Studies on Multicultural Society IIA	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 HAYASHI, Brian
配当学年	2-4回生	単位数	2
開講期	前期	曜時間	水4
授業形態	講義		
【授業の概要・目的】			
The aim of this course for the spring semester is to provide you with a background into the social, cultural, and political history of the United States, focusing on the society that emerged from its Third World-like condition to becoming a global power on the world stage by 1920. To explain why the United States of America became a world power while at the same time transforming itself into a nation with many "subnations," requires that we look at not only its political and economic roots, but its cultural and social dimensions as well. By "cultural" and "social," I mean not the great literary writers but how average Americans understood the world they lived in through the lens of class, gender, "race," religion, and religion.			
【授業計画と内容】			
The first semester focuses on the beginnings of the United States as a nation, but also pays attention to other nation-states and colonies in existence on the North American continent such as the Iroquois Confederacy, the Polynesian Kingdom, and Spanish California. The course covers the entire nineteenth century and concludes in 1920, the turning point in the formation of modern America. The course is designed to have both student oral participation in class discussions based on the readings, and lectures which sometimes complement and at other times contradict the readings.			
【履修要件】			
特になし			
【成績評価の方法・基準】			
Your grade is based on three things: Oral Participation in class: I fully expect you to participate in the discussions, usually at the beginning of each lecture, on the subject to be covered that week.  Weekly Readings: Since the course is a combined SoJin and Bungakubu, with a handful of KUINEP students, the readings are divided into two categories and students are allowed to choose either sets of weekly readings. You should come to each class prepared to discuss the readings, as your grade is based on this.  Written report at the end of the semester: Each student is expected to write a report, roughly 5-7 pages in length, comparing a topic covered in the lectures, with a similar one for another country. This paper is due at the end of exam period and should be turned in to my office or through the email system.			
【教科書】			
Your readings will all be offprints of various articles and books. However, if you are completely unfamiliar with American history, you should consult, as reference the following books:  紀平、「アメリカ史」(1999) or Mary Beth Norton, A People and a Nation			
【参考書等】			
(参考書)			
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))			
You can always see me before or after class. I am on campus every day of the regular week.  オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英語>	多文化社会論II B Studies on Multicultural Society IIB	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 HAYASHI, Brian						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	水4	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
This course is a continuation of the spring semester course on American History. Its aim is to provide you with a background into the social, cultural, and political history of the United States, focusing on the society that emerged from its prominence as a world power after World War I to its world power status in a multipolar world by the arrival of the Bush Dynasty in the 1990s. To explain why the United States of America became a weakened world power, deeply divided along racial, class, and ethnic lines requires that we look at not only its political and economic roots, but its cultural and social dimensions as well. By "cultural" and "social," I mean not the great literary writers but how average Americans understood the world they lived in through the lens of class, gender, "race," religion, and region.									
【授業計画と内容】									
The course begins after the end of World War I with the United States entering the world stage as a new superpower allied to the old superpower Great Britain. It continues through the Great Depression, World War II, and the Cold War on to the 2000s with the rise of the neo-conservatives. Though the course will have lectures each week, students are also expected to participate orally in class discussions of each week's readings at the beginning of class. During these discussions, I will try to get you to think comparatively on a given topic.									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
Your grade is based on three things: Oral participation in class: You should be prepared to discuss the assigned topic for that week. Each topic is designed so that you should be able to discuss most if not all topics. Part of your grade is based on this discussion. Weekly readings: You should demonstrate both in the class discussions and in your written report, a familiarity with the weekly readings. I expect you to know them before each class. Written report: A paper, comparing a weekly topic discussed in class with a similar phenomenon in another country, in about five to seven pages, is required at the end of the examination period. Further guidance on the exact style, and other requirements will be given in class.									
【教科書】									
There are no textbooks per se, but you will have to make your own copies of the offprints I assigned and placed in 現代文化学系共同研究室Room 819 of the 文学部新館.									
【参考書等】									
(参考書) 紀平 『アメリカ史』(山川出版社) Mary Beth Norton 『A People and a Nation』(Houghton Mifflin)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	多文化社会論演習II B Studies on Multicultural Societies IIB	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 前川 玲子						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	月2	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
この授業では、アメリカを変えた3冊の本と呼ばれるRachel CarsonのSilent Spring (1962), Michael HarringtonのThe Other America (1962), Betty FriedanのThe Feminine Mystique (1963)をとりあげる。いずれも1960年代初頭出版されたこれらの著書は、その後のアメリカの環境保護運動、貧困との戦い、女性解放運動に大きな影響を与えたといわれている。作品を精読し、かつ作者の伝記や作品誕生の背景も考察していきたい。									
【授業計画と内容】									
最初の授業は、受講予定者のための説明にあて、最後の授業は全体のまとめをする。各作品に約4週をあてる。できるだけ原語で読むことを奨励するが、長い作品の場合は、翻訳を使用する。 週ごとの詳しいスケジュールは、最初の授業で予定表を配布する。毎回、学生に口頭発表をさせ、その他の学生にも英語の質問などをして、よんで来たことを確認する。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポート、口頭発表、平常点で総合的に判断する。 授業への出席は基本的に3分の2程度が必要である。 平常点のなかには、出席のほか、授業内での発言、英語の質問への解答、小レポートなどが含まれる。									
【教科書】									
Rachel Carson 『Silent Spring』(Penguin) Michael Harrington 『The Other America』 Betty Friedan 『The Feminine Mystique』(あるいはその日本語翻訳版)									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する 本の購入などについては、最初の授業で指示する。 (その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) 授業にできる前提としてテキストを読んでいることは当然である。 相談にはいつでも応じる。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	多文化社会論演習IIA Studies on Multicultural Societies IIA	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 前川 玲子						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	月2	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
この授業では、アメリカの外交史の古典の一つであるGeorge KennanのAmerican Diplomacyを英語で精読し、米西戦争から二つの世界大戦を経て冷戦にいたる時代までのアメリカの外交の背景にある考え方を見ていく。国際政治の力学を見ていくというよりは、知識人としてのKennanがどのようにアメリカの外交史を解釈しているのかを考察していく。									
【授業計画と内容】									
テキストは、10章からなっているので前書きをあわせて、基本的に一回の授業で一章(約20ページ)すすむことになる。 最初の授業は授業の説明、最後の授業はまとめにあてる。演習で少人数になると思うので、一人一回ないし2回レポーターをやらせてもらう。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポート、口頭発表、平常点で総合的に判断する。 授業への出席は基本的に3分の2程度が必要である。 平常点のなかには、出席のほか、授業内での発言、英語の質問への解答、小レポートなどが含まれる。									
【教科書】									
George F. Kennan 『American Diplomacy (Expanded Edition)』(University of Chicago Press)									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) 授業の前後、あるいは学生の希望によって研究室での相談に応じる。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	国際関係論 A International Relations IIA	担当者氏名	大阪大学 教授 真山 全						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	水4	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
国際関係を法的側面から分析するのに必要な国際法の知見を提供することを目的とし、国際法の主体及び法源、ならびに属地的な管轄権配分を中心に論じる。									
【授業計画と内容】									
1. 国際法の法的性質と基本構造、2. 国際法の主体、3. 国際法と国内法の関係、4. 国家・政府の承認、5. 国家の権利義務、6. 国家領域、7. 海洋法、8. 航空宇宙法、9. 南極その他									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
主に定期試験により評価する。									
【教科書】									
杉原高嶺他 『現代国際法講義』(有斐閣)(本教科書は、主に予習と復習のために指定した。) 松井芳郎編 『ベーシック条約集』(東信堂)(条約集は、いずれか一でよい。) 奥脇直也編 『国際条約集』(有斐閣)(条約集は、いずれか一でよい。)									
【参考書等】									
(参考書)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	国際関係論 B International Relations IIB	担当者氏名	大阪大学 教授 真山 全
配当学年	2-4回生	単位数	2
開講期	後期	曜時間	水5
[授業の概要・目的]			
国際関係を法的側面から分析するのに必要な国際法の知見を提供することを目的とし、国際関係論IIAに続く分野として、人的管轄権及び人権保障並びに条約法を中心に論じる。			
[授業計画と内容]			
1. 国際関係における国家機関、2. 国籍、3. 国際的人権保障、4. 個人の国際犯罪、5. 条約法			
[履修要件]			
特になし			
[成績評価の方法・基準]			
主に定期試験により評価する。			
[教科書]			
杉原高嶺他 『現代国際法講義』(有斐閣)(本教科書は、主に予習と復習のために指定した。) 松井芳郎編 『ベーシック条約集』(東信堂)(条約集はいずれか一でよい。) 奥脇直也編 『国際条約集』(有斐閣)(条約集は、いずれか一でよい。)			
[参考書等]			
(参考書)			
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

国際関係論IV A (2)
-----
ジョン・ウィリアムソン 『国際通貨制度の選択』(岩波書店) 桜井公人・小野塚佳光編著 『グローバル化の政治経済学』(晃洋書房) ジェフリー・A・フリーデン 『国際金融の政治学』(同文館)
(関連URL)
<a href="http://www1.doshisha.ac.jp/~yonozuka/">http://www1.doshisha.ac.jp/~yonozuka/</a> (「IPEの果樹園」)
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英語>	国際関係論IV A International Relations IVA	担当者氏名	同志社大学経済学部 教授 小野塚 佳光
配当学年	2-4回生	単位数	2
開講期	前期	曜時間	火2
[授業の概要・目的]			
人間が社会的に示す高度な文明や物質の生産力は、しばしば、破壊的な形で示されてきました。もし自分が、自由で、しかも豊かでありたい、と思えば、世界が善意と非暴力的な交渉によって社会秩序を調整できなければなりません。国際政治経済学(IPE)は、人間の社会に一定の政治経済秩序がどのように形成されるのか? どうすればもっと良い秩序に転換・調整できるのか? という問題を考えます。 すなわち、本講義のテーマは、ガバナンスの形成と革新です。 前期は歴史的経験から考察します。文明と権力の成立、近代国家の誕生、地理上の発見、産業革命・工業化の波及、イギリス帝国主義の世界支配や、将来の世界秩序を考察します。私のHPである「IPEの果樹園」を参考にして下さい。「今週のReview」として、現在進行中のIPEに関する問題を要約・コメントしています。			
[授業計画と内容]			
1. 概論 1 国際対立の例、国際協調の模索 2. 概論 2 国際秩序を築くものは何か? 3. メソポタミア文明、国家の起源 4. 地理上の発見と近代国家 5. 重商主義国家の競争 6. 市場による空間編成 7. 資本主義システムの長期循環 8. イギリス産業革命 9. 後発工業化の波及 10. 農産物供給圏と労働力 11. 危機と周辺の再編成 12. 19世紀型国際秩序の崩壊 13. アメリカによる戦後秩序 14. 国際通貨と国内政治 15. 予備、もしくは、質疑			
[履修要件]			
特になし			
[成績評価の方法・基準]			
期末試験で評価する。出席、小テスト、任意レポートは平常点として加点する。			
[教科書]			
小野塚佳光 『グローバルゼーションを生きる 国際政治経済学と想像力』(萌書房)			
[参考書等]			
(参考書) ジョン・ラギー 『平和を勝ち取る』(岩波書店) ジョン・ウィリアムソン 『国際通貨制度の選択』(岩波書店) Frieden, Lake & Schultz 『World Politics』(Norton)			
-----			
国際関係論IV A (2)へ続く			

授業科目名 <英語>	国際関係論IV B International Relations IVB	担当者氏名	同志社大学経済学部 教授 小野塚 佳光
配当学年	2-4回生	単位数	2
開講期	後期	曜時間	火2
[授業の概要・目的]			
国際政治経済学(IPE)は、人間の社会に一定の政治経済秩序がどのように形成されるのか? どうすればもっと良い秩序に転換・調整できるのか? という問題を考えます。 本講義のテーマは、現代におけるガバナンスの革新です。 政治指導者が直面するグローバル・イシューを考えます。主要な領域として、イデオロギー、安全保障、貿易・投資、国際通貨・金融、開発・移民問題などのグローバル・ガバナンス、を分けて議論します。 ガバナンスをめぐって、理論と歴史から説明します。私のHPである「IPEの果樹園」を参考にして下さい。「今週のReview」として、現在進行中のIPEに関連する問題を要約・コメントしています。講義で取り上げた事例やキー・ワードをHPで検索できます。			
[授業計画と内容]			
1. 概論 ガバナンスの重要性 2. 三つの基本イデオロギー 3. 安全保障 戦争と帝国 4. 新しい戦争 テロ、破たん国家、国際介入 5. 貿易と投資 6. 保護主義の政治経済学 7. 多国籍企業 8. 為替レートと国際通貨制度 9. 共通通貨と最適通貨圏 10. 通貨危機と改革論争 11. 国際レゾーム 12. 貧困 開発と移民 13. グローバル国家 14. 予備、もしくは、質疑			
[履修要件]			
特になし			
[成績評価の方法・基準]			
期末試験で評価する。出席、小テスト、任意レポートで加点する。			
[教科書]			
小野塚佳光 『グローバルゼーションを生きる 国際政治経済学と想像力』(萌書房)			
[参考書等]			
(参考書) ジョン・ラギー 『平和を勝ち取る』(岩波書店) ジョン・ウィリアムソン 『国際通貨制度の選択』(岩波書店) Frieden, Lake & Schultz 『World Politics』(Norton)			
-----			
国際関係論IV B (2)へ続く			

国際関係論IV B (2)	
-----	
(関連URL)	
http://www1.doshisha.ac.jp/~yonzuka/IPEの果樹園	
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))	
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。	

授業科目名 <英訳>	地域研究基礎ゼミナールB Proseminar on Area Studies B	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 中西 輝政						
配当学年	1-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	水4	授業形態	ゼミナール
【授業の概要・目的】									
世界の各地域のいずれかについて、主として国際政治と文明の視点から取り上げる。									
【授業計画と内容】									
主として、特定の地域(時には国家)に関する一つのテキスト(外国語であることが多い)を選んで、予め決められた担当者が、担当部分について報告を行い、その後、質疑・討論へ入ってゆく。									
【履修要件】									
外国語のテキスト(主として英語)を取り上げて濃密な報告が必要なので、その点注意して欲しい。									
【成績評価の方法・基準】									
出席と報告、その他による。									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
上記履修要件に注意のこと。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	地域研究基礎ゼミナールA Proseminar on Area Studies A	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 中西 輝政						
配当学年	1-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	水4	授業形態	ゼミナール
【授業の概要・目的】									
世界の各地域について、主として国際政治と文明の観点から取り上げる。									
【授業計画と内容】									
特定の地域や国家について、まとまった研究書をテキスト(外国語であることが多い)として選び、予め担当者を決めて担当部分の報告を行い、質疑・討論へと展開することとする。									
【履修要件】									
外国語のテキスト(主として地域・国家に関わる)を読み進むので、十分な予習時間の余裕が取れること。									
【成績評価の方法・基準】									
出席・報告を主として評価する。									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
上記の履修要件に注意すること。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	国際関係論演習IA Seminar on Law of International Relations IA	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 中西 輝政						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	金4	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
授業中に説明する。									
【授業計画と内容】									
国際政治という現象について、その本質に関わる問題を、演習参加者の関心を踏まえて取り上げることにしたい。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
授業中に指示する。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	国際関係論演習IB Seminar on Law of International Relations IB			担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 中西 輝政				
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	金4	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
授業中に説明する。									
【授業計画と内容】									
国際政治という現象について、その本質に関わる問題を、演習参加者の関心を踏まえて取り上げることにしたい。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
授業中に指示する。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	契約関係原理論 Principles of Contract-Relation			担当者氏名	大阪市立大学 教授 高橋 眞				
配当学年	1-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	木4	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
契約関係は、異なる立場の人が取引を通じて経済活動を進めてゆくための重要な手段である。その関係を成立させ、維持するルールとしての民法の体系は、社会の中で人と人とが交渉し、ルールを作ってゆく活動一般に広く応用することができる。この授業では、民法(財産法)の基本的な概念を理解することを目的とする。									
【授業計画と内容】									
1.立法と判例 条文解釈の意味 2.権利の主体 人と法人 3.代理 行為可能性の拡大と代理権限の問題 4.法律行為 真意に反する意思表示の問題 5.不動産所有権とその公示 物権変動の対抗の問題 6.不動産登記 登記の記載内容から何がわかるか 7.動産取引の信頼保護 即時取得 付:不動産の場合は? 8.債務の弁済と信頼保護 9.時効 消滅時効と取得時効 10.契約債務の実現が挫折した場合 危険負担、債務不履行、担保責任 11.契約の自由と社会的枠付け									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
期末試験による。									
【教科書】									
使用しない プリント配布									
【参考書等】									
(参考書) 前田達明『民法のなぜがわかる』(有斐閣)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
授業中に疑問が出たら、その場で質問してください。  オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	公法原理論 Principles of Public Law			担当者氏名	甲南大学法学部 准教授 櫻井 智章				
配当学年	1-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	金4	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
公法(憲法及び行政法)の基礎、基本的な考え方について講義する。 基本的な仕組み、重要な概念、重要判例などの基礎知識の習得とともに、「公法的思考」を身につけることを目的とする。 公務員試験等に必要最低限度の情報を伝えるようにも配慮する予定である。									
【授業計画と内容】									
第1回 ガイダンス、公法とは何か 第2回 憲法と立憲主義 第3回 国会 第4回 内閣と行政各部 第5回 議院内閣制 第6回 裁判所 第7回 違憲審査権 第8回 憲法上の権利 第9回 行政法の基礎 第10・11回 行政作用法 第12・13回 行政救済法 第14回 予備日 各回は相互に関連しているので注意すること。									
【履修要件】									
法学に関する入門科目を履修済み又は履修中であることが望ましい。 また、高校レベルの社会科(日本史、世界史、公民)の知識を復習しておくこと。									
【成績評価の方法・基準】									
期末試験の成績による。詳細は第1回講義時に説明する。									
【教科書】									
使用しない 毎回レジュメを配布する。									
【参考書等】									
(参考書) 小泉洋一=島田茂編『公法入門』(法律文化社)(第1回講義時に説明する。)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	国家・社会法システム論 A Law and Social System IA			担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 西村 稔				
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	月4	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
近代日本の道徳思想を、教養思想との関連で考察するが、その前提として近代ドイツの法と道徳との関連、ヨーロッパの「文明化」なども論じる。									
【授業計画と内容】									
主要テーマ 1.カントにおける法と道徳 2.「習俗」の歴史 3.ウェーバーの「作法」論 4.N.エリアスの文明化論と日本の文明化 5.福澤諭吉の道徳論 6.新渡戸稲造の道徳論 7.夏目漱石の道徳論 8.阿部次郎の教養思想 9.和辻哲郎の教養思想									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポートを予定しているが、出席も考慮する。レポートの評価基準は、どの程度文献をこなし、また単なる事実の記述に終わらず何らかの自分なりのコンセプトをもっているかどうかにある。									
【教科書】									
未定									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	国家・社会法システム論IIA Law and Social System IIA	担当者氏名	地球環境学 准教授 小畑 史子
配当学年	2-4年生	単位数	2
開講期	前期	曜時限	水5
授業形態	講義		
【授業の概要・目的】			
働くことに関連する重要な判決を毎週1件取り上げて、判決の原文を通読することにより、現実職場で生起する事件とそれに関する法的判断を理解し、雇用社会の在り方について論じる力を涵養する。			
【授業計画と内容】			
第1週 イントロダクション、第2週 ケンウッド事件・最一小判平12・1・28、第3週 香川県(中学校教員)事件・最一小判平12・12・19、第4週 みちのく銀行事件・最一小判平12・9・7、第5週 三菱重工業長崎造船所事件・最一小判平12・3・9、第6週 NTT(年休)事件・最一小判平12・3・31、第7週 F製薬事件・東京地判平12・8・29、第8週 愛知県教委(減給処分)事件・最一小判平13・4・26、第9週 T工業(HIV解雇)事件・千葉地判平12・6・12、第10週 横浜南労基署長(東京海上横浜支店)事件・最一小判平12・7・17、第11週 電通事件・最一小判平12・3・24、第12週 多治見労基署長(日東製陶)事件・岐阜地判平13・11・1、第13週 能代労基署長(日動建設)事件・秋田地判平12・11・10、第14週 新宿労基署長(映画撮影技師)事件・東京地判平13・1・25、第15週 まとめ、の順に授業を進める予定である。各事件で問題とされたテーマにつき解説を加えた後、判決の原文を全員で確認し、判決の内容や結論につきディスカッションする。			
【履修要件】			
特になし			
【成績評価の方法・基準】			
期末レポートによる。			
【教科書】			
毎週、その週に取り上げる判決をプリントアウトし持参すること。			
【参考書等】			
(参考書) 小畑史子『最新労働基準判例解説』(日本労務研究会)ISBN:4-88968-064-0			
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))			
判決の原文を読むことに慣れ、授業外でも独力で読みこなせるよう研鑽を積んでください。オフィスアワーは特に定めません。問い合わせはobatafumi@a0016051.mbox.media.kyoto-u.ac.jpにメールをお願いします。			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英語>	国家・社会法システム論IIIA Law and Institution of Nation and Society IIIA	担当者氏名	人間・環境学 講師 見平 典
配当学年	2-4年生	単位数	2
開講期	前期	曜時限	月4
授業形態	講義		
【授業の概要・目的】			
法システム、特に司法システムの現実の作動について、学際的な方法を通して理解することを目標とする。			
【授業計画と内容】			
【内容】 日本ではこれまで司法の役割は限定的であったが、社会の「法化」の進展や司法制度改革の実現などにより、司法の果たす役割は急速に拡大している。本講義(IIIA・IIIB)では、司法(特に日本とアメリカの司法)の現実の作動を実証的に分析した司法政治学や法社会学といった学際的な諸研究の成果を参照しながら、受講生が将来法システムの設計・運用に従事する際に必要となる知識や視点を提供したい。 IIIAでは、具体的には以下の内容を予定している。 第1章 司法システムへの学際的アプローチ 第2章 日米の司法制度 第3章 司法的政策形成			
【留意点】 本講義は、上記のように、法現象の学際的な分析(主として司法政治学的・法社会的分析)を中心としているため、法解釈学的な分析については、全学共通科目「憲法(基本原則・統治機構)」「憲法(人権)」をはじめとする実定法科目を受講して下さい。			
【履修要件】			
法学系科目を履修済み、または履修中であることが望ましい。			
【成績評価の方法・基準】			
定期試験の結果による。			
【教科書】			
使用しない			
【参考書等】			
(参考書) 授業中に紹介する			
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))			
将来、法システムの設計や運用に関わる職種(立法・行政・司法に関わる職種)を志している方はもちろん、様々なバックグラウンドの方を歓迎します。なお、以上は予定であり、受講状況を踏まえ、変更する場合があります。			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英語>	国家・社会法システム論IIB Law and Social System IIB	担当者氏名	地球環境学 准教授 小畑 史子
配当学年	2-4年生	単位数	2
開講期	後期	曜時限	水5
授業形態	講義		
【授業の概要・目的】			
働くことに関する現代的な問題を浮き彫りにした重要な判決の原文を通読することにより、法解釈の手法を習得し、また雇用社会を展望する力を涵養する。			
【授業計画と内容】			
第1週 イントロダクション、第2週 日本アイビック(加給金等請求)事件・名古屋地判平15・2・28、第3週 大星ビル管理事件・最一小判平14・2・28、第4週 育英舎事件・札幌地判平14・4・18、第5週 ネスレ・ジャパン・ホールディング事件・神戸地判平15・11・14、第6週 新日本製鐵(日鐵運輸)事件・最一小判平15・4・18、第7週 オリバス光学事件・東京高判平13・5・22、第8週 M製作所(労働安瀬婦員西方違反被告)事件・東京高判平14・3・22、第9週 和歌山労基署長(NTT和歌山設備建設センター)事件・和歌山地判平15・7・22、第10週 地災基金岩手県支部長(平田小学校教諭)事件・仙台高判平14・12・18、第11週 川崎市水道局(いじめ自殺)事件・横浜地判平14・6・27、第12週 宮崎信用金庫事件・福岡高判平14・7・2、第13週 最近の重要判決、第14週 最近の重要判決、第15週 まとめ、の順に授業を進める予定である。各週の事件で問題となったテーマにつき解説を加えた後、判決の原文を全員で確認し、判決の内容や結論につきディスカッションする。			
【履修要件】			
特になし			
【成績評価の方法・基準】			
期末レポートによる。			
【教科書】			
毎週、その週に取り上げる判決をプリントアウトし、持参すること。			
【参考書等】			
(参考書) 小畑史子『最新労働基準判例解説第二集』(日本労務研究会)ISBN:4-88968-064-0			
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))			
判決の原文に慣れ、授業外でも独力で読みこなせるよう研鑽を積んでください。オフィスアワーは特に定めません。問い合わせはobatafumi@a0016051.mbox.media.kyoto-u.ac.jpをお願いします。			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英語>	国家・社会法システム論IIIB Law and Institution of Nation and Society IIIB	担当者氏名	人間・環境学 講師 見平 典
配当学年	2-4年生	単位数	2
開講期	後期	曜時限	月4
授業形態	講義		
【授業の概要・目的】			
法システム、特に司法システムの現実の作動について、学際的な方法を通して理解することを目標とする。			
【授業計画と内容】			
【内容】 日本ではこれまで司法の役割は限定的であったが、社会の「法化」の進展や司法制度改革の実現などにより、司法の果たす役割は急速に拡大している。本講義(IIIA・IIIB)では、司法(特に日本とアメリカの司法)の現実の作動を実証的に分析した司法政治学や法社会学といった学際的な諸研究の成果を参照しながら、受講生が将来法システムの設計・運用に従事する際に必要となる知識や視点を提供したい。 IIIBでは、具体的には以下の内容を予定している。 第4章 司法行動研究 第5章 裁判の社会的効果 第6章 司法哲学			
【留意点】 本講義は、上記のように、法現象の学際的な分析(主として司法政治学的・法社会的分析)を中心としているため、法解釈学的な分析については、全学共通科目「憲法(基本原則・統治機構)」「憲法(人権)」をはじめとする実定法科目を受講して下さい。			
【履修要件】			
法学系科目を履修済み、または履修中であることが望ましい。			
【成績評価の方法・基準】			
定期試験の結果による。			
【教科書】			
使用しない			
【参考書等】			
(参考書) 授業中に紹介する			
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))			
将来、法システムの設計や運用に関わる職種(立法・行政・司法に関わる職種)を志している方はもちろん、様々なバックグラウンドの方を歓迎します。なお、以上は予定であり、受講状況を踏まえ、変更する場合があります。			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英訳>	国家・社会法システム論演習IA Seminar on Law and Social System IA	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 西村 稔						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	火5	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
近代ヨーロッパの国家思想・法思想を考察することによって、現代の国家・法システムの理解を高める。受講生によっては、日本の近代思想も対象に含める。									
【授業計画と内容】									
ヨーロッパの国家・法思想に関する内外の文献を講読し、可能な限り隣接領域にも射程を広げる。具体的なテーマやテキストは受講者によって決める。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
出席、報告内容による									
【教科書】									
未定									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	国家・社会法システム論演習IIA Seminar on Law and Social System IIA	担当者氏名	地球環境学堂 准教授 小畑 史子						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	木5	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
働くことに関して職場で生起する様々な問題を、法律学的に解決する方法を検討し、雇用社会の在り方や国家の役割を議論する。									
【授業計画と内容】									
第一回目に毎週の発表担当者を決める。発表者は担当する週の回の前半45分に自分の選んだテーマにつき発表を行う。後半の45分は、その発表をもとに全員でディスカッションを行う。テーマは、働くことに関する法律を中心とした国家・社会法システムに関する項目の中から、担当者が自由に選択することとする。たとえば、最低賃金法改正や過労死の業務上外認定の基準、リストラ解雇の効力、労働者派遣法の課題、いわゆる名ばかり管理職問題、職務発明の対価、留学費用の返還請求等のテーマが考えられる。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点による。									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
ゼミはゼミ員全員で作りに上げていくものです。授業外でも、新聞や判例集などで伝達される社会問題の法的解決につき興味を持ってキャッチするよう心がけてください。オフィスアワーは特に定めません。問い合わせはobatafumi@a0016051.mbox.media.kyoto-u.ac.jpまでメールをお願いします。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	国家・社会法システム論演習IB Seminar on Law and Social System IB	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 西村 稔						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	火5	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
近代日本の国家思想・法思想を考察することによって、現代の国家・法システムの理解を高める。場合によっては、近代欧米の思想も対象に入れる。									
【授業計画と内容】									
近代日本の国家・法思想に関する内外の文献を講読し、可能な限り隣接領域にも射程を広げる。具体的なテーマやテキストは受講者によって決める。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
出席と報告内容による									
【教科書】									
未定									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	国家・社会法システム論演習IIB Seminar on Law and Social System IIB	担当者氏名	地球環境学堂 准教授 小畑 史子						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	木5	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
働くことに関して職場で生起する様々な問題を法律学的に解決する方法を検討し、雇用社会の在り方や国家の役割について議論する。									
【授業計画と内容】									
第一回目に、各週の発表担当者を決定する。各週の発表担当者は、ゼミの前半において、働くことに関する法律を中心とした国家・社会法システムについての項目の中から自由に選んだテーマにつき発表を行う。ゼミの後半では、その発表について全員でディスカッションを行う。たとえば、労働契約法制定の意義、間接差別の法理、CSR(企業の社会的責任)、IFRS導入を巡る問題、精神疾患の業務上外認定、育児休業法の改正等のテーマが考えられる。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点による。									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	国家・社会法システム論演習IIIA Seminar on Law and Social System IIIA	担当者氏名	人間・環境学研究所 講師 見平 典						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	月5	授業形態	演習
【授業の概要・目的】 憲法現象を多角的な視点から認識し、評価できる能力を獲得することを目標とする。									
【授業計画と内容】 【内容 - IIIA・IIIBに共通】 本演習では、憲法現象に多角的に接近できるよう、憲法現象の法学的・政治学的な分析を、特に後者を中心に行う。具体的には、アメリカの憲法政治について書かれた英語文献を、日本との比較を意識しながら講読する。政治化の進んだアメリカの司法システムは、様々な点において日本と対照的であるため、アメリカの司法システムを理解することは、日本のシステムを理解し、オルタナティブを構想していく上でも有益である。 【内容 - IIIA】 前期（IIIA）は、憲法政治について基礎となる知識と視点を獲得するため、アメリカの大学で用いられている、憲法政治の導入的な教科書を講読する。 【演習の形式】 各回とも、事前に指名された担当者の報告後、全員が参加して議論を行う。 憲法現象を多角的な視点から認識し、評価できる能力を獲得することを目標とする。									
【履修要件】 法学系科目を履修済み、または履修中であることが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】 出席率、報告内容、議論への貢献度に基づいて評価する。									
【教科書】 授業中に指示する									
【参考書等】 （参考書） 授業中に紹介する  （その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） 将来、法システムの設計や運用に関わる職種（立法・行政・司法に関わる職種）を志している方はもちろん、様々なバックグラウンドの方を歓迎します。なお、以上は予定であり、受講人数や受講生の関心・背景知識などに応じて変更する場合があります。  オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	社会経済システム論IA Theory of Socio-Economic System IA	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 間宮 陽介						
配当学年	1-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	水3	授業形態	講義
【授業の概要・目的】 日本経済の現状と経済制度を学ぶ。ただし、単なる現状紹介ではなく、経済理論との接点を考えながら、講義を進める。									
【授業計画と内容】 1. 企業とは何か 2. 企業会計 3. 企業の資金調達 4. 証券市場 5. 利子と利子率 6. 金融政策 7. 貨幣経済の理論 8. 金融危機の構図 9. 財政の現状 10. 国際経済の現状									
【履修要件】 特になし									
【成績評価の方法・基準】 定期試験による。									
【教科書】 使用しない 毎回、出来るだけ詳しいレジュメ（と資料）を配布する。									
【参考書等】 （参考書） 授業中に紹介する  （その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） 木曜4限をオフィスアワーにしているの、質問・相談のある人はアポイントをとった上で、間宮研究室に来ること。  オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	国家・社会法システム論演習IIIB Seminar on Law and Social System IB	担当者氏名	人間・環境学研究所 講師 見平 典						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	月5	授業形態	演習
【授業の概要・目的】 憲法現象を多角的な視点から認識し、評価できる能力を獲得することを目標とする。									
【授業計画と内容】 【内容 - IIIA・IIIBに共通】 本演習では、憲法現象に多角的に接近できるよう、憲法現象の法学的・政治学的な分析を、特に後者を中心に行う。具体的には、アメリカの憲法政治について書かれた英語文献を、日本との比較を意識しながら講読する。政治化の進んだアメリカの司法システムは、様々な点において日本と対照的であるため、アメリカの司法システムを理解することは、日本のシステムを理解し、オルタナティブを構想していく上でも有益である。 【内容 - IIIB】 後期（IIIB）は、憲法学の重要な争点について、憲法政治的な視点から接近した文献を講読し、憲法現象について理解を深めると共に、学際的な方法に親しむ。 【演習の形式】 各回とも、事前に指名された担当者の報告後、全員が参加して議論を行う。 憲法現象を多角的な視点から認識し、評価できる能力を獲得することを目標とする。									
【履修要件】 法学系科目を履修済み、または履修中であることが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】 出席率、報告内容、議論への貢献度に基づいて評価する。									
【教科書】 授業中に指示する									
【参考書等】 （参考書） 授業中に紹介する  （その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） 将来、法システムの設計や運用に関わる職種（立法・行政・司法に関わる職種）を志している方はもちろん、様々なバックグラウンドの方を歓迎します。なお、以上は予定であり、受講人数や受講生の関心・背景知識などに応じて変更する場合があります。  オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	社会経済システム論IA Theory of Socio-Economic System IA	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 間宮 陽介						
配当学年	1-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	木3	授業形態	講義
【授業の概要・目的】 日本経済の現状と経済制度を学ぶ。ただし、単なる現状紹介ではなく、経済理論との接点を考えながら、講義を進める。									
【授業計画と内容】 1. 企業とは何か 2. 企業会計 3. 企業の資金調達 4. 証券市場 5. 利子と利子率 6. 金融政策 7. 貨幣経済の理論 8. 金融危機の構図 9. 財政の現状 10. 国際経済の現状									
【履修要件】 特になし									
【成績評価の方法・基準】 定期試験による。									
【教科書】 使用しない 毎回、出来るだけ詳しいレジュメ（と資料）を配布する。									
【参考書等】 （参考書） 授業中に紹介する  （その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） 木曜4限をオフィスアワーにしているの、質問・相談のある人はアポイントをとった上で、間宮研究室に来ること。  オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	社会経済システム論IB Theory of Socio-Economic System IB	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 間宮 陽介						
配当学年	1-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	水3	授業形態	講義
【授業の概要・目的】 経済学の歴史の中にケインズの経済理論（マクロ経済学）を位置づけ、ケインズ理論を通して現代の社会・経済システムの成り立ちを考える。									
【授業計画と内容】 講義の構成は次の通り。 1. マクロ経済学の考え方 2. 労働市場の分析 3. 消費 4. 投資 5. 貨幣 6. 利子の理論 7. 総需要と総供給 8. 市場の均衡と不均衡 9. 財政と金融 10. 貿易と国際経済									
【履修要件】 「社会経済システム論ⅠA」をとっておくことが望ましい（必須ではない）。									
【成績評価の方法・基準】 期末試験によって評価する。									
【教科書】 使用しない 毎回、レジュメを配布する。									
【参考書等】 （参考書） 授業中に紹介する  （その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） 木曜4限をオフィスアワーに定めているので、質問・相談のある人はアポイントをとった上で、間宮研究室に来ること。  オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	社会経済システム論ⅢA Theory of Socio-Economic System IIIA	担当者氏名	人間・環境学研究所 准教授 大黒 弘慈						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	火5	授業形態	講義
【授業の概要・目的】 現代社会の変容を捉えるためには、迂遠に見えても理論的な分析基準をもつことが不可欠である。ここでは資本制システムの根底をなす原理を、方法論的、理論的、思想史的側面から多角的に検討する。経済学の基礎的ディシプリンの習得を目指すと同時に、資本主義の現代的展開をも広く射程に収める。									
【授業計画と内容】 以下のような課題について、1課題あたり1～2週の授業をする予定である。あるいは年度に応じて2～3の課題を集中的に取り上げることもある。 1. 経済学の方法（経済学の目標、経済学の方法、原理・段階・現状分析） 2. 商品（価値形態論、交換過程論、物象化論） 3. 貨幣（価値尺度、流通手段、蓄積貨幣） 4. 資本（商人資本、金貨資本、産業資本） 5. 資本の生産過程（労働・生産過程、価値形成・増殖過程、生産方法の発展） 6. 資本の流通過程（資本循環と流通費用、資本回転、剰余価値の流通） 7. 資本の再生産過程（単純再生産、蓄積の現実的過程、再生産表式） 8. 利潤（剰余価値率の利潤率への転化、一般的利潤率、利潤率低下の法則） 9. 地代（差額地代第一形態、第二形態、絶対地代） 10. 利子（貸付資本、商業資本、利子生み資本）									
【履修要件】 社会経済システム論 Bを履修することが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】 平常点と年度末のレポート。									
【教科書】 マルクス『資本論』（国民文庫）									
【参考書等】 （参考書） 大黒弘慈『貨幣と信用』（東京大学出版会）ISBN:4-13-040172-6  （その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） daikoku@takeuchi.mbox.media.kyoto-u.ac.jp  オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	社会経済システム論IB Theory of Socio-Economic System IB	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 間宮 陽介						
配当学年	1-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	木3	授業形態	講義
【授業の概要・目的】 経済学の歴史の中にケインズの経済理論（マクロ経済学）を位置づけ、ケインズ理論を通して現代の社会・経済システムの成り立ちを考える。									
【授業計画と内容】 講義の構成は次の通り。 1. マクロ経済学の考え方 2. 労働市場の分析 3. 消費 4. 投資 5. 貨幣 6. 利子の理論 7. 総需要と総供給 8. 市場の均衡と不均衡 9. 財政と金融 10. 貿易と国際経済									
【履修要件】 「社会経済システム論ⅠA」をとっておくことが望ましい（必須ではない）。									
【成績評価の方法・基準】 期末試験によって評価する。									
【教科書】 使用しない 毎回、レジュメを配布する。									
【参考書等】 （参考書） 授業中に紹介する  （その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） 木曜4限をオフィスアワーに定めているので、質問・相談のある人はアポイントをとった上で、間宮研究室に来ること。  オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	社会経済システム論演習ⅠA Seminar on Socio-Economic System IA	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 間宮 陽介						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	火3	授業形態	演習
【授業の概要・目的】 アダム・スミスから現代に至るまでの経済学の歴史を概観し、現代の経済学がどのような歴史的基盤の上に立っているかを考える。									
【授業計画と内容】 1. 経済学の誕生 2. 社会主義の思想 3. 市場と国家 4. 新古典派経済学 5. ヴェブレンの経済思想 6. 大転換 7. 法人企業の変容 8. ケインズ革命 9. 市場と計画 10. 新自由主義									
【履修要件】 特になし									
【成績評価の方法・基準】 出席と学期末のレポートによって評価を行う。									
【教科書】 間宮陽介『市場社会の思想史』（中央公論社）ISBN:4-12-101465-0									
【参考書等】 （参考書） 授業中に紹介する  （その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） 質問や相談のある人は木曜4限（ただし教授会のある週は除く）に、あらかじめアポイントをとって、来ること。  オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	社会経済システム論演習IB Seminar on Socio-Economic System IB	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 間宮 陽介						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	火3	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
都市を通して人間と空間との関わりを考える。建築・都市の歴史を踏まえながら、空間をつくるものは何か、空間の「かたち」とは何か、そして空間が人間の生活にどのように作用するかを考えてみたい。									
【授業計画と内容】									
テキストの輪読を中心に、適宜スライドを用いることによって、理解を深める。演習のテーマは次の通りである。 1. 建築・都市のモダンとポストモダン 2. 機能主義に代わる都市の思想 3. 都市空間を創るものとしての人間の生活 4. 空間の「かたち」 5. 内部空間と外部空間 6. 公共空間 7. 都市の多様性 8. 都市の原理 9. 都市の経済 10. 人間の成長と都市空間									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
出席、報告、レポートによる									
【教科書】									
J.ジェイコブズ著・山形浩生訳『アメリカ大都市の死と生』（鹿島出版会）ISBN:978-4-306-07274-9									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
木曜4限 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	社会経済システム論演習IIB Seminar on Socio-Economic System IIB	担当者氏名	地球環境学堂 准教授 森 晶寿						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	木2	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
東アジアの国々及び地域で形成されつつある環境政策について、その展開・到達点・課題に関する知見を得る									
【授業計画と内容】									
1. 東アジアの環境政策の展開 2. 各国・地域の環境政策の展開 日本、韓国、台湾、中国、タイ、インドネシア、ヴェトナム 3. 東アジアの地域環境政策の展開 循環資源の国際貿易と環境政策、気候変動政策とエネルギー政策									
【履修要件】									
社会経済システム論演習IIAとの同時履修が望ましい									
【成績評価の方法・基準】									
平常点評価 テキスト内容の報告・論点整理のパフォーマンス 授業中の討論への参加の積極性 割り当てられた報告を代理を出すことなく欠席した場合には、単位は取得できない									
【教科書】									
森 晶寿（編）『東アジアの環境政策』（昭和堂）（2011年9月刊行予定）									
【参考書等】									
（参考書） 李秀澈『東アジアの環境賦課金制度』（昭和堂）ISBN:978-4-8122-0957-8									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	社会経済システム論演習IIA Seminar on Socio-Economic System IIA	担当者氏名	地球環境学堂 准教授 森 晶寿						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	木2	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
持続可能な発展を検討する際の基本的な経済・社会的視点を取得し、それをベースに気候変動問題と経済開発を統合的に検討する視点を身につける。									
【授業計画と内容】									
前半：パーサ・ダスグプタ『経済学』の輪読 マクロ経済史、信頼、共同体、市場、制度としての科学と技術、家計と企業、持続可能な発展、社会的福祉と民主主義的な政府 後半：世界銀行『世界開発報告2010 開発と気候変動』の輪読 気候変動と経済開発の結びつき、脆弱性の軽減、土地と水の管理、経済開発の世界的な気候レジームへの統合化、資金調達・技術革新と普及									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点評価 テキスト内容の報告・論点整理のパフォーマンス 授業中の討論への参加の積極性 割り当てられた報告を代理を出すことなく欠席した場合には、単位は取得できない									
【教科書】									
パーサ・ダスグプタ『経済学』（岩波書店）ISBN:978-4-00-026897-4（前半の輪読テキスト） 世界銀行『世界開発報告2010 開発と気候変動』（一灯舎）ISBN:978-4-903532-56-1（後半の輪読テキスト）									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	社会経済システム論演習IIIA Seminar IIIA on Socio-Economic Theory	担当者氏名	人間・環境学研究所 准教授 大黒 弘慈						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	火4	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
現代資本制社会の構造と運動メカニズムを解明するための手続きとして、経済思想の歴史を、おもに貨幣と信用の視点から俯瞰する。アリストテレスから重商主義、重農主義、古典派経済学、マルクスを経て現代にいたるまでの経済思想を取り扱う。また経済思想の重要文献、および隣接分野の重要文献のなかから適当な文献を選び、輪読を行なう。									
【授業計画と内容】									
以下のような課題について、1課題あたり1～2週の授業をする予定である。あるいは年度に応じて2～3の課題を集中的に取り上げることもある。 1. 比例と交換（マルクス、アリストテレス、交換的正義、分配的正義） 2. 類似と通貨（グreshamの法則、コペルニクス、ニュートン） 3. 模倣と信用（バジョットの法則、タルド、国家と中央銀行） 4. 流行と慣習（アダム・スミス、ヴェブレン、先祖がえり） 5. 模倣と権力（高田保馬、タルド、従属意志、威信への渴望） 6. 模倣と進化（社会ダーウィニズム、ミーム、ミラーニューロン） 7. 模倣の法則と価値形態論（模倣衝動の抑圧と回帰、家畜と貨幣） 8. 模倣と物象化（アドルノ、ミメシス、投影、行為の物象化） 9. 純粋資本主義論と世界資本主義論（宇野弘蔵、岩田弘、ウォーラーステイン） 10. 帝国と帝国主義（ネグリ、レーニン、柄谷行人）									
【履修要件】									
社会経済システム論演習 Bを履修することが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点と年度末のレポート。									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
（参考書） 大黒弘慈『貨幣と信用 純粋資本主義批判』（東京大学出版会）ISBN:4-13-040172-6									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
daikoku@takeuchi.mbox.media.kyoto-u.ac.jp オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	社会経済システム論演習III B Seminar III B on Socio-Economic Theory	担当者氏名	人間・環境学研究科 准教授 大黒 弘慈
配当学年	3,4回生	単位数	2
開講期	後期	曜時限	火4
授業形態	演習		
【授業の概要・目的】			
現代資本制社会の構造と運動メカニズムを解明するための手続きとして、経済思想の歴史を、おもに貨幣と信用の視点から俯瞰する。アリストテレスから重商主義、重農主義、古典派経済学、マルクスを経て現代にいたるまでの経済思想を取り扱う。また経済思想の重要文献、および隣接分野の重要文献のなかから適当な文献を選び、輪読を行なう。			
【授業計画と内容】			
以下のような課題について、1 課題あたり1～2週間の授業をする予定である。あるいは年度に応じて2～3の課題を集中的に取り上げることもある。			
1. 比例と交換 (マルクス、アリストテレス、交換的正義、分配的正義) 2. 類似と通貨 (グレシャムの法則、コペルニクス、ニュートン) 3. 模倣と信用 (バジョットの法則、タルド、国家と中央銀行) 4. 流行と慣習 (アダム・スミス、ヴェブレン、先祖がえり) 5. 模倣と権力 (高田保馬、タルド、従属意志、威信への渴望) 6. 模倣と進化 (社会ダーウィニズム、ミーム、ミラーニューロン) 7. 模倣の法則と価値形態論 (模倣衝動の抑圧と回帰、家畜と貨幣) 8. 模倣と物象化 (アドルノ、ミメーシス、投影、行為の物象化) 9. 純粋資本主義論と世界資本主義論 (宇野弘蔵、岩田弘、ウォーラーステイン) 10. 帝国と帝国主義 (ネグリ、レーニン、柄谷行人)			
【履修要件】			
社会経済システム論演習 Aを履修することが望ましい。			
【成績評価の方法・基準】			
平常点と年度末のレポート。			
【教科書】			
授業中に指示する			
【参考書等】			
(参考書) 大黒弘慈『貨幣と信用 純粋資本主義批判』(東京大学出版会) ISBN:4-13-040172-6			
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) daikoku@takeuchi.mbox.media.kyoto-u.ac.jp			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英訳>	比較経営組織論 B Comparative Study of Business Organization B	担当者氏名	大阪経済大学経営学部 准教授 林田 修
配当学年	1-4回生	単位数	2
開講期	後期	曜時限	水2
授業形態	講義		
【授業の概要・目的】			
ほとんどの現代人は企業-組織と関わりをもつ、主にこの授業では企業において企業(モラル・ハザード)が起こるメカニズムと、それに対処するための制度設計について解説する。より具体的には、そもそもメンバーが怠ける原因は何か、どのような業績データが企業防止に役立つのか、成果給、相対業績評価、序列トーナメントなどの報酬ルールは企業防止にどのくらい有効なのか(あるいはどのような条件の下で有効なのか)、あらかじめ契約期間を定めない雇用関係(例えば正社員の終身雇用慣行)において企業を防止する制度とはどのようなものか、どのような場合に業務を外委託(アウトソーシング)すべきか、といった問題を考察する。			
【授業計画と内容】			
以下の各課題について、1～2週間の授業をする予定である。 1. チーム生産とフリーライダー問題 2. 監査人 3. 集団的罰則 4. 成果給 5. リスク・シェアリング 6. 相対業績評価 7. 昇進競争 8. 正規雇用 9. 外部委託(アウトソーシング)			
【履修要件】			
高校数学で習う程度の微積分の知識を必要とする。また前期開講予定の「比較経営組織論A」も合わせて履修することを薦める。			
【成績評価の方法・基準】			
学期末試験の成績で評価する。			
【教科書】			
使用しない 用意した講義プリントを授業の始めに配布する。特に教科書は指定しない。			
【参考書等】			
(参考書) 授業中に紹介する 初回の講義で関連文献のリストを配布して解説する(必ずしも購入しなくてよい)。			
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) この授業は高校レベルの数学の知識(超初級の微積分)を必要とするが、基本的に文系学生向けの授業である。もちろん理系学生も大歓迎である。この授業を通じて、一見非合理に見えるかもしれない企業の活動・制度・慣行が実は数学モデルの分析を通じて合理的に説明可能であることを理解してほしい。そして企業経営について論理的に考える習慣を身につけてほしい。丁寧な解説に心がけるが、もし授業内容にわからないところがあれば遠慮なく質問してほしい。積極的な参加を期待する。			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英訳>	比較経営組織論 A Comparative Study of Business Organization A	担当者氏名	大阪経済大学経営学部 准教授 林田 修
配当学年	1-4回生	単位数	2
開講期	前期	曜時限	水2
授業形態	講義		
【授業の概要・目的】			
ほとんどの現代人は企業-組織と関わりをもっている。この授業の前半では、なぜ企業は存在するのか、企業はどのような機能を果たすのか、世の中に無数に存在する企業がすべて統合されて単一の企業にならないのはなぜか(組織の限界)、といった問題について、コーディネーション(調整)とモチベーション(動機付け)の視点から考察する。またこの授業の後半では、情報が企業内に偏在し、メンバー間で利害が異なるとき、メンバー同士がどのような駆け引きを繰り返すのか、それがどのような影響を企業業績に及ぼすのか、メンバー同士の協調を達成するにはどうしたらいいか、という問題を、メッセージ・ゲームの分析を通して考察する。			
【授業計画と内容】			
以下の各課題について、1～2週間の授業をする予定である。 1. 企業とは何か 2. コーディネーション問題とモチベーション問題 3. 取引費用アプローチ 4. 価値最大化原理とコースの定理 5. アドバース・セレクション(逆選択)とエージェント理論 6. スクリーニング(選別)と表明原理 7. ダブル・オークション 8. シグナリング(コストのかかる情報伝達) 9. チープ・トーク(コストのかからない情報伝達)			
【履修要件】			
高校数学で習う程度の微積分の知識を必要とする。また後期開講予定の「比較経営組織論B」も合わせて履修することを薦める。			
【成績評価の方法・基準】			
学期末試験の成績で評価する。			
【教科書】			
使用しない 用意した講義プリントを授業の始めに配布する。特に教科書は指定しない。			
【参考書等】			
(参考書) 授業中に紹介する 初回の講義で関連文献のリストを配布して解説する(必ずしも購入しなくてよい)。			
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) この授業は高校レベルの数学の知識(超初級の微積分)を必要とするが、基本的に文系学生向けの授業である。もちろん理系学生も大歓迎である。この授業を通じて、一見非合理に見えるかもしれない企業の活動・制度・慣行が実は数学モデルの分析を通じて合理的に説明可能であることを理解してほしい。そして企業経営について論理的に考える習慣を身につけてほしい。丁寧な解説に心がけるが、もし授業内容にわからないところがあれば、遠慮なく質問してほしい。積極的な参加を期待する。			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英訳>	公共政策論 I A Public Policy Studies IA	担当者氏名	人間・環境学研究科 准教授 佐野 亘
配当学年	1-4回生	単位数	2
開講期	前期	曜時限	火2
授業形態	講義		
【授業の概要・目的】			
適切な公共政策を実現するには、まずもって、その「適切さ」を判断するための基準が必要となる。本講義では、経済学や倫理学、政治哲学などの議論を参照しながら、あるべき公共政策のあり方について探求したい。公共政策は現実の政治過程のもとで形成され、実現されるものである以上、ユートピア的な理念を語るのではなく、「実際に使える」規範理論を見つけて出すことが本講義の主要な目的である。			
【授業計画と内容】			
1. なぜ価値や規範について論ずるのか 2. 古典的自由主義 3. 現代的自由主義 4. 自由主義への批判 5. 古典的功利主義 6. 効率性基準 7. 功利主義への批判 8. 本質主義(卓越主義など) 9. 本質主義(自然と文化) 10. 本質主義への批判 11. 事例を通じて考える(ニーズとは何か) 12. 事例を通じて考える(分配の問題) 13. 事例を通じて考える(パターナリズム) 14. まとめ			
【履修要件】			
特になし			
【成績評価の方法・基準】			
通常の試験による。			
【教科書】			
佐野亘『公共政策規範』(ミネルヴァ書房)			
【参考書等】			
(参考書) 授業中に紹介する			
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英訳>	公共政策論 I B Public Policy Studies IB	担当者氏名	人間・環境学研究科 准教授 佐野 亘						
配当学年	1-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	火2	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
公共政策においても、問題を発見し、それに対する対策をたて、その対策を実施するプロセスを適切に管理・運営することが重要となる。本講義では、特に現実の政治・行政過程に着目し、よりよい公共政策を実現するうえで、実際上いかなる困難や問題が存在するかについて検討したい。本講義を通じて、受講者は、政策過程全体についての理解を深めるとともに、「政策の失敗」がなぜどのように起こるのかについて、自分なりに考察することができるようになることが望まれる。									
【授業計画と内容】									
1. 公共政策における P D C A サイクル 2. 問題発見 3. 問題分析 4. 課題設定 5. 立案 (誰が行政サービスを提供するか: 民間委託) 6. 立案 (誰が行政サービスを提供するか: N P O) 7. 立案 (不確実性への配慮) 8. 立案 (インセンティブシステムの有効性) 9. 決定 10. 実施 11. 評価 12. 政治と分析 13. 政治制度の根本的改善? 14. まとめ									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
通常の試験による。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 足立幸男 『公共政策学とは何か』(ミネルヴァ書房) クリストファー・フッド 『行政活動の理論』(岩波書店)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	公共政策論 IIB Public Policy IIB	担当者氏名	滋賀大学経済学部 講師 松下 京平						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	金2	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
経済学の観点から公共政策の意義や果たす役割を検討し、よりよい公共政策のあり方を考える。									
【授業計画と内容】									
1. 公共財 - 純粋公共財 - 2. 公共財 - 非純粋公共財 - 3. 課税の効果と帰着 4. 次善理論 5. 非対称情報の影響 6. 自然独占企業に対する規制 7. 所得分配政策 8. 所得再分配の限界 9. 公共政策の必要性: 再論									
【履修要件】									
公共政策論IABを履修済みであることが望ましい。後半(公共政策論IIB)を受講するためには、前半(公共政策論IIA)を習得していること。									
【成績評価の方法・基準】									
期末試験による。その形式については、講義において示す。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 八田達夫 『ミクロ経済学 I』(東洋経済新報社) ISBN:978-4492812983									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	公共政策論IIA Public Policy IIA	担当者氏名	滋賀大学経済学部 講師 松下 京平						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	金2	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
経済学の観点から公共政策の意義や果たす役割を検討し、よりよい公共政策のあり方を考える									
【授業計画と内容】									
1. 経済学から考える公共政策の必要性 2. 市場の働き - 交換経済 - 3. 市場の働き - 生産経済 - 4. 経済余剰の概念と活用法 5. 外部性とその帰結 6. 共有資源問題 7. くみあわせの失敗									
【履修要件】									
公共政策論IABを履修済みであることが望ましい。後半(公共政策論IIB)を受講するためには、本講義(公共政策論IIA)を履修すること。									
【成績評価の方法・基準】									
期末試験で評価する。その形式については、講義において示す。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 八田達夫 『ミクロ経済学 I』(東洋経済新報社) ISBN:978-4492812983									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	公共政策論基礎ゼミナールIIA Introductory Seminar on Public Policy IIA	担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 浅野 耕太						
配当学年	1-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	金3	授業形態	ゼミナール
【授業の概要・目的】									
公共政策の具体例として、環境政策や資源政策をとりあげ、その現状とあり方を考究する。									
【授業計画と内容】									
基本書を輪読する。受講者はグループに分かれ、各グループは教科書の1章を分担し、その内容を報告するとともに、問題解答を行う。  1. 全体像 2. 効率性と選択 3. 市場の失敗 4. 政府の役割 5. トレードオフと経済 6. 環境質 7. エネルギー 8. 持続可能性 9. 人口、貧困および経済成長 10. 生物多様性とその評価									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
出席、報告内容、貢献により総合的に評価する。									
【教科書】									
David A. Anderson 『Environmental Economics and Natural Resource Management, 3rd ed.』(Routledge) ISBN:978-0-415-77905-0									
【参考書等】									
(参考書) 諸富徹・浅野耕太・森島寿 『環境経済学講義』(有斐閣) ISBN:978-4-641-18365-0 フィールド 『環境経済学入門』(日本評論社) ISBN:4-535-55134-0									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	公共政策論基礎ゼミナールII B Introductory Seminar on Public Policy IIB	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 浅野 耕太						
配当学年	1-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	金3	授業形態	ゼミナール
【授業の概要・目的】									
公共政策の具体例として、環境政策や資源政策をとりあげ、その現状とあり方を考究する。									
【授業計画と内容】									
基本書を輪読する。受講者はグループに分かれ、グループで教科書の1章を分担し、その内容を報告し、問題に解答する。									
1. 国際的あるいはグローバルな環境問題 2. 環境政策の展望 3. 資源管理：再生可能資源 4. 資源管理：枯渇性資源 5. 環境紛争解決 6. 道徳と動機づけ									
【履修要件】									
公共政策論基礎ゼミナールIIAの履修が望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
出席、報告内容、貢献により総合的に評価する。									
【教科書】									
David A. Anderson 『Environmental Economics and Natural Resource Management, 3rd ed.』(Routledge) ISBN:978-0-415-77905-0									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	公共政策論演習IB Seminar on Public Policy IB	担当者氏名	人間・環境学研究所 准教授 佐野 亘						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	月2	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
適切な公共政策を実現するには、机上の空論に終わらないように、単に理想の社会のあり方を構想するだけでなく、その具体的な実現方法について考える必要がある。本演習では、受講者は、各自、みずからの興味・関心にもとづいてテーマを決め、それについてどのような政策がこれまで実施されてきたのか、またそこにはどのような問題があったのかを調査・報告するとともに、その改善策を提案する。この演習を通じて、受講者は、理論的な知識を具体的な問題に応用する力を身につけるとともに、みずからの問題意識を言語化し、他者に理解可能なかたちで伝える能力を身につけることが期待される。									
【授業計画と内容】									
1. イントロダクション 2. 受講者による報告 3. " 4. " 5. " 6. " 7. " 8. " 9. " 10. " 11. " 12. " 13. " 14. まとめ									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
授業への参加態度(報告、質問、討論への参加など)をもとに、総合的に評価する。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	公共政策論演習IA Seminar on Public Policy IA	担当者氏名	人間・環境学研究所 准教授 佐野 亘						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	月2	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
適切な公共政策を立案するには、さまざまな知識が必要となるが、本演習では特に、価値や規範に着目し、いかなる価値や規範がいかなる公共政策を正当化するのが、また、どのような価値や規範が公共政策の基礎になりうるのかについて、さまざまな基本文献を講読する。受講者は、この演習を通じて、公共政策をめぐる価値や規範の問題について、理解を深めるとともに、実際の政策問題について、そうした観点から論ずることが可能になることが期待される。									
【授業計画と内容】									
1. 功利主義の基本文献の講読(1) 2. 功利主義の基本文献の講読(2) 3. 功利主義の基本文献の講読(3) 4. 権利論の基本文献の講読(1) 5. 権利論の基本文献の講読(2) 6. 権利論の基本文献の講読(3) 7. 権利論の基本文献の講読(4) 8. 共同体主義の基本文献の講読(1) 9. 共同体主義の基本文献の講読(2) 10. 卓越主義の基本文献の講読(1) 11. 卓越主義の基本文献の講読(2) 12. 具体的事例をもとに考える(生殖技術の利用) 13. 具体的事例をもとに考える(バタナリズム) 14. 具体的事例をもとに考える(アフターマティブ・アクション)									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
授業への参加態度(報告、質問、討論への参加など)にもとづいて、総合的に評価をおこなう。									
【教科書】									
授業中に指示する 受講生の興味や関心を参考にしうえて、講読文献を決定する。プリントを配布する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	公共政策論演習IIA Seminar on Public Policy IIA	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 浅野 耕太						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	金4	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
現実の公共政策について、文献、統計資料、現地調査などに基づいて、分析を行うための基礎的な力を養う。									
【授業計画と内容】									
環境経済学、資源経済学、エコロジー経済学、政策科学、ミクロ経済学、計量経済学などに関する基本文献の講読からはじめ、受講者各自の問題意識を明確化していき、それぞれの課題にかなう手法の指導を行う。基本文献としては、例えば、以下のような図書を考えている。環境経済学に関しては、フィールド『環境経済学入門』日本評論社。ミクロ経済学に関しては、八田達夫『ミクロ経済学III』東洋経済新報社または山崎昭『ミクロ経済学』知泉書館。計量経済学としては、浅野哲・中村二郎『計量経済学』有斐閣。読みこなしたい図書がある場合、積極的に提案してほしい。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
出席、報告内容、その他の貢献を斟酌し、総合的に評価する。									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
(参考書) 澤田昭男『論文のレトリック』(講談社学術文庫)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	公共政策論演習IIB Seminar on Public Policy IIB	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 浅野 耕太						
配当学年	3,4年生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	金4	授業形態	演習
【授業の概要・目的】 現実の公共政策について、文献、統計資料、現地調査などに基づいて、分析を行うための基礎的な力を養う。									
【授業計画と内容】 環境経済学、資源経済学、エコロジー経済学、政策科学、ミクロ経済学、計量経済学などに関する基本文献の講読からはじめ、受講者各自の問題意識を明確化していき、それぞれの課題にかんう手法の指導を行う。基本文献としては、例えば、以下のような図書を考えている。環境経済学に関しては、フィールド『環境経済学入門』日本評論社。ミクロ経済学に関しては、八田達夫『ミクロ経済学III』東洋経済新報社または山崎昭『ミクロ経済学』知泉書館。計量経済学に関しては、浅野哲・中村二郎『計量経済学』有斐閣。政策科学に関しては、ロッシ・リブセイ・フリーマン『プログラム評価の理論と方法』日本評論社。読みこなしたい図書がある場合、積極的に提案してほしい。									
【履修要件】 特になし									
【成績評価の方法・基準】 出席、報告内容、その他の貢献を斟酌し、総合的に評価する。									
【教科書】 授業中に指示する									
【参考書等】 (参考書) 澤田昭男『論文のレトリック』(講談社学術文庫)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

経済と数学A(2)
【成績評価の方法・基準】 授業最終日に行う期末試験で評価する。出席点なし。試験には教科書と自筆のノート(コピーは不可)持ち込み可。
【教科書】 武隈慎一・石村直之『経済数学』(新世社)ISBN:4-88384-065-4
【参考書等】 (参考書) パーク・シュドセーテル『エコノミスト数学マニュアル』(日本評論社)ISBN:4-535-55071-9
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英語>	経済と数学A Introductory Economics with Calculus A	担当者氏名	神戸大学経済学研究所 講師 山根 史博						
配当学年	1-4年生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	木3	授業形態	講義
【授業の概要・目的】 簡単な数学を用いて経済学の基本を学ぶ。経済を主に対象とするが、紹介される数学は他の社会科学の学習にも有益なはずである。									
【授業計画と内容】 1 2回の授業、2回のレクチャー(宿題の解答)、1回の試験を行う。 は授業の回数を表す。 0. ガイダンス: 経済学における数学の利用 1. 産業連関分析 (1) 産業連関表 (2) レオンチェフ行列の性質 (3) ホーキングス・サイモンの定理 2. 数学の基礎概念 (1) 集合と写像 (2) 数列の極限と関数の連続性 (3) 凸関数と凹関数 <レクチャー(その1)> 3. 行列代数の初歩 (1) 行列 (2) 行列式 (3) 一次従属、階数、及び同時方程式の解 (4) 固有値と固有ベクトル (5) 2次形式と正値定符号行列 4. 微分 (1) 微分 (2) 極値問題への応用 (3) 陰関数定理 5. マクロ経済学入門 (1) マクロ経済変数 (2) ケインズ体系 (3) 財政政策と金融政策の経済分析 <レクチャー(その2)> <試験>									
【履修要件】 特になし									

経済と数学A(2)へ続く

授業科目名 <英語>	経済と数学B Introductory Economics with Calculus B	担当者氏名	神戸大学経済学研究所 講師 山根 史博						
配当学年	1-4年生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	木3	授業形態	講義
【授業の概要・目的】 簡単な数学を用いて経済学の基本を学ぶ。経済を主に対象とするが、紹介される数学は他の社会科学の学習にも有益なはずである。									
【授業計画と内容】 1. 最適化問題 (1) 制約条件付最適化問題 (2) ラグランジュ乗数法 (3) クーン・タッカーの定理 (4) 準凹最適化 <レクチャー(その1)> 2. ミクロ経済学入門: 消費者行動 (1) 消費者行動の定式化 (2) 需要理論 3. ミクロ経済学入門: 生産者行動 (1) 生産者行動の定式化 (2) 供給理論 4. 積分 (1) 積分 (2) 消費者余剰 (3) 線積分 (4) 補償変分と等価変分 5. 環境経済学入門 (1) 部分均衡分析 (2) 環境政策の経済分析 6. 動学最適化問題 (1) 変分法 (2) 最大値原理 (3) ダイナミック・プログラミング <レクチャー(その2)> 1 2. 資源経済学入門 (1) ホテリング・ルール (2) ハートウィック・ルール <試験>									
【履修要件】 「経済と数学A」(前期)に引き続いて履修することを推奨する。									

経済と数学B(2)へ続く

経済と数学B(2)	
-----	
【成績評価の方法・基準】	
授業最終日に行う期末試験で評価する。出席なし。試験には教科書と自筆のノート（コピーは不可）持ち込み可。	
【教科書】	
武隈慎一・石村直之『経済数学』（新世社）	
【参考書等】	
（参考書） 授業中に紹介する	
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））	
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。	

授業科目名	欧米歴史社会論 B	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 川島 昭夫
<英訳>	Euro-American History and Society IIB		
配当学年	2-4回生	単位数	2
開講期	後期	曜時間	水5
授業形態	講義		
【授業の概要・目的】			
アンティクアリヤニズムとイギリスの近代2 アンティクアリヤニズムとは過去に属するもの（遺構、遺物）や、ことがら（法、習慣、制度、言語など）に特別な関心を寄せ、価値を見出し、意味を付与し、収集したり研究したりする行動や態度をいう。この講義では、18世紀におけるイギリスのアンティクアリヤニズムについて、1707年のアンティクアリヤ協会設立、ドルイティズムの流行、イギリスの風景庭園や風景画の成立と発展に対するアンティクアリヤニズムの影響について論じる。			
【授業計画と内容】			
以下の小テーマに沿って授業を進める。			
1 ジョン・オーブレの生涯 2 オーブレとイギリスの民俗学 3 オーブレとMonumenta Britannica 4 オーブレとケルト的世界 5 オーブレとウィリアム・スチュークリ 6 ストーンヘンジの説話と解釈 7 ストーンヘンジとドルイティズム 8 ロンドン・アンティクアリヤ協会 9 風景庭園と模擬廃墟 10 風景画と廃墟趣味			
【履修要件】			
特になし			
【成績評価の方法・基準】			
出席と授業への参加（質疑応答など）を重視する。			
【教科書】			
使用しない			
【参考書等】			
（参考書） 授業中に紹介する			
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名	欧米歴史社会論 A	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 川島 昭夫
<英訳>	Euro-American History and Society IIA		
配当学年	2-4回生	単位数	2
開講期	前期	曜時間	水5
授業形態	講義		
【授業の概要・目的】			
アンティクアリヤニズムとイギリスの近代1 アンティクアリヤニズムとは過去に属するもの（遺構、遺物）や、ことがら（法、習慣、制度、言語など）に特別な関心を寄せ、価値を見出し、意味を付与し、収集したり研究したりする行動や態度をいう。この講義では、16、17世紀のイギリスにおけるアンティクアリヤニズムの出現や発展を、宗教改革や国民意識の覚醒という歴史的背景と関連させて論じる。			
【授業計画と内容】			
以下の小テーマに沿って授業を進める。 1 アンティクアリヤニズムとは何か 2 歴史学とアンティクアリヤニズム 3 宗教改革とアンティクアリヤニズム 4 アンティクアリヤニズムと地方 5 アンティクアリヤニズムとロンドン 6 アンティクアリヤニズムと国土 7 アンティクアリヤニズムと学問の協働 8 アンティクアリヤ協会をめぐって 9 アンティクアリヤニズムとサクソン人の「自由」			
【履修要件】			
特になし			
【成績評価の方法・基準】			
出席と授業への参加（質疑応答など）を重視する。			
【教科書】			
使用しない			
【参考書等】			
（参考書） 授業中に紹介する			
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名	欧米歴史社会論演習IA	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 川島 昭夫
<英訳>	Seminar on Euro-American History and Society IA		
配当学年	3,4回生	単位数	2
開講期	前期	曜時間	金4
授業形態	演習		
【授業の概要・目的】			
卒業論文の作成を目的とした、研究・調査方法の指導と、プレゼンテーションの実施。			
【授業計画と内容】			
ヨーロッパ各国の歴史や文化・社会に関して、参加者各自が設定した研究テーマについてプレゼンテーションを行ってもらい、助言や指導を行い、また出席者全員による、質疑や討論を行う。一人の発表には原則として1時間半をあて、可能な限り議論を深めてゆく。大学院人間・環境学研究所の授業と共通。			
【履修要件】			
ヨーロッパの歴史・社会・文化に関心を有すること。			
【成績評価の方法・基準】			
プレゼンテーションおよび授業への出席と、積極的な参加を重視する。			
【教科書】			
使用しない			
【参考書等】			
（参考書） 授業中に紹介する			
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英訳>	欧米歴史社会論演習IB Seminar on Euro-American History and Society IB	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 川島 昭夫						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	金4	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
卒業論文の作成を目的とした、研究・調査方法の指導と、プレゼンテーションの実施。									
【授業計画と内容】									
ヨーロッパ各国の歴史や文化・社会に関して、参加者各自が設定した研究テーマについてプレゼンテーションを行ってもらい、助言や指導を行い、また出席者全員による、質疑や討論を行う。一人の発表には原則として1時間半をあて、可能な限り議論を深めてゆく。大学院人間・環境学研究所の授業と共通。									
【履修要件】									
ヨーロッパの歴史・社会・文化に関心を有すること。									
【成績評価の方法・基準】									
プレゼンテーションおよび授業への出席と、積極的な参加を重視する。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	日本歴史文化論IB Japanese History and Culture IB	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 西山 良平						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	木2	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
日本古代・中世の時代的特色に焦点を当て、日記・説話・古文書など様々な史料を素材に解明する。日本古代の都市と農村の関係や王権と文化の問題を、平安時代を中心に検討する。日記や古文書・説話などの諸史料を解説しつつ、課題に取り組む。									
【授業計画と内容】									
本年度は日本古代・中世の基本的な問題を取り上げ、講義形式で授業を行う。後期は8世紀から9・10世紀の王権のあり方をテーマに、その変遷過程を検討する。 王権(天皇制)には要件がある。その要件を年令や人格のあり方を素材に分析する。9世紀には幼帝が出現するなど、王権の要件に年令はしばしば取り上げられる。また、天皇の<崩御>と政情は密接に関係するとされる。8世紀前後から9世紀以降の天皇の年令や、<崩御>・不承の側面から、古代の王権の歴史性を検証する。									
はじめに(1・2週) 1 古代天皇のライフサイクル(3・4週) 2 <健全>な天皇(5・6週) 3 天皇の不承と謀反(7・8週) 4 不承と譲位(9~11週) 5 <虚弱>な天皇(12・13週) おわりに(14週)									
【履修要件】									
日本史に関する基礎知識があることが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
主に年度末のレポートで評価する。									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
授業参加には、十分な予習が必要である。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	日本歴史文化論IA Japanese History and Culture IA	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 西山 良平						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	木2	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
日本古代・中世の時代的特色に焦点を当て、その時代性・歴史性を理解することを目的とする。日本古代の都市と農村の関係や王権と文化の問題を、平安時代を中心に検討する。日記や古文書・説話などの諸史料を解説しつつ、課題に取り組む。									
【授業計画と内容】									
本年度は日本古代・中世の基本的な問題を取り上げ、講義形式で授業を行う。前期は日本古代から中世の都市の宅地をテーマに、その変遷過程を検討する。 古代都城制の宅地は、町の倍数や分数(1/X町)と表記される。平安時代には町と行門・戸主制が成立し、宅地は町の倍数、またY戸主と表現される。戸主は1/32町である。さらに、平安後期から末期には戸主制が衰減し、小規模宅地は東西と南北の丈尺で規定される。以上の変化を歴史的に分析する。									
はじめに(1・2週) 1 町と行門・戸主制(3・4週) 2 平城京・長岡京の小規模宅地(5・6週) 3 平安京の町・戸主制 3-1 平安京の町制(7・8週) 3-2 行門・戸主制(9~11週) 3-3 戸主制の変形(12・13週) おわりに(14週)									
【履修要件】									
日本史に関する基礎知識があることが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
主に年度末のレポートで評価する。									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
授業参加には、十分な予習が必要である。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	日本歴史文化論IIA Japanese History and Culture IIA	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 元木 泰雄						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	木3	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
平氏政権の成立 12世紀末に成立した平氏政権は、武士政権の嚆矢であるとともに、貴族的性格を脱しなかったがゆえに短期間で滅亡したとされてきた。しかし、近年の研究の進展により実態が解明され、新たな論点が生み出されている。主に平清盛の台頭までの時期を中心に、平氏政権成立の前提を探る。									
【授業計画と内容】									
清盛の父祖から説き起こし、保元・平治の乱を経て、後白河院政を支える清盛を取り上げる。主なテーマは以下の通り。 1 伊勢平氏の台頭(正盛、忠盛) 2 院政と平氏(鳥羽院政と忠盛、清盛) 3 保元の乱(王権の分裂と平氏一門) 4 平治の乱(清盛の勝利とその影響) 5 後白河院政と平氏(清盛と頼盛、重盛と王権) 毎回史料を配布し、出席者に読み下しを担当してもらい、一定程度の漢文読解力を前提とする。									
【履修要件】									
日本歴史文化論 Bとの連続受講を推奨する。一定程度の漢文読解力を前提とする。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点、試験									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 元木 泰雄 『平清盛の闘い』(角川書店) 高橋昌明 『清盛以前』a(文理閣)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	日本歴史文化論IIB Japanese History and Culture IIB	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 元木 泰雄						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	木3	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
平氏政権と内乱 平氏政権の成立とその実態、内乱の勃発の原因、そして平氏滅亡の背景を検討する。従来、単に貴族的なためとされた、平氏敗亡の実態を解明し、通説の克服を図る。									
【授業計画と内容】									
<p>主要なテーマは以下の通り。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 平氏政権の成立（治承3年政変）</li> <li>2. 内乱の勃発（以仁王、源氏の挙兵）</li> <li>3. 平氏の敗北（平氏軍制の限界、敗因）</li> <li>4. 源平争乱の実態（合戦の実態、源氏の勝因）</li> </ol> <p>毎回史料を配布し、出席者に読み下しを担当してもらおう。一定程度の漢文読解力を前提とする。</p>									
【履修要件】									
日本歴史文化論 Aとの連続受講を推奨する。一定程度の漢文読解力を前提とする。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点、試験									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	日本歴史文化論演習IIB Seminar on Japanese History and Culture IIB	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 西山 良平						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	金3	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
日本社会の発展を歴史的視点から考察し解明するための研究方法や、一次史料（日記・古文書などの扱い方を習得させるための演習を行う。日本の古代・中世に関する研究課題・研究方法を習得させ、史料を解読する演習を行う。									
【授業計画と内容】									
<p>授業の計画と内容の具体的な中身は受講生と協議しながら決定するが、基本的には、日本の古代・中世の基本史料を読み解くことと、各自の研究内容を発表してもらい、質疑応答を行う。授業は、の両者を並行して実施するが、おおむね1月のうち は3回、 は1回を予定している。後期も を優先する。</p> <p>は、9世紀から12世紀の貴族の日記や古文書を解読する。活字化された史料も取り上げるが、原本の写真・影写本などから釈文を作りあげることを目指す。取り上げる史料はできるだけ、活字化されていないものにする。場合によっては、活字化された史料にすることもありうる。担当者があらかじめ釈文を作成し、授業中に配布し、参加者全員で検討して釈文を作りあげる。</p> <p>は、と並行して臨機に参加者各自の研究内容を発表してもらい、質疑応答しながら、研究内容の深化を目指す。原則として、1回の授業で1人の報告を行うが、研究の進行状況を1回の授業で3・4人に短時間で報告してもらおう。</p>									
【履修要件】									
日本史に関する基礎知識があることが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
出席状況と発表内容から、平常点で評価する。									
【教科書】									
授業中に配布する。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
授業参加には、十分な予習が必要である。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	日本歴史文化論演習IA Seminar on Japanese History and Culture IA	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 西山 良平						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	金3	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
日本社会の発展を歴史的視点から考察し解明するための研究方法や、一次史料（日記・古文書などの扱い方を習得させるための演習を行う。日本の古代・中世に関する研究課題・研究方法を習得させ、史料を解読する演習を行う。									
【授業計画と内容】									
<p>授業の計画と内容の具体的な中身は受講生と協議しながら決定するが、基本的には、日本の古代・中世の基本史料を読み解くことと、各自の研究内容を発表してもらい、質疑応答を行う。授業は、の両者を並行して実施するが、おおむね1月のうち は3回、 も1回を予定している。前期は を優先する。</p> <p>は、9世紀から12世紀の貴族の日記や古文書を解読する。活字化された史料も取り上げるが、原本の写真・影写本などから釈文を作りあげることを目指す。取り上げる史料はできるだけ、活字化されていないものにする。場合によっては、活字化された史料にすることもありうる。担当者があらかじめ釈文を作成し、授業中に配布し、参加者全員で検討して釈文を作りあげる。</p> <p>は、と並行して臨機に参加者各自の研究内容を発表してもらい、質疑応答しながら、研究内容の深化を目指す。原則として、1回の授業で1人の報告を行うが、研究の進行状況を1回の授業で3・4人に短時間で報告してもらおう。</p>									
【履修要件】									
日本史に関する基礎知識があることが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
出席状況と発表内容から、平常点で評価する。									
【教科書】									
授業中に配布する。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
授業参加には、十分な予習が必要である。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	日本歴史文化論演習IIA Seminar on Japanese History and Culture IIA	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 元木 泰雄						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	水3	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
古文書学を取り上げる。おもに中世の古文書を対象に、内容の正確な理解のために様式について検討する。あわせて写真の複写を配布し、読解力の養成を図る。									
【授業計画と内容】									
<p>佐藤進一著『新版日本古文書学』に沿って授業を進める。主なテーマは以下の通り。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 古文書とは何か</li> <li>2. 公式様文書(律令制の文書様式)</li> <li>3. 公家様文書(宣旨、奉書など、貴族政権の文書様式)</li> <li>4. 鎌倉幕府の文書(下文、御教書、下知状など、将軍・執権の文書)</li> <li>5. 室町幕府の文書(御判御教書、御内書など、将軍の文書)</li> </ol> <p>様式を検討するとともに、崩し字の解釈力も練成する。毎回、次回までの課題を課す。</p>									
【履修要件】									
漢文読解力を前提とする。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点、小テスト									
【教科書】									
佐藤進一『新版日本古文書学』									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	日本歴史文化論演習IIB Seminar on Japanese History and Culture IIB	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 元木 泰雄						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	水3	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
古文書学を取り上げる。  中世後期の様々な古文書を取り上げ、古文書読解力の練成を図る。									
【授業計画と内容】									
佐藤進一著『新版古文書学入門』に沿って授業を進めるが、写真を用いて実践的な読解力を要請する。  1. 室町幕府の文書（奉行人奉書、施行状など） 2. 土地関係の文書（売券、譲状など） 3. 合戦関係の文書（軍忠状など） 4. 戦国時代の文書  前期より難解な文書を取り上げる。毎回、次回までの課題を課す。									
【履修要件】									
日本歴史文化論演習 Aの履修を前提とする。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点、小テスト									
【教科書】									
佐藤進一『新版古文書学入門』									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	中国社会論IB Chinese Culture and Society IB	担当者氏名	人間・環境学研究所 准教授 辻 正博						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	木2	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
中国社会は、8世紀後半から11世紀にかけて大きく変貌した。いわゆる「唐宋変革」である。近年公開された「天聖令」は、この社会の激変期に編纂・制定された法典である。この授業は、この法典の内容分析を通じて、前近代中国における「法制」のあり方について考察することにより、中国の伝統社会に対する理解を深めることを目的とする。 後期では、前期の講義内容をふまえて、「天聖令」が宋代の法典においてどのような位置を占めたのかについて、条文の分析を中心として具体的に考察を加えてゆくこととする。									
【授業計画と内容】									
以下のテーマについて、1テーマあたりおおむね2～3週を目標に講義を進める。 なお、初回の授業において、後期の授業計画および講義が必要とされる事項について説明を行う。  0) ガイダンス 1) 「天聖令」条文の分析（その1） 田令 2) 「天聖令」条文の分析（その2） 獄官令 3) 「天聖令」条文の分析（その3） その他の令について 4) 宋代法典における「天聖令」の位置 5) まとめ									
【履修要件】									
講義内容を正確に理解するためにも、前期科目（中国社会論 A）との連続受講が望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
期末レポートにより評価します。									
【教科書】									
天一閣博物館・中国社会科学院歴史研究所天聖令整理課題組校証『天一閣藏明鈔本天聖令校証 附唐令復原研究』（中華書局、2006年） 必要な箇所を適宜配布します。									
【参考書等】									
（参考書） 滋賀秀三『中国法制史論集 法典と刑罰』（創文社、2003年） 大津透（編）『日唐律令比較研究の新段階』（山川出版社、2008年） その他については、講義時に適宜指示する。									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィス・アワーについては、特に曜日・時間を定めていません。授業時以外に直接話をしたい学生は、  tsuji.m@ax3.ecs.kyoto-u.ac.jp  に連絡して日時を調整すること。（学生番号、氏名を明記してメールしてください。）  オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	中国社会論IA Chinese Culture and Society IA	担当者氏名	人間・環境学研究所 准教授 辻 正博						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	木2	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
中国社会は、8世紀後半から11世紀にかけて大きく変貌した。いわゆる「唐宋変革」である。近年公開された「天聖令」は、この社会の激変期に編纂・制定された法典である。この授業は、この法典の内容分析を通じて、前近代中国における「法制」のあり方について考察することにより、中国の伝統社会に対する理解を深めることを目的とする。 「天聖令」について基本的な事項を概説した上で、天聖令の条文を具体的に検討することにより、唐宋変革期における法制のあり方について分析を行うこととする。									
【授業計画と内容】									
以下のテーマについて、1テーマあたりおおむね2～3週を目標に講義を進める。 なお、初回の授業において、前期の授業計画および講義が必要とされる事項について説明を行う。  0) ガイダンス 1) 「天聖令」について 発見の経緯とその意義 2) 「天聖令」制定の経緯 附 北宋時代の法典編纂 3) 「天聖令」の構成と編纂方針、内容 4) 宋代における法典編纂の特質 5) まとめ									
【履修要件】									
講義内容に対する理解を深めるためにも、後期科目（中国社会論 B）との連続受講が望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
期末レポートにより評価します。									
【教科書】									
天一閣博物館・中国社会科学院歴史研究所天聖令整理課題組校証『天一閣藏明鈔本天聖令校証 附唐令復原研究』（中華書局） 必要な箇所を適宜配布する。									
【参考書等】									
（参考書） 滋賀秀三『中国法制史論集 法典と刑罰』（創文社、2003年） 大津透（編）『日唐律令比較研究の新段階』（山川出版社、2008年） その他については、講義時に適宜指示する。									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィス・アワーについては、特に曜日・時間を定めていません。授業時以外に直接話をしたい学生は、  tsuji.m@ax3.ecs.kyoto-u.ac.jp  に連絡して日時を調整すること。（学生番号、氏名を明記してメールしてください。）  オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	中国社会論演習IA Seminar on Chinese Society IA	担当者氏名	人間・環境学研究所 准教授 辻 正博						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	金5	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
中国社会を歴史学的に分析するためには、漢文史料に対する読解力を養う必要がある。これだけ避けて通ることができない。この授業は、漢文史料を読み解くための必要最低限の能力を身につけることを目的とする。									
【授業計画と内容】									
漢文史料を読み解くためには、ある程度の知識（漢文法を含む）が必要となる。限られた時間の中でそれを身につけてもらうために、いくつかの漢文史料を読みながら、その時々に関連する問題を解決するという方法を採用する。 取り上げる漢文史料は、紀伝体および編年体の史書が中心となる。 《授業スケジュール》 第1週：ガイダンス...授業内容・方法の説明。 第2週以降：漢文史料の読解。受講生が漢文史料を輪読し、内容についての質疑応答を行う。									
【履修要件】									
後期に開講する中国社会論演習 Bを連続受講して、前期で身につけた能力にさらに磨きをかけてほしい。									
【成績評価の方法・基準】									
出席・受講態度、質疑応答の内容を勘案して、総合的に評価する。									
【教科書】									
授業中に指示する 必要なテキストは、授業時に配布します。									
【参考書等】									
（参考書） 各自愛用の漢和辞典を毎回持参すること。（電子辞書はあまり役に立ちませんので、それとは別に「紙の辞書」を持ってこよう。）									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィス・アワーについては、特に曜日・時間を定めていません。授業時以外に直接話をしたい学生は、  tsuji.m@ax3.ecs.kyoto-u.ac.jp  に連絡して日時を調整すること。（学生番号、氏名を明記してメールしてください。）  オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	中国語論演習IB Seminar on Chinese Society IB	担当者氏名	人間・環境学研究所 准教授 辻 正博						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	金5	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
中国語を歴史的に分析するためには、漢文史料に対する読解力を養う必要がある。これだけでは避けて通ることができない。この授業は、漢文史料を読み解くための必要最低限の能力を身につけることを目的とする。									
【授業計画と内容】									
漢文史料を読み解くためには、ある程度の知識（漢文法を含む）が必要となる。限られた時間の中でそれを身につけてもらうために、いくつかの漢文史料を読みながら、その時々で遭遇する問題を解決するという方法を採用する。 取り上げる漢文史料は、紀伝体および編年体の史書が中心となる。 《授業スケジュール》 第1週：ガイダンス... 授業内容・方法の説明。 第2週以降：漢文史料の読解。受講生が漢文史料を輪読し、内容についての質疑応答を行う。									
【履修要件】									
上記の能力を身につけるためには、正直なところ、半期の授業では時間が足りないかも知れませんが、可能な限り、前期に開講する「中国語論演習 A」と連続受講されることをお勧めします。後期からはじめて受講する方は、それなりの覚悟をもっておいで下さい。									
【成績評価の方法・基準】									
出席・受講態度、質疑応答の内容を勘案して、総合的に評価する。									
【教科書】									
授業中に指示する 必要なテキストは、授業時に配布します。									
【参考書等】									
(参考書) 各自愛用の漢和辞典を毎回持参すること。(電子辞書はあまり役に立ちませんので、それとは別に「紙の辞書」を持っていくこと。)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィス・アワーについては、特に曜日・時間を定めていません。授業時以外に直接話したい学生は、 tsuji.m@ax3.ecs.kyoto-u.ac.jp に連絡して日時を調整すること。(学生番号、氏名を明記してメールしてください。)									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	中国語論 The History of Chinese Books	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 阿辻 哲次						
配当学年	1-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	木1	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
これまでの人間の歴史を文字と書物との関連においてとらえる。文字による記録が歴史的にどのようにうつり変わってきたか、書物の成立と発展を通じて文化と学問の歩みを考える。									
【授業計画と内容】									
さまざまな書写材料 世界で最初に紙を発明したのは中国であるが、紙が発明される前にも実にさまざまな書写材料が使われていた。その中には、甲骨や青銅器といった特殊なものもあるが、大多数は竹や木、あるいは石など、他の文明世界に共通する素材である。それらの古代的書写材料と、それに書かれた文字との有機的な連関を究明する。 書物の誕生と変遷 文字による記録から、不特定多数の読者を想定した書物の成立を考える。 印刷と出版の歴史 中国における印刷の起源と発展の様相、および現代の情報化時代における書物のあり方について考える。									
【履修要件】									
前期の中国文字文化論からの連続した履修を推奨する									
【成績評価の方法・基準】									
定期試験による。試験の際には講義を通じて自分で考えたことを論述させる方式を採用する。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	中国文字文化論 The Culture of Chinese Characters	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 阿辻 哲次						
配当学年	1-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	木1	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
これまでの人間の歴史を文字との関連においてとらえる。文字による記録が歴史的にどのようにうつり変わってきたか、主として中国を舞台とする観察を通じて考え、あわせてコンピュータ時代における文字文化のあり方を考える。									
【授業計画と内容】									
漢字の起源 新石器時代の遺跡から発見される初期の符号と、山東省丁公村発見の陶片を通じて、中国における文字の誕生を考える。 甲骨文字の発見と研究 現存する最古の漢字である甲骨文字を紹介し、その研究によって、個別の漢字の本来の意味を究明したり、字義の変遷のプロセスを明らかにする。 青銅器の銘文 殷周時代に大量に制作された青銅器の内側に鑄造された銘文も、甲骨文字と同様に古い時代の漢字の姿を示す貴重な資料である。この銘文を通じて、古代中国の文字文化を考える。 紙の普及と印刷の発展 書写材料として理想的な紙の普及と、それを使った印刷術の発展を通じて、文化の進展の様相を考える。									
【履修要件】									
後期の中国語論を連続して履修することを推奨する。									
【成績評価の方法・基準】									
定期試験による。試験の際には講義を通じて自分で考えたことを論述させる方式を採用する。									
【教科書】									
阿辻 哲次『漢字文化の源流をたどる』(丸善)									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	中国古典講義論A Readings in the Chinese Classics A	担当者氏名	人間・環境学研究所 准教授 道坂 昭廣						
配当学年	1-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	木2	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
中国古典世界の文学者や知識人たちの逸話を読む。(『太平広記』選読)									
【授業計画と内容】									
中国古典世界において、文学の担い手は知識人の集団であった。彼らは優れた才能の持ち主たちであった。しかし、一方で極めて人間的な逸話も残している。それらを読んでゆくことにより、中国古典世界をより親しみやすいものにした。高校までの漢文の授業のように、読解だけを目的とするのではなく、読解を通して、広く中国古典文化を紹介することを目的とする。宋代に編集された『太平広記』はテーマ別に前代の知識人の逸話を纏めているので、幾つかのテーマから興味深い逸話を選読する。									
【履修要件】									
後半(中国古典講義論B)の連続履修を推奨する									
【成績評価の方法・基準】									
平常授業と定期試験による。									
【教科書】									
プリント配布									
【参考書等】									
(参考書) 漢和辞典は必携。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
必ず予習してくること。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	中国古典講読論B Readings in the Chinese Classics B	担当者氏名	人間・環境学研究所 准教授 道坂 昭廣						
配当学年	1-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	木2	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
中国古典世界の文学者や知識人たちの逸話を読む。（『太平広記』選読）									
【授業計画と内容】									
中国古典世界において、文学の担い手は知識人の集団であった。彼らは優れた才能の持ち主たちであった。しかし、一方で極めて人間的な逸話も残している。それらを読んでゆくことにより、中国古典世界をより親しみやすいものになりたい。高校までの漢文の授業のように、読解だけを目的とするのではなく、読解を通して、広く中国古典文化を紹介することを目的とする。宋代に編集された『太平広記』はテーマ別に前代の知識人の逸話を纏めているので、幾つかのテーマから興味深い逸話を選読する。									
【履修要件】									
前半（中国古典講読論A）との連続履修を推奨する。									
【成績評価の方法・基準】									
平常授業と定期試験による。									
【教科書】									
プリント配布									
【参考書等】									
（参考書） 漢和辞典は必携。									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
必ず予習しておくこと。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	中国文化論演習IIB Seminar on Chinese Culture IIB	担当者氏名	人間・環境学研究所 准教授 道坂 昭廣						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	月3	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
中国古典文（文言）の読解力を養成する。 『呉越春秋』を読む									
【授業計画と内容】									
江南地域の伝説なども取り込んでいると思われる『呉越春秋』を担当者を決めて読解してゆく。授業の目的は 1・読解を通して、中国古典文の読解力を養成する 2・中国古典世界についても理解を深める。 3・特に江南地域の記載された歴史と口承伝説についても目配りをし、文学と文芸の両面から中国文学について理解を深める。 4・呉越の物語が、後世の文学世界にどのような影響を与えたかについて、具体的に参考文献を調査し、考証する。									
【履修要件】									
中国語を履修していることが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
授業における発表など、平常点									
【教科書】									
プリント配布									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
授業には、自分の担当以外の部分についても予習したうえで、出席すること。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	中国文化論演習IIA Seminar on Chinese Culture IIA	担当者氏名	人間・環境学研究所 准教授 道坂 昭廣						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	月3	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
中国古典文（文言）の読解力を養成する。 『呉越春秋』を読む。									
【授業計画と内容】									
江南地域の伝説なども取り込んでいると思われる『呉越春秋』を担当者を決めて読解してゆく。授業の目的は 1・読解を通して、中国古典文の読解力を養成する 2・中国古典世界についても理解を深める。 3・特に江南地域の記載された歴史と口承伝説についても目配りをし、文学と文芸の両面から中国文学について理解を深める。 4・呉越の物語が、後世の文学世界にどのような影響を与えたかについて、具体的に参考文献を調査し、考証する。									
【履修要件】									
中国語を履修していることが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
授業における発表など、平常点									
【教科書】									
プリント配布。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
授業には、自分の担当以外の部分についても予習したうえで、出席すること。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	日本語学・日本文学IA Japanese Philology and Literature IA	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 内田 賢徳						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	木2	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
富士谷成章『あゆひ抄』を読む。近世期を代表する文法書である『あゆひ抄』を、論述に従って読解して行く。同書については、成章没後に行われた富士谷御杖の講義を詳細に書き留めた書入本が存在する。それを十分に活用して、そこに構想されているのがどのような文法論なのかを解明する。									
【授業計画と内容】									
全体の構成に従って進めて行く。  1 おほむね上 2 おほむね下 3 属 4 家 5 倫 6 身 7 隊									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポート									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	日本語学・日本文学IB Japanese Philology and Literature IB	担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 内田 賢徳						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	木2	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
前期に続いて、富士谷成章『あゆひ抄』を読む。 近世期を代表する文法書である『あゆひ抄』を、論述に従って読解して行く。同書については、成章没後に行われた富士谷御杖の講義を詳細に書き留めた書入本が存在する。それを十分に活用して、そこに構想されているのがどのような文法論なのかを解明する。									
【授業計画と内容】									
全体の構成に従って進めて行く。									
1 おほむね上 2 おほむね下 3 属 4 家 5 倫 6 身 7 隊									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポート									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	日本語学・日本文学III B Japanese Philology and Literature IIIB	担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 須田 千里						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	水4	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
久生十蘭の『鈴木主水』(昭和26年)や芥川龍之介のいわゆる「きりしたん物」などの歴史小説を読むことを通じて、日本近代文学と江戸の講談、キリシタン文学との関わりを考察する。久生十蘭は直木賞作家ながら巧緻な短篇の名手。芥川龍之介も大正期に活躍した短編小説作家である。これらを丁寧に読んで、久生十蘭や芥川にとって歴史や宗教とは何だったのか、理解を深めるのがこの授業の目的である。									
【授業計画と内容】									
久生十蘭の『鈴木主水』や芥川の「きりしたん物」(「るしへる」「きしりとほる上人伝」「じゅりあの・吉助」「黒衣聖母」「神々の微笑」「報恩記」「おぎん」「おしの」など)について、作品の背景をなす久生や芥川の知識を探究し、作品の素材・方法・主題などについて、講義形式で考察する。受講生は、作品を事前に読んでおくことが望ましい。 次の各項目を取り混ぜて1, 2週ずつの授業をする予定。 1, この講義の目標について、ガイダンス 2, 久生十蘭の履歴、文学的位置 3, 『鈴木主水』研究(1) 4, 同(2) 5, 同(3) 6, 芥川龍之介の履歴、文学的位置 7, 「きりしたん物」入門 8, 「るしへる」 9, 「おぎん」 10, 「おしの」 11, 「じゅりあの・吉助」その他									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
期末のレポートによる。									
【教科書】									
プリントを配布する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
積極的な授業参加、発言を希望する。 オフィス・アワーは特に定めませんが、講義時間外に直接話したい学生は、人環HPよりメールアドレスを検索し、希望日時を第三希望までと、学生番号、氏名を明記してメールすること。  オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	日本語学・日本文学III A Japanese Philology and Literature IIIA	担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 須田 千里						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	水4	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
幸田露伴晩年の歴史小説『連環記』(昭和16年)を読み、平安期説話や中国文学からの摂取の様相を考察する。このことを通じて、日本近代文学と古典文学との関わりを考察する。幸田露伴は、明治・大正・昭和にまたがる文字通りの文豪である。その最後の小説『連環記』は、露伴の死生観が表現された名作。これを丁寧に読んで、理解を深めるのがこの授業の目的である。									
【授業計画と内容】									
『連環記』は平安中期に材を取った歴史小説で、赤染衛門・大江匡衡・慶滋保胤・大江定基・丁謂ら歴史上の人物が、まるで環が連なるように次々に登場し、人生や生死の問題の奥深さを考えさせる。平易な談話調の文体ながら陰影に富み、一読強い印象を与える作品である。この授業では、冒頭から丁寧に解説しながら、話の典拠となった説話類を明らかにし、そこに露伴がどのような意味づけを行ったか、話と話のつながりとはどのようなものか、作品全体の主題はどのようなものか、講義形式で解説してゆく。受講生は、作品を事前に読んでおくこと。 次の各項目を取り混ぜて1~3週の授業をする予定。 1, 幸田露伴の履歴、文学史的立場 2, 『連環記』の研究史 3, 『連環記』と『大日本史』 4, 『連環記』の中の慶滋保胤 5, 『連環記』の中の赤染衛門・大江匡衡 6, 『連環記』の中の大江定基(寂照) 7, 『連環記』の中の丁謂 8, 各話の繋がりと露伴の評語									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
期末レポートによる。									
【教科書】									
プリントを配布する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
積極的な授業参加、発言を希望する。 オフィス・アワーは特に定めませんが、講義時間外に直接話したい学生は、人環HPよりメールアドレスを検索し、希望日時を第三希望までと、学生番号、氏名を明記してメールすること。  オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	日本語学・日本文学演習IA Seminary on studies of Japanese Philology and Literature IA	担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 内田 賢徳						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	火3	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
本居宣長『玉あられ』に従って、順次項目の語、表現について、内容を理解し、検討を加える。									
【授業計画と内容】									
どの項目を扱うかは、実際に受講者と相談して決めるが、歌の部、文の部から適当な項目を選んで演習する。例えば、「川をこす」について、「山をこゆといひ、川を渡るといふぞさだまりなる。然るを今の人、旅路の日記などに、其川をこしてなどかくは、いみじきひがこと也」とある部分で、「川越」という地名に残るような言い方は、どのようにして生じたか、その語語を検討し、明らかにするというように、進めてゆく。大体一人あたり二週間担当してもらう。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点									
【教科書】									
版本のコピーを配布する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	日本語学・日本文学演習IB Seminary on studies of Japanese Philology and Literature IB	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 内田 賢徳						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	火3	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
本居宣長『玉あられ』に従って、順次項目の語、表現について、内容を理解し、検討を加える。									
【授業計画と内容】									
どの項目を扱うかは、実際に受講者と相談して決めるが、歌の部、文の部から適当な項目を選んで演習する。例えば、「川をこす」について、「山をこゆといひ、川を渡るといふぞさだまりなる。然るを今の人、旅路の日記などに、其川をこしてなどかくは、いみじきむがこと也」とある部分で、「川越」という地名に残るような言い方は、どのようにして生じたか、その語誌を検討し、明らかにするというように、進めてゆく。大体一人あたり二週間担当してもらう。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点									
【教科書】									
版本のコピーを配布する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	日本語学・日本文学演習IIIB Exercises in Japanese Philology and Literature IIIB	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 須田 千里						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	水3	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
日本近代文学について理解を深めるためには、作品成立の背景となった社会的・文化的状況について熟知し、その上で、作品そのものについても詳しい注釈が求められる。この授業では、研究の基礎となる調査・研究方法を習得すべく、女性作家の作品に即して指導を行う。なお、前期の日本文学・日本文学IIIAの履修を推奨する。									
【授業計画と内容】									
この授業では、受講者のおののが教科書から自分の好きな作品を担当し、一人一回分ずつ、順番を決めて発表していく。発表に際しては、作品のあらすじ、語句の注釈、これまでの評価を紹介した上で、自分独自の論点を文章にまとめ、レジュメとして配布し、45分間で発表する。残りの45分間は、他の受講生との質疑応答や意見交換に費やされる。発表者は綿密なレジュメを用意するとともに、前の週には発表の概略を予告しておくことが望まれる。 教科書に収録された作品は、木村曙「操くらべ」、樋口一葉「わかれ道」、若松賤子「おもひで」、与謝野晶子「故郷の夏」、水野仙子「神楽坂の半襟」、田村俊子「枸杞の実の誘惑」、伊藤英子「凍つた唇」吉屋信子「浜撫子」、宇野千代「晩唱」、佐多稲子「鳩」、尾崎翠「歩行」、林芙美子「水仙」、岡本かの子「鮎」などである。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
発表6割、出席4割。									
【教科書】									
女性文学会編『女性文学の近代』(双文社出版)									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
積極的な授業参加、発言を希望する。 オフィス・アワーは特に定めませんが、講義時間外に直接話したい学生は、人環HPよりメールアドレスを検索し、希望日時を第三希望までと、学生番号、氏名を明記してメールすること。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	日本語学・日本文学演習IIIA Exercises in Japanese Philology and Literature IIIA	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 須田 千里						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	水3	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
日本近代文学について理解を深めるためには、作品成立の背景となった社会的・文化的状況について熟知し、その上で、作品そのものについても詳しい注釈が求められる。この授業では、研究の基礎となる調査・研究方法を習得すべく、女性作家の作品に即して指導を行う。なお、後期の日本文学・日本文学IIIBの履修を推奨する。									
【授業計画と内容】									
この授業では、受講者のおののが教科書から自分の好きな作品を担当し、一人一回分ずつ、順番を決めて発表していく。発表に際しては、作品のあらすじ、語句の注釈、これまでの評価を紹介した上で、自分独自の論点を文章にまとめ、レジュメとして配布し、45分間で発表する。残りの45分間は、他の受講生との質疑応答や意見交換に費やされる。発表者は綿密なレジュメを用意するとともに、前の週には発表の概略を予告しておくことが望まれる。 教科書に収録された作品は、木村曙「操くらべ」、樋口一葉「わかれ道」、若松賤子「おもひで」、与謝野晶子「故郷の夏」、水野仙子「神楽坂の半襟」、田村俊子「枸杞の実の誘惑」、伊藤英子「凍つた唇」吉屋信子「浜撫子」、宇野千代「晩唱」、佐多稲子「鳩」、尾崎翠「歩行」、林芙美子「水仙」、岡本かの子「鮎」などである。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
発表6割、出席点4割。									
【教科書】									
女性文学会編『女性文学の近代』(双文社出版)									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
積極的な授業参加、発言を希望する。 オフィス・アワーは特に定めませんが、講義時間外に直接話したい学生は、人環HPよりメールアドレスを検索し、希望日時を第三希望までと、学生番号、氏名を明記してメールすること。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	書論・書写演習A Exercises in Japanese Calligraphy A	担当者氏名	京都市立大学 人文学部 教授 山本 淳子						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	火4	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
書に親しみ、書を読む力を養う。									
【授業計画と内容】									
古典文学作品の版本・写本を対象として、様々な書体の読解を目指す。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点(授業内での読解力・提出物等)									
【教科書】									
プリントを配布する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
作業中心の授業だが、授業外の復習も必要。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	書論・書写演習B Exercises in Japanese Calligraphy B	担当者氏名	京都学園大学 人間文化学部 教授 山本 淳子						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	火4	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
書に親しみ、書を読む力を養う。									
【授業計画と内容】									
古典文学作品の版本・写本を対象として、様々な書体の読解を目指す。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点（授業内の読解力・提出物等）									
【教科書】									
プリント配布									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
授業は作業中心。授業外の復習も必要。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	日本古典講読論B Read in Japanese Classics B	担当者氏名	京都学園大学 人間文化学部 教授 山本 淳子						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	火3	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
『紫式部日記』を読む。『源氏物語』作者紫式部の日記作品として題名は周知の作品だが、内容は必ずしも知られているとはいえない。謎とされる部分も取り上げつつ、時代背景や他作品との関係も視野に入れて読んでゆく。									
【授業計画と内容】									
1週 紫式部の人生 2週 『紫式部日記』前史1 3週 秋の気配入り立つままに 4週 『紫式部日記』前史2 5週 藤原道長 6週 出産 7週 豪華な産養 8週 彰子の様子・道長の喜び 9週 紫式部の憂愁 10週 宮仕への違和感 11週 同僚たちからの偏見 12週 紫式部の努力・同僚たちへの共感 13週 内裏に盗賊 紫式部の目覚め 14週 清少納言ら三才女批評									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
期末試験による。									
【教科書】									
紫式部・山本淳子 『紫式部日記 現代語訳付き』（角川学芸出版）ISBN:978-4-04-400106-3									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	日本古典講読論A Read in Japanese Classics A	担当者氏名	京都学園大学 人間文化学部 教授 山本 淳子						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	火3	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
『枕草子』を読む。高校の教科書にも取り上げられ、身近な古典作品との印象が抱かれる本作品だが、時代背景、他作品との関係等も視野に入れつつ読み解いてゆく。									
【授業計画と内容】									
1週 『枕草子』の概要 2週 宮に初めて参りたる頃 3週 大納言、参りたまひて 4週 生ひ先なく、まめやかに 5週 敵殿の御服のころ 6週 殿などのおはしまさでのち 7週 頭弁の、職に参りたまひて 8週 雪のいと高う降りたるを 9週 あはれなるもの 10週 うつくしきもの・にくきもの 11週 一条の院をば今内裏とぞいふ 12週 大進生昌が家に 13週 三条の宮におはしますころ 14週 定子の死									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
期末試験による。									
【教科書】									
プリントを配布する。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	日本語学文献講読論A Reading in the Document of Japanese Philology A	担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 内田 賢徳						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	木3	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
近世期に日本文法研究の画期をなした、富士谷成章の副詞研究『かざし抄』を読む。									
【授業計画と内容】									
富士谷成章の副詞研究『かざし抄』は、18世紀における日本語文法の研究書である。旧来の歌学の中から成立してきた文法研究は、この時代、本居宣長と富士谷成章によって、極めて高い水準を得ている。副詞の用法を説く『かざし抄』は、一語一語についての各論を集めたものだが、そこには後年の『あゆみ抄』に至る論説の萌芽が見られる。それらを、現代での用法と比較しながら読み進める。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
受講者に即して決める。									
【教科書】									
コピーを配布する。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	日本語学文献講読論B Reading in the Document of Japanese Philology B	担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 内田 賢徳						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	木3	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
近世期に日本文法研究の画期をなした、富士谷成章の副詞研究『かざし抄』を読む。									
【授業計画と内容】									
富士谷成章の副詞研究『かざし抄』は、18世紀における日本語文法の研究書である。旧来の歌学の中から成立してきた文法研究は、この時代、本居宣長と富士谷成章によって、極めて高い水準を得ている。副詞の用法を説く『かざし抄』は、一語一語についての各論を集めたものだが、そこには後年の『あゆひ抄』に至る論説の萌芽が見られる。それらを、現代での用法と比較しながら読み進める。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
受講者に即して決める。									
【教科書】									
コピーを配布する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

西欧近現代表象文化論IA(2)									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワーは月3、水5とする。事前にメールでアポイントメントをとられたい。(miram.uno@nifty.com)									
また後期には同一曜講時に西欧近現代表象文化論演習IIBを開講し、ソネットの講読演習を行うので、前期に続けて受講されることを勧める。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西欧近現代表象文化論IA Culture and Its Representation in Modern Western Europe IA	担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 水野 眞理						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	水2	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
「ソネットの誕生と変容」 ルネサンスから17世紀にいたるイギリス文学作品(抒情詩、物語詩、諷刺詩など)とその文化的背景をなす歴史・政治テクストを精読することを通して、古典古代以来の西欧文化の多様性とその相互作用を考察し、イギリス文化の特質を解明する。									
今年度は「ソネットの誕生と変容」を17世紀初頭までを中心に取り上げる。ソネットは13世紀のイタリアに発し、直接、あるいはフランスを経由して16世紀の英国に輸入された叙情詩である。型(押韻する14行詩)にはまった自由のない形式に思われるが、その制約のゆえにがえって詩人の力量が試され、現代の優れた詩人たちにも書き継がれている。恋愛をも宗教的瞑想をも題材とし、表現される感情と、技巧への意識、イタリア、フランスの先行作品に対する尊敬と反発といった諸要素が顕在する点で、ソネットを読むことは近代英詩への最良の導入となるだろう。									
【授業計画と内容】									
以下の予定で作品を取り上げつつ、ソネットの歴史と英詩の伝統と技巧について講義する。授業形式は講義を基本とするが、学生の発言・質問を促すよう心がける。									
第1週 オリエンテーション 第2週 ソネットの誕生(イタリア) 第3週 ソネットの移入(フランス) 第4週 ソネットの移入(WyattとSurrey) 第5週 ソネット連作 第6週 ~ Sidney, Spenser, Shakespeare, Donne 第13週 第14週 まとめ									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
出席、授業中への積極的参加、およびレポートを総合する。レポートでは、作品の精読に基づく受講者独自の分析を書く。									
【教科書】									
必要に応じてプリントを配布する									
----- 西欧近現代表象文化論IA(2)へ続く -----									

授業科目名 <英訳>	西欧近現代表象文化論IIA Culture and Its Representation in Modern Western Europe IIA	担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 丸橋 良雄						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	火3	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
風習喜劇は英国喜劇の伝統であり、王政復古期である17世紀後半に黎明期を迎えてその後現在に至るまで連綿と続いている。われわれにはなじみの薄いものであるが、英国人の間ではきわめて人気の高い作品である。この講義では代表的な作品をいくつか取り上げて、英国流の機知やユーモア、劇作家のドラマツルギー等を検証することによって、英国喜劇の醍醐味を理解していただきたい。									
【授業計画と内容】									
最初の授業では風習喜劇がいかなるものであるかを説明し、そのあといくつかの作品を取り上げて、ドラマツルギー、ヒロインの描写、セリフに注目しながら、それぞれの作品の魅力を具体的にテキストを読みながら伝えたい。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
授業への貢献度・出席率・小テスト等の平常点を期末のレポートを加味して総合的に判断する。									
【教科書】									
未定 出版された洋書の教材が入手できないときはプリントを使用する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西欧近現代表象文化論IVB Culture and Its Representation in Modern Western Europe IVB	担当者氏名	人関・環境学研究所 准教授 桂山 康司						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	水2	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
英詩史上の諸問題									
【授業計画と内容】									
英詩史は可能か、という根本問題から、英詩のリズム、様々な詩形の発達とその特徴、ギリシア・ローマ古典文学との関係など、英詩史上の諸問題を考察する。特に、Milton、Wordsworth、Hopkinsの作品を取り上げる予定である。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
評価は、期末に提出してもらったレポートによる。									
【教科書】									
プリントを使用する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西欧近現代表象文化論演習III B Seminar on Culture and Its Representation in Modern Western Europe III B	担当者氏名	人関・環境学研究所 教授 水野 眞理						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	水2	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
英国エリザベス朝ソネット講読									
本演習では、文学・分野および周辺諸分野の資料を読む訓練を通じて、読解・分析能力を養成する。									
今年度後期は、前期の講義で取り上げた英国16世紀から17世紀のソネット作品を講読する。ソネットは13世紀のイタリアに発し、直接、あるいはフランスを経由して16世紀の英国に輸入された叙情詩である。型(押韻する14行詩)にはまった自由のない形式に思われるが、その制約のゆえにかえって詩人の力量が試され、現代の優れた詩人たちにも書き継がれている。恋愛をも宗教的瞑想をも題材とし、表現される感情と、技巧への意識、イタリア、フランスの先行作品に対する尊敬と反発といった諸要素が顕在する点で、ソネットを読むことは近代英詩への最良の導入となるだろう。									
【授業計画と内容】									
読む量を一回に2作品に限るが、授業に先立って、作品内外の諸要素を調べてレジュメを作り、発表することを求めるので、授業外での作業は多いだろう。									
第1週 オリエンテーション									
第2週～第13週 作品講読、発表 取り上げる詩人はSidney, Spenser, Shakespeare, Donneとする。									
第14週 まとめ									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
出席、授業中への積極的参加、およびレポートを総合する。レポートでは、作品の精読に基づく受講者独自の分析を書く。									
【教科書】									
E. Boland & E. Hirsch, eds. 『The Making of a Sonnet: A Norton Anthology』 (W.W.Norton) ISBN:978-0393333534									
----- 西欧近現代表象文化論演習III B(2)へ続く -----									

授業科目名 <英訳>	西欧近現代表象文化論演習II B Seminar on Culture and Its Representation in Modern Western Europe IIB	担当者氏名	人関・環境学研究所 教授 丸橋 良雄						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	火3	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
英国の風習喜劇は350年の歴史を持ちその伝統は現在に至るまで連続と続いているが、そこから代表的なもの一つ選んで精読する。その際、英国流の機知やユーモア、ドラマツルギー、さらにはヒロインの描写等に言及することにより、英国喜劇の魅力や醍醐味を伝えたい。									
【授業計画と内容】									
最初の授業ではイントロダクションとして風習喜劇とこの演習で取り上げる作品の説明を行い、その後毎回6,7頁程度輪番制で精読していく。理解を深めるためにも数回程度小テストを行うので、できる限り欠席しないようにしていただきたい。万一欠席した場合ストーリーがわからないと困るので、必ず自習して次の授業に臨むこと。									
【履修要件】									
授業形態が演習という性格上、受講者の人数にもよるが大抵回数発表していただくことになるので、あまりにも発表回数が少ないと単位認定を不可とする場合がある。									
【成績評価の方法・基準】									
出席率・平常点(発表の中身と回数)・授業への貢献度に期末テストを加味して総合的に判断する。									
【教科書】									
未定 予定している洋書の入手ができないときはプリントを使用する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

西欧近現代表象文化論演習III B(2)									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワーは月3、水5とする。事前にメールでアポイントメントをとられたい。(miram.uno@nifty.com)									
前期の同一曜講時に西欧近現代表象文化論IA 講義としてソネットについて解説を行うので、これを受講しておかれることを勧める。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西欧近現代表象文化論演習IVA Seminar on Culture and Its Representation in Modern Western Europe IVA	担当者氏名	文学研究科 准教授 桂山 康司						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	水3	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
英詩の諸相									
【授業計画と内容】									
具体的に、テキストに収められた作品、一つ一つを丹念に精読しながら英詩の表現の特質の変化を、社会背景や文化全般と関連づけて、考察する。どの作品を読むかは、最初の授業において指示する。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
年度末試験の成績に、日常の活動を加味して評価する。									
【教科書】									
Cyril Reginald Watters et al 『One Hundred Poems, One Hundred Poets』(英宝社)									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西欧古代・中世表象文化論IA Culture and Representation in Ancient and Medieval Europe IA	担当者氏名	文学研究科 教授 中畑 正志						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	水5	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
哲学(philosophia)という営みの確立に決定的な役割を果たしたプラトンの哲学を、資料にもとづいて俯瞰する。									
【授業計画と内容】									
以下のような内容が論じられる予定である。 1 プラトンの生涯、時代、社会 2 ソクラテスから継承したもの 3 想起という知 4 イデア論はなぜ必要なのか 5 魂という理論 6 政治・芸術・哲学									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
学期末の試験									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 藤沢令夫 『プラトンの哲学』(岩波新書)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西欧近現代表象文化論演習IVB Seminar on Culture and Its Representation in Modern Western Europe IVB	担当者氏名	文学研究科 准教授 桂山 康司						
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	水3	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
英詩の諸相									
【授業計画と内容】									
前期に引き続き、具体的に、テキストに収められた作品、一つ一つを丹念に精読しながら英詩の表現の特質の変化を、社会背景や文化全般と関連づけて、考察する。どの作品を読むかは、最初の授業において指示する。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
年度末試験の成績に、日常の活動を加味して評価する。									
【教科書】									
Cyril Reginald Watters et al 『One Hundred Poems, One Hundred Poets』(英宝社)									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西欧古代・中世表象文化論IB Seminar on Culture and Representation in Ancient and Medieval Europe IB	担当者氏名	文学研究科 教授 中畑 正志						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	水5	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
アリストテレスの哲学を基本をたどりながら、近代以後の哲学とは対照的なその思考のあり方を理解する。									
【授業計画と内容】									
以下のような内容が論じられる予定である。 1 アリストテレスの生涯、時代、社会 2 知を備えた存在としての人間 3 自然を読む、自然を語る 4 心なき「心の哲学」 5 形而上学はどのように成立したのか 6 性格の倫理学									
【履修要件】									
西欧古代・中世表象文化論 IAを履修していることがきわめて望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
学期末の試験。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 内山勝利編 『哲学の歴史 1』(中央公論新社)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西欧古代・中世表象文化論II B Culture and Representation in Ancient and Medieval Europe IIB	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 尾野 照治
配当学年	2-4回生	単位数	2
開講期	後期	曜時間	月3
授業形態	講義		
【授業の概要・目的】			
ヨーロッパ中世の大きな一角を占めるドイツ語圏の文化と思想に関して、当時の様々なジャンルの原典を研究素材にその形成と発展を考察し、現代ドイツ語とはかなり異なる中世高地ドイツ語にも慣れ親しむ。			
【授業計画と内容】			
中世盛期（12、13世紀）ドイツ語圏の社会の構造と文化を概観した後、物文化としての貴族・騎士の新しい生活様式と、貴族・騎士の社会文化の思想的基盤である宮廷の社会理想を、当時の法書・思想書・説教集・文芸作品等の研究素材によって、具体的に検討していく。本学は、説教集（Berthold von Regensburg）、キリスト教的宮廷倫理の教育詩（Thomasin von Zerklare: Der Welsche Gast）、法書（Sachsenspiegel）、宮廷叙情詩（Walther von der Vogelweide, Reinmar von Hagenau, Neidhart von Reuenthal, Heinrich von Morungen, Der von Kuerenberg）、宮廷叙事詩（Wolfram von Eschenbach: Parzival, Gottfried von Strassburg: Tristan, Hartmann von Aue: Iwein）、英雄叙事詩（Nibelungenlied, Kudrun）等の中世高地ドイツ語の原典を、一言一句厳密に読み解きながら、謎多いヨーロッパ中世の人々の文化と思想を炙り出す。更にその歴史的状况を把握しながら、中世の文化・思想の形成と発展に関わる諸問題を、総合的に考察する。授業は演習形式になる。			
【履修要件】			
ドイツ語初級の単位を取得していること。			
【成績評価の方法・基準】			
レポートと出席率による。			
【教科書】			
それぞれの原典の抜粋をコピーして、授業中に配布する。			
【参考書等】			
（参考書） 授業中に紹介する			
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））			
オフィスアワーは、毎週水曜日の12:00~13:00（研究室）			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英訳>	西欧古代・中世表象文化論演習 I A Seminar on Culture and Representation in Ancient and Medieval Europe IA	担当者氏名	人間・環境学研究所 准教授 高谷 修
配当学年	3,4回生	単位数	2
開講期	前期	曜時間	火3
授業形態	演習		
【授業の概要・目的】			
ギリシア悲劇を読む  古典ギリシア語を学習した学生のためのギリシア語中級講座という位置づけで、エウリピデスの『ヒッポリュトス』を読む。古典ギリシア語に親しみ、エウリピデスを楽しむことを目的とする。			
【授業計画と内容】			
先を急がず、festina lente で読み進めたい。毎回、まず学生が読んで訳し教師が解説するという方法をとる。			
【履修要件】			
古典ギリシア語を学習していること。			
【成績評価の方法・基準】			
毎回の活躍とレポートによって評価する。			
【教科書】			
John Ferguson, ed. 『Euripides: Hippolytus』 (Bristol Classical Press)			
【参考書等】			
（参考書） 授業中に紹介する			
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英訳>	西欧古代・中世表象文化論III B Culture and Representation in Ancient and Medieval Europe IIB	担当者氏名	人間・環境学研究所 准教授 高谷 修
配当学年	2-4回生	単位数	2
開講期	後期	曜時間	月5
授業形態	講義		
【授業の概要・目的】			
イギリス文学入門  多様なイギリス文学の作品の中から、主要なものをとりあげ、解説・講義する。作品に対する理解を深めることは勿論であるが、そのような作品を生み出した社会的背景・文化的要因についても注意を向けたい。			
【授業計画と内容】			
次の作家・作品を取り上げる予定。 『ペオウルフ』、Geoffrey Chaucer, Sir Philip Sidney, Edmund Spenser, William Shakespeare, Christopher Marlowe, John Donne, Ben Jonson, John Milton, John Dryden, Alexander Pope, Samuel Richardson, Henry Fielding, Laurence Sterne, Jane Austen, William Wordsworth, D. H. Lawrence, E. M. Forster, Graham Greene			
【履修要件】			
特になし			
【成績評価の方法・基準】			
出席と発言と期末テストによって評価する。			
【教科書】			
御輿員三(編) 『Landmarks in English Literature』(あぼろん社)			
【参考書等】			
（参考書） 授業中に紹介する			
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英訳>	西欧古代・中世表象文化論演習 I B Seminar on Culture and Representation in Ancient and Medieval Europe IB	担当者氏名	人間・環境学研究所 准教授 高谷 修
配当学年	3,4回生	単位数	2
開講期	後期	曜時間	火3
授業形態	演習		
【授業の概要・目的】			
ギリシア悲劇を読む  古典ギリシア語を学習した学生のためのギリシア語中級講座という位置づけで、エウリピデスの『ヒッポリュトス』を読む。古典ギリシア語に親しみ、エウリピデスを楽しむことを目的とする。			
【授業計画と内容】			
前期に引き続いて読む。先を急がず、festina lente で読み進めたい。毎回、まず学生が読んで訳し教師が解説するという方法をとる。			
【履修要件】			
古典ギリシア語を学習していること。			
【成績評価の方法・基準】			
毎回の活躍とレポートによって評価する。			
【教科書】			
John Ferguson, ed. 『Euripides: Hippolytus』 (Bristol Classical Press)			
【参考書等】			
（参考書） 授業中に紹介する			
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英訳>	西欧古代・中世表象文化論演習IIA Seminar on Culture and Representation in Ancient and Medieval Europe IIA	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 尾野 照治						
配当学年	3,4年生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	月3	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
ヨーロッパ中世の大きな一角を占めるドイツ語圏の文化と思想に関して、当時の様々なジャンルの原典を研究素材にその形成と発展を考察し、現代ドイツ語とはかなり異なる中世高地ドイツ語にも慣れ親しむ。									
【授業計画と内容】									
中世盛期（12、13世紀）ドイツ語圏の社会の構造と文化を概観した後、物文化としての貴族・騎士の新しい生活様式と、貴族・騎士の社会文化の思想的基盤である宮廷の社会理想を、当時の法書・思想書・説教書・文芸作品等の研究素材によって、具体的に検討していく。本学は、説教集（Berthold von Regensburg）、キリスト教的宮廷倫理の教育詩（Thomasin von Zerklare:Der Welsche Gast）法書（Sachsenspiegel）、宮廷叙情詩（Walther von der Vogelweide, Reinmar von Hagenau, Neidhart von Reuenthal, Heinrich von Morungen）宮廷叙事詩（Wolfram von Eschenbach:Parzival, Gottfried von Strassburg:Tristan, Hartman von Aue:Iwein）、英雄叙事詩（Nibelungenlied, Kudrun）等の中世高地ドイツ語の原典を、一言一句厳密に読み解きながら、謎多いヨーロッパ中世の人々の文化と思想を炙り出す。									
【履修要件】									
ドイツ語初級の単位を取得していること。									
【成績評価の方法・基準】									
レポートと出席率による。									
【教科書】									
それぞれの原典の抜粋をコピーして、授業中に配布する。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワーは、毎週水曜日の12:00~13:00（研究室）									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西欧古代・中世表象文化論演習IIIB Seminar on Culture and Representation in Ancient and Medieval Europe IIIB	担当者氏名	人間・環境学研究所 准教授 高谷 修						
配当学年	3,4年生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	水5	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
ダンテの La Divina Commedia を読む。									
【授業計画と内容】									
前期に引き続いて、ダンテの『神曲』を読む。彼はヨーロッパ中世最大の叙事詩人。La Divina Commediaは中世に屹立する偉大な作品といっても過言ではないだろう。この作品をCharles Singleton編集によるテキストを用いて精読し、<神曲>と称揚された世界に親しむ。									
【履修要件】									
イタリア語初級を学習していることが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
平常の活躍で評価する。									
【教科書】									
Charles Singleton (ed.) 『Dante: Inferno』 (Princeton University Press)									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西欧古代・中世表象文化論演習IIIA Seminar on Culture and Representation in Ancient and Medieval Europe IIIA	担当者氏名	人間・環境学研究所 准教授 高谷 修						
配当学年	3,4年生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	水5	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
ダンテの La Divina Commedia を読む。									
【授業計画と内容】									
昨年に引き続いて、ダンテの『神曲』を読む。彼はヨーロッパ中世最大の叙事詩人。La Divina Commediaは中世に屹立する偉大な作品といっても過言ではないだろう。この作品をCharles Singleton編集によるテキストを用いて精読し、<神曲>と称揚された世界に親しむ。 今年度は、「地獄篇」第7歌から読む。									
【履修要件】									
イタリア語初級を学習していることが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
平常の活躍で評価する。									
【教科書】									
Charles Singleton (ed.) 『Dante: Inferno』 (Princeton University Press)									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	文化環境学入門 A Introduction to Cultural and Environmental Studies A	担当者氏名	地球環境学 教授 小方 登
配当学年	1,2回生	単位数	2
開講期	前期	曜時限	木1
授業形態	講義		
【授業の概要・目的】			
文化環境学系の文化地域環境論関係教員による入門編のリレー講義である。本領域を構成する文化人類学・地域空間論・環境構成論のそれぞれの分野に固有の研究主題と方法論を概略的に紹介する。統一テーマは特に設けない。さらには、課題によっては、それらの諸分野を縦断する研究学習方法によって可能となる研究礼などを紹介することもある。			
【授業計画と内容】			
文化人類学・地域空間論・環境構成論それぞれ4回ずつ合計12回の講義を行う。			
【履修要件】			
特になし			
【成績評価の方法・基準】			
リレー講義で受講した教員二名以上に、それぞれの教員が指示する期限内にレポートを提出する。レポートはいくつ出してよいが、成績は、八割以上の出席とレポート成績上位の二点により決定する。			
【教科書】			
授業資料は、それぞれの教員が授業中に指示するか、配布する。			
【参考書等】			
(参考書) 授業中に紹介する			
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))			
関心事項はそれぞれの教員に問い合わせること。			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英訳>	ユーラシア文化複合論 B Complex Studies of Eurasian Cultures B	担当者氏名	神戸大学 准教授 橋岡 求美
配当学年	2-4回生	単位数	2
開講期	後期	曜時限	木4
授業形態	講義		
【授業の概要・目的】			
「映画・文学に表象されるロシア・ソ連の世界観 - シベリア、南方、ヨーロッパ、アメリカに対するイメージの変遷について」			
日本から世界を眺めるとき、旧ソ連圏の地域のイメージについては、白地図のようになっていないだろうか？しかし、ソ連が崩壊した後、ロシアは世界最大の領域を誇り、大きな影響力を有している。また、北極圏から砂漠までの多様な気候・風土と100以上の民族・言語を有する多民族国家である。本講では、広大な地域の文化的多様性を学び、欠落しているイメージを少しでも補うことを目的とする。また、現在でも世界最大領域を誇るロシアから国内外の各地域を見たとき、どのような地域イメージや世界観が、歴史的、文化的に形成されてきたのかについても考察を試みる。			
【授業計画と内容】			
日本において、グローバル化や世界情勢について語られるとき、しばしば、しかしごく当たり前のように、旧ソ連地域への言及が省かれている。確かに、冷戦の終結、社会主義の崩壊によって、いわゆる西側諸国の社会制度へと転換しつつあり、目に見えた影響力がないように思われるかもしれない。しかし、陸地の1/6を占め、130以上の民族を有した旧ソ連地域は、世界最大の領土をほこるロシアをはじめ、多民族・多言語空間として歴史的に形成された独自の価値観を有し、今後の国際関係上も市場としても政治上也も重要な役割を果たしていく地域である。			
ロシア・ソ連は、20世紀の間に複数の革命、戦争による極限的な変化と犠牲を強いられてきたわけだが、そこから眺めるとき、果たして世界は、「ヨーロッパ」、「アメリカ」、「アジア」はどのように捉えられているのだろうか。			
本講では、19世紀以来、ロシアの自己イメージが中心的テーマとなってきたロシア文学および、インドに次ぐ映画大国であったソ連時代の映画作品を手がかりに、ロシアにおける国内イメージ・国外イメージについて考察を行う。設定したテーマが広範囲に及ぶため、網羅的な考察よりは、特徴的なポイントに絞って取り上げることになる。			
授業中にディスカッションも行う予定なので積極的に準備・参加してほしい。			
取り上げる予定の作品			
国内イメージ：映画『シベリア物語』（ソヴィエト・社会建設） 映画『砂漠の白い太陽』（ソヴィエト・革命期を題材としたもの。中央アジアが舞台）など			
世界観：ドストエフスキー『おかしな男の夢』（アレクサンドル・ペトロフのアニメ作品とあわせて考察する） 映画『不思議な星キン・ザ・ザ』（ソヴィエト・SFコメディ）など			
【履修要件】			
授業中に紹介する作品について、日本語で入手可能な場合は出来るだけ読む/見るようにしてください。（あらずしただけでは、判断がステレオタイプに陥りがちになります。）			
【成績評価の方法・基準】			
授業中に課題作品の内容紹介を担当：1回（中間レポートに相当）			
-----ユーラシア文化複合論 B(2)へ続く-----			

授業科目名 <英訳>	文化環境学入門 B Introduction to Cultural and Environmental Studies B	担当者氏名	人間・環境学 研究科 教授 岡 真理 人間・環境学 研究科 准教授 勝又 直也 人間・環境学 研究科 准教授 小倉 紀蔵 人間・環境学 研究科 教授 松浦 茂 人間・環境学 研究科 教授 三谷 恵子 国際研究開発センター 教授 赤松 紀彦 人間・環境学 研究科 教授 松田 清 人間・環境学 研究科 教授 稲垣 直樹 人間・環境学 研究科 教授 ミリケン・エンゲルベルト
配当学年	1,2回生	単位数	2
開講期	後期	曜時限	木1
授業形態	講義		
【授業の概要・目的】			
比較文明論関係の諸分野の基礎的な理論と知識を、各担当教員が具体的なテーマをとりあげて概説します。			
【授業計画と内容】			
文化・環境学系の比較文明論関係の諸教員によるリレー講義です。各教員がそれぞれの専門を生かした入門講義を行います。以下、その一部を紹介します（順不同。なおテーマ、タイトルについては変更の可能性があります）。 三谷恵子「ヨーロッパの少数言語について 問題の設定と研究方法」 松浦茂「清のトゥシ使節 18世紀初めにモスクワに行った清朝の使節とロシアの受け入れ」 赤松紀彦「江戸時代、長崎で演じられた中国伝統劇について 大田南畝が見た中国のお芝居」 勝又直也「ヘブライ語版マカーマート アラブ文学とヨーロッパ文学の間で」 小倉紀蔵「朝鮮の美と歴史認識」 岡 真理「思想としてのパレスチナ問題」 松田清「知の動態史からみた蘭学～長崎・江戸・京都～」 稲垣直樹「フランス・ロマン主義と現代」 ヨリッセン、エンゲルベルト「植民地政策と文学」			
【履修要件】			
特になし			
【成績評価の方法・基準】			
授業出席とレポートによる。期末レポートについての詳細は第1回目のオリエンテーションのときに説明します。			
【教科書】			
授業中に指示する			
【参考書等】			
(参考書) 授業中に紹介する			
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))			
第1回目の授業で全講義のアウトラインおよびレポートの提出方法などを紹介します。			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

ユーラシア文化複合論 B(2)			
-----			
学期末に「ロシア・ソ連における地域(領域)イメージ」について映画・文学作品などを取り上げ、分析を行うレポートを課す。			
【教科書】			
授業中に指示する			
【参考書等】			
(参考書) 『ロシアを知る事典』(平凡社) (『ロシア・ソ連を知る事典』改定版) 『講座スラブ・ユーラシア学 全三巻』(講談社) 木村崇編著『カフカース 二つの文明が交差する境界』(彩流社) 塩川伸明『民族とネイション ナショナリズムという難問』(岩波新書) 佐藤千登勢『DVDで愉しむロシアの映画』(東洋書店) 『ユーラシアブックレットシリーズ』(東洋書店)			
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))			
連絡先: kumi3@kobe-u.ac.jp			
慣れない地域の歴史・文化を学ぶ際、いろいろと知らない用語、固有名詞にぶつかりますが、なんとなく、ではなく、調べてみると言葉に託されたイメージの差異がわかることが多いものです。総合人間の図書館にはロシア・ソ連に関する豊富な資料がありますし、ネットなども利用して積極的に調べてみてください。			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英訳>	文化交渉複合論 A Cultural Encounters in Mediterranean and Middle Eastern Societies in the Middle Ages A	担当者氏名	人間・環境学研究科 准教授 勝又 直也
配当学年	2-4回生	単位数	2
開講期	前期	曜時間	火2
授業形態	講義		
【授業の概要・目的】			
中世ユダヤ人が生み出したヘブライ文学の精読を通して、マイノリティであったユダヤが、ギリシャ、イスラーム、ヨーロッパといったマジョリティ文化とどのように関わっていたのかを考察する。			
【授業計画と内容】			
スペイン・トレド生まれのユダヤ人詩人イエフダ・アルハリーズィー（1165-1225）が、アラブ文学におけるマカーマートと呼ばれるジャンル（独立した50の物語からなる、韻を踏んだ散文）を模倣してヘブライ語で創作した作品『タハケモニ』を、原典で講読する。			
最初の2週ほどで、中世ヘブライ文学、マカーマート文学等についての概論を行ったうえで、『タハケモニ』を読んでいく。50の物語のうち、特に興味深い物語を選ぶ。ひとつの物語を読むのに、3週ほどの時間が必要になる。合計、4つほどの物語を読むことを目指す。			
【履修要件】			
ヘブライ語の知識が必須である。			
【成績評価の方法・基準】			
通常の講読への参加、およびレポートにより評価する。			
【教科書】			
プリント配布			
【参考書等】			
（参考書） 授業中に紹介する			
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））			
n. katsumata@piyyut.mbox.media.kyoto-u.ac.jpにて、質問を受け付ける。			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英訳>	文化交渉複合論演習 B Seminar : Cross-Cultural Relations in Arts B	担当者氏名	人間・環境学研究科 准教授 勝又 直也
配当学年	2-4回生	単位数	2
開講期	後期	曜時間	火3
授業形態	演習		
【授業の概要・目的】			
中世ユダヤ人が生み出したヘブライ文学の精読を通して、マイノリティであったユダヤが、ギリシャ、イスラーム、ヨーロッパといったマジョリティ文化とどのように関わっていたのかを考察する。			
【授業計画と内容】			
スペイン・トレド生まれのユダヤ人詩人イエフダ・アルハリーズィー（1165-1225）が、アラブ文学におけるマカーマートと呼ばれるジャンル（独立した50の物語からなる、韻を踏んだ散文）を模倣してヘブライ語で創作した作品『タハケモニ』を、原典で講読する。			
最初の2週ほどで、中世ヘブライ文学、マカーマート文学等についての概論を行ったうえで、『タハケモニ』を読んでいく。50の物語のうち、特に興味深い物語を選ぶ。ひとつの物語を読むのに、3週ほどの時間が必要になる。合計、4つほどの物語を読むことを目指す。			
【履修要件】			
ヘブライ語の知識が必須である。			
【成績評価の方法・基準】			
通常の講読への参加、およびレポートにより評価する。			
【教科書】			
プリント配布			
【参考書等】			
（参考書） 授業中に紹介する			
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））			
n. katsumata@piyyut.mbox.media.kyoto-u.ac.jpにて、質問を受け付ける。			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英訳>	文化交渉複合論演習 A Seminar : Cross-Cultural Relations in Arts A	担当者氏名	人間・環境学研究科 准教授 勝又 直也
配当学年	2-4回生	単位数	2
開講期	前期	曜時間	火3
授業形態	演習		
【授業の概要・目的】			
中世ユダヤ人が生み出したヘブライ文学の精読を通して、マイノリティであったユダヤが、ギリシャ、イスラーム、ヨーロッパといったマジョリティ文化とどのように関わっていたのかを考察する。			
【授業計画と内容】			
スペイン・トレド生まれのユダヤ人詩人イエフダ・アルハリーズィー（1165-1225）が、アラブ文学におけるマカーマートと呼ばれるジャンル（独立した50の物語からなる、韻を踏んだ散文）を模倣してヘブライ語で創作した作品『タハケモニ』を、原典で講読する。			
最初の2週ほどで、中世ヘブライ文学、マカーマート文学等についての概論を行ったうえで、『タハケモニ』を読んでいく。50の物語のうち、特に興味深い物語を選ぶ。ひとつの物語を読むのに、3週ほどの時間が必要になる。合計、4つほどの物語を読むことを目指す。			
【履修要件】			
ヘブライ語の知識が必須である。			
【成績評価の方法・基準】			
通常の講読への参加、およびレポートにより評価する。			
【教科書】			
プリント配布			
【参考書等】			
（参考書） 授業中に紹介する			
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））			
n. katsumata@piyyut.mbox.media.kyoto-u.ac.jpにて、質問を受け付ける。			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英訳>	東アジア比較思想論 A Comparative Studies of East Asian Thought A	担当者氏名	人間・環境学研究科 准教授 小倉 紀蔵
配当学年	2-4回生	単位数	2
開講期	前期	曜時間	金3
授業形態	講義		
【授業の概要・目的】			
【授業のテーマ】 東洋哲学と人殺し			
【授業計画と内容】			
【授業内容】 東洋哲学において、殺人はいかにして正当化されるのか。あるいは正当化されない殺人がいかに人びとに魅力的に映じるのか。このことを、哲学そのものと芸術作品の中から探っていく。特に儒教における「忠」「義」「誠」という概念と殺人との関係を考える。儒教の一スクールである陽明学が、日本ではなぜ叛乱やテロリズムに結びつくのか、ということも考察の対象とする。また、鶴屋南北（1755-1829）の名作歌舞伎『東海道四谷怪談』に出てくる有名な幽霊・お岩の夫である民谷伊右衛門は、南北の設定では赤穂（劇中では塩冶）の浪人であった。そしてこの芝居が書かれた当時は、『仮名手本忠臣蔵』とのセットとして上演された。つまり『東海道四谷怪談』はいわば「ウラ忠臣蔵」だったわけである。ということは、次々と人を殺し悪事をはたらく伊右衛門の背後には、忠義の権化である四十七士がいた。オモテの忠義の殺人（忠臣蔵）と、ウラの欲得の殺人（東海道四谷怪談）は、いかなる関係にあるのか。そして人びとはなぜウラの世界にかぎりない魅力を感じるのか。そういうことを考えてみる。			
【授業計画】 以下の各テーマについて3回程度ずつ授業を行う。 儒教と殺人の関係を思想的に考えてみる。 鶴屋南北作の『東海道四谷怪談』を読む。 『東海道四谷怪談』に関わる映像作品を見、そこに描かれた人殺しの解釈を行う。 東映任侠映画に描かれた殺人の道徳について詳細に検討する。 三島由紀夫の自刃の論理を哲学的に検討する。			
【履修要件】			
特になし			
【成績評価の方法・基準】			
出席、授業への参加度（発表内容を含む）および期末レポートによって評価する。			
【教科書】			
鶴屋南北『東海道四谷怪談』（岩波文庫）ISBN:4-00-302131-2（このテキストのほかは、プリントを配布します。）			
【参考書等】			
（参考書）			
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英語>	東アジア比較思想論B Comparative Studies of East Asian Thought B	担当者氏名	人間・環境学研究科 准教授 小倉 紀蔵						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	金3	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
【授業のテーマ】 東アジアにおける自我と心									
【授業計画と内容】									
【授業の内容】 「私」や「心」というもの・ことは、東アジアにおいてどのように捉えられてきたのであろうか。孔子・孟子から朱子学・陽明学、道家、仏教、シャーマニズム、および朝鮮の諸思想と日本の諸思想を再検討してみる。また、私の唱える多重主体主義（multisubjectivism）の観点から新しい自我観心の構築を試みる。									
【授業計画】 授業は、主に「私」と「心」というふたつの概念に関して、毎回様々な伝統的東洋思想の考えを紹介し、それに対して現代的観点から論評を加える。東アジアで伝統的に「心」というとき、現代的にいえば「脳」のことも含んでいる場合が多いので、講義の視野は当然、心と脳の関係にも及ぶであろう。また西洋哲学との比較も行われるであろう。									
【履修要件】 特になし									
【成績評価の方法・基準】 出席、授業への参加度（発表内容を含む）および期末レポートによって評価する。									
【教科書】 コピーを配布する。									
【参考書等】 （参考書）									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	東アジア比較思想論演習B Seminar on Comparative Studies of East Asian Thought B	担当者氏名	人間・環境学研究科 准教授 小倉 紀蔵						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	金4	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
【授業のテーマ】 たましいと社会									
【授業計画と内容】									
【授業の内容】 東アジア社会において、「たましい」とは何なのか、様々な文化におけるその根源的な意味を探ってみる。さらに、社会において「たましい」はどのような意味と役割を持っているのかを考えてみる。このようなことを考察することにより、東アジア社会の特質と多様性を、西洋的学術用語で捉えるのは異なる仕方である。また、私の唱える多重主体主義（multisubjectivism）の観点から、新しい「たましいと社会」の関係を構築する。これからの新しい社会を構想するに当たって、西洋中心主義的な発想から逸脱した地平を開きうるであろう。									
【授業計画】 授業では、東アジアにおける様々な文化における「たましい」のあり方を考察してみる。主に日本と朝鮮半島についての分析が多くなると思うが、これに限らない。さらに、社会・政治・経済・歴史などと「たましい」がどのように関係しているのかについても哲学的に考察してみる。									
【履修要件】 特になし									
【成績評価の方法・基準】 出席、授業への参加度（発表内容を含む）および期末レポートによって評価する。									
【教科書】 プリントを配布する予定。									
【参考書等】 （参考書）									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	東アジア比較思想論演習A Seminar on Comparative Studies of East Asian Thought A	担当者氏名	人間・環境学研究科 准教授 小倉 紀蔵						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	金4	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
【授業のテーマ】 東アジアの思考とヘルダーリン									
【授業計画と内容】									
【授業の内容】 フリードリヒ・ヘルダーリン（1770～1843）はドイツの詩人である。彼の世界観は汎神論的といわれるが、実は東アジアの世界観から見てもまったく異質なもののようには感じられない。この授業では彼の思想書である『ヒュペリオン』を読みながら、ここで語られている世界観と東アジアの伝統的な世界観、たとえば荘子や王陽明や大塩平八郎などとの比較をしてみる。「心」や「たましい」や「自然」や「死」などという概念を丁寧に比較することにより、「東洋」と「西洋」の境界は画然としたものではないことを発見するだろうし、またその相違点についても深く考察することができるであろう。									
【授業計画】 授業では、毎回、『ヒュペリオン』（日本語訳）を読んでゆく。おおよそその目安として、次のような進度を考えている。 1. 第一巻第一部 3～4回 2. 第一巻第二部 3～4回 3. 第二巻第一部 3～4回 4. 第二巻第二部 3～4回									
【履修要件】 特になし									
【成績評価の方法・基準】 出席、授業への参加度および期末レポートによって評価する。									
【教科書】 ヘルダーリン『ヒュペリオン』（筑摩書房）ISBN:978-4-480-42721-2（ちくま文庫版です。）									
【参考書等】 （参考書）									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	東北アジア文化・社会論A Northeast Asian Culture and Society A	担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 松浦 茂						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	金1	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
1727年にロシアと清朝が締結したキャフタ条約は、その後100年以上にわたって両国の関係を安定させた。本年度の講義では、ヨーロッパ・キリスト教主義外交と中華主義外交の対立という観点から両国の外交交渉を説明をして、アジアにおけるキャフタ条約の意義について述べる。									
【授業計画と内容】 以下の内容について講義する。 第1～10週 1727年の北京会議 第11～15週 1731、1732年の清朝遣露使節									
【履修要件】 特になし									
【成績評価の方法・基準】 レポート試験によって評価する。									
【教科書】 使用しない									
【参考書等】 （参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	東北アジア文化・社会論 B Northeast Asian Culture and Society B	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 松浦 茂						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	金1	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
清朝前期の中国に訪れたヨーロッパ人の中には、貴重な記述を残したものが少なくない。本年度の講義においては、そうした記録のいくつかを取り上げて、ヨーロッパ人の見た清朝の政治と社会がどのようなものであったかのかを考えてみたい。									
【授業計画と内容】									
以下の内容について講義を行なう。									
第1～10週 『ヴラジスラヴィッチ 1727年 北京』解説 第11～15週 18世紀初頭のロシアと対清朝貿易									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポート試験によって評価する。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	東ヨーロッパ比較言語論 B Comparative Study of East European Languages B	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 三谷 恵子						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	水5	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
中・東欧の言語状況、言語政策、言語文化について、それぞれの民族の歴史や社会構造などと合わせて考察する。									
【授業計画と内容】									
まず中・東欧地域全般の言語と民族の分布や相互の関係について概観する。その後以下に以下の地域別に、言語使用状況、言語の特徴、言語政策、言語を使用する民族とその文化について、具体的に論じる。 ・旧ソ連圏(ウクライナ、ベラルーシ、バルト三国) ・中欧(チェコ、スロヴァキア、オーストリア、ハンガリー、スロヴェニア) ・バルカン(旧ユーゴスラヴィア圏、ブルガリア)									
【履修要件】									
ロシア語(初級終了程度)の読解力があることが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
出席、授業への参加、レポートを総合して評価する。									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	東北アジア文化・社会論演習 A Seminar on Northeast Asian Culture and Society A	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 松浦 茂						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	火2	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
近年の研究状況において、ロシア語文獻は清朝とロシアの関係史、あるいは北方史、北方考古学の研究を志すものにとって必要不可欠のものとなっている。そこで本年の講義には、ロシア語研究文獻の読解について実習を行なう。									
【授業計画と内容】									
本年度の授業においては、ネルチンスク条約・キャフタ条約など露清関係史に関するテキストを講読する。 なお受講生の人数等に応じて、テキストを変更することもある。									
【履修要件】									
ロシア語文法の初歩を終えていること。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点(出席を含む)で評価する。									
【教科書】									
授業中に指示する テキストはプリントして配布する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	東ヨーロッパ比較言語論演習 A Seminar on Comparative Study of East European Languages A	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 三谷 恵子						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	水3	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
中・東欧の言語と社会をテーマとする。具体的には、旧ソ連圏(ウクライナ、ベラルーシ、バルト三国など)、中欧(旧オーストリア・ハンガリー圏)、バルカン諸地域の言語事情、言語接触、言語政策などを事例に、言語運用と社会、歴史、民族形成の関係などについて考える。									
【授業計画と内容】									
まず中・東欧の言語と民族の地理的分布、歴史的背景について概観したのち、旧ソ連圏(ウクライナ、ベラルーシ、バルト三国など)、中欧(旧オーストリア・ハンガリー圏)、バルカン諸地域の言語事情、言語接触、言語政策などを個別に取り上げ、言語運用と社会、歴史、民族形成の関係について考える。参加者各自にそれぞれ分担を決めて課題発表してもらう。									
【履修要件】									
ロシア語テキストが読めること(初級ロシア語程度の学習経験があること)が望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
出席、発表内容、レポートを総合して評価する。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	東ヨーロッパ比較言語論演習 B Seminar on Comparative Study of East European Languages B	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 三谷 恵子						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	水3	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
中・東欧の言語と社会をテーマとする。前期に引き続き、具体的には、旧ソ連圏（ウクライナ、ベラルーシ、バルト三国など）、中欧（旧オーストリア・ハンガリー圏）、バルカン諸地域の言語事情、言語接触、言語政策などを事例に、言語運用と社会、歴史、民族形成の関係などについて考える。									
【授業計画と内容】									
前期と同じように、中・東欧の言語と民族の地理的分布、歴史的背景について概観したのち、旧ソ連圏（ウクライナ、ベラルーシ、バルト三国など）、中欧（旧オーストリア・ハンガリー圏）、バルカン諸地域の言語事情、言語接触、言語政策などを個別に取り上げ、言語運用と社会、歴史、民族形成の関係について考える。参加者各自にそれぞれ分担任を決めて課題発表してもらおう。									
【履修要件】									
ロシア語テキストが読めること（初級ロシア語程度の学習経験があること）が望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
出席、発表内容、レポートを総合して評価する。									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	東アジア比較芸能論演習 A Seminar on Comparative Studies of North-East Asian A	担当者氏名	言語学研究所 教授 赤松 紀彦						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	水3	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
《琵琶記》を読む。元末の劇作家高明による《琵琶記》は、南戯と呼ばれる中国の古い演劇形態による作品として、古来屈指の名作とされてきた。この授業では、この作品のいくつかの幕をじっくり読み解きながら、演劇としての南戯が持つ特長を明らかにしてゆきたい。									
【授業計画と内容】									
中国の演劇作品、とりわけ宋元南戯、明清傳奇と呼ばれるジャンルの作品は長大なものが多く、全編を読み通すとなると相当な時間が必要となる。そればかりか、実際に上演される場合においても、通してではなく、それぞれの幕を抜粋して上演する、折子戯とよばれる形式が古くから取られてきた。そこで、本授業でも、その形式にならひ、今年度は、全四十二齣のうち、以下の幕を取り上げながら、細かく分析することとしたい。 第一齣 副未開場 第二齣 高堂称寿 第三齣 牛氏規奴 第四齣 蔡公遣試 第五齣 南浦囑別 第十二齣 奉旨招婿 第十三齣 官媒議婚 第十四齣 激怒当朝 以上の幕について、担当者により、毎回訳注を作成して発表してもらおう。									
【履修要件】									
現代中国語ならびに中国古典文学についての十分な知識があること。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点による。									
【教科書】									
プリント配布									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィス・アワー：水曜午後1時～5時00分（A124研究室） メールアドレス：chisong@canvas.ne.jp									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	東アジア比較芸能論 B Comparative Studies of North-East Asian B	担当者氏名	言語学研究所 教授 赤松 紀彦						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	木3	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
「中国伝統演劇はどのように演じられるか」をテーマとして、その歴史、舞台構造、表現様式について、図像・映像資料なども援用しながら論じてゆく。日本の能や歌舞伎といった伝統演劇との比較も視野に入れつつ、作品そのものの内容よりも、それがどのように表現されるのかについて、理解を深めたいというのがこの講義の目的である。 今年度は、次の通り、特に具体的な作品をいくつか取り上げて論じる予定である。									
【授業計画と内容】									
以下のようなテーマについて、順に論じる。 1. 中国伝統演劇とは？ その歴史についての概説 2. 中国伝統演劇史における元雜劇～《単刀会》刀会 3. 板東玉三郎が演じた崑曲《牡丹亭》～《牡丹亭》遊園驚夢・離魂 4. うた（歌辞）の特徴～その音楽的構造と伴奏その他～《長生殿》絮問 5. せりふ（賓白）について～《琵琶記》辭朝 6. 方言白の機能～《白兔記》養子 7. しぐさ（身段）について～《荆釵記》上路 8. 日本伝統演劇との比較への手がかりを探る～能・狂言・文楽・歌舞伎  授業に際しては、映像資料をふんだんに用いるが、日本の伝統演劇については、各自でできれば実演を見ておくことが望ましい。									
【履修要件】									
現代中国語ならびに中国古典文学についての十分な知識があること。									
【成績評価の方法・基準】									
レポートにより評価する。課題については授業中に提示する。									
【教科書】									
赤松紀彦ほか『能楽と崑曲 日本と中国の古典演劇を楽しむ』（汲古書院）ISBN:978-4-7629-3571-8									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー：水曜午後1時～5時（A124研究室） メールアドレス：chi4song1@gmail.com									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	東アジア比較芸能論演習 B Seminar on Comparative Studies of North-East Asian B	担当者氏名	言語学研究所 教授 赤松 紀彦						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	水3	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
《琵琶記》を読む。元末の劇作家高明による《琵琶記》は、南戯と呼ばれる中国の古い演劇形態による作品として、古来屈指の名作とされてきた。この授業では、この作品のいくつかの幕をじっくり読み解きながら、演劇としての南戯が持つ特長を明らかにしてゆきたい。									
【授業計画と内容】									
中国の演劇作品、とりわけ宋元南戯、明清傳奇と呼ばれるジャンルの作品は長大なものが多く、全編を読み通すとなると相当な時間が必要となる。そればかりか、実際に上演される場合においても、通してではなく、それぞれの幕を抜粋して上演する、折子戯とよばれる形式が古くから取られてきた。そこで、本授業でも、その形式にならひ、全四十二齣のうち、前期に続いて、以下の幕を取り上げながら、細かく分析することとしたい。 第十九齣 勉食姑&#23260; 第二十一齣 糟糠自厭 第二十二齣 琴訴河池 第二十八齣 中秋望月 第二十九齣 乞巧尋夫 以上の幕について、担当者により、毎回訳注を作成して発表してもらおう。									
【履修要件】									
現代中国語ならびに中国古典文学についての十分な知識があること。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点による。									
【教科書】									
プリント配布									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィス・アワー：水曜午後1時～4時30分（A124研究室） メールアドレス：chisong@canvas.ne.jp									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	日欧知識交流史 A History of Knowledge Interchange Between Japan and Europe A	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 松田 清
配当学年	2-4回生	単位数	2
開講期	前期	曜時間	火1
[授業の概要・目的]			
洋学前期（安永天明寛政期）の舶載参考図書（辞書辞典地図帳など）の書誌、成立史、出版事情、日本における翻訳史を資料にもとづいて概説する。日欧知識交流史に関する基礎資料について理解を深める。			
[授業計画と内容]			
ハルマ、マリーンのなどの蘭仏辞典、ショメル（2巻本）、ボイスなどの百科事典、ウォイツ、レムリーなどの薬物本草事典、ヒュペネルの時事解説辞典、ジャイヨ、ホース、コーフェンス・モルチールなどの地図帳を論ずる。			
[履修要件]			
オランダ語の知識はあらかじめ必要としない。受講者は10名以内とする。			
[成績評価の方法・基準]			
講義内容にかんする期末試験（筆記試験）によって評価する。毎回欠席をとるが出席点は認めない。			
[教科書]			
プリント配布			
[参考書等]			
（参考書） 授業中に紹介する			
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））			
オフィスアワー： 水曜日4時限 吉田南総合館432室 ただし、メールにて事前に連絡すること。 連絡先： dodonaeus (at) gmail.com			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英訳>	日欧知識交流史演習 A Seminar on History of Knowledge Interchange Between Japan and Europe A	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 松田 清
配当学年	2-4回生	単位数	2
開講期	前期	曜時間	水1
[授業の概要・目的]			
洋学前期（安永天明寛政期）の阿蘭陀通詞語学資料により、写本の読解分析能力を身につけ、言語文化からみた異文化交流史について理解を深める。			
[授業計画と内容]			
出島の言語生活を反映した阿蘭陀通詞のいわゆる「メモリーブック」（備忘録）は単語帳、会話・作文例文集からなる。本演習では洋学前期の「メモリーブック」を扱う。			
[履修要件]			
江戸時代の古文書読解に関心のあること。オランダ語の知識はあらかじめ必要としない。受講者は10名以内とする。受講者は10名以内とし、使用テキスト（プリント）は毎回、事前に受講者に配布する。			
[成績評価の方法・基準]			
演習の平常点によって評価する。毎回欠席をとるが出席点は認めない。			
[教科書]			
プリント配布			
[参考書等]			
（参考書） 授業中に紹介する			
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））			
博物館などにおける関連する展示を見学することが望ましい。 オフィスアワー： 水曜日 4時限 吉田南総合館432室 ただし、メールにて事前に連絡すること。 連絡先： dodonaeus (at) gmail.com			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英訳>	日欧知識交流史 B History of Knowledge Interchange Between Japan and Europe B	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 松田 清
配当学年	2-4回生	単位数	2
開講期	後期	曜時間	火1
[授業の概要・目的]			
洋学後期（化政～安政期）の舶載参考図書（辞書辞典地図帳など）の書誌、成立史、出版事情、日本における翻訳史を資料にもとづいて概説する。日欧知識交流史に関する基礎資料について理解を深める。			
[授業計画と内容]			
ショメル7巻本、ニューウェンボイスなどの百科事典、モリソン英華辞典、ピカール英蘭辞典、各種地図帳などを論ずる。			
[履修要件]			
オランダ語の知識はあらかじめ必要としない。受講者は10名以内とする。			
[成績評価の方法・基準]			
講義内容にかんする期末試験（筆記試験）によって評価する。毎回欠席をとるが出席点は認めない。			
[教科書]			
プリント配布			
[参考書等]			
（参考書） 授業中に紹介する			
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））			
オフィスアワー： 水曜日4時限 吉田南総合館432室 ただし、メールにて事前に連絡すること。 連絡先： dodonaeus (at) gmail.com			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英訳>	日欧知識交流史演習 B Seminar on History of Knowledge Interchange Between Japan and Europe B	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 松田 清
配当学年	2-4回生	単位数	2
開講期	後期	曜時間	水1
[授業の概要・目的]			
洋学後期（化政～安政期）の阿蘭陀通詞語学資料により、写本の読解分析能力を身につけ、言語文化からみた異文化交流史について理解を深める。			
[授業計画と内容]			
洋学後期における阿蘭陀通詞の「メモリーブック」（単語帳、会話・作文例文集など）を扱う。洋学後期にはオランダ語のみならず、英語、フランス語、ロシア語の学習が阿蘭陀通詞によってなされるため、それらの関連資料も扱う。			
[履修要件]			
江戸時代の古文書読解に関心のあること。オランダ語の知識はあらかじめ必要としない。受講者は10名以内とし、使用テキスト（プリント）は毎回、事前に受講者に配布する。			
[成績評価の方法・基準]			
演習の平常点によって評価する。毎回欠席をとるが出席点は認めない。			
[教科書]			
プリント配布			
[参考書等]			
（参考書） 授業中に紹介する			
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））			
オフィスアワー： 水曜日4時限 吉田南総合館432室 ただし、メールにて事前に連絡すること。 連絡先： dodonaeus (at) gmail.com			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英語>	比較パラダイム文明論演習 A Seminar on Comparative Studies of Paradigms and Civilization A	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 稲垣 直樹						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	水3	授業形態	演習
【授業の概要・目的】 単なる「文学受容論」の枠を超えて、広い意味でのメディアが生成する、壮大な「パラテキスト」の集積、そしてそれが指し示す方向性（「作品・作家像」）を、主としてサン＝テグジュベリないしユゴー（の生前・没後評価）を例に検証する。									
【授業計画と内容】 作品あるいは作家が、ある種絶対的な価値を有し、同時代と後代の読者はその価値ゆえに作品・作家を読む。こうした捉え方が、ほぼ「常識」であるかのように一般に流布していながら、錯覚ないし「布置の転倒」にすぎないことは、多少とも文学に通じた者ならば、誰しも承知しているところである。「名作」とは、無数の「知られざる傑作」のうちで、たまたま海面に浮かんだ冰山の一角と考えたほうがよいのかもしれない。「名作」をつくりだすのは、まずもって、出版事情、ジャーナリズムを始めとする同時代の文化社会（そして、場合によっては政治）状況である。だが、それに劣らず、重要な役割を果たすのは、後代の文化社会状況（文学研究もその一翼を担うが）であることは言うまでもない。サン＝テグジュベリないしユゴーの作品分析をふまえて、作家・作品関連文字テキスト・映像メディアを分析する。									
【履修要件】 フランス語の基礎が既習であることが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】 出席、授業への参加、レポートの総合的評価									
【教科書】 資料・テキストのコピーを配布する。									
【参考書等】 （参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	近現代民族移動論 A Studies of Early Modern and Contemporary Migration A	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 ヨリッセン/ガルベト						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	木2	授業形態	講義
【授業の概要・目的】 ポルトガルの植民地史 ポルトガルの植民地史を例にあげて、コロナリズムとポストコロナリズムの問題を勉強する。									
【授業計画と内容】 15世紀前半から、定期的に海外へ派遣された探検隊や領土拡張によって、ポルトガル人の数百年間にわたる植民地史がはじまる。その地域は、アフリカ（カボベルデ、ギニア・ビサウ、サントメ・プリンシペ、アンゴラ、モザンビーク）、南米（ブラジル）、アジア（ゴア、マカオ、ティモール）である。その植民地政策と、ポルトガル人が到着したが植民地化されなかった地域（国、例えば日本）との接触は、それぞれの地域に大きな影響を及ぼした。一方、ポルトガルの宗主国も大きな影響を受容した。その歴史が様々な形で日常生活や多くの分野、例えば料理、文学などに現れる。それについて多角的に考察する。ポルトガル人が執筆した海外に関する様々なテキストが多いが、出来るだけそれぞれの海外の地域（国）についても考察する。特に15世紀から、ゴア（インド）のポルトガル人による植民地時代の終わり（1947-1961年頃）とアフリカに植民地戦争が始まる1961年頃までについて考察する。									
【履修要件】 ポルトガル語のテキストによるテーマを初めて学ぶ学生も是非参加されたい。出来る限り、英語、日本語などの資料も紹介する予定である。									
【成績評価の方法・基準】 授業への参加、レポート。									
【教科書】 授業中に指示する									
【参考書等】 （参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） 前期と後期の授業はそれぞれ独立した内容である。主に十五世紀から1960年頃までの資料をつかう。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	比較パラダイム文明論演習 B Seminar on Comparative Studies of Paradigms and Civilization B	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 稲垣 直樹						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	水3	授業形態	演習
【授業の概要・目的】 単なる「文学受容論」の枠を超えて、広い意味でのメディアが生成する、壮大な「パラテキスト」の集積、そしてそれが指し示す方向性（「作品・作家像」）を、主としてサン＝テグジュベリないしユゴー（の生前・没後評価）を例に検証する。									
【授業計画と内容】 作品あるいは作家が、ある種絶対的な価値を有し、同時代と後代の読者はその価値ゆえに作品・作家を読む。こうした捉え方が、ほぼ「常識」であるかのように一般に流布していながら、錯覚ないし「布置の転倒」にすぎないことは、多少とも文学に通じた者ならば、誰しも承知しているところである。「名作」とは、無数の「知られざる傑作」のうちで、たまたま海面に浮かんだ冰山の一角と考えたほうがよいのかもしれない。「名作」をつくりだすのは、まずもって、出版事情、ジャーナリズムを始めとする同時代の文化社会（そして、場合によっては政治）状況である。だが、それに劣らず、重要な機能を果たすのは、後代の文化社会状況（文学研究もその一翼を担うが）であることは言うまでもない。サン＝テグジュベリないしユゴーの作品分析をふまえて、作家・作品関連文字テキスト・映像メディアを分析する。前期の講義内容を概説したうえで、新たな文字テキスト・映像メディアについて分析を加える。									
【履修要件】 フランス語の基礎が既習であることが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】 出席、授業への参加、レポートの総合的評価									
【教科書】 資料・テキストのコピーを配布する。									
【参考書等】 （参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	近現代民族移動論演習 A Seminary on Studies of Early Modern and Contemporary Migration A	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 ヨリッセン/ガルベト						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	火4	授業形態	演習
【授業の概要・目的】 イタリア文学の短編小説と物語（novelle e racconti） イタリア文学を例にあげて、文学の役割について多角的に勉強する。									
【授業計画と内容】 イタリア文学の短編小説、また物語（novelle e racconti）を読む。特にnovella（短編小説）の発展の初めである『ノヴェリノ』（Novellino、著者無名）、ジョヴァンニ・ボッカッチョ（Giovanni Boccaccio）の『デカメロン』（Decamerone）から19世紀までの作品について考察する。まず、それぞれの作品を文学のテキストとして丁寧に分析し、解釈してみる。その後それぞれのテキストについて多角的に考察する。ジャンルの歴史的（特に中世後期、ルネッサンス、バロック、ロマンチズム、リアリズム）の発展について考察する。また、ジャンルと個々の作品の歴史的、社会的などの背景について論ずる。この一つのジャンルをきっかけにしてイタリア文学の歴史もみる。そして、イタリア文学の著者と作品はどのようにして外国（特に中央ヨーロッパ）で受容されたのか、一方、イタリア文学はどのようにして外国（特に他のラテン系）文学の思想などによって影響を受けたのかについても考察する。									
【履修要件】 イタリア語、ロマンス語を初めて学ぶ学生も是非参加されたい。出来る限り、英語、日本語などの表現とも比較しながら読む予定である。									
【成績評価の方法・基準】 授業への参加、レポート。									
【教科書】 授業中に指示する									
【参考書等】 （参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） 前期と後期の授業はそれぞれ独立した内容である。主に中世から19世紀までのテキストをつかう。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	ポストコロニアル思想文化論A Studies on Postcolonial Thoughts and Cultures A	担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 岡 真理
配当学年	2-4回生	単位数	2
開講期	前期	曜時限	金2
授業形態	講義		
[授業の概要・目的]			
<p>テーマは「ポストコロニアル・メタモルフォーシス」。人間は古来より、さまざまなものに変身してきました。水仙に変身した若者もいれば、朝、目覚めたら巨大な一匹の毒虫になっていた者もいますし、宇宙に置き去りにされて怪獣になった者もいます。こうしたさまざまな変身のうち、授業ではとくに「ポストコロニアル」の観点から「変身」に注目します。文学作品、映像作品、ノンフィクション等、さまざまなテキストや出来事のなかに見出されるポストコロニアルな変身について論じながら、「変身」を通して「ポストコロニアル」について理解すると同時に、植民地主義の歴史的経験が人間に及ぼす変容をもたらすのかを考察します。</p>			
[授業計画と内容]			
<p>授業では以下のようなテーマをとりあげる予定です。それぞれのテーマにつき、1回ないし2回の授業をおこなう予定です。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ポストコロニアルとは何か</li> <li>2. 『マタンゴ』 キノコを食べてキノコになろう</li> <li>3. モンスターから人間へ キャリバンの変身</li> <li>4. ポストコロニアル・モンスター（1） ポストコロニアルの悪夢 帰降する暴力の記憶『黒い警官』</li> <li>5. ポストコロニアル・モンスター（2） フランケンシュタインの怪物がオセローが『北へ還りゆく季節』</li> <li>6. ビグマリオン・コンプレックス 野良猫を貴婦人へ『ビグマリオン』</li> <li>7. 抒情という人食いアメーバの恐怖 『クレメンタインの詩』</li> <li>8. 女々しいユダヤ人から筋肉ユダヤ人へ また、適宜、レポートを課す予定です。レポート内容をもとに授業で発表してもらうこともあります。</li> </ol>			
[履修要件]			
特になし			
[成績評価の方法・基準]			
期末レポートおよび平常点（課題レポートの提出と授業での発表等）			
[教科書]			
使用しない			
[参考書等]			
（参考書） 適宜、授業で指示します。			
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英訳>	ポストコロニアル思想文化論演習A Seminar on Postcolonial Thoughts and Cultures A	担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 岡 真理
配当学年	2-4回生	単位数	2
開講期	前期	曜時限	月5
授業形態	演習		
[授業の概要・目的]			
<p>「思想としてのパレスチナ」をテーマに、現代世界に生きる人間の思想的課題として「パレスチナ問題」を考察します。「パレスチナ問題」という日本では一般にユダヤ人とアラブ人の民族対立であるかのように理解され、メディアでもイスラエルの主張がユダヤ人の主張と同一視されて報道されることが多いですが、実際には「ユダヤ人国家」イスラエルのナショナル・イデオロギーであるシオニズムに異議を唱えているユダヤ人は大勢います。今年度の授業では、シオニズムに異議を唱えるユダヤ人のさまざまな主張をとりあげ、考察することで、パレスチナ問題を脱構築し、問題の根源にシオニズムというイデオロギーがあること、それがいかなるものであるかについて考えます。</p>			
[授業計画と内容]			
<p>最初の3回、パレスチナ問題について岡が概説講義をおこないます。そのあと、Adam Shatz ed, "Prophets Outcast: A Century of Dissident Jewish Writing about Zionism and Israel" (Nation Books, 2004) 所収のいくつかの文章をテキストに精読します。それぞれのテキストに関して、複数名からなる担当グループを決め、内容について発表してもらう予定です。</p> <p>とりあげるテキストは以下のようなものを予定しています。それぞれにつき、1回ないし3回の授業をおこなう予定です。前期にとりあげることでできなかったテキストは、後期に読みます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Hannah Arendt, "The Jew as Pariah"</li> <li>2. Simha Flapan, "The Birth of Israel: Myth and Realities"</li> <li>3. Gabriel Piterberg, "Erasures"</li> <li>4. Noam Chomsky, "Israel and the Palestinians"</li> <li>5. Yeshayahu Leibowitz, "Occupation and Terror"</li> <li>6. Ella Shohat, "Sephardim in Israel"</li> <li>7. Sara Roy, "Living with Holocaust"</li> </ol> <p>など。</p>			
[履修要件]			
特になし			
[成績評価の方法・基準]			
期末レポートおよび平常点（発表、授業での積極的発言等）			
[教科書]			
プリントを配布します。			
[参考書等]			
（参考書） 授業中に紹介する			
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英訳>	ポストコロニアル思想文化論B Studies on Postcolonial Thoughts and Cultures B	担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 岡 真理
配当学年	2-4回生	単位数	2
開講期	後期	曜時限	金2
授業形態	講義		
[授業の概要・目的]			
<p>前期に引き続き、「ポストコロニアル・メタモルフォーシス」をテーマに、文学作品等に現れたポストコロニアルな変身について考察します。後期はとくに、パレスチナ問題におけるさまざまな変身の形をとりあげ、変身を通して、パレスチナ問題の本質に迫ります。</p>			
[授業計画と内容]			
<p>授業では以下のような作品ないしテーマをとりあげる予定です。それぞれのテーマにつき、1回ないし2回の授業を予定しています。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ソンビはなぜ怖いのか？ 『28日後』</li> <li>2. ユダヤ人から回教徒へ 『アウシュヴィッツの遺りもの』</li> <li>3. 人間が獣になるとき 『悲しいオレンジの実る土地』</li> <li>4. 人間が「状態」になるとき 『彼岸へ』</li> <li>5. 人間が「ゴミ」になるとき 『太陽の男たち』</li> <li>6. 「難民」から「テロリスト」へ 『パラダイス・ナウ』 『Women in Struggle』</li> <li>7. 去勢された寝とられ男は革命の夢を見るか 『太陽の門』</li> <li>8. 「幽霊」は語ることができるか～人間が幽霊になるとき～</li> </ol>			
[履修要件]			
特になし			
[成績評価の方法・基準]			
期末レポートおよび平常点（課題レポート）。 適宜、小レポートを課す予定です。			
[教科書]			
使用しない			
[参考書等]			
（参考書） 授業で適宜、指示します。			
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） 前期の「ポストコロニアル思想文化論」の授業を履修していることが望ましいです。後期授業履修予定者には、夏休み前、後期にとりあげる作品のリストを渡しますので、夏休み中に読んでおいてください。  オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英訳>	ポストコロニアル思想文化論演習B Seminar on Postcolonial Thoughts and Cultures B	担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 岡 真理
配当学年	2-4回生	単位数	2
開講期	後期	曜時限	月5
授業形態	演習		
[授業の概要・目的]			
<p>前期に引き続き、「思想としてのパレスチナ」をテーマに、パレスチナ問題について思想的に考察します。</p>			
[授業計画と内容]			
<p>前半は、前期にとりあげることでできなかった"Prophets Outcast" 所収の文章を精読します。後半は、参加者が「思想としてのパレスチナ」をテーマに、各自の関心に基づいて個人研究をおこない、発表をします。</p>			
[履修要件]			
特になし			
[成績評価の方法・基準]			
期末レポートと平常点（発表と授業での発言等）			
[教科書]			
必要に応じてプリントを配布します。			
[参考書等]			
（参考書） 授業中に紹介する			
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英語>	環境構成論I Theory and History of Environmental Construction I	担当者氏名	奈良文化財研究所 小野 健吉
配当学年	2-4回生	単位数	2
開講期	前期	曜時間	水4
授業形態	講義		
【授業の概要・目的】			
庭園とは、祭祀・儀式・饗宴・逍遙・接遇などの場として、あるいは観賞の対象として、一定の空間的・時間的美意識のもとに造形される屋外空間である。その歴史の研究においては、考古学的遺構（発掘庭園）・遺存地形・現存庭園・文献・絵画・写真などを資料として各時代の庭園の構造及び意匠の特色やそこで練り上げられた営みをたどることが求められる。この授業においては、上述したような資料を用いたアプローチで、先史時代、古代、中世、近世、近代の日本の庭園の通史的な理解を目指す。なお、必要に応じて海外の庭園の歴史についても触れる。			
【授業計画と内容】			
以下のような課題について1課題あたり1~2コマの授業を行う予定である。			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 縄文・弥生・古墳時代の庭園の屋外空間</li> <li>2. 飛鳥時代の庭園（朝鮮半島からの影響を含めて）</li> <li>3. 奈良時代の庭園（中国からの影響を含めて）</li> <li>4. 平安時代の庭園（寝殿造り庭園・浄土庭園を中心に）</li> <li>5. 鎌倉・南北朝時代の庭園（禅宗との関わりを中心に）</li> <li>6. 室町時代の庭園（枯山水の成立を中心に）</li> <li>7. 安土桃山時代の庭園（露地の成立を中心に）</li> <li>8. 江戸時代の庭園（回遊式庭園と庭園文化の定着を中心に）</li> <li>9. 近代の庭園（洋風庭園と自然主義を中心に）</li> <li>10. 海外の庭園（ヨーロッパの庭園を中心に）</li> </ol>			
【履修要件】			
特になし			
【成績評価の方法・基準】			
期末の試験またはレポートによる。			
【教科書】			
小野健吉『日本庭園 空間の美の歴史』（岩波書店）			
【参考書等】			
（参考書） 小野健吉『岩波日本庭園辞典』（岩波書店） 飛田範夫『日本庭園の植栽史』（京都大学学術出版会） 田中正大『日本の庭園』（鹿島出版会）			
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英語>	環境構成論III Theory and History of Environmental Construction III	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 西垣 安比古
配当学年	2-4回生	単位数	2
開講期	前期	曜時間	木3
授業形態	講義		
【授業の概要・目的】			
建築・都市・風景など、人間の基本的な行為形態に対応する人間環境の諸相を、物的構成を通じて原理的、実践的に論及する。			
【授業計画と内容】			
東アジアの建築、都市、風景を具体例として取り上げ、講義する。			
【履修要件】			
特になし			
【成績評価の方法・基準】			
レポートによって評価する。			
【教科書】			
授業中に指示する			
【参考書等】			
（参考書） 授業中に紹介する			
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英語>	環境構成論II Theory and History of Environmental Construction II	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 伊從 勉
配当学年	2-4回生	単位数	2
開講期	前期	曜時間	火5
授業形態	講義		
【授業の概要・目的】			
都市計画と地方自治：日本の都市計画法制度には、戦前から持続する行政主導の傾向が色濃く残存している。戦後に変革された地方自治法制度における地方自治としての都市計画の可能性を検討し、近年導入された景観計画制度や西欧都市の都市計画制度と比較する。			
【授業計画と内容】			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 序 市民自治と都市計画</li> <li>2. 都市計画国家高権の起源</li> <li>3. 明治期地方都市の都市改造に見る主体</li> <li>4. 都市計画制度における計画主体</li> <li>5. 戦後都市計画制度の変容</li> <li>6. 地方自治から見た都市計画の可能性</li> <li>7. 都市計画と景観計画</li> <li>8. まとめ：日本の都市計画、西欧都市の都市計画</li> </ol>			
【履修要件】			
予備演習科目として全学共通科目「生活空間論基礎ゼミナール」の内容と対応しているため、同時に履修するか履修していることが望ましい。			
【成績評価の方法・基準】			
授業出席とレポートによる評価			
【教科書】			
使用しない			
【参考書等】			
（参考書） 兼子 仁『新地方自治法』（岩波新書633） 石田頼房『日本近現代都市計画の展開』（自治体研究社） 辻清明『日本の地方自治』（岩波新書、青-957）			
（関連URL）			
<a href="http://www.kyotomodlab.jinkan.kyoto-u.ac.jp/welj.html">http://www.kyotomodlab.jinkan.kyoto-u.ac.jp/welj.html</a> （「伊從担当授業」「授業・ゼミに関する連絡事項」参照）			
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））			
詳しい参考文献は上記ホームページ「授業・ゼミに関する連絡事項」参照			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英語>	環境構成論IV Theory and History of Environmental Construction IV	担当者氏名	人間・環境学研究所 准教授 中嶋 節子
配当学年	2-4回生	単位数	2
開講期	前期	曜時間	水2
授業形態	講義		
【授業の概要・目的】			
「景観」は人間の営みの結果として立ち現われる。建築物や土木構築物によって構成される市街地景観はもちろんのこと、それらを取り巻く、あるいはそれらの中に取り込まれる山や森林、河川といった自然景観もまた、それぞれの時代の生活や社会、思想を映し出すものとして存在する。ここでは、わが国において景観がいかに扱われ、そしていかに変容してきたのかについて、建築史、都市計画史、造園史、景観工学などの視点から歴史的にたどり、その性格を分析することで、生活環境としての「景観」の意味を考究する。とりわけ、近代における「景観」の意識変化、まなざしの転換を、西洋文化との出会い、近代化と風景観との関係、近代都市計画の影響などから検討する。また、現代の状況についても概観する。			
【授業計画と内容】			
以下の内容について講義する。ただし、内容は前後することがある。			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 生活の表出としての山並み景観 京都の山並みの中世・近世</li> <li>2 つくられた山並み景観 - 京都の山並みの近代</li> <li>3 つくられた名所・まもられた名所</li> <li>4 イメージされる風景・景観</li> <li>5 日本における風景論の系譜</li> <li>6 新しい風景観の誕生</li> <li>7 市街地・都市計画における景観保護の推移</li> <li>8 景観工学の視点から</li> <li>9 記憶の再生（災害・戦災復興を契機として）</li> <li>10 現代における風景の創造</li> </ol>			
講義内容に関する見学会を1~2回開催する。 見学会 近代的景観の創出 琵琶湖疏水とその周辺を歩く 見学会 京都の近代化 三条通りあるいは東山を歩く			
【履修要件】			
特別な予備知識は必要としない。都市や歴史に興味があることが要件となる。			
【成績評価の方法・基準】			
授業への参加姿勢と小レポート、期末レポートで評価する。			
【教科書】			
使用しない 毎回の授業でレジュメと資料を配布する。			
【参考書等】			
（参考書） 授業中に紹介する			
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））			
積極的な授業参加と発言を期待する。質問等の機会については個別に対応する。			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英訳>	環境構成論実習II Practical Seminar on Environmental Construction II	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 伊従 勉						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	火5	授業形態	実習
【授業の概要・目的】									
日本の地方自治体は、10年から20年に一度、「基本構想」という長期政策計画をたて、それに基づき、より短期の「基本計画」を立案し、政策を執行している。「構想」や「計画」がどのような市民合意を経て立案されているか否かを、戦後京都市を事例に調査し分析し、参加者が各自分担し、報告書を執筆する演習を行う。									
【授業計画と内容】									
1.戦後京都市における基本構想の更新経過の概要の説明 2.1999年基本構想に基づく「基本計画」策定経過の説明 3. 2010年度更新の「基本計画」調査：行政資料・市会議録等探索方法の概略 4. 作業分担と作業計画の議論・決定 5. 調査 6.中間報告と議論 7. 補足調査 8.最終報告書へ向けた項目分担執筆 9. 最終報告・討論									
【履修要件】									
一個人ではなかなか難しい調査対象を短期間に調査し一定の診断を行う体験を共有する目的があるので、それを希望する受講者が望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
出席と責任分担の作業の到達度で評価する。									
【教科書】									
重要文献は授業中に指示する									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する 多数につき、授業中に指示									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
下記URLを参照： <a href="http://www.kyotomodlab.jinkan.kyoto-u.ac.jp/cour-info08.html">http://www.kyotomodlab.jinkan.kyoto-u.ac.jp/cour-info08.html</a>									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	環境構成論実習IV Practical Seminar on Environmental Construction IV	担当者氏名	人間・環境学研究所 准教授 中嶋 節子						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	水2	授業形態	実習
【授業の概要・目的】									
建築史、都市史、造園史、都市工学、美術史などの諸分野における都市景観、形態をめぐる論考を講読し、「景観」の生成の契機、社会的・文化的背景、その変容について考察する。加えて現地見学を行い、現在の都市に歴史的痕跡を見出すことで、現在に至る景観変容の過程を把握する。景観形成の歴史的理解は、現在の景観問題を考える前提として重要である。									
【授業計画と内容】									
授業開始時に提示する著書あるいは論文について以下の課題を行う。									
課題1 分担論文に関するプレゼンテーション 担当論文の内容をわかりやすく解説するとともに、関係する資料や論文、著書を紹介する。また自身の分析、意見や感想も加える。 配布するレジュメの作成 レジュメの内容：内容の要約と解説＋関係する資料・論文・著書 プレゼンテーション 1 論文あたり1時間程度を予定 写真、図面、絵画資料などヴィジュアルな資料を盛り込む									
課題2 レポート作成 授業中に指示する内容について期末までにレポートを作成する。									
内容に関係する見学会を1～2回開催する。 見学会 岡崎公園の近代景観 見学会 御池通・三条通界隈の景観									
【履修要件】									
環境構成論 を履修していることが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
授業への参加姿勢(出席・発言)と課題1、課題2によって評価する。									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
積極的な授業参加と発言を期待する。事業外の資料作成、論文講読、フィールドワークが必須である。質問等の機会については個別に対応する。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	環境構成論実習III Practical Seminar on Environmental Construction III	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 西垣 安比古						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	木3	授業形態	実習
【授業の概要・目的】									
建築・都市・風景など、人間の基本的な行為形態に対応する人間環境の諸相に関して具体的事例に則して実習する。									
【授業計画と内容】									
東アジアの建築、都市、風景を具体例として取り上げ、実習する。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポート、発表などを総合して評価する。									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	社会人類学演習 A Seminar of Social Anthropology A	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 菅原 和孝						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	金2	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
社会人類学とその隣接領域から、近年刊行された英文の単行本を選び、受講者全員で輪読し、討論する。これによって、本学問分野の重要な理論的動向と問題意識を把握することを目的とする。今期は「性」をテーマにする。									
【授業計画と内容】									
現在予定している著作は以下の通りだが、変更もありうる。									
Salazar, Carles 2006 Anthropology & Sexual Morality Berghahn Books									
「性的存在であること」(sexuality)は「人間とは何か」という問いにとって、もともと本質的でありながら、人類学的な研究は驚くほど未開拓である。本書は、セクシュアリティと当該社会の支配的な倫理との暗黙の関わりを解明している点で、興味ぶかい。主な内容は以下のとおり：									
Part I. Approaches to Human Sexuality 1. Sex in the Highlands of Papua New Guinea 2. Freud and the Repressive Hypothesis 3. Foucault: Sex and Culture									
Part II. Power, Meaning and Social Structure: an Irish Case Study 4. Irish Sexual Morality and Family Systems 5. Functionalist Dilemmas 6. The Peculiarities of Irish Demography 7. Imagining Sexuality: History as a Cognitive System 8. Coercion and Meaning 9. Disciplinary Regimes in the History of Irish Sexuality									
Part III. Anthropological Remarks 10. Clarifying the Culture Concept 11. Intersubjectivity Revisited 12. Subjectification and Interpretation									
受講者はチームを組んで各章を担当する。担当チームは要旨のコピーを配布し、内容を発表する。教員のコメントと全員での討論をそのあとに行なう。テキストは、教員が配布する。									
【履修要件】									
文化人類学・社会人類学関係の講義を少なくとも一つ、1回生時に履修していることが望ましい。									
社会人類学演習 A(2)へ続く									

社会人類学演習 A (2)	
[成績評価の方法・基準] 出席回数、要旨の質（英文理解を含む）、討論への熱心な参与を総合して、評価する。	
[教科書] 授業中に指示する	
[参考書等] （参考書） 授業中に紹介する	
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） オフィスアワーは原則として、水曜午後2時以降。吉田南総合館、東南棟A401。  オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。	

授業科目名 <英訳>	文化動態論演習 A Seminar on the Dynamics of Cultures A	担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 山田 孝子
配当学年	2-4回生	単位数	2
開講期	前期	曜時間	水3
[授業の概要・目的] 現代化あるいはグローバル化の急激な進行の中で、土地固有の文化は動態的過程のただ中にある。各地の小社会で進行中の文化動態について、とくに文化復興運動、伝統宗教や民族的アイデンティティの再活性化、生業形態や自然 人間関係の現代的転換、移動・越境とネットワークの再構築などのテーマに焦点をあて、現代化と文化の問題に関する文化人類学的アプローチの理解を深める。			
[授業計画と内容] 具体的には、文化動態をテーマとする論文集をテキストとして輪読し、研究動向、文化人類学的方法論と問題点などについての理解を深め、新たな理論的可能性を検討するものである。  今年度は、Peter Beyer & Lori Beaman (eds.), Religion, Globalization, and Culture, Leiden: Brill, 2007 をテキストとし、宗教、グローバル化と文化の問題に関する近年の理論的展開を学ぶ。本書は4部構成となっているが、この講義では、計13篇の論文からなる前半部の第1部、第2部をテキストとする。受講者が、各自、論文の一部を担当し、担当箇所について抄訳し、内容に関する発表を行い、これに対し、質疑・討論を行うという形で進める。発表者は担当した箇所の内容に関するレジュメを作成することが求められるが、担当する分量は多くなることもあり、英語論文の連続になれることも必要となる。			
[履修要件] 宗教学・社会人類学などの人類学関係の講義を少なくとも一つ、1回生時に履修していることが望ましい。また、文化動態論演習 B と併せて履修することを望む。			
[成績評価の方法・基準] 演習中における発表、レジュメの作成、討論など、受講態度によって評価。			
[教科書] Peter Beyer & Lori Beaman (eds.) 『Religion, Globalization, and Culture』( Brill ) ( テキストの必要な箇所をプリントし、これを使用する )			
[参考書等] （参考書） 授業中に紹介する			
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） 大学院科目「文化行為論1」と共通の授業となる。  オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英訳>	社会人類学演習 B Seminar of Social Anthropology B	担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 菅原 和孝
配当学年	2-4回生	単位数	2
開講期	後期	曜時間	金2
[授業の概要・目的] 社会人類学とそれに隣接する学問分野から重要な理論的問題を選び、英語文献の講読を通じて理解を深めることを目的とする。本年は、贈与・交換・分配など経済に関わる活動と実践を主題にする予定である。			
[授業計画と内容] 現在予定しているテキストは以下の通りだが、変更もありうる。  Gudeman, Stephen 2001 The Anthropology of Economy: Community, Market, and Culture Blackwell  主な内容は以下のとおり： 1. Community, Market, and Culture 2. Economy at the Base 3. Sharing the Base 4. The Great Estate: Power, Extraction, and Expansion 5. Reciprocity and the Gift: Extending the Basis 6. Trade and Profit 7. Profit on the Small 8. Realms and Dialectics: Values in Production, Trade, and Use 9. Political Economy Today  受講者はチームを組んで各章を担当する。担当チームは要旨のコピーを配布し、内容を発表する。教員のコメントと全員での討論をそのあとに行なう。テキストは、教員が配布する。			
[履修要件] 文化人類学・社会人類学関係の講義を少なくとも一つ、1回生時に履修していることが望ましい。			
[成績評価の方法・基準] 出席回数、要旨の質（英文理解を含む）、討論への熱心な参与を総合して、評価する。			
[教科書] 使用しない			
[参考書等] （参考書） 授業中に紹介する			
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） オフィスアワーは原則として、水曜午後2時以降。吉田南総合館、東南棟A401。  オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英訳>	文化動態論演習 B Seminar on the Dynamics of Cultures B	担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 山田 孝子
配当学年	2-4回生	単位数	2
開講期	後期	曜時間	水3
[授業の概要・目的] 現代化あるいはグローバル化の急激な進行の中で、土地固有の文化は動態的過程のただ中にある。各地の小社会で進行中の文化動態について、とくに文化復興運動、伝統宗教や民族的アイデンティティの再活性化、生業形態や自然 人間関係の現代的転換、移動・越境とネットワークの再構築などのテーマに焦点をあて、現代化と文化の問題に関する文化人類学的アプローチの理解を深める。			
[授業計画と内容] 今年度は、Peter Beyer & Lori Beaman (eds.), Religion, Globalization, and Culture, Leiden: Brill, 2007 をテキストとし、宗教、グローバル化と文化の問題に関する近年の理論的展開を学ぶ。本書は4部構成となっており、この講義では、後半部の第3部、第4部の計14篇の論文の中から選び、テキストとする。受講者は、各自、論文の一部を担当し、担当箇所について抄訳し、内容に関する発表を行い、これに対し、質疑・討論を行うという形で進める。発表者は担当する論文の内容に関するレジュメを作成することが求められるが、発表者が担当する分量は多くなることもあり、英語論文の連続になれることも必要となる。			
[履修要件] 宗教学・社会人類学などの人類学関係の講義を少なくとも一つ、1回生時に履修していることが望ましい。また、文化動態論演習 A と併せて履修することを望む。			
[成績評価の方法・基準] 演習中における発表、レジュメの作成、討論など、受講態度によって評価。			
[教科書] Peter Beyer & Lori Beaman (eds.) 『Religion, Globalization, and Culture』( Brill ) ( 必要な箇所をプリントして配布する )			
[参考書等] （参考書） 授業中に紹介する			
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英訳>	文化行為論A Cultursl practices A	担当者氏名	人文科学研究所 教授 田中 雅一
配当学年	3,4回生	単位数	2
開講期	前期	曜時限	火3
授業形態	講義		
【授業の概要・目的】			
文化行為論は日常実践に焦点を絞る文化・社会人類学である。そして日常実践を複数の権力が作用するアリーナととらえることで、人類学が対象としてきた様々なテーマや慣れ親しんできた諸概念を再考する。今年度は主として宗教の分析を行う。その際、われわれがどのようなまなざしで異文化をとらえてきたのかをつねに自覚するように心がける。			
【授業計画と内容】			
1 - 2 神学から宗教学、そして文化人類学へ 3 日本の宗教学 4 儀礼とは？ 5 - 6 供儀の行方 7 - 8 ジェンダー儀礼 9 - 10 女神崇拝と現代社会 11 - 13 宗教と政治、エスニシティ、ナショナリズム 14 まとめ 15 - 16 補足			
【履修要件】			
とくにないが、文化人類学に関するほかの講義を受けていることが望ましい。			
【成績評価の方法・基準】			
平常点 50パーセント 小レポートと授業内での発言 期末レポート 50パーセント 関連文献のレポート			
【教科書】			
使用しない			
【参考書等】			
(参考書) 田中雅一編 『女神』(平凡社) 田中雅一ほか編 『ジェンダーで学ぶ文化人類学』(世界思想社) 田中雅一ほか編 『ジェンダーで学ぶ宗教学』(世界思想社)			
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))			
オフィスアワーは特に設けない。問い合わせやアポイントはshakti@zinbun.kyoto-u.ac.jpで受け付ける。			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英訳>	生態人類学演習A Seminar of Ecological Anthropology A	担当者氏名	7/17-7/18 准教授 高田 明
配当学年	2-4回生	単位数	2
開講期	後期	曜時限	火2
授業形態	演習		
【授業の概要・目的】			
生態人類学は、人々の生活を環境の諸要素との緊密な相互関係の総体として把握することを目指している。本演習では、生態人類学およびその関連分野(言語人類学、文化人類学、環境社会学など)の最近の文献を題材とした討論を行うことを通じて、これから環境認識、環境の利用、環境に対する権利について研究していくための論点を整理する。			
【授業計画と内容】			
以下のような課題について、1課題あたり1~2週の授業をする予定である。トピックについては、受講生の関心を考慮して適宜調整する。 1. ナチュラリストの人間科学: 生態人類学理論的特質 2. 全身で考える: 生態人類学の方法 3. 人類の進化と社会 4. 環境への適応としての社会 5. エコシステムとひと 6. 環境・認識・文化 7. アイデンティティの物質的基盤 8. 生計経済と倫理 9. 社会動態と地域の発展			
【履修要件】			
特になし			
【成績評価の方法・基準】			
主として授業中の報告による。討論の内容・積極性を重視する。			
【教科書】			
使用しない			
【参考書等】			
(参考書) 授業中に紹介する			
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英訳>	文化行為論B Cultursl practices B	担当者氏名	人文科学研究所 教授 田中 雅一
配当学年	3,4回生	単位数	2
開講期	後期集中	曜時限	2月第1週
授業形態	講義		
【授業の概要・目的】			
本演習は、主としてグローバル化がすすむ現代社会の諸現象を人類学的な観点から考察することを目的に、関連文献のレビューと報告を行う。			
【授業計画と内容】			
1-15 関連文献の購読と討論 関連文献は最新の日本語論文などを取り上げる。			
【履修要件】			
文化行為論Aの履修が望ましい。			
【成績評価の方法・基準】			
平常点 講義での報告の完成度や討論での積極的な発言など。			
【教科書】			
使用しない			
【参考書等】			
(参考書) 授業中に紹介する			
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))			
問い合わせはshakti@zinbun.kyoto-u.ac.jpで受け付ける。			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英訳>	生態人類学演習B Seminar of Ecological Anthropology B	担当者氏名	7/17-7/18 准教授 山越 言
配当学年	2-4回生	単位数	2
開講期	前期	曜時限	月2
授業形態	演習		
【授業の概要・目的】			
自然環境の保全が、現代社会が直面する重要な現実的問題であることに疑問の余地はない。しかしながら、「自然」とは何か、どのような「自然」を保全/保護すべきかという問題は、「どのようにして」という問題の陰に隠れ、議論されることは少ない。本演習では、人類学およびその関連分野における、「自然」をめぐる古今の諸言説(風土/風景/景観論、環境哲学、風景画論、ネイチャーライティング、エコロジー思想、探検・アルビニズム、博物学、保全生態学、構造人類学、観光人類学など)を題材に徹底討論し、理解を深める。			
【授業計画と内容】			
以下のような課題について、1課題あたり1~5週の討論をする予定である。 1. 「自然」という概念について(保護すべき自然、美観、国立公園、アニミズム) 2. 美しい景観とはなんだろう(観光、巡礼・旅行記、バイオフィリア、隠れ家論) 3. メディアと自然(風景画、田園詩、造園、探検記、近代小説、宮崎アニメ) 4. 自然に臨む行為(修験道、近代アルビニズム、探検、博物学、自然科学)			
【履修要件】			
特になし			
【成績評価の方法・基準】			
討論への参加の内容・積極性を平常点評価する。			
【教科書】			
資料を適宜配布する。			
【参考書等】			
(参考書) 授業中に紹介する			
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))			
積極的な授業参加、発言を高く評価する。 オフィス・アワーは特に定めないが、講義時間外に直接連絡を取りたい学生は、山越(yamakoshi@jambo.africa.kyoto-u.ac.jp)までメールすること。			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英訳>	社会人類学方法 A Methodology of Social Anthropology A	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 菅原 和孝						
配当学年	4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	金4.5	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
フィールドワークで得られた資料を分析し、論文へとまとめあげる方法を習得することを目的とする。民族誌記述、観察と解釈、定量化と定性的分析との関係などを主題にする。									
【授業計画と内容】									
文化人類学・社会人類学の優れた論文の参照しながら、具体的な資料に基づいて討議する。おもなトピックは以下の通りである。									
1) 民族誌記述の視点と問題 2) 行動観察の方法と統計的検定 3) 談話分析の方法と解釈 4) 会話分析の基礎理論 5) 文献の検索と引用法などについて									
【履修要件】									
菅原を指導教員として卒業論文を執筆する予定の学生は必修。									
【成績評価の方法・基準】									
出席回数と討論への積極的関与によって評価する。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
本科目の履修と並行して、問題関心に沿ったフィールドワークを立案・計画し、予備調査を開始することが望ましい。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	宗教人類学方法 A Methodology of the Anthropology of Religion A	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 山田 孝子						
配当学年	4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	水5	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
卒論指導学生を対象とし、各自の卒論のテーマを題材にして、フィールドワークを実施し、学術論文へと完成していくための方法論を学ぶこと目的とする。									
【授業計画と内容】									
受講者は輪番で、各自の卒論テーマの進展に合わせ、人類学のフィールドワーク方法論(参与観察項目、インタビュー調査項目などの設定)、具体的な課題に向けての先行研究などの文献資料の収集方法の修得と批判的検討などについての発表を行う。とくに、夏休みの期間などを利用してのフィールドワークの実施に向けての調査計画の立案、現地でのインタビュー調査、参与観察の実施方法などについての議論が中心となる。									
【履修要件】									
後期のBと併せて通年履修すること。									
【成績評価の方法・基準】									
毎回出席が原則。ゼミでの発表など、受講態度で評価。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	社会人類学方法 B Methodology of Social Anthropology B	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 菅原 和孝						
配当学年	4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	金4.5	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
フィールドワークを土台にして、明晰で論理的な論文を執筆する方法を学ぶことを目的にする。先行研究や理論に対する批判的視点、論証の説得性、説明と記述、知解と了解などを主題にする。									
【授業計画と内容】									
文化人類学・社会人類学における近年の理論的動向を批判的に摂取し、自らの問題の立脚点を把握する方法を探る。さらに、正確で明快な記述のしかた、理論的視野の展開、論文全体を組織する構想力などをめぐり、具体的な資料を参照しながら討議する。									
1) 実証主義的分析の効用と限界 2) アイデンティティ論批判 3) 解釈人類学の功罪 4) 経済人類学のアプローチの可能性 5) アクターネットワーク理論の可能性 6) 現象学的人类学の可能性									
【履修要件】									
菅原を指導教員として卒業論文を執筆する予定の学生は必修。									
【成績評価の方法・基準】									
出席回数と討論への積極的関与によって評価する。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
本科目の履修と並行して、フィールドワークを遂行したうえで、資料分析・卒論執筆を精力的に進める必要がある。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	宗教人類学方法 B Methodology of the Anthropology of Religion B	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 山田 孝子						
配当学年	4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	水5	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
卒論指導学生を対象とし、各自の卒論のテーマを題材にして、フィールドワークを実施し、学術論文へと完成していくための方法論を学ぶこと目的とする。									
【授業計画と内容】									
受講者は、輪番で、調査の進展に合わせ、フィールドワークによって収集した資料の整理、分析結果について発表し、これについて討議する。また、フィールド調査結果の吟味とともに、調査テーマに関連する先行研究の整理と批判的検討を各自行い、その結果を発表し、議論する。これらをもとに、各自は独創的な学術論文の完成へと向かうことになるが、受講者は以上の過程をともに討議し、深めていくことを求められる。									
【履修要件】									
前期のAと併せて通年履修すること。									
【成績評価の方法・基準】									
毎回出席が原則。ゼミでの発表など、受講態度で評価。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	地域空間論 I A Region, Space, and Environment IA	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 小島 泰雄						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	月3	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
中国農村における空間と社会が、どのような関係を形成してきたのかをめぐって、地理学の視座に軸足を置いて講義を進める。江蘇、河南、四川などで行ってきたフィールド調査に基づいて、中国農村の生活空間とその変遷を実態的に考えてゆく。									
【授業計画と内容】									
以下のテーマをめぐって授業を行う。 一つのテーマについて、2 - 3週 of 授業をする予定である。 ・農村論 ・生活空間論 ・現代中国農村 ・農村変革									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
主に期末レポートにより評価を行い、授業への参加度を加味する。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	地域空間論II A Region, Space, and Environment IIA	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 金坂 清則						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	金3	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
地理学をベースとし、それを超えるものとしての地域空間論を考えるにあたり、何が必要なのかを考えつつ研究を重ねてきている。その経緯を踏まえて、概説的な話をした後、人物及び人物群を研究する意義と成果について、2つのテーマに即して具体的に考究する。そしてこのことを通して研究成果の、社会への還元を含む多面的な開示のあり方についても論じる。前期については、世界屈指の旅行家と考えられるイザベラ・バードの旅、旅行記、その他の事績について、「旅行記を読むとは、その基になった旅を読み、旅する人を読み、旅した場所・地域を読み、旅した時代を読むことである」という担当者の独自の考えに基づき、考える。									
【授業計画と内容】									
以下の内容について考究する。  * 流転する人文地理学とその背景、問題点 * 地誌学の意義と課題 * 人文地理学者の捉える時間と空間及びその問題点 * 旅・探検、旅行記・探検記、旅行家・探検家と地理学 * 旅行記の描写・記述の特質と人文地理学にとっての意義 * イザベラ・バードの旅・旅行記の概観 * 学際的研究としてのイザベラ・バード論の地域空間論 * 地理学にとっての図像特に写真分析の方法と意義、活用 * 学問成果の社会還元の方法									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
複数回のレポートと出席点を加味して総合的に評価する。積極的な取り組みを求めます。									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
(参考書) イザベラ・バード 『極東の旅1・2』(平凡社)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	地域空間論 I B Region, Space, and Environment IB	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 小島 泰雄						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	月3	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
中国農村における空間と社会が、どのような関係を形成してきたのかをめぐって、地理学の視座に軸足を置いて講義を進める。江蘇、河南、四川などで行ってきたフィールド調査に基づいて、中国農村の生活空間とその変遷を実態的に考えてゆく。授業内容は前期の「地域空間論IA」と連続するが、その受講を前提とはしない。									
【授業計画と内容】									
以下のテーマをめぐって授業を行う。 一つのテーマについて、2 - 3週 of 授業をする予定である。 ・近代中国農村 ・集落形態 ・市場町 ・フィールド調査論									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
主に期末レポートにより評価を行い、授業への参加度を加味する。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	地域空間論II B Region, Space, and Environment IIB	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 金坂 清則						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	金3	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
地理学をベースとし、それを超えるものとしての地域空間論を考えるにあたり、何が必要なのかを考えつつ研究を重ねてきている。その経緯を踏まえて、概説的な話をした後、人物及び人物群を研究する意義と成果について、2つのテーマに即して具体的に考究する。そしてこのことを通して研究成果の、社会への還元を含む多面的な開示のあり方についても論じる。									
【授業計画と内容】									
以下の内容について考究する。 * 流転する人文地理学とその背景、問題点 * 日本の歴史地理学者の研究成果と地域空間論 * 古代・中世歴史地理学の場合 * 近世歴史地理学の場合 * 近代歴史地理学の場合 * 地域空間論の立場から解明する貝原益軒の旅と思想 * 地域空間論とその実践性									
【履修要件】									
極力、前期の「地域空間論 A」を受講することが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
複数回のレポートと出席点を加味して総合的に評価する。積極的な取り組みを求めます。									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									



授業科目名 <英語>	地域空間論演習 Seminar on Region, Space, and Environment I	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 小島 泰雄						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	月4	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
「地域を考える」とはどのような知的営為なのだろうか。地理学が培ってきた方法や技法の習得を通して、地域に着目する意味や意義について理解を深めることが、この授業の目的である。									
【授業計画と内容】									
授業はゼミ形式で行う。 以下の項目について、1 課題あたり 1 - 3 週の授業をする予定である。 ・ 地域論 ・ 地図を利用する ・ 文献を利用する ・ 統計を利用する ・ フィールド調査論 ・ 地誌を書く なお対象とする地域は、受講生一人ひとりが選択する。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
授業への参加度と、期末レポートである地誌により評価する。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	地域空間論演習III Seminar on Region, Space, and Environment III	担当者氏名	地球環境学堂 教授 小方 登						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	木3	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
地理学的な空間的モデリングや地理情報処理に関連して、研究論文(英語のものを含む)を購読し理論を学ぶ。また、現実の地理データをコンピュータ処理することにより、学んだ理論の実践・応用を試みる。									
【授業計画と内容】									
例年、ゼミ形式で授業を行っており、研究論文の紹介やデータ分析結果の報告などを、各自が発表する形で進めている。しかし、総合人間学部の特質により、受講する学生の関心分野は多様である。地理学が扱う研究対象もまた、自然・人文の多岐にわたる。従って、対象とする主題は受講生の関心に応じて臨機応変に設定したい。 例年は、都市地理学的なテーマを取り上げ、先ず社会地域分析や因子生態研究の研究動向について発表し、次に大都市圏の人口・産業分布などの統計データを分析した結果を発表するという形式で進めることが多い。 しかし自然科学を主専攻とする受講生がいる場合、人工衛星の観測データから植生・生態系の分類を行う理論について研究動向を発表し、さらに実際の人工衛星データを分析して、対象地域の植生・生態系についての研究を発表するといった進め方を取る場合もある。コンピュータを利用した地形の分析といったテーマを設定することも可能であろう。地理情報科学や地理情報システムは、地理空間に展開する多様な現象を統合的に扱うことにメリットがある。関心のテーマが異なっても互いに興味を持ち活発な意見交換ができるような、総合人間学部にふさわしいゼミにしたい。毎回の出席は必須である。 文献(書籍や論文)の形で存在する既存の研究成果を把握することは、どの学問分野でも研究の基本であるので、文献探索・利用の方法について授業の最初に指導する。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
ゼミでの発表、発表内容に基づくレポートによる。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	地域空間論演習II Seminar on Region, Space, and Environment II	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 金坂 清則						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	火4	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
地域空間論IIAおよび地域空間論IIBに関わる形で、演習形式により授業を進め、受講者の研究能力の向上を目指す。									
【授業計画と内容】									
以下の内容について演習形式で授業を進める。  * ガイダンス * 文献を主体的に選択し、それに基づく発表を行う * 地図図など地理学的方法論を駆使することによって、文献の批判的読解を深め、その成果を発表する * フィールドワークに基づき文献の一層の深まりを目指し、その成果を発表する * 地域空間論において人物および人物群を取り上げる意義について総括する発表を行う									
【履修要件】									
地域空間論 Aおよび地域空間論 Bを受講することが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
複数回のレポートと出席点を加味して総合的に評価する。積極的な取り組みを求めます。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	自然科学入門 Introduction to Science			担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 酒井 敏				
					人間・環境学研究科 教授 阪上 雅昭				
					人間・環境学研究科 准教授 藤原 直樹				
					人間・環境学研究科 教授 宮本 嘉久				
					人間・環境学研究科 准教授 木下 俊哉				
					人間・環境学研究科 教授 山口 良平				
					人間・環境学研究科 教授 内本 喜晴				
					地球環境学 教授 加藤 真				
					人間・環境学研究科 教授 松井 正文				
					人間・環境学研究科 教授 石川 尚人				
配当学年	1,2回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	金1	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
自然科学についての基礎知識を理解するために入門科目として、物理学、化学、生物、地学の各分野から興味ある話題を選び講義する。それを通じて、私たちをとりまく宇宙・地球・生態系そしてそれらを構成する物質・情報が自然科学的な観点からどのように理解されているか解説する。									
【授業計画と内容】									
主に物理学、化学、生物、地学から成り立つ自然科学について、各分野の専門家が興味ある内容を厳選して講義する。各分野の発展・成果と現在の課題について紹介する。これにより宇宙・地球・生態系という私たちがとりまく環境を理解するための論理・知識・方法論について概観できるようにする。同時にその環境を構成する物質や情報にも目を向け、それらの存在形態を研究しその性質を理解するために必要な概念・方法についても解説する。本講義を受講することで、自然科学系を目指す学生には学問内容を理解する入門的な講義として広く知識を得る助けとなるよう、また他の学系を目指す学生には自然科学全般の概念を理解する助けとなるよう努める。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポート、出席等									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(関連URL) <a href="http://polymer.phys.h.kyoto-u.ac.jp">http://polymer.phys.h.kyoto-u.ac.jp</a>									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	物性基礎論I Physics of Matter I			担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 宮本 嘉久				
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	月2	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
物性物理の基礎について講義する。									
【授業計画と内容】									
物質の構造と物性について考察する。弾性論、連続体力学の初歩について講義する。 1. 変形と応力：歪テンソルと応力テンソル 2. 基礎方程式：保存方程式、運動方程式、エネルギー - 方程式 3. 大変形の弾性力学 4. 線形応答									
【履修要件】									
物理学基礎論A、B、熱力学、統計物理学を履修していることが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
レポートなどによる。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(関連URL) <a href="http://polymer.phys.h.kyoto-u.ac.jp">http://polymer.phys.h.kyoto-u.ac.jp</a>									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) オフィスアワーは特に定めなし。質問、希望等があればメール、または075-753-6784に電話すること。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	量子力学 Quantum Mechanics			担当者氏名	人間・環境学研究科 准教授 藤原 直樹				
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	水2	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
物理学の基礎である量子力学の基本項目について講義する。									
【授業計画と内容】									
シュレディンガー方程式、不確定性原理、トンネル効果、ポテンシャル問題、固有値問題、角運動量、摂動論、散乱問題(ボルン近似、ラザフォード散乱)、行列力学についてとりあげる。									
【履修要件】									
物理学基礎論A、B程度の基礎知識は必須。力学統論、振動・波動論の内容を理解していることが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
試験により評価する。									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	統計力学 Statistical Mechanics			担当者氏名	兵庫県立大学 教授 藤原 義久				
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	後期集中	曜時限	集中講義	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
物理学の基礎科目の一つとして、マクロな熱力学とミクロな量子力学との橋渡しをする統計力学の本質を理解することを目標とする。									
【授業計画と内容】									
以下の項目について、各項目あたり2～3コマの予定で進める。  1. 熱力学の体系の復習 2. 量子力学と確率論からの準備 3. 平衡統計力学の本質とミクロカノニカル分布 4. カノニカル分布 5. 理想気体・常磁性・固体の比熱・黒体放射などへの応用 6. 量子統計 7. 相転移と臨界現象									
【履修要件】									
物理学基礎論A、B程度の基礎知識は必須。熱力学や量子力学の基本的な内容を理解していることが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
レポートなどにより評価する。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 田崎 晴明 『統計力学I, II』(培風館)(他の参考書などは授業中に案内する。)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	物質分析論 Analytical Chemistry for Environmental Materials	担当者氏名	地球環境学 教授 杉山 雅人
配当学年	2-4回生	単位数	2
開講期	前期	曜時間	木3
授業形態	講義		
【授業の概要・目的】 化学分析を行う際の基礎となる、化学平衡、イオン平衡、溶液内反応論などの分析化学の基礎と応用について講義する。			
【授業計画と内容】 以下に示す項目について、講義する。 1. 質量作用の法則とデバイヒュッケル則 2. 酸塩基平衡 3. 緩衝溶液の理論と応用 4. 自然水中での酸塩基平衡、アルカリ度 5. 酸化還元平衡とネルンスト式 6. pH - 電位図 7. 沈澱平衡 8. 錯生成平衡 9. 溶媒抽出 (分配平衡) 10. 有機試薬 (構造と選択性) 11. ランベルト・ベールの法則と吸光光度分析 12. 定量分析の実際 (検出限界、検量線、感度、精度、確度) 13. 原子スペクトル分析 14. クロマトグラフィー			
【履修要件】 学共通科目の「基礎物理化学」、「基礎有機化学」を習得していることが望ましい。 分析化学に関する理解をさらに深めるため、本科目を習得したのちに「物質構造機論演習A」を履修することが望ましい。			
【成績評価の方法・基準】 定期試験とレポートによる。			
【教科書】 藤永太郎 編著 『基礎分析化学』 (朝倉書店)			
【参考書等】 (参考書) 藤永太郎、関戸栄一 訳 『イオン平衡』 (化学同人) 姫野貞之、市村彰男 『分析化学』 (化学同人)			
(その他 (授業外学習の指示・オフィスアワー等)) オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英訳>	物質構造論 Material Structure	担当者氏名	人間・環境学 教授 田部 勢津久
配当学年	2-4回生	単位数	2
開講期	後期	曜時間	金3
授業形態	講義		
【授業の概要・目的】 物質、特に無機機能性材料の結晶構造と物性の関係の基礎について解説する。			
【授業計画と内容】 光エレクトロニクス (情報通信、処理、表示、記録技術) の発展は、固体レーザ、誘電体結晶、光半導体、発光ダイオード等、様々な光機能性無機固体材料の開発とその性能向上によって支えられている。本講義ではまず、その光機能性発現の基礎となる物質を構成する原子の電子オービタル、無機結晶の構造を学ぶ。また結晶構造と機能の関係、光学的性質を決定する因子、および固体物質の作製方法などを学ぶ。			
【履修要件】 基礎物理化学A&B、無機化学入門A&B、基礎化学実験のいずれか2つ以上を履修していることが望ましい。			
【成績評価の方法・基準】 試験と出席率による。			
【教科書】 使用しない			
【参考書等】 (参考書) 授業中に紹介する			
(その他 (授業外学習の指示・オフィスアワー等)) 「課題演習：物質の構造と機能」でものづくりと物性測定を経験していると理解と具体的イメージの助けになる。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英訳>	物質機能論 Material Function	担当者氏名	人間・環境学 教授 内本 喜晴
配当学年	2-4回生	単位数	2
開講期	前期	曜時間	水3
授業形態	講義		
【授業の概要・目的】 物質の機能、特に無機機能性材料の電気化学デバイスへの応用について概説する。			
【授業計画と内容】 物質のもつ化学エネルギーと電気エネルギーの相互変換を行う電気化学デバイスの研究は、今後のエネルギー問題および環境問題を解決し、自然と人間の調和的共生を図る上で益々必要になる。電気化学デバイスの高性能化には、高機能性材料の開発が極めて重要な役割を担っている。電気化学デバイスに適用される無機機能性材料の機能発現原理について概説する。電気化学反応機構について、電解質溶液の考え方、平衡電気化学、溶液と電極の界面化学、電極反応速度論、電気化学測定法、電極の化学について学習する。デバイスに用いられる無機機能性材料につき、電子導電性、イオン導電性などの機能発現原理について講義し、燃料電池、電池を中心とした電気化学デバイスへの応用を最近のトピックスを交えて述べる。			
【履修要件】 基礎物理化学A,Bを習得していることが望ましい。			
【成績評価の方法・基準】 レポート試験と出席率による。			
【教科書】 参考書を補助教科書として使用する。その他、必要な資料は適時配布する。			
【参考書等】 (参考書) 大塚 利行、桑畑 進、加納 健司 『ベーシック電気化学』 (化学同人) ISBN:4759808612			
(その他 (授業外学習の指示・オフィスアワー等)) 居室：人間・環境学研究科棟301号室 uchimoto@chem.mbox.media.kyoto-u.ac.jp オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英訳>	分子構造論 Organic Structural Chemistry	担当者氏名	情報科学 教授 山本 行男
配当学年	2-4回生	単位数	2
開講期	前期	曜時間	木2
授業形態	講義		
【授業の概要・目的】 芳香族化合物、アルコールとチオール、エーテルとエポキシド、アルデヒドとケトンを取り上げ、有機化合物の構造と反応を体系的に理解することを目的とする。 まず、芳香族性に関する数=6を学び、芳香族求電子置換反応の仕組みを電子の流れで理解することから始める。 次に、電子吸引性であり、かつ、非共有電子対を有する酸素原子の特性が、どのようにアルコールやエーテルを特徴づけるかを学ぶ。 最後に、C=C二重結合と比較しながらC=O二重結合の構造の特徴を学び、それに起因する求核付加反応の仕組みを理解する。			
【授業計画と内容】 以下のテーマについて、1テーマあたり1~2週の授業をする予定である。 1. ベンゼンの構造と芳香族性 2. 芳香族求電子置換反応 3. アルコールの構造と性質 4. アルコールの反応 5. フェノールの構造と反応 6. チオールの構造と反応 7. エーテルの構造と反応 8. エポキシドの構造と反応 9. アルデヒド・ケトンの構造と性質 10. カルボニル基の反応：求核付加反応			
【履修要件】 基礎有機化学A・B、構造有機化学入門、反応有機化学入門のいずれかを前もって履修していることが望ましい。 ヘテロ元素を含む有機分子の構造と反応が統一的に理解するため、分子反応論 (後期) と連続して履修することを強く勧める。			
【成績評価の方法・基準】 有機化合物の構造と反応についての基本的事項が理解できているか、次の方法で確認する。 レポート試験の成績 (60%)、平常点評価 (40%)。 平常点評価は毎回の出席と授業中に行う問題演習の評価を含む。			
【教科書】 J. McMurry 『マクマリイ 有機化学 中 第7版』 (東京化学同人) ISBN:9784807906994			
【参考書等】 (参考書) 山本行男 『クリック！有機化学』 (化学同人) ISBN:9784759809930			

分子構造論(2)									
-----									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
授業中になるべく多くの演習問題を解いて、学習した内容の理解を確かめる。授業時間中に扱えない問題は各自で解くことになるが、質問がある場合は、まず、下記メールで問い合わせること。 yukio_at_yamamoto.mbox.media.kyoto-u.ac.jp (Raplacе_at_with @-mark)									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	フロンティア化学 Frontier of Chemistry				担当者氏名	地球環境学 准教授 藤田 健一	人間・環境学 助教 高橋 弘樹	地球環境学 助教 林 直頭	人間・環境学 助教 多喜 正泰	人間・環境学 助教 折笠 有基
	配当学年	1-4回生	単位数	2		開講期	後期	曜時間	金5	授業形態
【授業の概要・目的】										
科学技術の発展とともに、「化学」の研究対象はより細分化され、多岐にわたって私たちの生活を支えている。本授業では最先端の化学研究の紹介・解説を通じて、様々な分野における自然科学の知識や理解を深めるとともに、現代社会が抱える問題点に対して、「化学」がなし得る貢献や役割に関して講義する。										
【授業計画と内容】										
現代社会において「化学」が果たすべき役割を解説するとともに、環境化学・有機化学・無機化学・結晶化学・材料化学・生物化学・電気化学といった化学の諸分野における最先端の研究についてリレー講義形式で紹介する。 以下の課題について、1課題あたり2～3週の講義を行う予定である。										
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. グリーンケミストリー：現代合成化学の課題</li> <li>2. 分子、結晶構造と物性の発現</li> <li>3. 吸収と蛍光：ケミカルバイオロジーへの応用</li> <li>4. セラミックス・金属材料の化学</li> <li>5. 電気化学反応とエネルギー変換：蓄電池の課題</li> </ol>										
【履修要件】										
特に定めないが、理系志望の学生の受講を期待する。										
【成績評価の方法・基準】										
出席率とレポートによる。										
【教科書】										
使用しない										
【参考書等】										
(参考書) 授業中に紹介する										
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))										
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。										

授業科目名 <英訳>	分子反応論 Chemistry of Organic Reactions				担当者氏名	人間・環境学 研究科 教授 山口 良平				
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	木2	授業形態	講義	
【授業の概要・目的】										
分子構造論(前期)に引き続いて、種々の有機化合物の反応をその構造と性質を含めて体系的に理解することを目的とする。										
【授業計画と内容】										
講義の具体的内容としては、以下を取り上げ、それらの構造的特徴とそれに由来する性質や反応について、命名法や反応機構を含めて解説する。										
<ol style="list-style-type: none"> <li>1) カルボン酸とニトリル</li> <li>2) カルボン酸誘導体と求核アシル置換反応</li> <li>3) カルボニル基の置換反応</li> <li>4) カルボニル縮合反応</li> <li>5) アミンと複素環</li> </ol>										
【履修要件】										
本授業履修には、基礎有機化学、構造有機化学入門、反応有機化学入門のいずれかを前もって履修していることが望ましい。また、分子構造論(前期)と連続して履修することを強く勧める。										
【成績評価の方法・基準】										
演習を十分実施しながら講義を進め、成績は出席、レポート提出を重視して、定期試験で評価する。										
【教科書】										
マクマリー『マクマリー有機化学第7版(中)及び(下巻の1部)』(東京化学同人)										
【参考書等】										
(参考書) 希望があれば紹介する。										
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))										
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。										

授業科目名 <英訳>	生体分子機能論B Molecular Aspects of Biological Function B				担当者氏名	人間・環境学 研究科 准教授 宮下 英明				
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	火4	授業形態	講義	
【授業の概要・目的】										
光合成生物は、地球生物圏の維持・恒常性に不可欠である。本講義では、光合成を行う生物に着目し、その多様性、生態、代謝について論じる。また、光合成の仕組みや光合成生物の多様化・進化についても論じる。										
【授業計画と内容】										
以下の内容について講義する。										
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 光合成の誕生と地球生物圏の進化(2～3週)</li> <li>2. 光合成をおこなう生物の多様性(3～4週)</li> <li>3. 光合成の仕組み(3～4週)</li> <li>4. 光合成と地球環境(2～3週)</li> </ol>										
【履修要件】										
特になし										
【成績評価の方法・基準】										
出席率と期末試験による総合評価(ただし、期末試験をレポートに代えることがある)										
【教科書】										
プリントを配布する。										
【参考書等】										
(参考書) 授業中に紹介する										
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))										
問い合わせ等がある場合は、担当教員に電子メール等で問い合わせること。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。										

授業科目名 <英訳>	細胞生物学 A Cell Biology A	担当者氏名	生命科学研究所 教授 竹安 邦夫 生命科学研究所 准教授 吉村 成弘						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期集中	曜時間	集中講義	授業形態	講義
【授業の概要・目的】 生化学の知見をもとに細胞生物学の先端を学ぶ。									
【授業計画と内容】 細胞の成分、細胞膜の構造と機能、細胞膜受容体、細胞小器官（小胞体、ゴルジ体、ミトコンドリア、液胞）、細胞核の構造と機能、核膜孔複合体、クロマチン等について概観する。									
【履修要件】 全学共通科目（生化学入門101、生化学入門102およびバイオテクノロジー入門1、バイオテクノロジー入門2）をすべて履修済みであること。									
【成績評価の方法・基準】 口頭試問と出席率による。									
【教科書】 使用しない コメントなし									
【参考書等】 （参考書） Lodish他 『Molecular Cell Biology』（FREEMAN）ISBN:978-0-7167-7601-7 香川 靖雄編 『生化学－分子から病態まで』（東京化学同人）ISBN:4-8079-0511-2									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	分子細胞生物学特論 Molecular Cell Biology	担当者氏名	生命科学研究所 教授 竹安 邦夫 生命科学研究所 准教授 吉村 成弘						
配当学年	3,4回生	単位数	4	開講期	後期集中	曜時間	集中講義	授業形態	講義
【授業の概要・目的】 分子生物学、細胞生物学の研究に必要なスキルを身につける。									
【授業計画と内容】 論文購読・英語でのプレゼンテーション・英語でのディスカッションを通して、専門用語の理解力、応用能力を養い、生化学的、分子細胞生物学的方法を理解する。									
【履修要件】 全学共通科目（生化学入門101、生化学入門102およびバイオテクノロジー入門1、バイオテクノロジー入門2）をすべて履修済みであること。									
【成績評価の方法・基準】 レポート試験と出席率による。									
【教科書】 使用しない									
【参考書等】 （参考書） コメントなし									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） 学部専門科目であるので「生物学を少しだけかじってみよう」と考えている学生は、授業を受ける資格はない。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	細胞生物学 B Cell Biology B	担当者氏名	生命科学研究所 教授 竹安 邦夫 生命科学研究所 准教授 吉村 成弘						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期集中	曜時間	集中講義	授業形態	講義
【授業の概要・目的】 分子遺伝学の知見をもとに細胞生物学の先端を学ぶ。									
【授業計画と内容】 培養細胞、遺伝子導入動物・植物を用いた研究について、最近の原著論文を購読する。									
【履修要件】 全学共通科目（生化学入門101、生化学入門102およびバイオテクノロジー入門1、バイオテクノロジー入門2）をすべて履修済みであること。									
【成績評価の方法・基準】 口頭試問と出席率による。									
【教科書】 使用しない コメントなし									
【参考書等】 （参考書） Lodish他 『Molecular Cell Biology』（FREEMAN）ISBN:978-0-7167-7601-7 香川 靖雄編 『生化学－分子から病態まで』（東京化学同人）ISBN:4-8079-0511-2									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	自然史特論 Special Lecture on Natural History	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 松井 正文 地球環境学堂 教授 加藤 真 人間・環境学研究所 准教授 瀬戸口 浩彰 地球環境学堂 准教授 市岡 孝朗 人間・環境学研究所 准教授 宮下 英明						
配当学年	3,4回生	単位数	4	開講期	通年	曜時間	水1	授業形態	講義
【授業の概要・目的】 分類学・系統学・生態学・行動学などのマクロ生物学の分野の古典的な研究や最先端の研究を紹介しつつ、一方で論文の読みあわせを行いながら、生物の自然史の理解を深める。									
【授業計画と内容】 主に以下のようなテーマに沿った講義と論文購読を行なう。 1. 脊椎動物の分類と系統 2. 植物の分子系統解析 3. 生物の種間関係と、種間関係がもたらす種分化 4. 生物の個体群動態と調節機構 5. 熱帯雨林の生物群集と生態系 6. 生物の行動の進化 7. 藻類・微生物の分類・系統・生態									
【履修要件】 特になし									
【成績評価の方法・基準】 出席									
【教科書】 使用しない									
【参考書等】 （参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	生物適応変異論 A Adaptive Relations Amongst Animals A	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 松井 正文
配当学年	2-4回生	単位数	2
開講期	前期集中	曜時間	集中講義
授業形態	講義		
【授業の概要・目的】			
両生類を中心に動物界の構成員について、種および遺伝子レベルでの多様性の実態を紹介し、それが生じた要因を考察する。同時に、多様性の危機の実態と、保護・保全についても論じる。			
【授業計画と内容】			
以下のような課題について講義する予定である。 1 多様性という言葉の意味 2 種多様性 形態的多様性 3 種多様性 生活史的多様性 4 遺伝的多様性 5 群集多様性 6 多様性の消失 様々な原因 7 多様性の消失 外来種問題 8 多様性保全の実態			
【履修要件】			
特になし			
【成績評価の方法・基準】			
出席点とレポート点。			
【教科書】			
使用しない			
【参考書等】			
(参考書) 授業中に紹介する			
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))			
疑問点などは松井 (fumi@jzoo.zool.kyoto-u.ac.jp) までメールで連絡すること。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英訳>	生物多様性・生態学 Biodiversity Ecology	担当者氏名	地球環境学堂 教授 加藤 真 地球環境学堂 准教授 市岡 孝朗
配当学年	2-4回生	単位数	2
開講期	前期	曜時間	水2
授業形態	講義		
【授業の概要・目的】			
地球にはどのような生物多様性があり、それがどのような変遷をとげてきたのか、生物多様性はどのように形作られ、どのように維持されているのか、生物多様性はどのような危機に直面しており、そのような危機から脱するためにはどのような方策が必要なのか、といったテーマに生態学の立場から答えることを目的としている。			
【授業計画と内容】			
以下のようなテーマにそって講義を行なう。 1. 海の生物多様性 2. 熱帯雨林の生物多様性 3. 日本列島の生物多様性 4. 生物多様性の歴史 5. 種分化の機構 6. 遺伝的多様性 7. 生物の多様性が個体群動態に与える影響 8. 生物多様性の危機 9. 生物多様性の保護			
【履修要件】			
特になし			
【成績評価の方法・基準】			
出席			
【教科書】			
使用しない			
【参考書等】			
(参考書) フツイマ 『進化生物学』(蒼樹書房)			
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英訳>	生物適応変異論 B Adaptive Relations Amongst Plants B	担当者氏名	人間・環境学研究所 准教授 瀬戸口 浩彰
配当学年	2-4回生	単位数	2
開講期	前期集中	曜時間	集中講義
授業形態	講義		
【授業の概要・目的】			
植物は、いったん発芽した場所から移動することが出来ません。生き残るためには、その場所の環境に適応することが必須になります。環境が気に入らなければ動くことが出来る動物とは大きく異なっています。これが、植物を適応進化の対象にすることの大きな長所です。例えば、北海道の利尻島から沖縄の宮古島まで広域に分布する同一の植物種では、発芽や開花のタイミングが大きく異なっています。植物が高山や乾燥、冠水、水圧、高緯度-低緯度、などの環境に対してどのように適応しているかという現象と、それが進化にどのように関連しているかについて理解することを目的とします。			
【授業計画と内容】			
1. 年度最初にKULASISと吉田南2号館3階にある生物教室掲示板に開講掲示を出しますので、掲示内容にしたがって履修登録をしてください。 2. 特定のテーマに集中して話をします。そして、野外に出て学習対象の植物を調べます。これまでに、植物の「溪流適応」や「琵琶湖に陸封された海浜植物の葉の適応変異」について、学習しました。例年は履修者が少数なので、対話を持ちながら、内容の濃い授業にしたいと考えています 3. 総括の授業を行い、各自でレポートをまとめます。			
【履修要件】			
高校における生物の履修歴は問いません。			
【成績評価の方法・基準】			
出席とレポート			
【教科書】			
使用しない			
【参考書等】			
(参考書) 岩槻邦夫・加藤雅啓(編) 『多様性の植物学、第三巻』(東京大学出版会) 日本植物生理学会(監修) 葛西奈津子(著) 『植物まるかじり叢書、第4巻「植物の進化をさぐる」』(化学同人)			
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英訳>	物理学演習 A Studies of Physics A : recitation	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 阪上 雅昭 人間・環境学研究所 助教 佐野 光貞
配当学年	2-4回生	単位数	4
開講期	後期	曜時間	金3,4
授業形態	演習		
【授業の概要・目的】			
力学問題の方程式の導出と解法を身につけること。			
【授業計画と内容】			
物理学の中で最も早くその理論体系が完成した力学について演習を行う。力学における法則(ニュートンの法則)を理解し、問題に応じて運動方程式を導出、導いた方程式を解くことを目標にする。粒子系を扱う質点系の力学、剛体を扱う剛体の力学、および、量子力学・統計力学に必要な解析力学から出題する予定である。			
【履修要件】			
物理学演習 A、力学統論、解析力学を履修しておくこと。			
【成績評価の方法・基準】			
毎回の演習問題に対するレポートの結果を基に採点をし、成績をつける。			
【教科書】			
使用しない			
【参考書等】			
(参考書) 随時紹介する。			
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))			
質問等は、sano.mitsusada.6z@kyoto-u.ac.jpへメールすること。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英訳>	物理学演習 B Studies of Physics B : recitation	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 宮本 嘉久 人間・環境学研究所 助教 佐野 光貞						
配当学年	3,4回生	単位数	4	開講期	前期	曜時限	金3,4	授業形態	演習
[授業の概要・目的]									
電磁気学の方程式の導出と解法を身につけること。									
[授業計画と内容]									
電磁現象は重力と並んで時空の基本的な性質の現れである。また、20世紀におけるエレクトロニクスの発展の基盤となった。その電磁気学の基本的な問題を出题する。具体的には、静電場、静磁場、定常電流、電流と磁場、電磁誘導、Maxwell方程式などである。その他、電磁場、物性論と関連した問題についても出题するかもしれない。									
[履修要件]									
物理学基礎論B、電磁気学統論を履修してくることを前提にする。									
[成績評価の方法・基準]									
毎回の演習問題に対するレポートの結果を基に採点し、成績をつける。									
[教科書]									
適宜、資料を配布する。									
[参考書等]									
(参考書) 授業中に紹介する									
(関連URL)									
http://polymer.phys.h.kyoto-u.ac.jp/(宮本)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
(佐野) 質問、希望等があれば、sano.mitsusada.6z@kyoto-u.ac.jp にメールすること。 (宮本) オフィスアワーは特に定めない。質問、希望等があればメール、または、075-753-6784 に電話すること。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	物質構造機能論演習 A Lecture and Exercise on Material Structure and Function A	担当者氏名	地球環境学堂 教授 杉山 雅人						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	木3	授業形態	演習
[授業の概要・目的]									
分析化学と水圏地球化学に関わる具体的な事例を取り上げて、少人数で理論の概説と計算演習を行う。									
[授業計画と内容]									
以下に示す項目について、理論の概説と演習を行う。 1. 濃度の単位、最小二乗法、標準偏差 2. 酸塩基滴定(滴定曲線と酸解離定数) 3. 沈澱滴定(終点と当量点) 4. 吸光度分析(モル吸光係数、等吸収点、組成比決定法) 5. 溶媒抽出(抽出平衡定数、pH-抽出率曲線、pH-log(分配比)曲線、抽出錯体の組成決定法)  6. 酸化還元滴定(化学的酸素要求量、生物化学的酸素要求量) 7. 酸化還元平衡(pH-電位図の作成) 8. 酸化還元平衡(閉鎖水塊での酸化還元電位低下と酸化還元活性化学種の動態) 9. 溶解度積と溶解度、海水中での炭酸カルシウム飽和度と補償深度 10. 錯生成平衡と酸解離平衡、副反応係数、自然水中での存在化学種の推定 11. 硬い酸塩基、軟らかい酸塩基 12. 質量分析 13. 定量分析の操作(標準溶液の調製、試料処理)									
[履修要件]									
全学共通科目の「基礎物理化学」、「基礎有機化学」を習得していることが望ましい。 『物質分析論』を習得したのち履修することが望ましい。 課題演習「物質の構造と機能」(分析化学・地球化学)と並行して履修することが望ましい。									
[成績評価の方法・基準]									
定期試験とレポートによる。									
[教科書]									
藤永太郎 編著 『基礎分析化学』(朝倉書店)									
[参考書等]									
(参考書) 藤永太郎、関戸栄一 訳 『イオン平衡』(化学同人) 姫野貞之、市村彰男 『分析化学』(化学同人)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	物理数学演習 Mathematics for Physics : recitation	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 宮本 嘉久 人間・環境学研究所 助教 佐野 光貞						
配当学年	3,4回生	単位数	4	開講期	後期	曜時限	水3,4	授業形態	演習
[授業の概要・目的]									
物理学に必要な数学のうち、基本的なものを身につけ、使えるようになること。									
[授業計画と内容]									
自然現象を理論的に解析するには数式を用いて表現することが求められる。数式を用いることで自然現象を抽象化し、その中に普遍的な構造を見出し、理論として一般化・体系化がなされていく。そのような物理学の理論形成に最小限必要な数学を身につけることを目標とする。具体的には、(1)ベクトル解析、(2)微積分、(3)微分方程式(常微分方程式・偏微分方程式)、(4)フーリエ解析、(5)複素関数論などである。これらの中から適宜問題を選んで、演習を進めることにする。									
[履修要件]									
演習問題の内容に対応した数学の講義を履修していることを前提とする。内容については授業計画と内容を参照のこと。									
[成績評価の方法・基準]									
毎回の演習問題に対するレポートの結果を基に採点し、成績をつける。									
[教科書]									
使用しない									
[参考書等]									
(参考書) 随時紹介する。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
質問等は、sano.mitsusada.6z@kyoto-u.ac.jpへメールすること。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	物質構造機能論演習 C Lecture and Exercise on Material Structure and Function C	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 内本 喜晴						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	水3	授業形態	演習
[授業の概要・目的]									
物質の機能、特に無機機能性材料の電気化学デバイスへの応用について概説する。特に、無機固体材料の設計のために必要な固体化学についての演習を行う。									
[授業計画と内容]									
次の項目について演習を行う。 1. 結晶構造 2. 主要な結晶構造 3. 固体の化学結合 4. 結晶の欠陥 5. 相図 6. 電気的性質 7. 平衡電気化学 8. 電荷移動過程 9. 物質輸送過程									
[履修要件]									
基礎物理化学A,Bを習得していることが望ましい。									
[成績評価の方法・基準]									
レポート試験と出席率による。									
[教科書]									
参考書を補助教科書として使用する。その他、必要な資料は適時配布する。									
[参考書等]									
(参考書) A.R. ウェスト(著)、遠藤忠(翻訳)、井川博行(翻訳)、伊藤祐敏(翻訳)、君塚冨(翻訳)、武田保雄(翻訳)、池田 攻(翻訳)、菅野了次(翻訳)、泰松 斉(翻訳) 『ウエスト固体化学入門』(講談社サイエンティフィック) ISBN:4061533711									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
居室：人間・環境学研究所棟301号室 uchimoto@chem.mbox.media.kyoto-u.ac.jp									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	分子構造機能論演習A Lecture and Exercise on Organic Molecular Structures and Properties A	担当者氏名	人間・環境学研究所 准教授 津江 広人 人間・環境学研究所 教授 田村 類						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	水2	授業形態	演習
[授業の概要・目的]									
有機化合物の構造解析に広く用いられている機器分析法の原理を理解し、各種スペクトルに含まれる情報から有機化合物の構造を決定できるようになることを目的とする。									
[授業計画と内容]									
有機化合物の構造解析において有用かつ主要な機器分析法である 質量分析法、赤外分光法、紫外分光法、および 核磁気共鳴分光法の原理とスペクトルの解析方法について、解説と演習を交えながら授業を行う。これら4つの機器分析法について、1方法あたり3～4週の授業を行う予定である。									
[履修要件]									
基礎有機化学A・B、構造有機化学入門、反応有機化学入門を履修していることが望ましい。									
[成績評価の方法・基準]									
出席と演習への参加状況により評価する。									
[教科書]									
マクマリー（伊藤ら訳）『有機化学 第7版 上巻』（東京化学同人）ISBN:978-4-8079-0698-7									
[参考書等]									
（参考書） R. M. Silverstein, F. X. Webster著, 荒木峻, 益子洋一郎, 山本修, 鎌田利紘訳 『有機化合物のスペクトルによる同定法』（東京化学同人）									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
この授業では、教科書等に掲載された問題を使って演習を行うので、指定された演習問題を次回授業時まで解いておくこと。 分子構造論、分子反応論、分子構造機能論演習Bと併せて履修することを強く勧める。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	分子細胞生物学演習 Seminar on Molecular Cell Biology	担当者氏名	生命科学研究所 教授 竹安 邦夫 生命科学研究所 准教授 吉村 成弘						
配当学年	2-4回生	単位数	4	開講期	後期	曜時間	木1,2	授業形態	演習
[授業の概要・目的]									
論文購読に必要な能力を身につける。									
[授業計画と内容]									
生化学、分子生物学の基本的概念や方法をカバーする10報程度の原著論文を読む。									
[履修要件]									
全学共通科目（生化学入門101、生化学入門102およびバイオテクノロジー入門1、バイオテクノロジー入門2）をすべて履修済みであること。									
[成績評価の方法・基準]									
口頭試問と出席率による。7割以下の出席率では単位を認めない。									
[教科書]									
使用しない コメントなし									
[参考書等]									
（参考書） コメントなし									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
学部専門科目であるので「生物学を少しだけかじってみたい」と考えている学生は、授業を受ける資格はない。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	分子構造機能論演習B Lecture and Exercise on Organic Molecular Structures and Properties B	担当者氏名	人間・環境学研究所 准教授 津江 広人 人間・環境学研究所 教授 田村 類						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	水2	授業形態	演習
[授業の概要・目的]									
キラルな有機化合物の純度決定や物性評価に広く用いられている機器分析法を理解し、また化学原著論文の読み方を習得することを目的とする。									
[授業計画と内容]									
対象物質として、キラルな有機化合物や有機結晶を例に用いて、(1)高速液体クロマトグラフ(HPLC)法、(2)ガスクロマトグラフ(GC)法、(3)円二色性(CD)スペクトル法、(3)単結晶X線構造解析法、(5)熱分析法、および(6)プローブ顕微鏡(AFM, STM)や電子顕微鏡(SEM, TEM)の原理と、これらの利用法について解説する。同時に、キラリティーに関する次の基礎事項についても理解を深める。(7)キラルな分子構造と結晶構造、(8)キラリティーと点群、(9)エナンチオマーの純度と絶対配置、(10)純エナンチオマー体の利用。さらに、(11)キラリティーに関する化学原著論文の輪読を行う。									
[履修要件]									
基礎有機化学A・B、構造有機化学入門、反応有機化学入門を履修していることが望ましい。									
[成績評価の方法・基準]									
出席と演習への参加状況により評価する。									
[教科書]									
毎回、資料を配布する。									
[参考書等]									
（参考書） 泉ら監修 『第2版 機器分析のてびき 第2, 3集』（化学同人）									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
分子構造論、分子反応論、分子構造機能論演習Aと併せて履修することを強く勧める。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	自然史演習 Seminar on Natural History	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 松井 正文						
配当学年	2-4回生	単位数	4	開講期	通年	曜時間	月2	授業形態	演習
[授業の概要・目的]									
動物の自然史の研究方法について演習する。主に両棲類を題材として、種レベル、遺伝的レベルでの生物多様性、史的時間を通じての生物環境動態について議論をし、理解を深めあうことを目指す。									
[授業計画と内容]									
以下のような課題について、1課題あたり2-4週の授業をする予定である。 1. 東南アジア産無尾両棲類の分布様式 2. 東南アジア産無尾両棲類の分子系統 3. 東南アジア産無尾両棲類の分布形成史の推定 4. 東アジア産有尾両棲類の分布様式 5. 東アジア産有尾両棲類の分子系統 6. 東アジア産有尾両棲類の分布形成史の推定 7. アジア産両棲類の形態進化と遺伝的分化 8. アジア産両棲類の生活史の多様性 9. アジア産両棲類の保全と保護									
[履修要件]									
特になし									
[成績評価の方法・基準]									
平常点。									
[教科書]									
適宜資料を配布する。									
[参考書等]									
（参考書） 両生類の進化 『東京大学出版会』									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
疑問点などは松井（fumi[at]zoo.zool.kyoto-u.ac.jp）までメールで連絡すること。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	自然史演習 Seminar on Natural History	担当者氏名	地球環境学堂 教授 加藤 真 地球環境学堂 准教授 市岡 孝朗						
配当学年	2-4回生	単位数	4	開講期	通年	曜時間	木2	授業形態	演習
【授業の概要・目的】 生物相互の種間関係、生物の個体群や群集の動態、生物の系統や進化、生態系の維持機構、生物多様性の現状とそれを保護するための方策などのテーマについて、研究紹介や論文講読を行なうとともに、研究計画の検討や、研究の経過報告、研究を進展させるための議論などを行なう。									
【授業計画と内容】 毎週、担当を決めて、下記のようなテーマに関する研究紹介や論文講読や、研究計画の検討、研究の経過報告、研究を進展させるための議論などを行なう。 1. 生物相互の種間関係 2. 生物の個体群や群集の動態 3. 生物の系統や進化 4. 生態系の維持機構 5. 生物多様性の現状とそれを保護するための方策									
【履修要件】 特になし									
【成績評価の方法・基準】 出席と、セミナーでの発表（文献紹介など）									
【教科書】 使用しない									
【参考書等】 （参考書） フツイマ 『進化生物学』（蒼樹書房）  （その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） 教員や大学院生のフィールド調査へ同行する機会を作る予定。  オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	自然史演習 Seminar on Natural History	担当者氏名	人間・環境学研究所 准教授 宮下 英明						
配当学年	2-4回生	単位数	4	開講期	通年	曜時間	月5	授業形態	演習
【授業の概要・目的】 微生物自然史に関する文献や最近の研究動向に関する話題の提供によって、微生物を中心とした生物の多様性や生態、系統・分類、進化についての理解を深めること、また、実際の研究の結果や発表に対する討論を通して、自然史研究のプランニング、進め方、結果のまとめ方に関する考え方を涵養することを目的とする。									
【授業計画と内容】 毎週、その週の担当を決め、下記について紹介（発表）・質疑応答・討論を行う。  自らの研究テーマに関連した最新の論文  微生物自然史研究における最新のトピックス  研究計画  研究の経過報告  担当者名やテーマの詳細については、吉田南2号館2階および3階の生物実習室前掲示板に掲示する。									
【履修要件】 特になし。ただし、担当教員が開講している「微生物概論」（全学共通科目）、「藻類学概論」（全学共通科目）、「生体分子機能論B」（学部専門科目）や、他の教員が開講している微生物関連科目を履修しておくこと内容の理解を助ける。									
【成績評価の方法・基準】 授業への参加を総合的に評価する									
【教科書】 使用しない									
【参考書等】 （参考書） 授業中に紹介する  （その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） 問い合わせ等がある場合は、担当教員に電子メール等で問い合わせること。  オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	自然史演習 Seminar on Natural History	担当者氏名	人間・環境学研究所 准教授 瀬戸口 浩彰						
配当学年	2-4回生	単位数	4	開講期	通年	曜時間	水4	授業形態	演習
【授業の概要・目的】 生物の自然史(とくに植物)に関する文献の購読や研究発表、これに対する討論を通して、研究の進め方や考え方を涵養することを目的とする。 【対象となる内容】 植物(ときには動物も対象とする)の種内の進化、進化をもたらす様々な遺伝子の変異、系統地理*、絶滅危惧植物の保全。 *系統地理学とは、地球上の様々な場所に生息する生物種が、どのような歴史的経緯を辿って、現在のような地理的分布を得てきたのか、現在の生息環境に見られるように至ったのかについて、主にDNAデータの解析から明らかにしていく学問領域のこと。 【履修によって得られると見込まれる知識と思考】 植物(生物)の進化、植物の環境適応、系統地理学、系統分類学、光や温度受容などの主要な遺伝子の機能と、これが種内分化をもたらす機構保全生物学、第四紀の気候変動と日本の植生の変遷、新しいことを探求する思考									
【授業計画と内容】 毎週水曜日4時間目(14:45開始)から吉田南2号館1階理系総合学習室で行う。予定は、吉田南2号館3階の廊下にある生物実習室1の掲示板に掲示する。毎回にゼミの発表者が2人あるいは1人ずつ、特定の研究テーマや論文について紹介を行い、そのあとに討論を交わす。また、不定期に、総合博物館の地下にある植物標本収蔵庫において標本の整理作業も行う。将来に博物館に勤務を希望する人には貴重な体験学習の場になると考えます。									
【履修要件】 高校における生物の履修歴は不要。ただし、担当教員が全学共通科目で開講している「植物系統・進化学」と「生物学概論A」を履修していると、内容理解が平易になる。									
【成績評価の方法・基準】 授業への参加(出席と発言)を総合的に評価する									
【教科書】 使用しない									
【参考書等】 （参考書）  （その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） 履修希望者は、初回のゼミに参加すること  オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	地球科学演習 Seminar on Earth Science	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 酒井 敏 人間・環境学研究所 教授 石川 尚人 人間・環境学研究所 助教 金子 完哉 人間・環境学研究所 助教 加藤 護 人間・環境学研究所 准教授 小木曾 哲						
配当学年	2-4回生	単位数	4	開講期	通年	曜時間	月2	授業形態	演習
【授業の概要・目的】 演習・実習を通して、地球の姿や地球上での諸現象に興味を持ち、納得してもらおう事を目指す。									
【授業計画と内容】 地球や宇宙に関連する諸現象を、身近な事実や法則を用いて、また、簡単な実験やデータ解析を行いながら、自分で確かめ、納得してもらおうことを目的としている。いくつかのテーマを設定し、複数回をかけて、そのテーマに沿った課題での演習・実習を行なう。 テーマ(例) ・地球や宇宙の大きさ ・地球や宇宙で働く力(重力、コリオリ力、磁力) ・地球の構造と物質(岩石、鉱物) ・地球の諸現象(気象、気候、地震、火山)									
【履修要件】 1コマでの演習なので、開始時間に遅刻をしないこと。									
【成績評価の方法・基準】 出席及び各課題に対する達成度合い。 演習ですので、出席し、課題に取り組むことが条件になります。									
【教科書】 授業中に指示する									
【参考書等】 （参考書） 授業中に紹介する  （その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） 地球科学に興味があれば、全学共通教育科目「地球科学実験A/B」も履修することを推奨する。  オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	課題演習：（物理科学）レーザー物理学 Studies on Laser Physics	担当者氏名	人間・環境学研究所 准教授 木下 俊哉						
配当学年	3,4年生	単位数	4	開講期	前期	曜時間	月3,4	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
レーザーによる原子の冷却実験では、電磁気学、光学、量子力学の知識をもとに開発された、光に関する様々な技術が使われています。本演習では、まず輪読形式のゼミナールでレーザーや光学、原子と光との相互作用に関する基礎的な理論を文献によって理解した後、半導体レーザーの光源を製作します。これを飽和吸収分光に応用して原子のスペクトルを観測、レーザーの発振周波数の制御に利用します。レーザーと光学系の組み上げ、自動制御のための電子回路の製作を通して、冷却原子の実験に必要な技術の初歩を習得するだけでなく、基礎的な物理学がいかにサイエンスの研究現場に応用されているのかを体感してもらうことを目標とします。									
【授業計画と内容】									
以下のように進める予定である（進行具合により、変更あり）。 第1週： イントロダクション（演習全体の構成） 第2～4週： レーザーの基礎 第5～6週： 光と原子の相互作用 第7～10週： 外部共振型半導体レーザーシステムの製作 第11～13週： レーザー制御用電子回路の製作 第14週： 飽和吸収分光による原子スペクトルの観測 第15週： フィードバックによるレーザーの周波数安定化									
【履修要件】									
物理学基礎論A、B、電磁気学特論、量子力学を履修または受講していることが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
授業への取り組み方を総合的に評価します。学んだことを忘れないためにも、レポートの作成（例えば全員で一つ）などを計画しています。									
【教科書】									
必要な文献（和文・英文等）はこちらで用意します。									
【参考書等】									
（参考書） 必要に応じて随時、紹介する。									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
連絡先：吉田南3号館2階F203号室 TEL: 075-753-6778 Email: kinoshita.toshiya.6x@kyoto-u.ac.jp									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	課題演習：（物理科学）物理の基礎A Basics of Physics A	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 阪上 雅昭						
配当学年	3,4年生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	火3	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
いわゆる物理学に限らず、地球科学や他の自然科学また社会科学においても物理的な概念や手法が役立つことが多い。そこで、本課題演習では、これらの応用も念頭に置き、物理学の基本的概念の理解と数理的手法の習得をその目的とする。									
【授業計画と内容】									
物理の基礎Aでは、力学、熱力学、振動波動を主たる分野とする予定である。これらの分野について、基本的な概念やそこで必要となる数理的手法を簡単に解説した後、具体的な課題を解くことにより、実際に使いこなせるようになることをめざす。課題としてはパソコンによるシミュレーション、数式処理、統計処理等を行う。必要であれば簡単な実験も行う予定である。									
具体的な内容としては、 （1）運動方程式 （2）惑星の運動 （3）振動：減衰振動・強制振動・連成振動 （4）カオス （5）カオス （6）変分原理と最適化 （7）ラグランジュ方程式 などを予定しているが、受講者の興味・事前の知識や理解度に応じて内容を大幅に変更する可能性がある。									
【履修要件】									
物理学基礎論A、物理学基礎論B、熱力学、振動波動、力学統計論の中の幾つかを履修していることが望ましい。当然であるが、できるだけ多く履修していることを期待する。									
【成績評価の方法・基準】									
出席と授業中に課す課題やレポートにより評価する。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
（参考書） <a href="http://ganesha.phys.h.kyoto-u.ac.jp/~sakagami/Basic-of-Phys.html">http://ganesha.phys.h.kyoto-u.ac.jp/~sakagami/Basic-of-Phys.html</a>									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
必須ではないがノートパソコンを持っていることが望ましい。 問い合わせ先： sakagami@grav.mbox.media.kyoto-u.ac.jp									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	課題演習：（物理科学）核磁気共鳴 Studies on Nuclear Magnetic Resonance	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 前川 覚						
配当学年	3,4年生	単位数	4	開講期	後期	曜時間	月3,4	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
原子核スピンと電磁波との共鳴現象を利用して物質内部のマイクロな情報を探る核磁気共鳴法の原理の学習と実験をおこない、それらを通じて物理学の実験的研究の手法を学ぶ。									
【授業計画と内容】									
物質の性質をマイクロな観点から調べる強力な実験手段として、原子核と電磁波との共鳴現象を利用する核磁気共鳴（NMR）法がある。物理学分野で発明され、発展してきたこの核磁気共鳴法は今では医療にも応用され、身体内部の断層写真を撮る磁気共鳴映像法（MRI）として知られている。本授業では、テキストの輪読ゼミナールと実験を通して、核磁気共鳴の原理とその手法を学ぶ。実験では物質中の陽子の共鳴スペクトルや核スピン緩和時間を測定し、物質内のマイクロな情報を解析する方法やそれらの情報の物理的意味を学ぶ。									
【履修要件】									
物理学基礎論A、Bを履修し、力学、電磁気学等、物理学の基礎を習得していることが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
ゼミナールでの発表、実験の実施、実験レポートで評価する。									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（関連URL）									
<a href="http://nmr.jinkan.kyoto-u.ac.jp/maegawa/">http://nmr.jinkan.kyoto-u.ac.jp/maegawa/</a> (前川覚のホームページ) <a href="http://nmr.jinkan.kyoto-u.ac.jp/maegawa-lab/index.html">http://nmr.jinkan.kyoto-u.ac.jp/maegawa-lab/index.html</a> (前川研究室のホームページ)									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
核磁気共鳴法は磁気共鳴映像法（MRI）として医学、生理学、心理学にも応用されている。物理・化学系学生のみならず、それらに興味のある学生にも役立つであろう。									
履修について疑問・相談があるときは、お気軽にお問い合わせください。連絡先は 研究室：人環棟209号室 電話：（075）753-6787 Email: maegawa.satoru.3w_at_kyoto-u.ac.jp（_at_を@に置き直してください。）									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	課題演習：（物理科学）物理の基礎B Basics of Physics B	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 阪上 雅昭						
配当学年	3,4年生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	火3	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
いわゆる物理学に限らず、地球科学や他の自然科学また社会科学においても物理的な概念や手法が役立つことが多い。そこで、本課題演習では物理の基礎Aに引き続き、これらの応用も念頭に置き物理学の基本的概念の理解と数理的手法の習得をその目的とする。									
【授業計画と内容】									
物理の基礎Bでは、物理の基礎Aでやり残した分野と、フーリエ変換と時系列解析、統計力学、統計学、複雑系科学などを対象とする。これらの分野について、基本的な概念やそこで必要となる数理的手法を簡単に解説した後、具体的な課題を解くことにより、実際に使いこなせるようになることをめざす。物理の基礎Bでは、可能であれば、気象や地震等の地球科学や経済学に代表される社会科学、さらに生物集団への物理的手法の応用についても触れる。課題としてはパソコンによるシミュレーション、数式処理、統計処理等を行う。必要であれば簡単な実験も行う予定である。									
具体的な内容としては、 （1）フーリエ解析 （2）カオス （3）音のスペクトルと情報処理 （4）時系列解析 （5）統計とデータ処理 （6）動的最適化と経済学 （7）群れのダイナミクスの解析 などを予定しているが、受講者の興味・事前の知識や理解度に応じて内容を大幅に変更する可能性がある。									
【履修要件】									
物理の基礎Aを履修していること強く希望する。物理学基礎論A、物理学基礎論B、熱力学、振動波動、力学統計論に代表される物理の基礎科目の幾つかを履修していることが望ましい。当然であるが、できるだけ多く履修していることを期待する。									
【成績評価の方法・基準】									
出席と授業中に課す課題やレポートにより評価する。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
（参考書） <a href="http://ganesha.phys.h.kyoto-u.ac.jp/~sakagami/Basic-of-Phys.html">http://ganesha.phys.h.kyoto-u.ac.jp/~sakagami/Basic-of-Phys.html</a>									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	課題演習：物質の構造と機能 Studies on Material Structure and Function		担当者氏名	地球環境学 教授 杉山 雅人					
				人間・環境学 教授 田部 勢津久					
			人間・環境学 教授 内本 喜晴						
			人間・環境学 助教 高橋 弘樹						
			人間・環境学 助教 林 直顕						
			人間・環境学 助教 折笠 有基						
配当学年	3,4回生	単位数	8	開講期	前期	曜時限	月3,4,火3,4	授業形態	演習
[授業の概要・目的]									
無機物質の構造、組成、性質、変化、機能に関する基礎的ならびに発展的実験を行う。このことにより、無機物質の化学に関する知識と実験技術を習得し、卒業研究を行う基礎を養う。									
[授業計画と内容]									
実験の化学領域は大きく次の4つからなる。それらの各領域について、下記の実験テーマを1日～数日に渡って行う。									
1. 分析化学・地球化学 秤量、測容器具の感度・精度・確度 緩衝溶液の調製と緩衝能の測定、酸塩基滴定 容量分析-塩化銀生成を利用する沈殿滴定 重量分析-硫酸バリウム沈殿による硫酸イオンの定量 原子吸光分析： アルカリ、アルカリ土類金属の定量 吸光度分析： リンモリブデン酸法によるリン酸の定量 イオンの吸着： 水酸化第二鉄沈殿へのリン酸イオンの吸着 溶媒抽出法： オキシゲン抽出による重金属イオンの濃縮分離									
2. 電気化学実験 サイクリックボルタンメトリーによる評価 対流ボルタンメトリーによる評価 単極電位に関するNernst式的应用 電気透析による電解質溶液の脱塩・濃縮									
3. 物理化学実験 物質の蒸気圧の測定 (水・食塩)の二成分系状態図 溶解度の測定									
4. 材料化学実験 溶融法によるガラスの作製 エルビウム含有ガラスの赤外可視変換蛍光測定 励起準位電子占有率の温度依存性測定とBoltzmann定数の算出 固体の紫外可視および赤外吸収スペクトル測定 ルビー単結晶の作成と蛍光スペクトル測定 固相反応による希土類蛍光体結晶の作製									
----- 課題演習：物質の構造と機能(2)へ続く -----									

課題演習：物質の構造と機能(2)									
-----									
[履修要件]									
全学共通科目として基礎物理化学、基礎有機化学、無機化学入門を、総合人間学部専門科目として、物質分析論、物質機能論、物質構造論、物質構造機能論演習A・B・Cを習得している、あるいは併せて履修することが望ましい。									
[成績評価の方法・基準]									
出席とレポートとによる。									
[教科書]									
それぞれの実験のために独自に作成した実験指針を配布する。									
[参考書等]									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	課題演習：分子の構造と機能 Studies on Synthesis, Reactions, and Structures of Organic Molecules		担当者氏名	人間・環境学 教授 山口 良平					
				人間・環境学 教授 山本 行男					
			人間・環境学 教授 田村 類						
			人間・環境学 准教授 津江 広人						
			地球環境学 准教授 藤田 健一						
			地球環境学 助教 多喜 正泰						
配当学年	3,4回生	単位数	8	開講期	後期	曜時限	月3,4,火3,4	授業形態	演習
[授業の概要・目的]									
有機化合物の合成・単離と構造決定、およびそれらの反応、機能、物性についての実験と演習を行うことにより、有機化学の実験手法を修得し、有機分子と分子集合体の性質に関する理解を深める。									
[授業計画と内容]									
次の課題について実験と演習を行う。(1)縮合反応(Aldol縮合とKnoevenagel縮合)、(2)1-フェニルエチルアミンの光学分割(ジアステレオマー法)、(3)パン酵母からのa.a-トレハロース二水和物の単離、(4)液晶の合成と物性(アニリジン-4-アミノフェノールアセテート)、(5)アルケンの合成(Zaitsev型およびHofmann型生成物)、(6)有機金属錯体の合成と吸収(サレーン金属錯体)、(7)イリジウム錯体触媒の高い水素移動能を活用するアルコールの環境調和型酸化反応									
[履修要件]									
本課題演習の履修とともに、分子構造論(前期)、分子反応論(後期)、分子構造機能論演習A,B(前・後期)を履修することが、有機化学の理解を深める上で望ましい。									
[成績評価の方法・基準]									
出席、実験態度、レポート点で総合的に評価する。									
[教科書]									
全回分のプリントを配布する。									
[参考書等]									
(参考書) 希望があれば紹介する。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	課題演習：生物学 Studies of Biology		担当者氏名	人間・環境学 教授 松井 正文					
				地球環境学 教授 加藤 真					
			人間・環境学 准教授 瀬戸口 浩彰						
			人間・環境学 准教授 宮下 英明						
			地球環境学 准教授 市岡 孝朗						
配当学年	3,4回生	単位数	8	開講期	通年	曜時限	金3,4	授業形態	演習
[授業の概要・目的]									
ミクロからマクロまで、生物学のさまざまな分野の研究の基本的手法と考え方を、室内実験と野外実習を通して学ぶことを目的とする。室内実験では顕微鏡や分光光度計、電気泳動装置、シーケンサーなどの使用方法をも学ぶ。野外実習では、フィールド調査における心構えや自然との接し方、危険の回避方法、自然や生物のナチュラルヒストリーの基本などを学ぶ。									
[授業計画と内容]									
以下のようなテーマの演習・実習・実験を行なう。 1. 動物の解剖による、動物の形態と系統関係の学習 2. 里山環境における両生・爬虫類の生態観察 3. 植物標本の作成と、分類学・形態学への入門 4. 植物や動物の分子系統解析 5. 潜葉虫の生存曲線と生命表の作成 6. 水生昆虫の分類と、群集構造や住み分けの観察 7. 藻類や微生物の観察と検出 8. 光合成色素の定量と光合成速度の測定 9. 細胞と細胞内小器官の観察									
[履修要件]									
特になし									
[成績評価の方法・基準]									
出席と、セミナーでの発表(文献紹介など)									
[教科書]									
使用しない									
[参考書等]									
(参考書) 興味のある生物群の図鑑の購入を薦める。『フィールド版 日本の野生植物 草本』、『フィールド版 日本の野生植物 木本』、『両生類・はちゅう類(小学館の図鑑NEO)』、『水の生物(小学館の図鑑NEO)』									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
フィールドに出かけることがしばしばあり、集合場所や装備などを指示する掲示に注意してほしい。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	課題演習：地球科学 Studies of earth science			担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 酒井 敏	人間・環境学研究所 教授 石川 尚人	人間・環境学研究所 教授 鐘田 浩毅	人間・環境学研究所 助教 金子 克哉	人間・環境学研究所 助教 加藤 護	人間・環境学研究所 准教授 小木曾 哲
	配当学年	3,4回生	単位数		8	開講期	通年	曜時間	水3,4	授業形態
【授業の概要・目的】										
地球科学に関する基礎的実験を行なう。実験を通して、関連のある基礎的な知識/手法等の習得を目指す。										
【授業計画と内容】										
通年、または各学期を通して、一つの実験テーマに取り組む。実験内容は、学期始めに受講者の興味などに応じて、相談の上決定する。各学期の最終日に、半期の実験成果について報告会を行う。										
【履修要件】										
演習なので、出席し、各自の課題に取り組むこと。開始時間に遅れないこと。										
【成績評価の方法・基準】										
半期毎に行なう実験成果の報告会の発表内容で評価する。										
【教科書】										
授業中に指示する										
【参考書等】										
(参考書) 授業中に紹介する										
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))										
地球科学に興味があれば、学部科目「地球科学演習」や、全学共通教育科目「地球科学実験A/B」も履修することを推奨する。										
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。										

授業科目名 <英訳>	自然科学特別ゼミナールA Seminars on Natural Sciences A			担当者氏名	人間・環境学研究所 准教授 木下 俊哉					
	配当学年	4回生	単位数		2	開講期	前期集中	曜時間	集中講義	授業形態
【授業の概要・目的】										
卒業研究のためのゼミである。履修登録は集中講義としているが詳細は担当教員と相談すること。										
【授業計画と内容】										
担当の指導教員と相談すること。										
【履修要件】										
担当の指導教員の指示に従うこと。										
【成績評価の方法・基準】										
担当の指導教員に問い合わせること。										
【教科書】										
担当の指導教員の指示に従うこと。										
【参考書等】										
(参考書) 担当の指導教員の指示に従うこと。										
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))										
担当の指導教員に問い合わせること。										
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。										

授業科目名 <英訳>	自然科学特別ゼミナールA Seminars on Natural Sciences A			担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 阪上 雅昭					
	配当学年	4回生	単位数		2	開講期	前期集中	曜時間	集中講義	授業形態
【授業の概要・目的】										
卒業研究のためのゼミである。履修登録は集中講義としているが詳細は担当教員と相談すること。										
【授業計画と内容】										
担当の指導教員と相談すること。										
【履修要件】										
担当の指導教員の指示に従うこと。										
【成績評価の方法・基準】										
担当の指導教員に問い合わせること。										
【教科書】										
担当の指導教員の指示に従うこと。										
【参考書等】										
(参考書) 担当の指導教員の指示に従うこと。										
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))										
担当の指導教員に問い合わせること。										
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。										

授業科目名 <英訳>	自然科学特別ゼミナールA Seminars on Natural Sciences A			担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 前川 寛					
	配当学年	4回生	単位数		2	開講期	前期集中	曜時間	集中講義	授業形態
【授業の概要・目的】										
卒業研究のためのゼミである。履修登録は集中講義としているが詳細は担当教員と相談すること。										
【授業計画と内容】										
担当の指導教員と相談すること。										
【履修要件】										
担当の指導教員の指示に従うこと。										
【成績評価の方法・基準】										
担当の指導教員に問い合わせること。										
【教科書】										
担当の指導教員の指示に従うこと。										
【参考書等】										
(参考書) 担当の指導教員の指示に従うこと。										
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))										
担当の指導教員に問い合わせること。										
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。										

授業科目名 <英訳>	自然科学特別ゼミナールA Seminars on Natural Sciences A	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 宮本 嘉久						
配当学年	4回生	単位数	2	開講期	前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
卒業研究のためのゼミである。 履修登録は集中講義としているが詳細は担当教員と相談すること。									
【授業計画と内容】									
担当の指導教員と相談すること。									
【履修要件】									
担当の指導教員の指示に従うこと。									
【成績評価の方法・基準】									
担当の指導教員に問い合わせること。									
【教科書】									
担当の指導教員の指示に従うこと。									
【参考書等】									
(参考書) 担当の指導教員の指示に従うこと。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) 担当の指導教員に問い合わせること。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	自然科学特別ゼミナールA Seminars on Natural Sciences A	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 山口 良平						
配当学年	4回生	単位数	2	開講期	前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
卒業研究のためのゼミである。 履修登録は集中講義としているが詳細は担当教員と相談すること。									
【授業計画と内容】									
担当の指導教員と相談すること。									
【履修要件】									
担当の指導教員の指示に従うこと。									
【成績評価の方法・基準】									
担当の指導教員に問い合わせること。									
【教科書】									
担当の指導教員の指示に従うこと。									
【参考書等】									
(参考書) 担当の指導教員の指示に従うこと。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) 担当の指導教員に問い合わせること。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	自然科学特別ゼミナールA Seminars on Natural Sciences A	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 田村 類						
配当学年	4回生	単位数	2	開講期	前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
卒業研究のためのゼミである。 履修登録は集中講義としているが詳細は担当教員と相談すること。									
【授業計画と内容】									
担当の指導教員と相談すること。									
【履修要件】									
担当の指導教員の指示に従うこと。									
【成績評価の方法・基準】									
担当の指導教員に問い合わせること。									
【教科書】									
担当の指導教員の指示に従うこと。									
【参考書等】									
(参考書) 担当の指導教員の指示に従うこと。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) 担当の指導教員に問い合わせること。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	自然科学特別ゼミナールA Seminars on Natural Sciences A	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 山本 行男						
配当学年	4回生	単位数	2	開講期	前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
卒業研究のためのゼミである。 履修登録は集中講義としているが詳細は担当教員と相談すること。									
【授業計画と内容】									
担当の指導教員と相談すること。									
【履修要件】									
担当の指導教員の指示に従うこと。									
【成績評価の方法・基準】									
担当の指導教員に問い合わせること。									
【教科書】									
担当の指導教員の指示に従うこと。									
【参考書等】									
(参考書) 担当の指導教員の指示に従うこと。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) 担当の指導教員に問い合わせること。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	自然科学特別ゼミナールA Seminars on Natural Sciences A	担当者氏名	地球環境学 教授 加藤 真						
配当学年	4年生	単位数	2	開講期	前期集中	曜時間	集中講義	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
卒業研究のためのゼミである。 履修登録は集中講義としているが詳細は担当教員と相談すること。									
【授業計画と内容】									
担当の指導教員と相談すること。									
【履修要件】									
担当の指導教員の指示に従うこと。									
【成績評価の方法・基準】									
担当の指導教員に問い合わせること。									
【教科書】									
担当の指導教員の指示に従うこと。									
【参考書等】									
(参考書) 担当の指導教員の指示に従うこと。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) 担当の指導教員に問い合わせること。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	自然科学特別ゼミナールA Seminars on Natural Sciences A	担当者氏名	生命科学研究所 教授 竹安 邦夫						
配当学年	4年生	単位数	2	開講期	前期集中	曜時間	集中講義	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
卒業研究のためのゼミである。 履修登録は集中講義としているが詳細は担当教員と相談すること。									
【授業計画と内容】									
担当の指導教員と相談すること。									
【履修要件】									
担当の指導教員の指示に従うこと。									
【成績評価の方法・基準】									
担当の指導教員に問い合わせること。									
【教科書】									
担当の指導教員の指示に従うこと。									
【参考書等】									
(参考書) 担当の指導教員の指示に従うこと。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) 担当の指導教員に問い合わせること。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	自然科学特別ゼミナールA Seminars on Natural Sciences A	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 鎌田 浩毅						
配当学年	4年生	単位数	2	開講期	前期集中	曜時間	集中講義	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
卒業研究のためのゼミである。 履修登録は集中講義としているが詳細は担当教員と相談すること。									
【授業計画と内容】									
担当の指導教員と相談すること。									
【履修要件】									
担当の指導教員の指示に従うこと。									
【成績評価の方法・基準】									
担当の指導教員に問い合わせること。									
【教科書】									
担当の指導教員の指示に従うこと。									
【参考書等】									
(参考書) 担当の指導教員の指示に従うこと。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) 担当の指導教員に問い合わせること。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	自然科学特別ゼミナールA Seminars on Natural Sciences A	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 松井 正文						
配当学年	4年生	単位数	2	開講期	前期集中	曜時間	集中講義	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
卒業研究のためのゼミである。 履修登録は集中講義としているが詳細は担当教員と相談すること。									
【授業計画と内容】									
担当の指導教員と相談すること。									
【履修要件】									
担当の指導教員の指示に従うこと。									
【成績評価の方法・基準】									
担当の指導教員に問い合わせること。									
【教科書】									
担当の指導教員の指示に従うこと。									
【参考書等】									
(参考書) 担当の指導教員の指示に従うこと。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) 担当の指導教員に問い合わせること。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	自然科学特別ゼミナールA Seminars on Natural Sciences A	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 石川 尚人						
配当学年	4回生	単位数	2	開講期	前期集中	曜時間	集中講義	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
卒業研究のためのゼミである。 履修登録は集中講義としているが詳細は担当教員と相談すること。									
【授業計画と内容】									
担当の指導教員と相談すること。									
【履修要件】									
担当の指導教員の指示に従うこと。									
【成績評価の方法・基準】									
担当の指導教員に問い合わせること。									
【教科書】									
担当の指導教員の指示に従うこと。									
【参考書等】									
(参考書) 担当の指導教員の指示に従うこと。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) 担当の指導教員に問い合わせること。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	自然科学特別ゼミナールA Seminars on Natural Sciences A	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 内本 喜晴						
配当学年	4回生	単位数	2	開講期	前期集中	曜時間	集中講義	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
卒業研究のためのゼミである。 履修登録は集中講義としているが詳細は担当教員と相談すること。									
【授業計画と内容】									
担当の指導教員と相談すること。									
【履修要件】									
担当の指導教員の指示に従うこと。									
【成績評価の方法・基準】									
担当の指導教員に問い合わせること。									
【教科書】									
担当の指導教員の指示に従うこと。									
【参考書等】									
(参考書) 担当の指導教員の指示に従うこと。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) 担当の指導教員に問い合わせること。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	自然科学特別ゼミナールA Seminars on Natural Sciences A	担当者氏名	地球環境学 准教授 市岡 孝朗						
配当学年	4回生	単位数	2	開講期	前期集中	曜時間	集中講義	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
卒業研究のためのゼミである。 履修登録は集中講義としているが詳細は担当教員と相談すること。									
【授業計画と内容】									
担当の指導教員と相談すること。									
【履修要件】									
担当の指導教員の指示に従うこと。									
【成績評価の方法・基準】									
担当の指導教員に問い合わせること。									
【教科書】									
担当の指導教員の指示に従うこと。									
【参考書等】									
(参考書) 担当の指導教員の指示に従うこと。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) 担当の指導教員に問い合わせること。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	自然科学特別ゼミナールA Seminars on Natural Sciences A	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 酒井 敏						
配当学年	4回生	単位数	2	開講期	前期集中	曜時間	集中講義	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
卒業研究のためのゼミである。 履修登録は集中講義としているが詳細は担当教員と相談すること。									
【授業計画と内容】									
担当の指導教員と相談すること。									
【履修要件】									
担当の指導教員の指示に従うこと。									
【成績評価の方法・基準】									
担当の指導教員に問い合わせること。									
【教科書】									
担当の指導教員の指示に従うこと。									
【参考書等】									
(参考書) 担当の指導教員の指示に従うこと。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) 担当の指導教員に問い合わせること。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	自然科学特別ゼミナールA Seminars on Natural Sciences A	担当者氏名	地球環境学 教授 杉山 雅人						
配当学年	4回生	単位数	2	開講期	前期集中	曜時間	集中講義	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
卒業研究のためのゼミである。 履修登録は集中講義としているが詳細は担当教員と相談すること。									
【授業計画と内容】									
担当の指導教員と相談すること。									
【履修要件】									
担当の指導教員の指示に従うこと。									
【成績評価の方法・基準】									
担当の指導教員に問い合わせること。									
【教科書】									
担当の指導教員の指示に従うこと。									
【参考書等】									
(参考書) 担当の指導教員の指示に従うこと。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) 担当の指導教員に問い合わせること。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	自然科学特別ゼミナールA Seminars on Natural Sciences A	担当者氏名	人間・環境学 教授 田部 勢津久						
配当学年	4回生	単位数	2	開講期	前期集中	曜時間	集中講義	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
卒業研究のためのゼミである。 履修登録は集中講義としているが詳細は担当教員と相談すること。									
【授業計画と内容】									
担当の指導教員と相談すること。									
【履修要件】									
担当の指導教員の指示に従うこと。									
【成績評価の方法・基準】									
担当の指導教員に問い合わせること。									
【教科書】									
担当の指導教員の指示に従うこと。									
【参考書等】									
(参考書) 担当の指導教員の指示に従うこと。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) 担当の指導教員に問い合わせること。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	自然科学特別ゼミナールA Seminars on Natural Sciences A	担当者氏名	人間・環境学 准教授 瀬戸口 浩彰						
配当学年	4回生	単位数	2	開講期	前期集中	曜時間	集中講義	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
卒業研究のためのゼミである。 履修登録は集中講義としているが詳細は担当教員と相談すること。									
【授業計画と内容】									
担当の指導教員と相談すること。									
【履修要件】									
担当の指導教員の指示に従うこと。									
【成績評価の方法・基準】									
担当の指導教員に問い合わせること。									
【教科書】									
担当の指導教員の指示に従うこと。									
【参考書等】									
(参考書) 担当の指導教員の指示に従うこと。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) 担当の指導教員に問い合わせること。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	自然科学特別ゼミナールA Seminars on Natural Sciences A	担当者氏名	人間・環境学 准教授 津江 広人						
配当学年	4回生	単位数	2	開講期	前期集中	曜時間	集中講義	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
卒業研究のためのゼミである。 履修登録は集中講義としているが詳細は担当教員と相談すること。									
【授業計画と内容】									
担当の指導教員と相談すること。									
【履修要件】									
担当の指導教員の指示に従うこと。									
【成績評価の方法・基準】									
担当の指導教員に問い合わせること。									
【教科書】									
担当の指導教員の指示に従うこと。									
【参考書等】									
(参考書) 担当の指導教員の指示に従うこと。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) 担当の指導教員に問い合わせること。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	自然科学特別ゼミナールA Seminars on Natural Sciences A	担当者氏名	地球環境学 准教授 藤田 健一						
配当学年	4年生	単位数	2	開講期	前期集中	曜時間	集中講義	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
卒業研究のためのゼミである。 履修登録は集中講義としているが詳細は担当教員と相談すること。									
【授業計画と内容】									
担当の指導教員と相談すること。									
【履修要件】									
担当の指導教員の指示に従うこと。									
【成績評価の方法・基準】									
担当の指導教員に問い合わせること。									
【教科書】									
担当の指導教員の指示に従うこと。									
【参考書等】									
(参考書) 担当の指導教員の指示に従うこと。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) 担当の指導教員に問い合わせること。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	自然科学特別ゼミナールA Seminars on Natural Sciences A	担当者氏名	人間・環境学 准教授 宮下 英明						
配当学年	4年生	単位数	2	開講期	前期集中	曜時間	集中講義	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
卒業研究のためのゼミである。 履修登録は集中講義としているが詳細は担当教員と相談すること。									
【授業計画と内容】									
担当の指導教員と相談すること。									
【履修要件】									
担当の指導教員の指示に従うこと。									
【成績評価の方法・基準】									
担当の指導教員に問い合わせること。									
【教科書】									
担当の指導教員の指示に従うこと。									
【参考書等】									
(参考書) 担当の指導教員の指示に従うこと。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) 担当の指導教員に問い合わせること。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	自然科学特別ゼミナールA Seminars on Natural Sciences A	担当者氏名	人間・環境学 准教授 藤原 直樹						
配当学年	4年生	単位数	2	開講期	前期集中	曜時間	集中講義	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
卒業研究のためのゼミである。 履修登録は集中講義としているが詳細は担当教員と相談すること。									
【授業計画と内容】									
担当の指導教員と相談すること。									
【履修要件】									
担当の指導教員の指示に従うこと。									
【成績評価の方法・基準】									
担当の指導教員に問い合わせること。									
【教科書】									
担当の指導教員の指示に従うこと。									
【参考書等】									
(参考書) 担当の指導教員の指示に従うこと。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) 担当の指導教員に問い合わせること。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	自然科学特別ゼミナールA Seminars on Natural Sciences A	担当者氏名	生命科学 准教授 吉村 成弘						
配当学年	4年生	単位数	2	開講期	前期集中	曜時間	集中講義	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
卒業研究のためのゼミである。 履修登録は集中講義としているが詳細は担当教員と相談すること。									
【授業計画と内容】									
担当の指導教員と相談すること。									
【履修要件】									
担当の指導教員の指示に従うこと。									
【成績評価の方法・基準】									
担当の指導教員に問い合わせること。									
【教科書】									
担当の指導教員の指示に従うこと。									
【参考書等】									
(参考書) 担当の指導教員の指示に従うこと。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) 担当の指導教員に問い合わせること。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	自然科学特別ゼミナールA Seminars on Natural Sciences A	担当者氏名	人間・環境学研究所 准教授 小木曾 哲						
配当学年	4回生	単位数	2	開講期	前期集中	曜時間	集中講義	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
卒業研究のためのゼミである。 履修登録は集中講義としているが詳細は担当教員と相談すること。									
【授業計画と内容】									
担当の指導教員と相談すること。									
【履修要件】									
担当の指導教員の指示に従うこと。									
【成績評価の方法・基準】									
担当の指導教員に問い合わせること。									
【教科書】									
担当の指導教員の指示に従うこと。									
【参考書等】									
(参考書) 担当の指導教員の指示に従うこと。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) 担当の指導教員に問い合わせること。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	自然科学特別ゼミナールB Seminars on Natural Sciences B	担当者氏名	人間・環境学研究所 准教授 木下 俊哉						
配当学年	4回生	単位数	2	開講期	後期集中	曜時間	集中講義	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
卒業研究のためのゼミである。 履修登録は集中講義としているが詳細は担当教員と相談すること。									
【授業計画と内容】									
担当の指導教員と相談すること。									
【履修要件】									
担当の指導教員の指示に従うこと。									
【成績評価の方法・基準】									
担当の指導教員に問い合わせること。									
【教科書】									
担当の指導教員の指示に従うこと。									
【参考書等】									
(参考書) 担当の指導教員の指示に従うこと。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) 担当の指導教員に問い合わせること。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	自然科学特別ゼミナールB Seminars on Natural Sciences B	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 阪上 雅昭						
配当学年	4回生	単位数	2	開講期	後期集中	曜時間	集中講義	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
卒業研究のためのゼミである。 履修登録は集中講義としているが詳細は担当教員と相談すること。									
【授業計画と内容】									
担当の指導教員と相談すること。									
【履修要件】									
担当の指導教員の指示に従うこと。									
【成績評価の方法・基準】									
担当の指導教員に問い合わせること。									
【教科書】									
担当の指導教員の指示に従うこと。									
【参考書等】									
(参考書) 担当の指導教員の指示に従うこと。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) 担当の指導教員に問い合わせること。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	自然科学特別ゼミナールB Seminars on Natural Sciences B	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 前川 寛						
配当学年	4回生	単位数	2	開講期	後期集中	曜時間	集中講義	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
卒業研究のためのゼミである。 履修登録は集中講義としているが詳細は担当教員と相談すること。									
【授業計画と内容】									
担当の指導教員と相談すること。									
【履修要件】									
担当の指導教員の指示に従うこと。									
【成績評価の方法・基準】									
担当の指導教員に問い合わせること。									
【教科書】									
担当の指導教員の指示に従うこと。									
【参考書等】									
(参考書) 担当の指導教員の指示に従うこと。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) 担当の指導教員に問い合わせること。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	自然科学特別ゼミナールB Seminars on Natural Sciences B	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 宮本 嘉久						
配当学年	4年生	単位数	2	開講期	後期集中	曜時間	集中講義	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
卒業研究のためのゼミである。 履修登録は集中講義としているが詳細は担当教員と相談すること。									
【授業計画と内容】									
担当の指導教員と相談すること。									
【履修要件】									
担当の指導教員の指示に従うこと。									
【成績評価の方法・基準】									
担当の指導教員に問い合わせること。									
【教科書】									
担当の指導教員の指示に従うこと。									
【参考書等】									
(参考書) 担当の指導教員の指示に従うこと。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) 担当の指導教員に問い合わせること。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	自然科学特別ゼミナールB Seminars on Natural Sciences B	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 山口 良平						
配当学年	4年生	単位数	2	開講期	後期集中	曜時間	集中講義	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
卒業研究のためのゼミである。 履修登録は集中講義としているが詳細は担当教員と相談すること。									
【授業計画と内容】									
担当の指導教員と相談すること。									
【履修要件】									
担当の指導教員の指示に従うこと。									
【成績評価の方法・基準】									
担当の指導教員に問い合わせること。									
【教科書】									
担当の指導教員の指示に従うこと。									
【参考書等】									
(参考書) 担当の指導教員の指示に従うこと。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) 担当の指導教員に問い合わせること。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	自然科学特別ゼミナールB Seminars on Natural Sciences B	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 田村 類						
配当学年	4年生	単位数	2	開講期	後期集中	曜時間	集中講義	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
卒業研究のためのゼミである。 履修登録は集中講義としているが詳細は担当教員と相談すること。									
【授業計画と内容】									
担当の指導教員と相談すること。									
【履修要件】									
担当の指導教員の指示に従うこと。									
【成績評価の方法・基準】									
担当の指導教員に問い合わせること。									
【教科書】									
担当の指導教員の指示に従うこと。									
【参考書等】									
(参考書) 担当の指導教員の指示に従うこと。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) 担当の指導教員に問い合わせること。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	自然科学特別ゼミナールB Seminars on Natural Sciences B	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 山本 行男						
配当学年	4年生	単位数	2	開講期	後期集中	曜時間	集中講義	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
卒業研究のためのゼミである。 履修登録は集中講義としているが詳細は担当教員と相談すること。									
【授業計画と内容】									
担当の指導教員と相談すること。									
【履修要件】									
担当の指導教員の指示に従うこと。									
【成績評価の方法・基準】									
担当の指導教員に問い合わせること。									
【教科書】									
担当の指導教員の指示に従うこと。									
【参考書等】									
(参考書) 担当の指導教員の指示に従うこと。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) 担当の指導教員に問い合わせること。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	自然科学特別ゼミナールB Seminars on Natural Sciences B	担当者氏名	地球環境学 教授 加藤 真						
配当学年	4回生	単位数	2	開講期	後期集中	曜時間	集中講義	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
卒業研究のためのゼミである。 履修登録は集中講義としているが詳細は担当教員と相談すること。									
【授業計画と内容】									
担当の指導教員と相談すること。									
【履修要件】									
担当の指導教員の指示に従うこと。									
【成績評価の方法・基準】									
担当の指導教員に問い合わせること。									
【教科書】									
担当の指導教員の指示に従うこと。									
【参考書等】									
(参考書) 担当の指導教員の指示に従うこと。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) 担当の指導教員に問い合わせること。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	自然科学特別ゼミナールB Seminars on Natural Sciences B	担当者氏名	生命科学研究所 教授 竹安 邦夫						
配当学年	4回生	単位数	2	開講期	後期集中	曜時間	集中講義	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
卒業研究のためのゼミである。 履修登録は集中講義としているが詳細は担当教員と相談すること。									
【授業計画と内容】									
担当の指導教員と相談すること。									
【履修要件】									
担当の指導教員の指示に従うこと。									
【成績評価の方法・基準】									
担当の指導教員に問い合わせること。									
【教科書】									
担当の指導教員の指示に従うこと。									
【参考書等】									
(参考書) 担当の指導教員の指示に従うこと。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) 担当の指導教員に問い合わせること。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	自然科学特別ゼミナールB Seminars on Natural Sciences B	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 鎌田 浩毅						
配当学年	4回生	単位数	2	開講期	後期集中	曜時間	集中講義	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
卒業研究のためのゼミである。 履修登録は集中講義としているが詳細は担当教員と相談すること。									
【授業計画と内容】									
担当の指導教員と相談すること。									
【履修要件】									
担当の指導教員の指示に従うこと。									
【成績評価の方法・基準】									
担当の指導教員に問い合わせること。									
【教科書】									
担当の指導教員の指示に従うこと。									
【参考書等】									
(参考書) 担当の指導教員の指示に従うこと。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) 担当の指導教員に問い合わせること。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	自然科学特別ゼミナールB Seminars on Natural Sciences B	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 松井 正文						
配当学年	4回生	単位数	2	開講期	後期集中	曜時間	集中講義	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
卒業研究のためのゼミである。 履修登録は集中講義としているが詳細は担当教員と相談すること。									
【授業計画と内容】									
担当の指導教員と相談すること。									
【履修要件】									
担当の指導教員の指示に従うこと。									
【成績評価の方法・基準】									
担当の指導教員に問い合わせること。									
【教科書】									
担当の指導教員の指示に従うこと。									
【参考書等】									
(参考書) 担当の指導教員の指示に従うこと。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) 担当の指導教員に問い合わせること。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	自然科学特別ゼミナールB Seminars on Natural Sciences B	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 石川 尚人						
配当学年	4回生	単位数	2	開講期	後期集中	曜時限	集中講義	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
卒業研究のためのゼミである。 履修登録は集中講義としているが詳細は担当教員と相談すること。									
【授業計画と内容】									
担当の指導教員と相談すること。									
【履修要件】									
担当の指導教員の指示に従うこと。									
【成績評価の方法・基準】									
担当の指導教員に問い合わせること。									
【教科書】									
担当の指導教員の指示に従うこと。									
【参考書等】									
(参考書) 担当の指導教員の指示に従うこと。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) 担当の指導教員に問い合わせること。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	自然科学特別ゼミナールB Seminars on Natural Sciences B	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 内本 喜晴						
配当学年	4回生	単位数	2	開講期	後期集中	曜時限	集中講義	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
卒業研究のためのゼミである。 履修登録は集中講義としているが詳細は担当教員と相談すること。									
【授業計画と内容】									
担当の指導教員と相談すること。									
【履修要件】									
担当の指導教員の指示に従うこと。									
【成績評価の方法・基準】									
担当の指導教員に問い合わせること。									
【教科書】									
担当の指導教員の指示に従うこと。									
【参考書等】									
(参考書) 担当の指導教員の指示に従うこと。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) 担当の指導教員に問い合わせること。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	自然科学特別ゼミナールB Seminars on Natural Sciences B	担当者氏名	地球環境学堂 准教授 市岡 孝朗						
配当学年	4回生	単位数	2	開講期	後期集中	曜時限	集中講義	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
卒業研究のためのゼミである。 履修登録は集中講義としているが詳細は担当教員と相談すること。									
【授業計画と内容】									
担当の指導教員と相談すること。									
【履修要件】									
担当の指導教員の指示に従うこと。									
【成績評価の方法・基準】									
担当の指導教員に問い合わせること。									
【教科書】									
担当の指導教員の指示に従うこと。									
【参考書等】									
(参考書) 担当の指導教員の指示に従うこと。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) 担当の指導教員に問い合わせること。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	自然科学特別ゼミナールB Seminars on Natural Sciences B	担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 酒井 敏						
配当学年	4回生	単位数	2	開講期	後期集中	曜時限	集中講義	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
卒業研究のためのゼミである。 履修登録は集中講義としているが詳細は担当教員と相談すること。									
【授業計画と内容】									
担当の指導教員と相談すること。									
【履修要件】									
担当の指導教員の指示に従うこと。									
【成績評価の方法・基準】									
担当の指導教員に問い合わせること。									
【教科書】									
担当の指導教員の指示に従うこと。									
【参考書等】									
(参考書) 担当の指導教員の指示に従うこと。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) 担当の指導教員に問い合わせること。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	自然科学特別ゼミナールB Seminars on Natural Sciences B	担当者氏名	地球環境学 教授 杉山 雅人						
配当学年	4回生	単位数	2	開講期	後期集中	曜時間	集中講義	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
卒業研究のためのゼミである。 履修登録は集中講義としているが詳細は担当教員と相談すること。									
【授業計画と内容】									
担当の指導教員と相談すること。									
【履修要件】									
担当の指導教員の指示に従うこと。									
【成績評価の方法・基準】									
担当の指導教員に問い合わせること。									
【教科書】									
担当の指導教員の指示に従うこと。									
【参考書等】									
(参考書) 担当の指導教員の指示に従うこと。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) 担当の指導教員に問い合わせること。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	自然科学特別ゼミナールB Seminars on Natural Sciences B	担当者氏名	人間・環境学 教授 田部 勢津久						
配当学年	4回生	単位数	2	開講期	後期集中	曜時間	集中講義	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
卒業研究のためのゼミである。 履修登録は集中講義としているが詳細は担当教員と相談すること。									
【授業計画と内容】									
担当の指導教員と相談すること。									
【履修要件】									
担当の指導教員の指示に従うこと。									
【成績評価の方法・基準】									
担当の指導教員に問い合わせること。									
【教科書】									
担当の指導教員の指示に従うこと。									
【参考書等】									
(参考書) 担当の指導教員の指示に従うこと。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) 担当の指導教員に問い合わせること。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	自然科学特別ゼミナールB Seminars on Natural Sciences B	担当者氏名	人間・環境学 准教授 瀬戸口 浩彰						
配当学年	4回生	単位数	2	開講期	後期集中	曜時間	集中講義	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
卒業研究のためのゼミである。 履修登録は集中講義としているが詳細は担当教員と相談すること。									
【授業計画と内容】									
担当の指導教員と相談すること。									
【履修要件】									
担当の指導教員の指示に従うこと。									
【成績評価の方法・基準】									
担当の指導教員に問い合わせること。									
【教科書】									
担当の指導教員の指示に従うこと。									
【参考書等】									
(参考書) 担当の指導教員の指示に従うこと。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) 担当の指導教員に問い合わせること。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	自然科学特別ゼミナールB Seminars on Natural Sciences B	担当者氏名	人間・環境学 准教授 津江 広人						
配当学年	4回生	単位数	2	開講期	後期集中	曜時間	集中講義	授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
卒業研究のためのゼミである。 履修登録は集中講義としているが詳細は担当教員と相談すること。									
【授業計画と内容】									
担当の指導教員と相談すること。									
【履修要件】									
担当の指導教員の指示に従うこと。									
【成績評価の方法・基準】									
担当の指導教員に問い合わせること。									
【教科書】									
担当の指導教員の指示に従うこと。									
【参考書等】									
(参考書) 担当の指導教員の指示に従うこと。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) 担当の指導教員に問い合わせること。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	自然科学特別ゼミナールB Seminars on Natural Sciences B	担当者氏名	地球環境学 准教授 藤田 健一						
配当学年	4年生	単位数	2	開講期	後期集中	曜時間	集中講義	授業形態	演習
【授業の概要・目的】 卒業研究のためのゼミである。 履修登録は集中講義としているが詳細は担当教員と相談すること。									
【授業計画と内容】 担当の指導教員と相談すること。									
【履修要件】 担当の指導教員の指示に従うこと。									
【成績評価の方法・基準】 担当の指導教員に問い合わせること。									
【教科書】 担当の指導教員の指示に従うこと。									
【参考書等】 (参考書) 担当の指導教員の指示に従うこと。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) 担当の指導教員に問い合わせること。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	自然科学特別ゼミナールB Seminars on Natural Sciences B	担当者氏名	人間・環境学 准教授 宮下 英明						
配当学年	4年生	単位数	2	開講期	後期集中	曜時間	集中講義	授業形態	演習
【授業の概要・目的】 卒業研究のためのゼミである。 履修登録は集中講義としているが詳細は担当教員と相談すること。									
【授業計画と内容】 担当の指導教員と相談すること。									
【履修要件】 担当の指導教員の指示に従うこと。									
【成績評価の方法・基準】 担当の指導教員に問い合わせること。									
【教科書】 担当の指導教員の指示に従うこと。									
【参考書等】 (参考書) 担当の指導教員の指示に従うこと。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) 担当の指導教員に問い合わせること。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	自然科学特別ゼミナールB Seminars on Natural Sciences B	担当者氏名	人間・環境学 准教授 藤原 直樹						
配当学年	4年生	単位数	2	開講期	後期集中	曜時間	集中講義	授業形態	演習
【授業の概要・目的】 卒業研究のためのゼミである。 履修登録は集中講義としているが詳細は担当教員と相談すること。									
【授業計画と内容】 担当の指導教員と相談すること。									
【履修要件】 担当の指導教員の指示に従うこと。									
【成績評価の方法・基準】 担当の指導教員に問い合わせること。									
【教科書】 担当の指導教員の指示に従うこと。									
【参考書等】 (参考書) 担当の指導教員の指示に従うこと。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) 担当の指導教員に問い合わせること。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	自然科学特別ゼミナールB Seminars on Natural Sciences B	担当者氏名	生命科学 准教授 吉村 成弘						
配当学年	4年生	単位数	2	開講期	後期集中	曜時間	集中講義	授業形態	演習
【授業の概要・目的】 卒業研究のためのゼミである。 履修登録は集中講義としているが詳細は担当教員と相談すること。									
【授業計画と内容】 担当の指導教員と相談すること。									
【履修要件】 担当の指導教員の指示に従うこと。									
【成績評価の方法・基準】 担当の指導教員に問い合わせること。									
【教科書】 担当の指導教員の指示に従うこと。									
【参考書等】 (参考書) 担当の指導教員の指示に従うこと。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) 担当の指導教員に問い合わせること。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	自然科学特別ゼミナール B Seminars on Natural Sciences B		担当者氏名	人間・環境学研究所 准教授 小木曾 哲					
配当学年	4回生	単位数	2	開講期	後期集中	曜時限	集中講義	授業形態	演習
<b>【授業の概要・目的】</b>									
卒業研究のためのゼミである。 履修登録は集中講義としているが詳細は担当教員と相談すること。									
<b>【授業計画と内容】</b>									
担当の指導教員と相談すること。									
<b>【履修要件】</b>									
担当の指導教員の指示に従うこと。									
<b>【成績評価の方法・基準】</b>									
担当の指導教員に問い合わせること。									
<b>【教科書】</b>									
担当の指導教員の指示に従うこと。									
<b>【参考書等】</b>									
(参考書) 担当の指導教員の指示に従うこと。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
担当の指導教員に問い合わせること。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	学部特殊講義IIA Special topics for undergraduate course IIA	担当者氏名	こころの未来研究センター 特定准教授 内田 由紀子 こころの未来研究センター 客員准教授 ベス・モーリング						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	水4	授業形態	特殊講義
【授業の概要・目的】									
文化心理学を基軸に、こころの実証科学的理解について学ぶ。文化が私たちのこころとどのようにかかわっているのかを研究する「文化心理学」の実証研究を取り上げ、心理学の科学的研究手法やその理論について学べるような内容とする。授業は講義、論文講読、ディスカッションにより進める。日米の教員が共同して担当することにより、国際比較研究をそれぞれの視点から具体的に紹介する。授業は英語と日本語双方で行われ、英語での説明の後には日本語での解説・翻訳を行う。教員（進化心理学を専門とする）や大学院生も参加予定であり、文化と進化など、様々な立場からこころについてアプローチする。									
【授業計画と内容】									
下記のトピックスについての、文化心理学の研究（主に比較文化研究）について取り上げ、これらの心理プロセスと文化の関係について検討する予定である。1課題あたり1～2週で行う予定である。 1）文化心理学の理論 2）自己（自己評価、自己概念） 3）対人関係（友人関係、ソーシャル・サポート） 4）感情（感情表現、感情経験、他者の感情理解） 5）認知（物体への注意から社会的認知などの高次の過程まで） 6）文化と進化 7）脳科学と文化									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
下記の3点を総合して評価する。 ・出席時のディスカッションへの参加 ・各課題の講義の後、疑問点やわかったことのまとめ等、メールで提出を求める ・期末レポート									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
（参考書） 後期のこころの科学II（担当：平石）と連動した授業となっているため、なるべく両方を受講していただくことが望ましい。									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	学部特殊講義III A Special topics for undergraduate course IIIA	担当者氏名	非常勤講師 久保 利永子						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時間	火4	授業形態	特殊講義
【授業の概要・目的】									
歴史研究とは、本来、年号や人名といった過去の事例に関するデータを暗記することではない。それは、過去と現代の間で交わされる積極的かつ豊かな「対話」である。こうした対話を通して、我々は過去を理解するだけでなく、現代社会におけるアクチュアルな諸問題を理解するための重要な示唆を得ることも可能である。本講義は、歴史研究とはそのような現代性を持った「思考の型」とあるというスタンスにたち、ヴィクトリア朝イギリスが展開した探検事業について理解を深めると同時に、そこから見えてくる現代的・普遍的な問題にも目を向けたい。 19世紀を通じて、イギリス人は世界各地において「探検」を行っていた。その主な舞台としては、北極、カナダ、アフリカ、オーストラリア等が挙げられる。そのような探検事業は、「文明化の使命」、「科学への貢献」といった美しいローガンを掲げて推進され、圧倒的な社会的支持を獲得していた。今回は、とくに北極探検とアフリカ探検に注目し、そのような探検事業の本質と、それを支持したヴィクトリア朝のイギリス社会について理解を深め、さらには、科学と政治の関係、他者理解、ジェンダー、ナショナリズム、帝国主義といった今日的な問題についても考察する。									
【授業計画と内容】									
おおよその講義スケジュールは以下の通り。 ただし、出席者の理解度などに合わせて適宜変更される場合がある。 第1週 ガイダンス 第2週 19世紀のイギリス社会概観(1)：政治・経済 第3週 19世紀のイギリス社会概観(2)：社会階級・価値観 第4週 19世紀のイギリス社会概観(3)：新しい「ジェントルマン」像 第5週 なぜこの時期に北極へ？：北西航路探索の新しい意義付け 第6週 探検家が英雄になるとき：印刷メディアと世論(1) 第7週 フランクリン隊をめぐる騒動：印刷メディアと世論(2) 第8週 「地図上の空白」の意味：科学と政治と探検事業(1) 第9週 「科学的探検」を支える土台：科学と政治と探検事業(2) 第10週 アフリカへの関心：ナイル源流をめぐる論争 第11週 リヴィングストンとアフリカ：宣教と支配 第12週 植民地のイメージ：「闇の奥」と文明化の使命 第13週 科学の名のもとに：「展示」される女性と社会ダーウィニズム 第14週 イギリスの帝国意識：「植民地支配」をめぐる議論 第15週 前期講義内容の総括									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
Semester末のレポートおよび出席状況により評価する。									
-----学部特殊講義III A (2)へ続く-----									

授業科目名 <英語>	学部特殊講義IIB Special topics for undergraduate course IIB	担当者氏名	こころの未来研究センター 助教 研究員 平石 界						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時間	木2	授業形態	特殊講義
【授業の概要・目的】									
進化心理学を基軸に、こころの実証科学的理解について学ぶ。人間の行動や心理を理解する上で、「ヒト」としての生物学的側面を無視することはできない。この講義ではヒトのこころへの自然淘汰による進化の影響を探る「進化心理学」の理論と実証研究を取り上げ、心理学の科学的研究手法やその理論について学べるような内容とする。授業は講義、論文講読、ディスカッションにより進める。文化心理学を専門とする教員や大学院生も参加予定であり、生物学的な「ヒト」としての側面、文化的存在である「人間」としての側面など、様々な立場からこころについてアプローチする。									
【授業計画と内容】									
下記のトピックスについての、進化心理学の研究について、ヒト以外の動物の行動との比較なども含めつつ、検討する。それぞれのトピックスについての理論的背景を説明したのち、具体的な実証研究例を紹介する。実証研究の紹介においては、講義担当者自身の研究のほか、京大の大学院生や研究員にも話題提供を依頼する予定である。 1）恋愛と性差（性の進化・異性への魅力） 2）家族と血縁関係（夫婦の協調と対立・親子の協調と対立） 3）利他行動（助け合い行動の進化・評判と協力の共進化） 4）こころの遺伝 5）生活史の進化（こども時代・青年期・更年期の進化）									
【履修要件】									
心理学の実証研究に関心がある人であればどなたでも履修できます。									
【成績評価の方法・基準】									
出席時のディスカッションへの参加。メールによる授業へのコメントの提出。期末レポートでの評価									
【教科書】									
なし。講義中適宜、資料を配布します。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
前期の学部特殊講義IIA「こころの科学I」（担当：内田・モーリング）と連動した授業となっているため、なるべく両方を受講していただくことが望ましい。 各課題の講義の後、疑問点やわかったことのまとめ等を次回までにメールで送付してもらおうよう求めることがあります。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

学部特殊講義III A (2)									
-----									
【教科書】									
毎回プリントを配布する（テキストは使用しない）。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
* 遅刻、途中退出、講義中の(講義内容と関係のない) 私語は禁止。 * 講義に貢献するような積極的な発言・質問は奨励される。 * 講義時に配布されるプリントを用い、適宜予習・復習すること。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	学部特殊講義III B Special topics for undergraduate course IIIB	担当者氏名	非常勤講師 上野 勝之						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	火4	授業形態	特殊講義
【授業の概要・目的】									
近年、宗教や精神世界に対する関心が高まり、日本の在来宗教についても平安時代に成立した密教や陰陽道に関する情報、書物が大幅に増えている。この授業では、平安時代には仏教、神祇信仰、陰陽道などが複合的な「宗教」として並存していたことを前提に、当時の貴族の日常生活における諸宗教の実態や相互関係を考察することによって、宗教の社会的、歴史的な性格に関する理解を深めることを目的とする。									
【授業計画と内容】									
以下のような課題について、1 課題あたり 1 ～ 2 週の授業をする予定である。									
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 平安時代における宗教複合の概略</li> <li>2. 年中恒例行事としての宗教儀礼</li> <li>3. 出産における宗教儀礼</li> <li>4. 葬送における宗教儀礼</li> <li>5. 移徒・宅鎮における宗教儀礼</li> <li>6. 怪異と物忌の思想</li> <li>7. モノノケ概念の確立</li> <li>8. モノノケ概念の変遷</li> <li>9. 貴族と民間信仰</li> <li>10. 日本の宗教の原形としての平安時代</li> </ol>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点と期末レポート。									
【教科書】									
授業時に史料プリント等を適宜配布する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	学部特殊講義IV B Special topics for undergraduate course IVB	担当者氏名	人間・環境学研究所 助教 藤原 学						
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	木4	授業形態	特殊講義
【授業の概要・目的】									
建築は、それを取り巻く経済社会的状況はもちろんのこと、文化的な影響をうけて建造される。本講義は、建築造形に埋め込まれたこうした社会的意味を読み解く能力の習得を目的とする。									
【授業計画と内容】									
以下のテーマについて、洋の東西、時代を問わず、各回のテーマにふさわしい建築物や都市計画を採りあげ、その意味を読み解いていく。写真や図面などの視覚資料を用いて、具体的に説明する。理解度に応じてテーマを絞り込むこともある。									
<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 住むことの形 <ol style="list-style-type: none"> <li>その1 間取りの意味</li> <li>その2 郊外住宅と住宅地の近代化</li> </ol> </li> <li>(2) 聖なる形 <ol style="list-style-type: none"> <li>その1 教会とモスク(西洋建築の造形的特徴)</li> <li>その2 寺と神社(日本建築の造形的特徴)</li> </ol> </li> <li>(3) 政治の形 <ol style="list-style-type: none"> <li>その1 首都の造形</li> <li>その2 ナショナルリズムの建築的表現</li> <li>その3 民主主義の建築的表現</li> </ol> </li> <li>(4) 記憶の形 <ol style="list-style-type: none"> <li>その1 博物館の建築</li> <li>その2 風景の可視化</li> <li>その3 建築の記念碑性</li> </ol> </li> </ol>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点(30%) ; 授業の要点について的小テストを数回行う。また、授業への主体的参加を考慮する。 期末レポート(70%) ; 1) 授業で採りあげた建築を一つ選び、その意味をまとめる。2) それを踏まえ、自分が興味を持つ建築について、その社会的意味をまとめる。 レポートは説明の論理性だけでなく、その表現方法も評価の対象とする。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
建築学の専門知識は必要としないが、美術、歴史、文学等的好奇心旺盛な学生を歓迎する。  オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	体育実技III(体操種目) Active Physical Education III(Gymnastics)	担当者氏名	高の原スポーツ研究所代表 金 尚憲						
配当学年	1-4回生	単位数	1	開講期	前期	曜時間	金4	授業形態	実技
【授業の概要・目的】									
器械運動が指導できる技能及び技術の獲得									
【授業計画と内容】									
この授業の目的は、体操・器械運動の指導者に必要とされる基本技（倒立、けあがり、腕立て前方転回等々）の習得及びそれらの技に関する指導法、補助方法などの研修を通して、生徒にとってわかりやすく、楽しく、有益な体操・器械運動の授業が展開できる能力の獲得である。そのため、体操では、生理学、解剖学、力学等の見地から運動を理解し、各種スポーツ及び健康の保持、増進に役立つ働きについて実習、学習する。器械運動では、小・中・高で行われているマット、跳び箱、鉄棒での各種技の復習とその科学的理解及びそれらの技をより大きく、より美しく実施する練習と練習法の工夫、さらには各種技の補助方法についても実習、学習する。また、必要に応じて平均台、平行棒、鞍馬、吊り輪についても指導する。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
出席状況及び実技テスト									
【教科書】									
適宜プリント配付									
【参考書等】									
(参考書) なし									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	体育実技V(野外キャンプ種目) Active Physical Education V(Nature Experience)	担当者氏名	関西福祉大学 講師 北尾 岳夫						
配当学年	1-4回生	単位数	1	開講期	前期集中	曜時間	集中講義	授業形態	実技
【授業の概要・目的】									
テーマ：コミュニケーション・体験・協力 目的：キャンプに関する知識と技術を獲得する									
【授業計画と内容】									
開講日程：事前オリエンテーション(日時は後日連絡) 本キャンプ 平成23年9月6日(火)～9日(金) 場所：事前オリエンテーション 後日指定する教室 本キャンプ 滋賀県立希望が丘野外活動センター 内容：担当教員が実施する滋賀短期大学のキャンプ実習へ、運営スタッフとして参加する。短大からの教員ならびに学生スタッフと協力し、大学におけるキャンプ実習を運営していく中でキャンプに関する知識や技術を学ぶ。受講者は、現地集合、現地解散とする。本キャンプに先立ち、事前オリエンテーションを実施し詳細の説明を行う。オリエンテーションの日時については後日案内するが、必ず参加すること。なお、本キャンプ参加にあたり、最低限の装備及び宿泊費・食費など若干の費用が見込まれる。									
【履修要件】									
他学の教員、学生との交流が伴います。十分なコミュニケーション能力を持つ学生の受講を希望する。									
【成績評価の方法・基準】									
事前オリエンテーションと本キャンプへの参加状況、参加(受講)態度によって総合的な評価を行う。									
【教科書】									
事前オリエンテーション時に、担当教員が作成する資料を配付する。									
【参考書等】									
(参考書) 日本野外教育研究会 編、改訂キャンプテキスト、杏林書院									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英語>	体育実技IV(野外スキー種目) Active Physical Education IV(Ski)	担当者氏名	非常勤講師 内藤 栄一						
配当学年	1-4回生	単位数	1	開講期	後期集中	曜時間	集中講義	授業形態	実技
【授業の概要・目的】									
生涯スポーツとして人気の高い、冬季野外スポーツ。この中でも特にスキーを体験し、安全で快適なスキー技術の体得を目指す。極寒の環境や気候の体験を通して雪山での安全の確保を学び、また仲間と共同生活し、協力しあうことの重要性を再確認する。									
【授業計画と内容】									
琵琶湖パレースキー場など京都近郊のスキー場にて、2泊3日程度の日程で開催する。全日本スキー連盟のスキー教程に基づき、カービングスキーを用いた最新の効率的なスキー技術を、雪上でのレッスンを通じて、体得していく。実習は無理のないように十分な休息をささみながら行う。降雪状況にも依存するが、スキー場での宿泊確保の都合上、1月以降の3連休に絡んだ日程で開催する予定。									
【履修要件】									
原則として、体育教員の免許取得を目指す学生および大学院生を対象。 雪上実習における参加者の安全を配慮し、若干名を対象とする。受講希望者多数の場合には、上記対象者のみ優先的に実習に参加できる。 実習参加に当たって、スキー傷害保険への加入を必須とする。実習全日程に参加できること。日程の調整などは実習に先立って行うため、迅速に連絡が取れること。 前もってスキーを一度でも体験してある方が授業の進行上望ましい。ウェアやスキーなどはスキー場でレンタルすることができる。宿泊費、レンタル料およびリフト代などは自費負担となるので注意すること。									
【成績評価の方法・基準】									
実習全日程に参加し、怪我なく、協力的に実習を修了したものに単位を認定する。									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
(参考書)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									